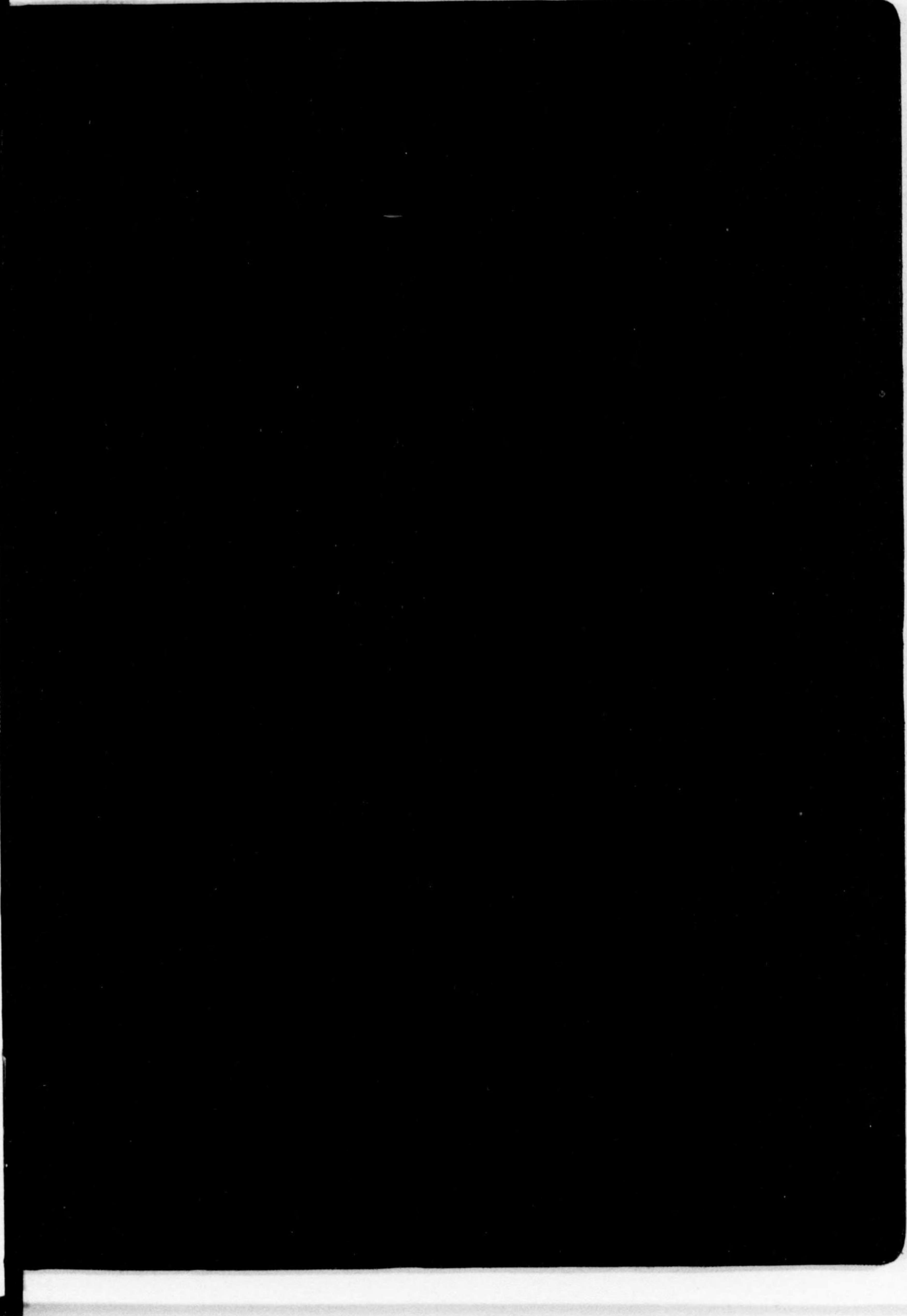




始



55
1574

眼 譜



東京帝國大學名譽教授

醫學博士 石原 忍



東京・大阪・京都

株式會社 金原商店

55
157

序

先年眼底圖譜を上梓いたしましたところ 意外の好評を得まして 續いて眼底以外の眼病の圖譜をも御所望の方が多くありましたので 今回それを實行することにいたしました。圖の數が多くなります關係から 上下二卷に分けました。たゞ茲に甚だ遺憾な事は 曩に出版しました眼底圖譜並にこの眼病圖譜の圖の大部分を寫生いたしました所の畫家川北元英氏が 昨年二月急病の爲めに他界せられた事であります。同氏は故新潟醫科大學教授川北元三氏の令弟で 明治十五年津市に生れ 同三十四年東京美術學校洋畫科豫備科に入學 引續き本科に 更に研究科に進み 明治四十四年同科を卒業 大正八年には文展に入選 同十年には平和博覽會洋畫展に入選授賞せられましたが 大正十二年以來當教室に勤務して専ら眼病の寫生に従事し昨年までに約二千枚の圖を完成せられたのでしたが 不幸にして急逝せられました事は 誠に痛惜に堪へない次第で 本書を出版するに方り 同氏を追憶して感慨實に無量であります。

尙ほ本書の編輯に際して 當教室醫局員諸氏の絶大なる御助力を得ました事を 茲に感謝いたします。

昭和十年初春

東京帝國大學醫學部眼科教室に於て

著者識す。

眼病圖譜上卷目次

第一篇 眼瞼疾患

I. 眼瞼先天異常

1. 先天眼瞼缺損 *Coloboma palpebrae congenitum.*
2. 先天眼球隱伏 *Cryptophthalmus congenitus.*
3. 先天小眼瞼 *Microblepharon congenitum.*

II. 内眥贅皮

4. 上内眥贅皮 *Epicanthus superior.*
5. 中内眥贅皮 *Epicanthus medialis.*
6. 下内眥贅皮 *Epicanthus inferior.*

III. 眼瞼腫脹

7. 眼瞼脂肪過多 *Adipositas palpebrae.*
8. 眼瞼皮膚弛緩 *Blepharochalasis.*
9. 眼瞼象皮病 *Elephantiasis palpebrae.*
10. 「ヨードカリ」ノ内服ニ因ル眼瞼腫脹.
11. 「イマミコール」注射ニ因ル急性眼瞼腫脹.

IV. 眼瞼炎

12. マイボーム氏腺分泌過多 *Hypersecretio glandulae tarsalis s. Meibomiana.*
13. 鱗屑性眼瞼緣炎 *Blepharitis ciliaris squamosa.*
14. 潰瘍性眼瞼緣炎 *Blepharitis ciliaris ulcerosa.*
15. 潰瘍性眼瞼緣炎 *Blepharitis ciliaris ulcerosa* ニ因ル 瞼緣胬肉 *Tylosis ciliaris.*
16. 潰瘍性眼瞼緣炎 *Blepharitis ciliaris ulcerosa* ニ因ル 睫毛禿 *Madarosis ciliaris.*
及ビ眼瞼外反 *Ectropium palpebrae.*
17. 濕疹性眼瞼炎 *Blepharitis eczematosa.*

V. 眼瞼炎

18. 白色葡萄狀球菌性膿痂疹 *Impetigo allostaphylogenes Dohi.*
19. 連鎖狀球菌性膿痂疹 *Impetigo streptogenes Dohi.*
20. 毒物性皮膚炎 *Dermatitis venenata s. toxica.*

VI. 眼瞼ヘルペス・麥粒腫

21. 熱性ヘルペス *Herpes febrilis.*

22. 眼部帯狀ヘルペス Herpes zoster ophthalmicus.
23. 外麥粒腫 Hordeolum externum.
24. 外麥粒腫 Hordeolum externum.
25. 内麥粒腫 Hordeolum internum.

VII. 霰粒腫

26. 霰粒腫 Chalazion 外面圖.
27. 霰粒腫(結膜面ヨリ見タル圖).
28. 霰粒腫(皮下ニ破レタルモノ、所謂外霰粒腫 Chalazion externum).
29. 霰粒腫(結膜面ニ破レテ息肉腫 Polypus 狀ヲ呈スルモノ).
30. 霰粒腫組織圖.

VIII. 眦部眼瞼炎

31. 眦部眼瞼炎 Blepharitis angularis.
32. 重桿菌性口角糜爛 Perlèche 兼鼻入口部皮膚糜爛.
33. 強度ノ重桿菌性口角糜爛 Perlèche.
34. 35. 眦部眼瞼炎ノ組織的所見.

IX. 眼瞼ノ炎症

36. 眼瞼膿瘍 Abscessus palpebrae.
37. 眼瞼デフテリー Diphtheria palpebrae.
38. 眼瞼水痘 Varicella palpebrae.
39. 眼瞼副痘 Vaccinola palpebrae.
40. 眼瞼皮膚腺病 Scrofuloderma palpebrae.
41. 眼瞼皮膚腺病 Scrofuloderma palpebrae.

X. 眼瞼ノ結核及ビ梅毒

42. 眼瞼尋常性狼瘡 Lupus vulgaris palpebrae.
43. 丘狀微毒疹 Syphilis papulosa.
44. 表層皮膚微毒 Syphilis cutanea superficialis.
45. 眼瞼ゴム腫 Gumma palpebrae.
46. 眼瞼及ビ結膜ゴム腫 Gumma palpebrae et conjunctivae.

XI. 黄色腫

47. 扁平黄色腫 Xanthoma planum.
48. 結節状黄色腫 Xanthoma tuberosum.
49. 結節状黄色腫 Xanthoma tuberosum.
50. 黄色腫ノ組織圖.

XII. 眼瞼良性腫瘍

51. 單純性血管腫 Haemangioma simplex.

52. 海綿様血管腫 Haemangioma cavernosum.
53. 傳染性軟瘤 Molluscum contagiosum.
54. 眼瞼粉瘤 Atheroma palpebrae.
55. 皮様囊腫 Dermoideyste.

XIII. 良性及ビ惡性腫瘍

56. 稗粒腫 Milium.
57. 眼瞼色素母斑 Naevus pigmentosus palpebrae.
58. 眼瞼プラスチック Plasmoma palpebrae.
59. 眼瞼癌腫 Carcinoma palpebrae.
60. 眼瞼癌腫 Carcinoma palpebrae.

XIV. 睫毛異常

61. 白癩風 Vitiligo vulgaris.
62. 皮膚性眼瞼内反 Entropium cutaneum.
63. 瘢痕性眼瞼内反 Entropium cicatricium.
64. 睫毛亂生兼後瞼球癒着 Trichiasis et Symblepharon posterius.
65. 麻痺性眼瞼外反兼兔眼性角膜炎 Ectropium paralyticum et Ceratitis e lagophthalamo.
66. 瘢痕性眼瞼外反 Ectropium cicatricium.

XV. 瞼球癒着・瞼裂縮小

67. 前瞼球癒着 Symblepharon anterius.
68. 後瞼球癒着 Symblepharon posterius.
69. 全瞼球癒着 Symblepharon totale.
70. 瞼縁癒着 Aneyloblepharon.
71. 瞼裂縮小 Blepharophimosis.

XVI. 瞼裂哆開・眼瞼下垂

72. 交感神経ノ刺激及ビ麻痺ニ因ル瞼裂哆開及ビ眼瞼下垂.
73. 交感神経麻痺ニ因ル眼瞼下垂 Ptosis.
74. 動眼神経麻痺ニ因ル眼瞼下垂 Ptosis.

XVII. 眼瞼下垂

75. 先天眼瞼下垂 Ptosis congenita.
76. トラコーマ性眼瞼下垂 Ptosis trachomatosa.
77. 78. 眼筋無力症 Myasthenia ocularis.

XVIII. 眼瞼痙攣・瞼裂閉鎖不全

79. 症候性眼瞼痙攣 Blepharospasmus symptomaticus.
80. 特發眼瞼痙攣 Blepharospasmus essentialis.

- 81. 顔面神経痙攣 Spasmus nervi facialis.
- 82. 顔面神経麻痺. 麻痺性兔眼 Paralysis nervi facialis, Lagophthalmus paralyticus.

第二篇 涙器疾患

XIX. 涙腺疾患

- 83. 健常涙腺 Glandula lacrimalis normalis.
- 84. 涙腺脱臼 Luxatio glandulae lacrimalis.
- 85. ミクリッツ氏病 Morbus Mikuliczi.
- 86. 涙腺癌腫 Carcinoma glandulae lacrimalis.

XX. 涙道疾患

- 87. 涙嚢水腫 Hydrops sacci lacrimalis.
- 88. 涙嚢「トラコーマ」.
- 89. 慢性涙嚢炎 Daeryocystitis chronica.
- 90. 急性涙嚢炎 Daeryocystitis acuta.

第三篇 結膜疾患

XXI. 健常結膜・結膜出血

- 91. 92. 93. 健常結膜 Conjunctiva normalis.
- 94. 結膜淋巴管擴張 Lymphangiectasia conjunctivae.
- 95. 單純性紫斑病 Purpura simplex.
- 96. 結膜出血 Hyposphagma..

XXII. カタル性結膜炎

- 97. 電気性眼炎 Ophthalmia electrica.
- 98. 99. 毛染薬ニ因ル毒物性結膜炎 Conjunctivitis venenata.
- 100. 急性カタル性結膜炎(コッホ・ウィークス氏桿菌ニヨル) Conjunctivitis catarrhalis acuta.
- 101. 同上.
- 102. 同上.

XXIII. 膿胞性結膜炎・包括體性結膜炎・淋菌性結膜炎

- 103. 結膜膿胞症 Folliculosis conjunctivae.
- 104. アトロピンカタル Atropin-catarrh.
- 105. 膿胞性結膜炎 Conjunctivitis follicularis.
- 106. 106ノ2. 包括體性結膜炎 Conjunctivitis inclusionalis.
- 107. 107ノ2. 淋菌性結膜炎 Conjunctivitis gonorrhoeica.

XXIV. 結膜ノ炎症

- 108. 偽膜性結膜炎 Conjunctivitis pseudomembranosa.
- 109. 「デフテリー」性結膜炎 Conjunctivitis diphtherica.
- 110. 結膜水痘 Varicella conjunctivae.
- 111. 結膜天疱瘡 Pemphigus conjunctivae.
- 112. 結膜潰瘍 Ulcus conjunctivae (酵母菌病 Blastomycosis).
- 113. 苛性「カリ」ニヨル結膜ノ腐蝕.

XXV. トラコーマ Trachoma.

- 114. 115. 急性期「トラコーマ」.
- 106. 107. 108. 新鮮ナル「トラコーマ」.
- 109. 稍「陳舊ナル」「トラコーマ」.

XXVI. トラコーマ(膠様顆粒)

- 120. 半月狀皺襞ノ顆粒.
- 121. 122. 123. 陳舊ナル「トラコーマ」.
- 124. 125. 癬痕ニ移行スル時期ノ陳舊ナル「トラコーマ」.

XXVII. トラコーマ(膠様顆粒)・プロワツェク氏小體

- 126. 球結膜ノ膠様顆粒.
- 127. 球結膜ノ膠様顆粒.
- 128. 半月狀皺襞 並ニ 角膜ノ膠様顆粒.
- 129. 角膜上ノ膠様顆粒.
- 130. プロワツェク氏小體.

XXVIII. トラコーマ(癬痕期)

- 131. 132. 癬痕化シツツアル「トラコーマ」.
- 133. 稍「陳舊ナル」「トラコーマ」(乳嘴増殖ノ著明ナモノ).
- 134. 稍「陳舊ナル」「トラコーマ」(乳嘴増殖ノ著明ナモノ).
- 135. 「トラコーマ」治癒後ノ癬痕.
- 136. 「トラコーマ」治癒後ノ癬痕. 色素斑. 睫毛亂生.

XXIX. 「トラコーマ」ニ因ル角膜變化

- 137. 「トラコーマ」ニ合併セル瀰漫性表層角膜炎 Ceratitis superficialis diffusa.
- 138. 「トラコーマ」性パンヌス Pannus trachomatosus, 角膜潰瘍 Ulcus corneae.
- 139. 「トラコーマ」性パンヌス Pannus trachomatosus.
- 140. 「トラコーマ」性パンヌス Pannus trachomatosus.

141. 「トラコーマ性バンヌス」内ノ膠様顆粒.
142. 「トラコーマ」ニヨル角膜脂肪變性.

XXX. 「トラコーマ」後胎症

143. 睫毛亂生 Trichiasis.
144. 瘢痕性眼瞼内反 Entropium cicatricium.
145. 後瞼球癒着 Symblepharon posterius, 睫毛亂生 Trichiasis, 眼瞼内反 Entropium palpebrae.
146. 實質性結膜及角膜乾燥 Xerosis conjunctivae et corneae parenchymatosa.
147. 瞼裂縮小 Blepharophimosis.

XXXI. 「プラスモーム」・澱粉様變性

148. 149. 結膜「プラスモーム」Plasmoma conjunctivae.
150. 151. 152. 結膜澱粉様變性 Degeneratio amyloidea conjunctivae.

XXXII. 春季カタル

153. 春季カタル Conjunctivitis vernalis (眼瞼型).
154. 春季カタル Conjunctivitis vernalis (眼瞼型).
155. 春季カタル Conjunctivitis vernalis (眼球型兼眼瞼型).
156. 春季カタル Conjunctivitis vernalis (眼球型).
157. 春季「カタル」分泌物中ニ見ル「エオジン」嗜好細胞.

XXXIII. フリクテン

158. 邊縁フリクテン Phlyctaene conjunctivae limbi, 瞼結膜フリクテン Phlyctaene conjunctivae palpebrae.
159. 瞼結膜ノ「フリクテン」Phlyctaene conjunctivae palpebrae.
160. 角膜フリクテン Phlyctaene corneae.
161. フリクテン性バンヌス Pannus phlyctaenulosus.
162. 芒把狀角膜炎 Ceratitis fascicularis.

XXXIV. 巨大フリクテン其他

163. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.
164. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.
165. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.
166. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.
167. 結核性鞏膜炎 Scleritis tuberculosa.
168. 結核性虹彩炎 Iritis tuberculosa.

XXXV. 結核疹

169. 球結膜ノ結核疹 Tuberculide.

170. 結膜結核疹 Tuberculide.
171. 結膜結核疹 Tuberculide, 鞏膜炎 Scleritis, 硬化性角膜炎 Ceratitis sclerotica.
172. 瞼結膜ノ結核疹 Tuberculide.
173. 結膜結核 Tuberculosis conjunctivae.

XXXVI. 結核・微毒

174. 瞼結膜ノ結核 Tuberculosis conjunctivae palpebrae.
175. 結核性結膜潰瘍 Ulcus conjunctivae palpebrae.
176. 結核性結膜潰瘍 Ulcus conjunctivae et palpebrae tuberculosum.
177. 微毒性濕性丘疹 Papula umida syphilitica.
178. 微毒性顆粒性結膜炎 Conjunctivitis granulosa syphilitica.
179. 結膜ゴム腫 Gumma conjunctivae, 彌蔓性角膜實質炎 Ceratitis parenchymatosa diffusa.

XXXVII. 良性腫瘤

180. 結膜脂肪皮様腫 Lipodermoid.
181. 結膜皮様腫 Dermoid.
182. 結膜ノ色素母斑 Naevus pigmentosus conjunctivae.
183. 結膜乳頭腫 Papilloma conjunctivae.
184. 結膜下靜脈瘤 Varix subconjunctivae.
185. 結膜及ビ眼瞼ノ血管腫 Haemangioma conjunctivae et palpebrae.

XXXVIII. 腫瘤其他

186. 眼瞼癌腫 Carcinoma palpebrae.
187. 結膜囊腫 Cystoma conjunctivae.
188. 189. マイボーム氏腺梗塞 Infarctus glandulae tarsalis.
190. 結膜メラノージス Melanosis conjunctivae.
191. 結膜銀病 Argyrosis conjunctivae.

XXXIX. 其他

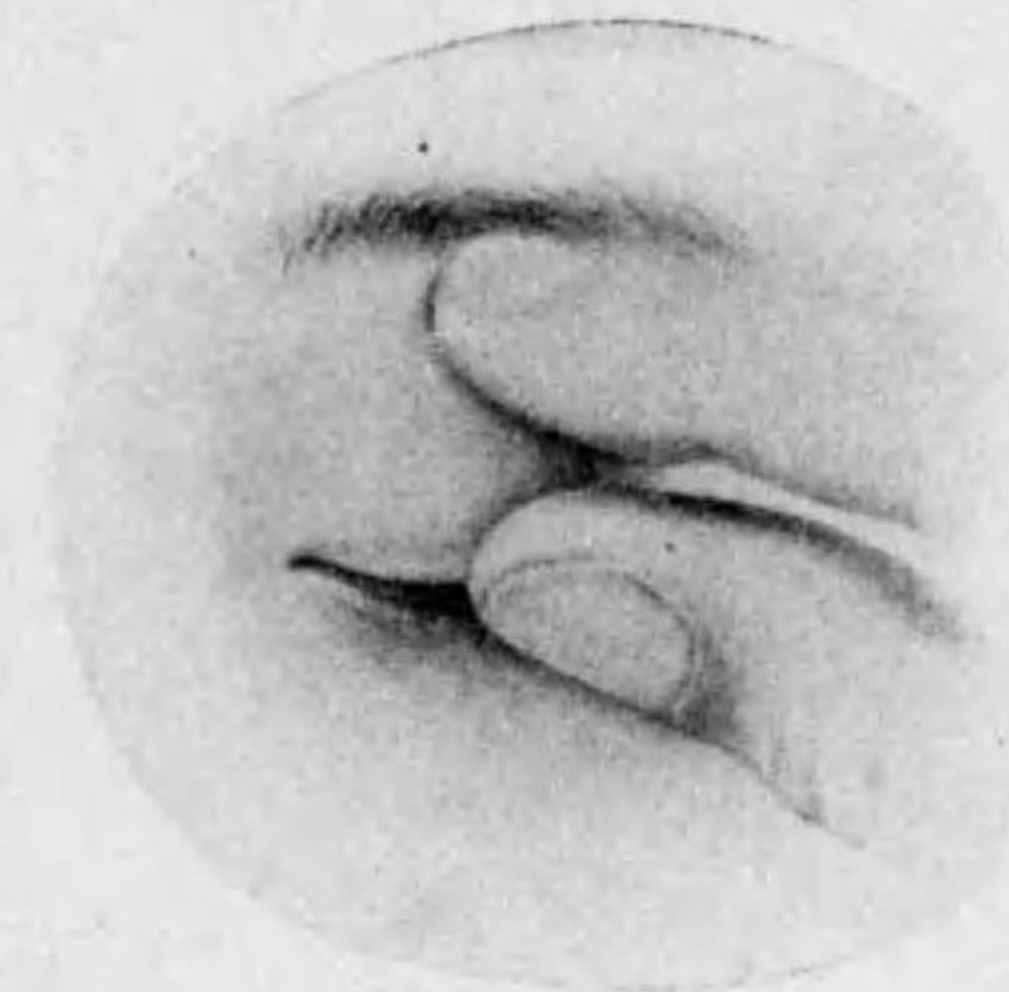
192. 瞼裂斑 Pinguecula.
193. 翼狀贅片 Pterygium.
194. 假性翼狀贅片 Pseudopterygium.
195. 結膜乾燥 Xerosis conjunctivae.
196. 「トラコーマ」治癒後ノ血管走行異常.
197. 「レントゲン」線ニ因ル球結膜血管ノ變化.

緒 言

眼病を診察するに方つて注意すべき事は 先づ第一に 眼が身體の一部であるによつて 眼病が全身の疾病の一部として 現はれることが極めて多いといふ事である。それ故 眼を診るには 常に全身の状態に意を用ふる事を怠つてはならない。殊に 眼は感覚が極めて鋭敏であるから 全身的疾患が未だ他に症状を現はさない時に 既に眼に異状を呈する事がある。それ故時々眼を診ることによつて他の臓器の疾病が発見せられる事がある。

次に眼の診断上注意を要する事は 眼が知覚過敏で損傷を受け易いといふ事である。殊に角膜は最も注意を要する場所であつて 軽微の損傷でも 障害が比較的大きいことが多いから 眼の検査や治療に際しては 特に注意して 角膜を傷けないやうにしなければならない。尚ほ眼瞼を 翻轉したりする際に 眼球を壓迫しないやうにする事が必要である。

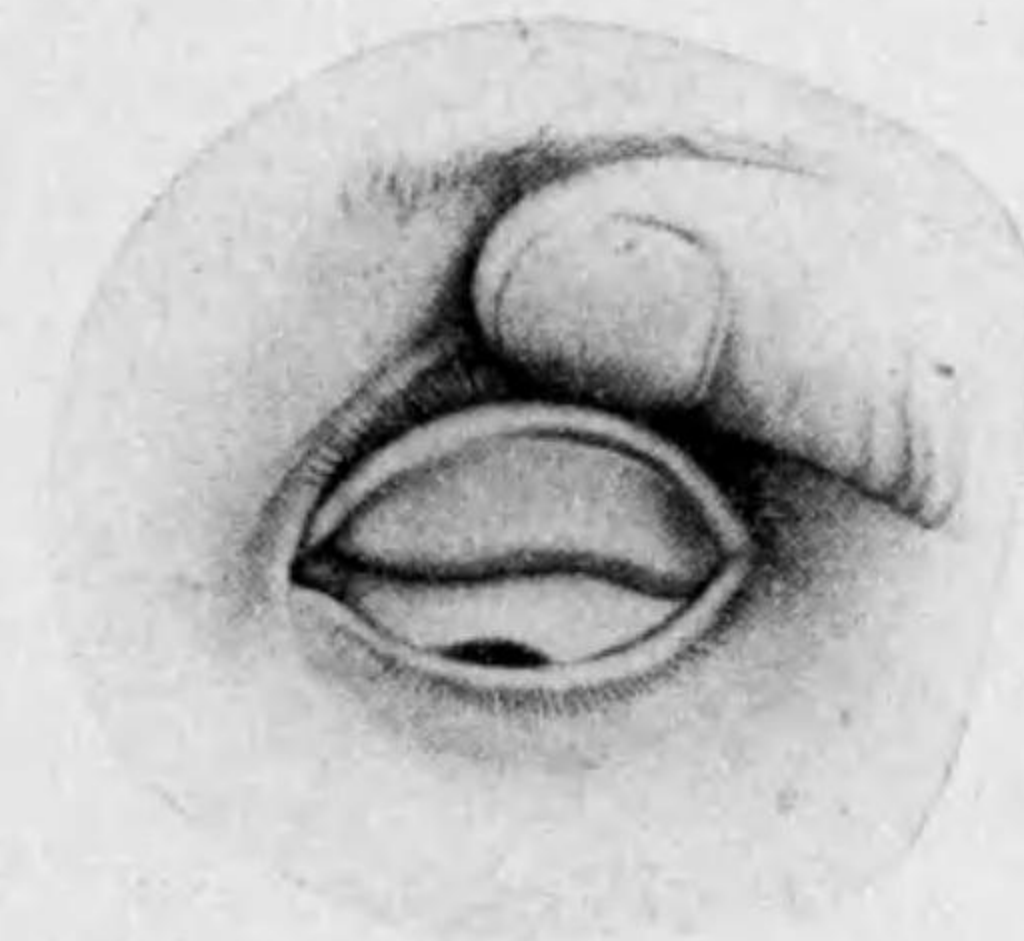
其の他 眼の検査に際して注意すべき事は 僅微の變化が眼に於ては比較的著しい障害を起すことがあるから 些細の變化でもそれを見落さないやうにする事である。これ爲には 角膜を診るに際して暗室で斜照法を行ひ ルーペで擴大して見る事も必要である。またフルオレスチン液を點眼して之れを染めて見る事も必要である。殊に 近年重要視されるに至つた滲濾性表層角膜炎などの診断には フルオレスチン液で染めて暗室で診る



甲



乙



丙



丁

といふ事が極めて必要である。またブラチド-氏角膜計で角膜表面の穹窿の状態を検査する事も忘れてはならない。

眼瞼殊に上眼瞼を翻轉する方法は 次のやうにするのが便利である。これを茲に掲げる理由は東洋人と西洋人とに眼瞼の構造に著しい相異があつて西洋の眼科書に記載せられてある方法と我等が日常行つてゐる方法との間に甚だ異つた點が多いからである。

- イ. 先づ被検査者に下方を見させる。或は軽く目を閉ぢさせる。
- ロ. 示指の先端を眉毛の直下に當て 拇指の先端を睫毛の直上部に當て、其の中間の眼瞼の皮膚を撮む(甲圖)。
- ハ. 撮んだ皮膚を前下方に牽引する(乙圖)。
- ニ. 撮んだ指先を捻るやうにして 示指の先端を下方に 拇指の先端を上方に廻す。この時眼球を壓迫しないやうに注意しつつ 眼瞼を翻轉する。翻轉が出来たら 拇指でそれを其の儘眉弓の下の骨に向つて壓して固定し 示指を取り去る(丙圖)。
- ホ. 尚ほ穹窿部を検査するには 被検査者に一層強く下方を見させ 翻轉した儘 上眼瞼を強く上方に引き上げ 下眼瞼の上には他方の手の拇指を置いて 下眼瞼で眼球を靜かに眼窩内に壓し込むやうにするのである(丁圖)。

眼を検査する順序は概ね次の如くするのが便利である。

1. 先づ主訴を問ひ 次に必要な既往症を聴く。
2. 次に視力を検査する。他の種々の検査をした後に視力を測ると 時として正しい成績を得難い事があるから 視力の検査は他の検査に先んじて行ふがよい。視力は一眼づつ検査する。且つ眼を被ふ時に眼球を壓迫しないやうに注意する。
3. 次に外眼の検査を行ふ。之れには明るい窓の傍で 被検査者を窓に面して位置させるがよい。
 - イ. 先づ手を觸れないで 左右の眼瞼の状態や 眼球の位置などを比較對照して 異常の有無を診る。
 - ロ. 指を以て軽く瞼裂を開いて 角膜 前房 虹彩 瞳孔 球結膜 などを検査する。
 - ハ. 先づ下眼瞼 次で上眼瞼を翻轉して 瞼結膜や穹窿部結膜を検査する。
 - ニ. 指で淚液部を壓して見て 涙點から涙液や膿汁が出るか否かを検べる。
 - ホ. 必要があつたら 結膜囊から分泌物を採つて細菌學的検査を行つたり またフルオレシチン液で角膜を染めて見たりする。
4. 次に暗室検査を行ふ。
 - イ. 斜照法で 角膜 前房 虹彩 瞳孔 水晶体 などを検べる。場合によりルーベ又は角膜顯微鏡を用ゐる。
 - ロ. 徹照法で透明體に濁濁があるか否かを検べる。
 - ハ. 検査法で屈折状態の検査をする。場合によりオプタルモートルで角膜の穹窿の度を測る。
 - ニ. 眼底を検査する。場合により各種の検査鏡を使用する(眼底圖譜緒言参照)。
5. 必要な場合には 屈折異常の矯正 ブラチド-氏角膜計に依る角膜穹窿の検査 視野の検査 光線の検査 色視の検査 調節機能の検査 輻輳機能の検査 眼位の検査 眼球運動の検査 瞳孔反應の検査 眼壓の測定 等を行ふ。尚ほ場合により レントゲン線に依る検査 眼以外の身體の検査 例へば 神経系統の検査 血壓の測定 結核や梅毒などに對する検査 腦脊髄液の検査 血液の検査 尿の検査 などを行ふこと忘れてはならない。

第一篇 眼瞼疾患

(I—XVIII)

I. 眼臉先天異常

(1, 2, 3.)

I. 眼瞼先天異常

1. 先天眼瞼缺損 Coloboma palpebrae congenitum.

先天眼瞼缺損ハ 通常 兩眼ノ上眼瞼ニ來リ、三角形ノ眼瞼各組織ノ全層ヲ通ジタル 缺損ヲ示スガ時ニハ 片眼ノ上眼瞼ノミニ見ルコトモアリ、又 其形ハ三角形ヲナサズシテ 極メテ不規則ナルコトモアル。缺損ノ大キサハ 大小不定デアル。下眼瞼ニ缺損ガ現レルコトハ 極メテ稀デアル。眼瞼缺損ハ 同時ニ他ノ畸形ヲ伴フコトガ多ク、腹部ヘルニア、外聽道閉鎖、結膜皮樣腫、角膜潤濁、小眼球、瞳孔偏位、脈絡膜缺損等ガ 其合併症トシテ見ラレル。原因トシテ 羊膜ノ異常等ガ舉ゲラレ、遺傳ニ關係スル様デアルガ、未ダ明ラカデナイ。

療法トシテハ、小ナル缺損ハ 單ニ切開縫合シ、大ナルモノハ 皮膚移植ヲ行フ。

本例ハ 生後一週間ノ男兒デ、定型ノ先天眼瞼缺損デアル。兩親ハ 血族結婚ニアラズ、遺傳關係モ認メラレナイ。他ノ部ノ畸形異常等モ 認メラレナカッタ。

2. 先天眼球隱伏 Cryptophthalmus congenitus.

先天眼球隱伏ハ 非常ニ稀有ナ先天畸形ノ一ツデアツテ、眼瞼及ビ瞼裂ヲ缺キ、眼窩口ハ前額部ヨリ上顎部ニ至ル 連續セル皮膚ニヨツテ蓋ハレ、眼窩ニハ 發育不十分ナル眼球ガ 隱伏シテ居ル。多ク兩側ニ見ルガ、片側ノコトモアル。眼球樣突出物ハ 本來ノ眼球ノ位置ヨリモ 稍耳側ニ偏在シ、大キサハ一定シナイ。觸診上ノ所見ハ 囊腫ニ一致スル。眉毛ノ發育ハ 一般ニ不良デ、時ニハ 全ク缺如セルコトモアル。眼部以外ノ先天異常ヲ伴フコトガ多ク、耳殼ノ異常、兔唇、狼咽、指趾癒着、假性半陰陽等 屢々見ル所デアル。組織學的所見トシテハ 通常 眼輪匝筋ハ存在スルガ、瞼板、結膜等ハ 見出サレナイ。眼球各組織ハ 不十分ナル發育狀態 又ハ 痕跡トシテ認メラレル。發生原因トシテ 種々ノ説ガ行ハレテ居ルガ、羊膜ノ異常ニ因ルトノ説ガ 有力デアル。遺傳ノ影響ハ 明瞭デナイ。療法ハ整形手術アルノミデアル。

本例ハ 發育佳良ナル男兒ニ現レタ 先天眼球隱伏デアツテ、兩親ハ 血族結婚ニアラズ。遺傳關係ハ 證明サレナイ。兩親共 性病ヲ否定シ、母ハ 妊娠中 輕度ノ肋膜炎ニ罹リタル外 著患ヲ知ラズ。患兒ノ近親中ニハ 畸形ヲ有スルモノハナイ。本例ニテハ 眼球隱伏ノ外ニハ 身體各部ニ 何等畸形ヲ認メズ、レントゲン検査、內科的診察ニ依ルモ 異常ヲ見出サナカッタ。強烈ナル光ニ對スル反應ニヨリ 幾分ノ光覺ヲ保有セルモノト 推定シ得タ。外貌ヲ整ヘル爲ニ 整形手術ヲ行ヒ、其際摘出シタル眼窩内容ヲ 組織學的ニ検査シタトコロ、結膜、瞼板、涙腺ヲ認メズ、眼球各組織ハ 不十分ナル發育狀態ニ於テ 見出サレタ。

3. 先天小眼瞼 Microblepharon congenitum.

先天小眼瞼ハ 稀ナル先天異常ノ一ツデアツテ、多クハ先天無眼球 又ハ 小眼球ニ合併シテ來リ、或ハ單獨ニ來ルコトモアル。高度ナル場合ニハ 痕跡的ノ眼瞼ト見ルベキ 皮膚ノ隆起ニ過ギナイコトモアル。定型ノナルモノニ於テハ 眼瞼ノ各組織ハ 不規則且ニ不平等ニ發育シ 分布シテ居ル。コノ現象ハ 殊ニ瞼板、マイボム氏腺、輪匝筋、及ビ 睫毛ニ著シイ。其他 小淚管及ビ淚囊ニ 異常ヲ見ルコトガアル。遺傳關係ハ 明ラカデナイ。眼瞼及ビ瞼裂ガ小デ 外貌ヲ損スルコトガ甚ダシイ。療法ハ外背成形術ヲ行フ。

本例ハ 31 歳ノ女子デアルガ、左右淚囊部ノ皮膚ヲ 縱ニ 紡錘狀ニ切除シテ 縫合シ、尙 外背成形術ヲ行ツテ 稍、外貌ヲ整ヘ得タ。



1. 先天眼瞼缺損
Coloboma palpebrae congenitum.



2. 先天眼球隱伏
Cryptophthalmus congenitus.



3. 先天小眼瞼
Microblepharon congenitum.

II. 內管贅皮

(4, 5, 6.)

II. 内眦贅皮

蒙古人ニ特有トセラル、所謂蒙古襞ハ上眼瞼ノ縁ニ沿ツテ皺襞起リ斜ニ内眦ヲ被ヒ、甚ダシキ時ハ下眼瞼ノ内側ニモ其痕跡ガアツテ、漸次下外方ニ至ルト共ニ消失スル。軽度ノ蒙古襞ハ涙湖ヲ蔽ヒ外眦ヲ美シクスルモノデアル。コノ蒙古襞ガ高度トナル時之ヲ内眦贅皮 Epicanthus ト稱スル。一種ノ先天異常ト見ルベキモノデ、縦走セル皮膚ノ皺襞ガ兩眼内眦ヲ蔽ヒ、時トシテ醜貌ヲ呈スル。内眦贅皮ハ兩眼ニ同程度ニ來ルコトガ多イガ、時ニ片眼ニ於テ特ニ高度デ、内斜視ト誤ラレルコトガアル。非常ニ高度ナル内眦贅皮ハ屢々小眼瞼、眼瞼下垂等ヲ伴ヒ、一種ノ畸形ト見ルベキデアル。内眦贅皮ヲ三種ニ分ツ。

- 1) 上内眦贅皮 Epicanthus superior.
- 2) 中内眦贅皮 Epicanthus medialis.
- 3) 下内眦贅皮 Epicanthus inferior.

4. 上内眦贅皮 Epicanthus superior.

蒙古人又邦人ニモ屢々見ルモノデ、本例ハ22歳ノ女子ノ上内眦贅皮デアル。

5. 中内眦贅皮 Epicanthus medialis.

贅皮ハ上下ニ縦走シ、少シク外方ニ向ツテ凹形ヲ呈シ、外眦ヲ損スルコト稍、甚ダシイ。邦人ニハ上内眦贅皮ニ比シテ稀デアル。本例ハ62歳ノ女子ニ見タ中内眦贅皮デアル。

6. 下内眦贅皮 Epicanthus inferior.

贅皮ハ下眼瞼ヨリ上方ニ向ケテ斜ニ内眦ヲ被フテ居ル。屢、先天眼瞼下垂及ビ先天小眼瞼ヲ合併シテ來リ、遺傳ガ明ラカニ證明サレタ例モアル。俗ニ「サカサメ」ト謂ハレテキル。

本例ハ7歳ノ男子ノ下内眦贅皮デアツテ、先天眼瞼下垂及ビ先天小眼瞼ヲ合併シテ居ル。患者ノ兩親ハ血族結婚デ、同胞4人ノ内2人ガ本異常ヲ呈シテキル。



4. 上内眦贅皮
Epicanthus superior



5. 中内眦贅皮
Epicanthus medialis.



6. 下内眦贅皮
Epicanthus inferior.

III. 眼瞼腫脹

(7, 8, 9, 10, 11.)

III. 眼瞼腫脹

7. 眼瞼脂肪過多 Adipositas palpebrae.

邦人ニ於テハ 西洋人ト異ナリ 眼瞼厚ク、通常 眼輪匝筋ト 瞼板トノ中間ニ 脂肪組織ガアツテ 眼球ヲ保護シ、眼瞼ノ皮膚 膨レテ固ミヲ帯ビ、外貌ヲ美シクスルニ與ツテ居ル。併シ コノ脂肪組織ガ 過多トナレバ 眼瞼ハ 腫脹隆起シ 外貌ヲ損スル。之ヲ 眼瞼脂肪過多ト謂フ。視機能ニハ 妨ナイ。時トシテ 眼瞼脂肪過多ニヨツテ 下眼瞼ノ内背側ニ於テ 眼瞼内反ヲ起スコトガアル。小兒 及ビ 婦人ニ多イ。之ヲ皮膚性内反ト謂フ。眼瞼脂肪過多ガ 高度ナル時ニハ 瞼裂ヲ狭メテ 眼瞼下垂ト誤ラレハコトガアルガ、指頭ニテ 皮膚ヲ引キ上ゲレバ 瞼裂ノ位置 及ビ 瞼裂ノ大サハ 正常デアル。

療法。整形手術、例ヘバ ホッツ氏法。

本例ハ 16歳ノ男子ニ於ケル 眼瞼脂肪過多デアル。

8. 眼瞼皮膚弛緩 Blepharochalasis.

稀有ナル疾患デアツテ、上眼瞼皮膚ハ 弛緩シ 浮腫狀ニ腫脹シテ 菲薄トナリ、表面ニハ 無數ノ 細小ナル 皺襞ヲ生ジ、皮下小靜脈ハ 擴張シテ 上眼瞼ハ 赤色ヲ帯ビル。併シ 炎症症狀ハ 呈シナイ。瞼裂ニ依リ 上眼瞼皮膚ハ 囊狀ヲナシテ 下垂シ 外貌ヲ損ズルガ、視機能ニハ 妨ナイ。眼瞼下垂ト異ナリ 瞼裂ノ位置ハ 正常デアル。眼瞼皮膚弛緩ハ 常ニ 兩側ノ上眼瞼ヲ侵シ、高度ノ時ニハ 瞼裂ヲ蓋ツテ 歩行ヲ困難ナラシメル。

本症ハ 眼瞼脂肪過多トハ 全く別箇ノ疾患デアツテ、組織學的ニハ 皮膚ノ萎縮ガ證明サレル。本症ハ 上眼瞼ノ浮腫 腫脹ガ反復スル場合ニ 漸次ニ出現スルガ、原因ハ不明デアル。多ク 青春期 又ハ ソレ以後ニ發現スル。療法ハ整形手術、例ヘバ ホッツ氏法。

本例ハ 17歳ノ男子ニ於ケル 眼瞼皮膚弛緩デアル。患者ハ 一年前ヨリ 長時間 頭部ヲ垂レテ 近業ヲ營ンデ居ルガ、コノ近業從事以來 上眼瞼ノ重感 及ビ 眼精疲勞ヲ 感ジタ。著患ノ既往 及ビ 遺傳ハ 證明サレナカッタ。

9. 眼瞼象皮病 Elephantiasis palpebrae.

眼瞼象皮病ハ 歐人ノ所謂自國象皮病 Elephantiasis nostras ニ屬スルモノデ、熱帶象皮病ハ未ダ 經驗サレテキナイ。而シテ ソノ大多數ハ 眼瞼皮膚ノ再發性丹毒 又ハ 類丹毒ノ後ニ起リ、又ハ 眼瞼皮膚ノ慢性炎症疾患 殊ニ濕疹性疾患ノ結果トシテ 起ルモノデアツテ、ソノ發生ニ際シテハ 炎衝ニ次デ 組織液ノ鬱滯ガ 重要デアル。外傷後象皮病ノ發生シタ報告モアルガ、ソノ關係ハあまり確カデハナイ。

殆ド 専ラ 上眼瞼ノミヲ侵シ、上眼瞼ハ 腫脹シテ 下眼瞼ノ上ニ 下垂シ、殆ド 或ハ 全ク 舉上スルコトガ出来ナクナル。初期ニハ 捏粉様硬度ヲ有シ 指壓ニヨリ 著明ノ 壓痕ヲ殘スガ、後ニナルト 肥大シタ組織ハ 一層硬クナリ 容易ニ 觸知スルコトガ 出来ルヤウナル。通常 帶青紅色ヲ呈シ 表面ハ 平滑デ 多少ノ 光澤ガアル。一層經過ノ 進ンダ場合ニハ 肥大ハ 更ニ 著明トナリ 隣接シタ 顔部ニモ 及ブコトガアル。硬イ 結締組織ガ 廣イ 範圍ニ 亘ツテ 新生サレルト 眼瞼組織ハ 壓迫萎縮ニ 陥リ、又 睫毛ノ 營養障礙ヲ 來スコトガアル。異型トシテ 同時ニ 數個ノ 眼瞼ノ 侵サレルコトモアル。

療法。眼瞼縁ニ 並行ニ 病症ノ 輕重ニ 應ジテ 適宜ノ 幅ニ 上眼瞼ノ 中央カラ 皮膚片ヲ 切り取ル。

本例ハ 41歳ノ男子ニ於ケル 眼瞼象皮病デ、患者ハ 約一年前 兩眼 結膜炎ニ 罹リ 其ノ後 反復再發シ 時ニヨリ 上眼瞼 薄桃色ニ 着色シテ 浮腫狀ニ 膨隆シ、ソノ程度ハ 場合ニヨリ 差異ガアル。切開ニヨツテ 時 肥大着色ハ 消退シタガ 再ビ 肥大シ、上眼瞼ハ 帶青紅色ヲ 呈シ 平等ニ 浮腫狀ニ 隆起シテ 瞼裂ハ 殆ド 閉ヂテキル。疼痛 壓痛ハ 最初カラ 訴ヘナイ。

10. 「ヨードカリ」ノ内服ニ因ル 眼瞼腫脹

「ヨード」ニ對スル 特異質ニヨリ 「ヨード」劑ノ 内服後 上眼瞼ニ 浮腫 及ビ 發赤ヲ 見ルコトガアル。本例ハ 36歳ノ女子デ、眼底病ノ爲 「ヨードカリ」一日量 0.9 ヲ 處方シタ處、翌日ニ至リ 左右眼瞼ニ 腫脹ガ 起リ 聲ガ 嘎レタ。嘎聲ハ 數時間ノ後 治癒シタガ、眼瞼ノ 腫脹ハ 其ノ翌日マデモ 續イタ。「ヨードカリ」ノ 内服ヲ 中止セシメタ處、腫脹モ 日ヲ 經ルニ 從ツテ 輕快シタ。其ノ後 再ビ 「ヨードカリ」0.5 ヲ 處方シタ處、其ノ翌日 鼻粘膜ノ 腫脹ヲ 來シタ。

11. 「イマミコール」注射ニ因ル 急性眼瞼腫脹

「イマミコール」注射ニ因ル 急性眼瞼腫脹ハ 「ヨード」ニ因ル 眼瞼腫脹ノ 如ク 中毒ニ因ル 眼瞼腫脹ノ 範疇ニ 屬スルモノデ、原因ハ 水銀中毒デアル。稀有ノ 症候デアル。「イマミコール」Imamicol ハ 1% 「スルホサリナル 酸水銀 ソーダ」水溶液デ 皮下 筋肉内 又 靜脈内ニ 注射シ 驅瘰療法ニ 用フル藥劑デアル。

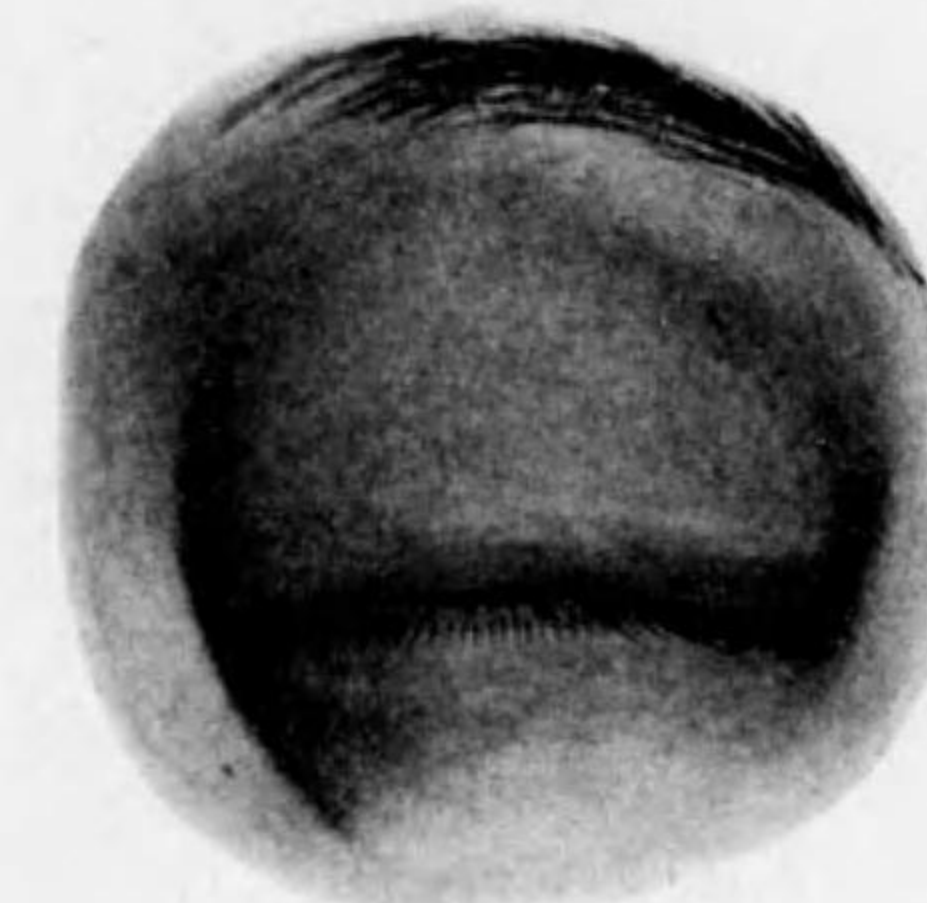
本例ハ 31歳ノ女子ニ見タ 「イマミコール」ノ 靜脈内注射ニヨル 急性眼瞼腫脹デアル。患者ハ 婦人病ニ 罹患シ 血液ノ ワ、セルマン氏反應 強陽性ノ 爲 驅瘰療法トシテ 今迄ニ 「アルゼノベンゾール」、若鉛劑等ノ 注射ヲ 數回受ケ 何等ノ 障礙モ 認メナカッタガ、「イマミコール」ノ 靜脈内注射ヲ 受ケタ處、約一分間ニシテ 兩眼瞼ニ 腫脹感ガ 起リ、其後 發赤シ 腫脹ハ 著明トナツタ。コノ 腫脹ハ 指壓ニヨツテ 痕跡ヲ 遺サズ、波動モ 觸知シナカッタ。尿検査ニハ 何等ノ 所見モナク、腫脹ハ 48時間後ニハ 痕跡ナク 消失シタ。約一ヶ月後 再ビ 「イマミコール」ノ 注射ヲ 行ツタ處、再ビ 同様ノ 急性眼瞼浮腫ガ 發現シタ。



7. 眼瞼脂肪過多
Adipositas palpebrae.



8. 眼瞼皮膚弛緩
Blepharochalasis.



9. 眼瞼象皮病
Elephantiasis palpebrae.



10. 「ヨードカリ」ノ内服ニ因ル 眼瞼腫脹



11. 「イマミコール」ノ注射ニ因ル 急性眼瞼腫脹

IV. 眼 瞼 炎

(12, 13, 14, 15, 16, 17.)

IV. 眼瞼炎

12. マイボーム氏腺分泌過多 Hypersecretio glandulae tarsalis s. Meibomianae.

マイボーム氏腺ノ分泌過多ノ場合ニ、屢、白色ノ小氣泡ヲ眼瞼縁線ニ内外背及ビ涙阜ノ表面部ニ見ル事ガアル。而シテ睡眠中特ニ斯ノ如キ氣泡ヲ生ジ易イ。コノ氣泡ハマイボーム氏腺ノ分泌物ガ涙液中ノ「アルカリ」若シクハ水分ノ爲メニ、加水分解ヲ受ケタモノデアル。結膜炎、トラコーマ等ノ際ニ最も屢見ラレル。

本例ハ67歳ノ女子デ、兩眼癢痕性「トラコーマ」ニ罹ツテキル。尙ホ本例ニハ、瞼裂斑ガ著明ニ現ハレテキル。瞼裂斑ハ、瞼裂ニ相當スル球結膜ノ肥厚デ、稍黃色ヲ呈スルカラ、脂肪斑 Pinguicula ト呼バレタガ、其ノ後ノ研究ニヨツテ之レガ脂肪デナクシテ主ニ彈力纖維及ビ硝子様物質デアルコトガ知ラレタ。老人殊ニ屋外労働者ニ著明ニ現ハレルコトガ多イ。又球結膜ニ充血又ハ出血ガアル時ニハ最も著明ニ現ハレテ「フリクテン」等ト誤診セラレルコトガアル。

13. 鱗屑性眼瞼縁炎 Blepharitis ciliaris squamosa.

眼瞼縁ノ皮膚ニ白色又ハ灰白色 靴襠様ノ落屑ガ認メラレテ、之ヲ取除イテ見ルト、其ノ下ノ皮膚ハ若白色カ僅ニ淡紅色デ、缺損ハ認メラレナイ。鱗屑除去ニ際シテハ、睫毛ノ脱落シ易イ事モアル。通常四ツノ眼瞼ヲ同時ニ侵スモノデ、經過ハ極メテ慢性デアツテ、時ニハ痒痒ヤ、流涙ヲ來ス事モアル。本症ハ脂漏殊ニ其ノ乾性ノモノト考ヘラレル。他ニ油性脂漏 Seborrhoea oleosa ノ形デ來ル事モアルガ、其ノ時ニハ落屑ガ黃色脂肪様ノ痂皮トナツテ認メラレル。治療法ハ患部ヲ常ニ清潔ニ保ツテ、II. 硼酸軟膏 或ハ白降汞軟膏ヲ一日數回塗布シ、尙要スレバ全身療法ヲ行ツテ消化機能ヲ調整シ、淡味ノ食餌ヲ攝ル様ニスル。

本例ハ19歳ノ女子ノ左眼ヲ示シテアルガ、右眼モ略、同様ノ所見デアツタ。3—4年前カラ兩眼ノ瞼縁ニ白色靴襠様ノ落屑ガ附着シテ居テ、時ニハ痒痒ヲ感ズル事モアルト云フ。症状ハ毎年晩春カラ夏ニカケテ増悪スルノデ、今夏モ六月下旬カラ瞼縁ニ落屑、發赤及ビ痒痒ガ増シテキタデアツタ。視力ハ兩眼共ニ佳良デ、結膜ニ輕イ充血ノアル外ハ他ノ眼病ニハ異常ヲ認メナクツタガ、頭部ノ被髮部ニ甚シイ落屑ガ認メラレタ。

14. 潰瘍性眼瞼縁炎 Blepharitis ciliaris ulcerosa.

睫毛ノ根部ニ痂皮、小膿疱及ビ小潰瘍ヲ生ズル疾患デアツテ、痂皮下ノ皮膚ニモ發赤ヤ小潰瘍ガ認メラレル。相接スル小潰瘍ハ互ニ融合スル事モアル。睫毛根ガ侵サレルタメニ睫毛ハ脱落シヤスク、其ノ重症ナルモノニアツテハ、脱落後ハ再生スル事ナクシテ睫毛禿 Madarosisヲ起スニ至ルノデアル。其ノ他潰瘍ノ癒痕萎縮ノ結果睫毛亂生 Trichiasis ヤ眼瞼外反 Ectropium palpebraeヲ起ス事モ稀デハナイ。其ノ經過ハ極メテ慢性デアツテ一弛一張數年間ニ互ツテ容易ニ根治シ難イモノデアル。

治療法ハ體質ノ改善ニヨル外、局所ニ1%「イヒチオール」泥膏ヲ塗布シテ痂皮ヲ去リ、睫毛ヲ抜去シタ後、1%「リパノール」泥膏又ハ1%「イヒチオール」泥膏ヲ塗布シ、炎症ノ輕減ヲ待ツテ1—2%白降汞軟膏ヲ塗布スル。治療ニ至ルマデ反復スル。難症ニハ「エックス」線照射ヲ行フ。

本例ハ29歳ノ女子ノ右眼デアアルガ、左眼モ略、同様ノ所見デアツタ。約3年前カラ時々兩眼ノ瞼縁ガ赤クナツテ痂皮ヤ小膿疱ガデキルト云フ。今度モ一箇月程前カラ兩眼ニ同様ノ事ガ起ツテキタ。瞼縁ガ赤ク縁取ツテ居テ其ノ所々ニ痂皮ガ附イテ居リ、又毛根ヲ取り卷イタ小膿疱ノ存在ガ見ラレル。

15. 潰瘍性眼瞼縁炎 Blepharitis ciliaris ulcerosa ニ因ル 瞼縁胼胝 Tylosis ciliaris.

本例ハ7歳ノ少女ノ右眼ヲ示シタモノデ、前圖ヨリモ更ニ進行シタモノデアアル。約1年前ヨリ兩眼ノ上下眼瞼縁ガ發赤癢癢シテ今日ニ及ンダト云フ。圖ニ於テ見得ラレル通り睫毛ハ疎鬆トナツテ睫毛禿 Madarosis ciliarisニ陥リ、又癒痕萎縮ニ因ツテ排列ガ不規則トナリ、中ニハ角膜ヲ刺戟スルモノモアツテ、睫毛亂生 Trichiasisノ狀ガ見ラレル。更ニ上眼瞼ハ瞼縁ガ炎症ニ由ル鬱血腫脹ノ結果肥厚シテ鈍圓トナリ、II. 其ノ重サノタメニ下垂シ瞼縁胼胝 Tylosis ciliarisノ狀ガ著明デアアル。其他此ノ患者ノ兩眼ニハ「トラコーマ」ヲ合併シテ居タ。

IV



12. マイボーム氏腺分泌過多
Hypersecretio glandulae tarsalis,
瞼裂斑 Pinguicula.



13. 鱗屑性眼瞼縁炎
Blepharitis ciliaris squamosa.



14. 潰瘍性眼瞼縁炎
Blepharitis ciliaris ulcerosa.



15. 潰瘍性眼瞼縁炎ニ因ル 瞼縁胼胝
Tylosis ciliaris.



16. 潰瘍性眼瞼縁炎ニ因ル 睫毛禿
Madarosis ciliaris, 眼瞼外反
Ectropium palpebrae.



17. 濕疹性眼瞼炎 Blepharitis eczematosa,
結膜フリクテン phlyctenae conjunctivae.

16. 潰瘍性眼瞼縁炎 Blepharitis ciliaris ulcerosa ニ因ル 睫毛禿 Madarosis ciliaris 及ビ 眼瞼外反 Ectropium palpebrae.

眼瞼縁炎ガ 長イ経過ヲ取ル時ハ 睫毛ハ 逐次消滅シテ 殆ンド眼瞼ニ見ラレナイ様ニナル。本例ハ 20歳ノ男子ノ 右眼ヲ示シタモノデアルガ、上下ノ眼瞼ニ 數本ノ睫毛アル外ハ 全ク消失シテ 略、完全ナ 睫毛禿 Madarosis ciliaris ニナツテ居ル。上下ノ眼瞼ノ 稜角ハ 失ハレテ 鈍圓トナリ 又 下眼瞼ハ 外皮ニ出来タ 瘻痕ノ 収縮ニヨツテ 眼瞼外反 Ectropium palpebrae ヲ呈シ 眼瞼ト眼球トハ 隔離シテ 涙點外反 Eversio puncti lacrimalis ヲ來シ、流涙ヲ起シテ 眼瞼縁炎ヲ 益、増悪セシメタト思ハレル。潰瘍性眼瞼縁炎ノ末期デアル。

17. 濕疹性眼瞼炎 Blepharitis eczematosa.

眼瞼ノ皮膚ニモ 急性及ビ慢性ノ濕疹ガ現ハレル。急性ノ濕疹ハ 種々ノ場合ニ起ルガ、「アトロピン水」トカ 絆創膏トカノ 刺戟ニ ヲツテモ 起ル事ガアル。又 屢、「フリクテン」ニ合併シテ來ル事ヲ忘レテハナラナイ。

慢性ノモノハ 急性濕疹カラ變化シテ來ル事ト 始カラ慢性濕疹トシテ來ル事トガアツテ、多クハ身體他部ノ濕疹ヲ合併スルモノデアルガ、單獨ノモノモ 見ラレル。殊ニ 眼瞼ノ慢性濕疹ハ 慢性ノ結膜炎ヤ 涙囊炎、眼瞼外反等ノ 慢性ノ眼疾患ニ由來スル事ガ多ク、從ツテ下眼瞼 及ビ 外背部ニ多イ。

治療法ハ 急性濕疹ニハ 亞鉛華泥膏ヲ用ヒ、慢性症ニハ 白降汞軟膏、黃降汞軟膏 及ビ「ピオクダニン水」ノ外ニ「ピチロール・ウィルソン」氏膏ヲ用フル。更ニ 原疾患ガアレバ 之ヲ治療スルノデアルガ、急性ニセヨ 慢性ニセヨ 何レノ場合ニモ 局所療法ノ外ニ 全身療法ヲ 併用スル時ハ 治療ノ上ニ 好影響ヲ及ボスモノデアル。

本例ハ 7歳ノ 貧血瘦削シタ少年ノ 右眼ヲ示シタモノデアル。約1週間前カラ 兩眼ニ「フリクテン」ガ出来、夫レト共ニ 兩眼眼瞼ガ 發赤 糜爛 結痂シタノデアル。發赤ハ 全周ニ認メラレルガ 上下眼瞼共ニ 中央カラ 外方ニ掛ケテ 殊ニ強クテ 且 痂皮ト糜爛面トガ認メラレル。其ノ他 角膜縁ニ「フリクテン」ト 外背部球結膜ニ 巨大「フリクテン」トガ見ラレル。左眼ニモ 角膜縁「フリクテン」及ビ 略、同様ノ 濕疹性眼瞼炎ガ見ラレル。

V. 眼瞼炎

(18, 19, 20.)

V. 眼瞼炎

18. 白色葡萄狀球菌性膿痂疹 Impetigo albstaphylogenes Dohi.

病名ノ示ス如ク 白色葡萄狀球菌ニヨツテ起リ、痂皮ヲ結ブヲ主徴トスル疾患デアリガ、古名ヲ 初生兒急性天疱瘡ト云フガ如ク、小兒ノ顔面、手足ノ如キ 露出健康皮膚面ニ 卒然 水疱ノ發生ヲ以テ始リ、且傳染性ヲ有スル。水疱ハ 針頭大ヨリ 鶏卵大マデ 種々ノ大サノモノガ見ラレ、其ノ内容ハ 始ハ 透明デアリガ、時ヲ經ルニ從ヒ 淡黃色トナリ、更ニ微カニ濁濁スル。其ノ状態ハ 前房著膜ノ如ク、膿汁ガ 下垂部ニ 弦月狀ニ 沈澱スル。緊張シタ被膜ハ 次第ニ 弛緩シテ 破裂ヲナシ、内容ノ吸收セラレニ 速レテ 巾着狀トナリ、遂ニハ 全ク萎縮シテ 汚穢白色ノ 薄キ痂皮トナツテ 水疱底ニ 膠着スル。此等ノ水疱ハ 一時ニ 發生セズ、順次ニ 發生スルモノデ、其ノ中間ノ皮膚ハ 必ズ健康ナノガ 特有デアリ。俗ニ「トビヒ」ト謂フ。痂皮ガ 數日デ 脱落スルト、其ノ跡ニハ 一時 紅褐色ノ 色素沈着ガ 胎ル。

自覺症狀トシテハ 痒痒又ハ 灼熱ノ 感ヲ訴ヘルガ、熱候ハ 伴ハナイ。季節ハ 夏ニ 多ク 冬ニハ 殆ンド 見ラレナイ。治療法ハ 水疱ヲ 破潰シテ 其ノ内容ヲ 流溢セザル様注意シツ、殺菌綿デ 吸取リ、其ノ上ニ 亞鉛華油ヲ 塗布シ、且 成ル可ク 繃帶ヲ 施シ 病毒ノ 散蔓ヲ 豫防スルニ 努メル事ガ 大切デアリ。

本圖ハ 5歳ノ 幼年男子ノ 右眼外眥部 及ビ 其ノ附近 並ニ 眉間部附近ニ 發生シタ 白色葡萄狀球菌性膿痂疹デ、上睫毛ニ 附着シテキルノハ 眼脂デアリ。此外 患者ニハ 左眼ノ 外眥部 及ビ 上眼瞼 並ニ 左右前膊ノ 伸側ニ 同様ノ 膿痂疹ガ 見ラレタ。即チ 何レモ 本病ノ 好發部位ニ 發生シタ 定型的ノモノデアリ。

19. 連鎖狀球菌性膿痂疹 Impetigo streptogenes Dohi.

顔面ニ 急性ニ 膿疱ヲ 生ジ 次デ 蠟黃色ノ 厚痂ヲ 結ビ、其ノ容積ハ 時ト共ニ 増大シテ 二錢銅貨大ニ 迄モ 及ビ、又 新舊ノ 痂皮ハ 重疊シテ 螺殼狀ヲ ナシ 更ニ 互ニ 相融合シテ 不正形ノ 大痂皮トナルコトガアル。

經過ハ 稍、緩慢デアツテ 通常 數週ニ 及ブモノデアリガ、自覺症狀ハ 時ニ 輕微ノ 痒感ガアルノミデ 發熱スル様ナ事ハ 殆ンド ナイ。原因ハ 連鎖狀球菌ニ ヨルモノデ、膿疱中ニハ 常ニ 證明セラレリ。四季 常ニ 存在シテ 一所ヨリ 他所ニ 又 人ヨリ 人ニ 傳染スルモノデアリガ、豫後ハ 良好デアツテ、多クハ 痂痕ヲ 胎サズニ 治スルモノデアリ。療法ハ「オレーフ」油ヤ「ワセリン」ヲ 用ヒテ 痂皮ヲ 去ツタ後ニ、硼酸亞鉛華軟膏ヲ 貼ツテ 置ケバヨイ。

本例ハ 11歳ノ 少年ノ 兩眼ヲ 示シタモノデ、4箇月程 前カラ 眼脂ト 痒感トヲ 訴ヘテキタモノデ、右眼瞼ノ 睫毛ハ 痂皮ノ 爲ニ 被ハレテ 脱落シ 睫毛禿 Madarosisノ 状態ヲ 呈シテキル。

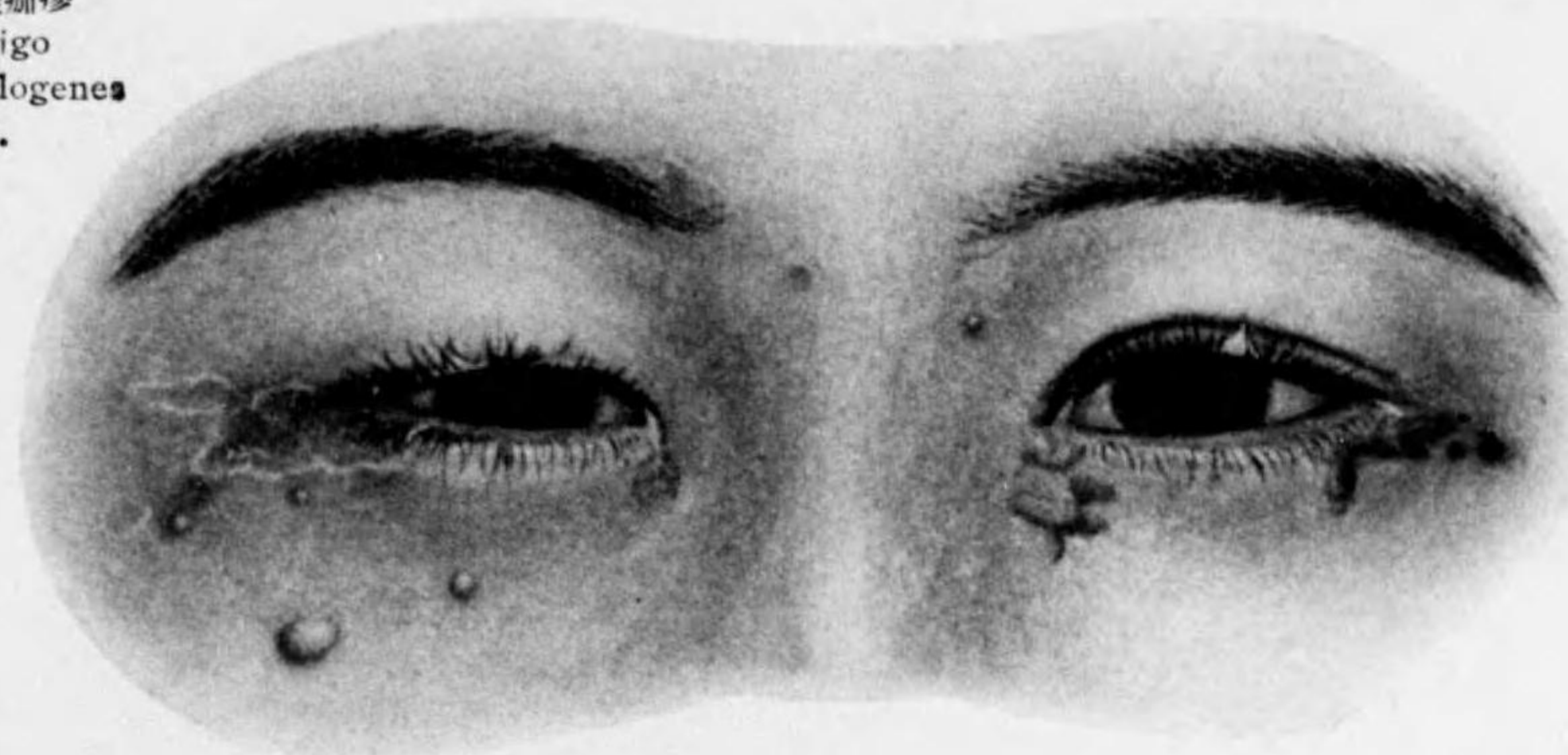
20. 毒物性皮膚炎 Dermatitis venenata s. toxica.

毒物ガ 皮膚ニ 作用スル時ハ 其ノ 作用シタ 部位ニ 限局シタ 或ハ 廣ク 周圍ニ 蔓延シタ 皮膚炎ヲ 起ス。其ノ 炎症ハ 毒物ノ 性質及ビ 其ノ 作用時間又ハ 強弱ニ 依ルモノデアツテ 一様デハ ナイ。毒物ガ 除去セラレルト共ニ 治癒ニ 向フモノデアリガ、素因ノ 有無モ 此ノ 皮膚炎ニ 重大ノ 關係ガアル。

此處ニ 示シタ 急性皮膚炎ハ 白髮染料ニ 因ツテ 起ツタモノデアリ。33歳ノ 婦人デ 久シキ以前カラ 用ヒテ 居タ 毛染藥ヲ 用ヒテ 10日程 前ニ 頭髮ヲ 染メタ所ガ 數日後ニ 左右ノ 眼瞼ガ 潮紅腫脹シテ 激シキ 痒痒ヲ 來シ、同時ニ 結膜モ 充血シテ 來タ。毛染藥ハ 藥品ガ 直接ニ 觸レナクモ 其ノ 蒸氣ニ 當ツタノミデ 既ニ 結膜炎 乃至 角膜炎ヲ 起スコトガアル。0.3% 硫酸亞鉛水ヲ 點眼シ、皮膚ニハ 亞鉛華油ヲ 塗布シテ 其上ニ 硼酸水ノ 冷電法ヲ 施シ 治療シタ所 約 10日後ニハ 全治シタ (98, 99, 参照)。

V

18. 白色葡萄狀球菌性膿痂疹
Impetigo albstaphylogenes Dohi.



19. 連鎖狀球菌性膿痂疹
Impetigo streptogenes Dohi.

20. 毒物性皮膚炎
Dermatitis venenata.



VI. 眼瞼ヘルペス・麥粒腫

(21, 22, 23, 24, 25.)

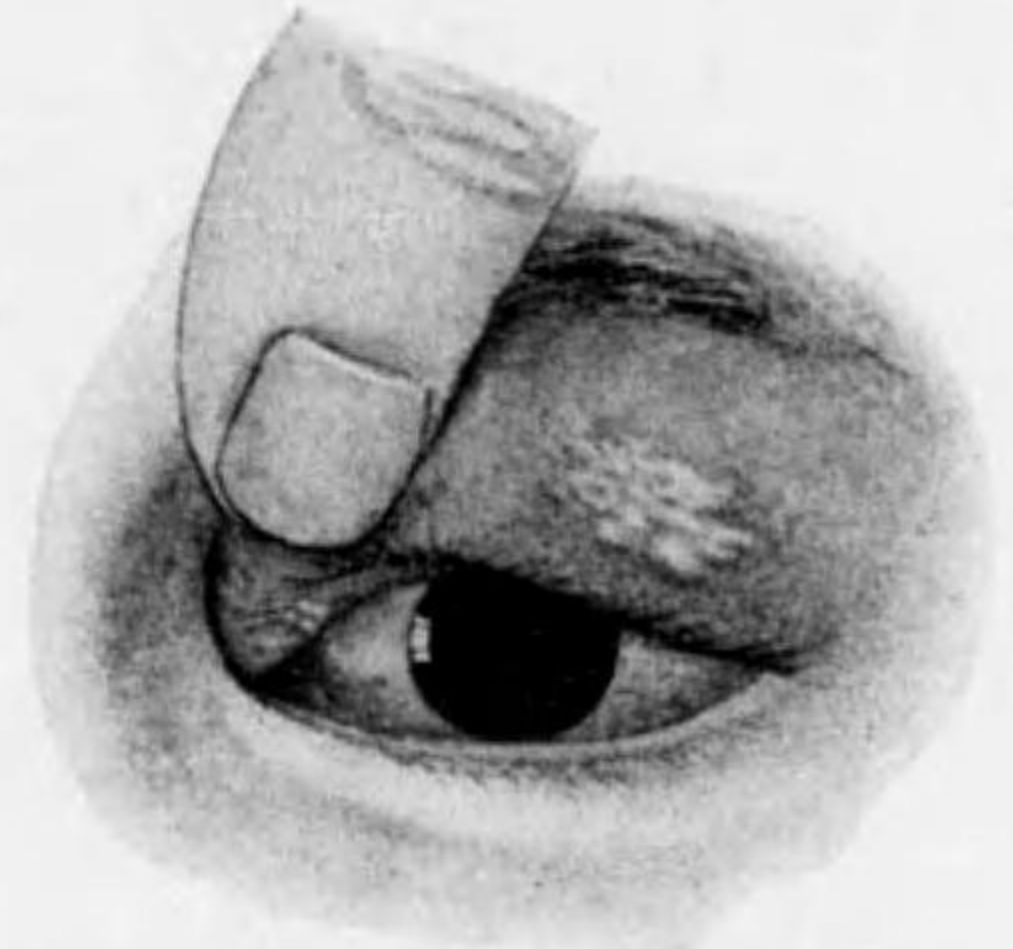
VI. 眼瞼ヘルペス・麥粒腫

21. 熱性ヘルペス Herpes febrilis.

單性ヘルペス Herpes simplex トモ謂ハレル。咽頭カタル、流行性感冒、胃腸カタル、熱性傳染病等ニ際シ口唇「ヘルペス」ト同時ニ又ハ單獨ニ眼瞼皮膚ノ一部腫脹發赤シ、ソノ中ニ留針頭大ノ水疱ガ群生スル。水疱ノ内容ハ初メハ透明デアアルガ、間モナク化膿シ、次デ結痂スル。豫後ハ佳良デ、數日ノ後ニ痂痕ヲ胎サズシテ治癒スル。シカシ再發スルコトガ多イ。本症ハ通常一側ノミヲ侵シ、屢々角膜「ヘルペス」ト同時ニ發生スル。自覺症狀ハ殆ンドナイガ、時ニハ輕度ノ痒痒感、灼熱感、疼痛等ヲ訴ヘルコトモアル。本症ハ概ネ熱性病ノ時ニ來ルガ、又熱性病ト無關係ニモ現レルコトガアル。原因ハ不明。

療法ハ「サリチル」酸劑ノ内服及ビ亞鉛華泥膏ノ塗布等。

本例ハ21歳ノ男子デ3日前ニ發熱40°Cニ昇リ昨朝左眼上眼瞼ニ痒痒ヲ感ジ、次デ熱性「ヘルペス」ガ現レタ。尙其他右側口唇、及ビ頸部ノ皮膚ニモ熱性「ヘルペス」ヲ見タ。結膜ハ充血シ、分泌ハ著明デアツタガ、角膜ハ「ヘルペス」ヲ見ナカツタ。



21. 眼瞼熱性ヘルペス Herpes febrilis palpebrae.



22. 眼部帶狀ヘルペス Herpes zoster ophthalmicus.

22. 眼部帶狀ヘルペス Herpes zoster ophthalmicus.

發熱、違和、神經痛等ノ前驅症ノ後、又ハ稀ニ前驅症狀ナクシテ通常一側ノ三叉神經ノ第一枝ノ領域ノ皮膚發赤腫脹シ、間モナク多クノ小水疱ガ簇生スル。コノモノハ時ニハ熱性「ヘルペス」ノ如ク1-2週間後ニハ何等ノ痕跡ヲ胎サズ治癒スルコトモアルガ、多クハ水疱ノ内容ハ漸次膿液ニ變ジ、乾燥シテ痂皮ヲ生ジ、痂皮下ニハ深い潰瘍ヲ形成スル。此際耳前又ハ顎下ノ淋巴腺ハ一時腫脹スル。潰瘍ノ治癒後痂痕ヲ生ジ色素ヲ沈着スル。其ノ痂痕ノ特有ナル位置ヨリ本症ノ既往ヲ推斷シ得ル。

「ヘルペス」ハ通常2-3週間後ニハ輕快スルガ、神經痛ハ猶ホ數週若クハ數箇月繼續スルコトガアル。時トシテ三叉神經第二枝又ハ第三枝ノ領域ニ起ルコトモアル。本症ニ特有ナルコトハ此ノ如キ變化ハ一側ノミヲ起リ顔面ノ正中線ヲ越ヘテ他側ニハ及バナイコトデアアル。結膜炎、角膜炎、虹彩毛様體炎等ガ合併シテ起ルコトガアル。本症ハ三叉神經幹又ハガツゼリー氏神經ノ炎症ニ因ルモノデ、合併症ノ起ルノハ毛様神經ノ罹患スル爲デアアル。

療法ハ「サリチル」酸劑ヲ内服セシメ、局所ニハ亞鉛華泥膏等ヲ塗布スル。

本例ハ20歳ノ女子デ約5日前カラ左側偏頭痛及ビ左眼ノ鈍痛ガアリ輕度ノ全身違和ガアツタト云フ。3日前カラ左上眼瞼ノ内眥部ニ近イ部分ノ眼瞼ニ數個ノ粟粒大ノ發疹ガ出來輕度ノ疼痛ガアツタ。2日前カラコノ發疹ガ左上眼瞼左前額部左額部カラ左前額部ニ擴ガツテ現在左上眼瞼ガ發赤腫脹シ三叉神經第一枝ノ分布區域ノ皮膚ニ粟粒大水疱狀ノ發疹ガ多數ニ出來テ居リ輕度ノ疼痛及ビ壓痛ガアル。



23. 外麥粒腫 Hordeolum externum

23. 外麥粒腫 Hordeolum externum.

睫毛囊ノ脂腺即チツェイス氏腺ノ急性化膿性炎症デアツテ一種ノ癰デアアル。睫毛根ニ相當シテ始メ輕キ痒痒乃至疼痛ヲ生ジ、周圍ハ浮腫狀ニ腫脹シ發赤スル。更ニ進メバ眼瞼一般ニ緊張シ、壓迫感ヲ生ズル。腫脹ハ上下眼瞼ノミナラズ球結膜ニ迄波及シ、鬱積ニ依ル其浮腫ハ眼瞼外ニ迄隆起スルコトガアル。殊ニ外眥ニ近ク發生スル麥粒腫ハ比較的深部ニ始マルコトガ多ク、球結膜ノ浮腫ハ著明デアアル。眼瞼全部ニ互ツテ腫脹シテキル爲ニ局所ノ不明ナル時ニハ眼瞼ニ沿ツテ順次ニ輕ク指壓シテ行ケバ局所ニ一致シテ壓痛及ビ硬結ヲ發見スル。患者ハ疼痛ニ苦シミ時ニ發熱及ビ不眠ヲ來スコトガアルガ、通常4-7日デ自然ニ排膿シ治癒シテ豫後ハ佳良デアアル。但シ再發シ易ク時トシテ諸腺ガ逐次發炎スルコトモアル。本症ハ多クハ黃色葡萄狀球菌ノ傳染ニ因ツテ起リ、眼瞼緣炎、結膜炎等ノアル人ニ起リ易イ。

療法ハナルベク摩擦等ノ刺激ヲ避ケ3%硼酸ワセリン又ハ0.05%「オキシアン水銀ワセリン」ヲ塗布シ2%硼酸水又ハ1%次醋酸鉛液ノ濕濕法ヲ行フ。切開ハ早期ニ行ツテハナラナイ。必ズ膿點ノ皮下ニ出現シタル後ニ於テシナケレバナラヌ。但シ手術シナイノヲ原則トスル。

本例ハ12歳ノ女子デ約5日前ニ上眼瞼外眥附近ニ痒痒ヲ感ジタガ、其後其部漸次發赤腫脹シ壓痛ヲ感ズルニ至ツタ。外眥近クニ生ジタ麥粒腫デアアルカラ、本圖ノ示ス如ク外眥近クノ球結膜ハ充血シ、浮腫ハ著明デアアル。加療シタ所約一週間デ全治シタ。



24. 外麥粒腫 Hordeolum externum.



25. 内麥粒腫 Hordeolum internum.

24. 外麥粒腫 Hordeolum externum.

本例ハ 39 歳ノ男子デ 約 2 箇月前 左眼瞼縁カ腫レテ 疼痛ガアツタガ 暫クシテ 自然ニ治癒シタ。
トコロガ 約 6 日前カラ 再ビ 左眼ノ 下眼瞼ノ 内背部ガ 痛シテ腫レテ來タ。日ヲ經ルニ從ヒ 益々高度
トナリ 疼痛激シク 眼脂モ出ルヤウニナツタ。三千倍「オキシシアン水銀ワセリン」ヲ塗布シ 温濕布ヲシテ置
イタトコロ 膿ガ自然ニ出テ 腫脹モ 漸次消退シタ。

25. 内麥粒腫 Hordeolum internum.

マイボーム氏腺ノ急性化膿性炎症デアツテ、瞼縁ヨリ稍、離レテ 眼瞼皮膚 發赤 腫脹シ。外麥粒腫ニ
酷似ノ症候ヲ呈スルガ、主ナル病變ハ 瞼板中ニ生ズルデアツテ、瞼結膜ノ一部ニ 限局性ノ發赤
及ビ 腫脹ヲ生ジ、其中央ニ 膿點ガ現レル。而シテ 瞼板中ノ化膿デアルカラ 自潰排膿スル迄ニハ 外
麥粒腫ニ比シ 長時間ヲ要スルノヲ常トスル。多ク 結膜ニ破レテ 排膿スルガ、時トシテ マイボーム氏腺ノ
排膿管ヲ通ツテ 瞼縁ニ出ルコトモアル。疼痛ハ 比較的劇烈デアル。合併症トシテハ 結膜ノ分泌増加
耳前腺ノ腫脹ヲ見ルコトガアル。外麥粒腫ト同ジク 主トシテ 黄色葡萄狀球菌ニ因ツテ起リ、結膜炎 眼
瞼縁炎等アル人ニ 起リ易イ。豫後ハ 佳良デアルガ、時ニハ 他ノ マイボーム氏腺 ツェイス氏腺等ニ 接
觸傳染ヲ起スコトガアル。療法ハ外麥粒腫ニ同ジ。

本例ハ 20 歳ノ男子デ 左上眼瞼外背ニ近ク生ジタ 内麥粒腫デアツテ、其部ノ瞼結膜ノ 發赤 腫脹
ガアリ、膿點ヲ認メル。

VII. 霰粒腫

(26, 27, 28, 29, 30.)

VII. 霰粒腫

霰粒腫 Chalazion ハ 瞼板中ニ 徐々ニ 成育スル 肉芽腫デアツテ、多クノ場合 炎症性現象ヲ呈スル事ノ少ナイ爲メニ 相當ノ大キサニ達シテ 始メテ 此レヲ發見スルカ、若シクハ 他ノ合併症ト關聯シテ 發見サレルモノデアアル。

一般ニ 霰粒腫ハ 瞼板トハ 密接ニ結合スルモ 皮膚トハ 癒着セナイモノデアツテ、初期ニ於テハ 霰粒腫ヲ覆フ所ノ結膜ハ 多少 發赤 肥厚 隆起シ、時期ノ進行スルニ連レテ 霰粒腫ハ 結膜ヲ通シテ 灰白色ニ透視サレ、遂ニハ 結膜面ヲ破ツテ 息肉様肉芽組織ノ状態ヲ呈シテ來ルノデアアル。然シナガラ 霰粒腫ハ 發生ヨリ最後迄 疼痛ヲ伴ハナイノガ 普通デアアルガ、時ニ 發生ニ當リ 疼痛ヲ以テ 始マル事ガアル。斯ル 霰粒腫ハ 臨床上 急性霰粒腫 Chalazion acutum ト 稱ヘラレルモノデアアル。

尙 霰粒腫ガ 結膜面ニ破レズ 外部皮膚面ニ潰瘍ヲ作ツテ出ル事ガアル。斯ル 霰粒腫ハ 皮膚面ハ 僅ニ發赤シ 霰粒腫ト皮膚トハ 癒着シテキテ 臨床上 外霰粒腫 Chalazion externum ト 稱セラレルモノデアアル。外霰粒腫ハ 睑緣ニ多ク見ラレルノデアアルガ、睑緣ニ發生シタ 霰粒腫ハ 睑緣霰粒腫 Chalazion marginale ト 謂ハレテキル。

原因。霰粒腫ハ 急性霰粒腫ニシテモ 普通霰粒腫ニシテモ 何レモ マイボーム氏腺梗塞ヨリ發生スルモノデアツテ、陳舊ナルマイボーム氏腺梗塞ヨリ發生スルモノハ 普通霰粒腫デアリ、マイボーム氏腺炎 若シクハ 腺周圍炎ニヨリテ 急性ニ發生セル梗塞カラハ 急性霰粒腫ヲ發生スル (朝日向氏)。

治療法。「プロカイン」水ノ眼瞼内注射ニヨリテ 局部麻酔ヲナシ、結膜面ヨリ 睑緣ニ垂直ニ 霰粒腫ニ切開ヲ加ヘ 鋭匙ヲ以テ 内容物ヲ搔扱スル法ト、眼瞼皮膚面 又ハ 結膜面ヨリ 霰粒腫ヲ全摘出スル法トガアル。

26. 霰粒腫 Chalazion 外面圖

本例ハ 30歳ノ男子ニ於テ 左上眼瞼内背部ニ近ク 一箇月前ニ發見サレタ霰粒腫デアアル。今ヨリ9年前ニ一回、6年前ニ一回、3年前ニモ亦一回 同様ノ事ガアツテ 手術ヲ受ケタ。

27. 霰粒腫 結膜面ヨリ見タル圖

前例ヲ結膜面ヨリ見タモノデ、霰粒腫ニ一致シテ 帶青灰色ノ扁平ナル隆起ガアリ。其ノ周圍ノ結膜ハ 發赤 肥厚シテキル。結膜面ニハ 屢、乳嘴ノ増殖ガアル爲メニ「トラコーマ」ト 誤診セラレル事ガアル。

28. 霰粒腫 皮下ニ破レタルモノ、所謂 外霰粒腫 Chalazion externum.

本例ハ 31歳ノ女子ニ於テ 左上眼瞼外背部ニ近ク4箇月來 霰粒腫ヲ認メタモノデ、夫レガ 外部皮膚面ニ破レタモノデ、外霰粒腫デアアル。其ノ部ノ皮膚ハ 稍、發赤シ 皮下ニ硬結ヲ觸レル。硬結ハ 皮膚竝ニ瞼板ト癒着シ 壓痛ハナイ。

29. 霰粒腫 結膜面ニ破レテ 息肉腫 Polypus 狀ヲ呈スルモノ

本例ハ 18歳ノ男子ニ於テ 2箇月以來 右下眼瞼ニ腫瘍ヲ認メタモノデ、近頃結膜面ニ 異物感ヲ來シ、眼脂ガ出ルト云フ。

30. 霰粒腫組織圖

霰粒腫ノ周圍ニ於テハ 結締織ノ被膜ヲ有シテキル。内容中ニハ 所々ニ空洞ヲ認メルノデアアルガ、此レハマイボーム氏腺梗塞 竝ニ 梗塞ノ分割サレタルモノノ跡デアツテ、脂肪染色ニ於テ マイボーム氏腺梗塞ト 同様ノモノナル事ヲ知ルノデアアル。尙所々ニ定型的ノラングハンス型巨噬細胞ノ出現ヲ見ル。

初期ノ霰粒腫ニ於テハ 先ヅ淋巴球、及ビ 上皮様細胞、造結締織細胞、肥厚細胞等ノ組織球性細胞ノ出現ヲ見、此レ等ノ組織球性細胞ハ 梗塞中ニ入り込ミテ 分割吸收ノ働キアル如ク見ラレ、次デ 數個融合シテ 異物巨噬細胞トナル。

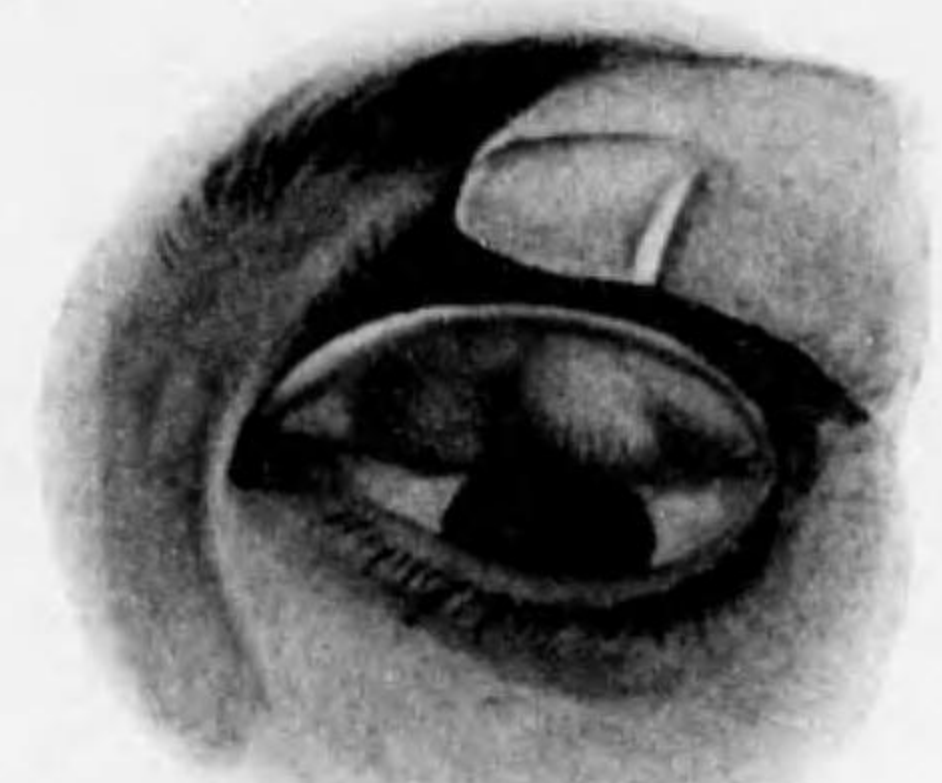
次ノ時期ニ到レバ 異物巨噬細胞ハ マイボーム氏腺梗塞ノ脂肪ヲトリ、核ハ周邊部ニ配列シ、此處ニラングハンス型巨噬細胞ヲ出現スル。此ノ時期ニ於テハ「プラスマ」細胞ガ最も多ク見ラレル。尙時期ノ進行シタモノニ於テハ 血管ノ新生著シク、此ノ時期ニ於テハ「エオジン」嗜好細胞ノ出現ガ見ラレ、又ルツセル氏「フクシン」小體ノ出現ヲ見ル。最後ニ 息肉様肉芽腫トナリ 結膜面ヨリ 隆出スル。此ノ場合ニ於テハ 血管新生ト「エオジン」嗜好細胞ノ出現ガ 最も著シイ。

急性霰粒腫ニ於テハ 特ニ淋巴球浸潤ガ著シク見ラレル點ト 多數ノ マイボーム氏腺ガ同時ニ侵サレル點ガ 特徴デアアル。

此標本組織圖ハ 普通霰粒腫ノラングハンス型巨噬細胞ノ出現セル時期デアツテ、「プラスマ」細胞最も多ク、少數ノ血管新生ガ見ラレル。



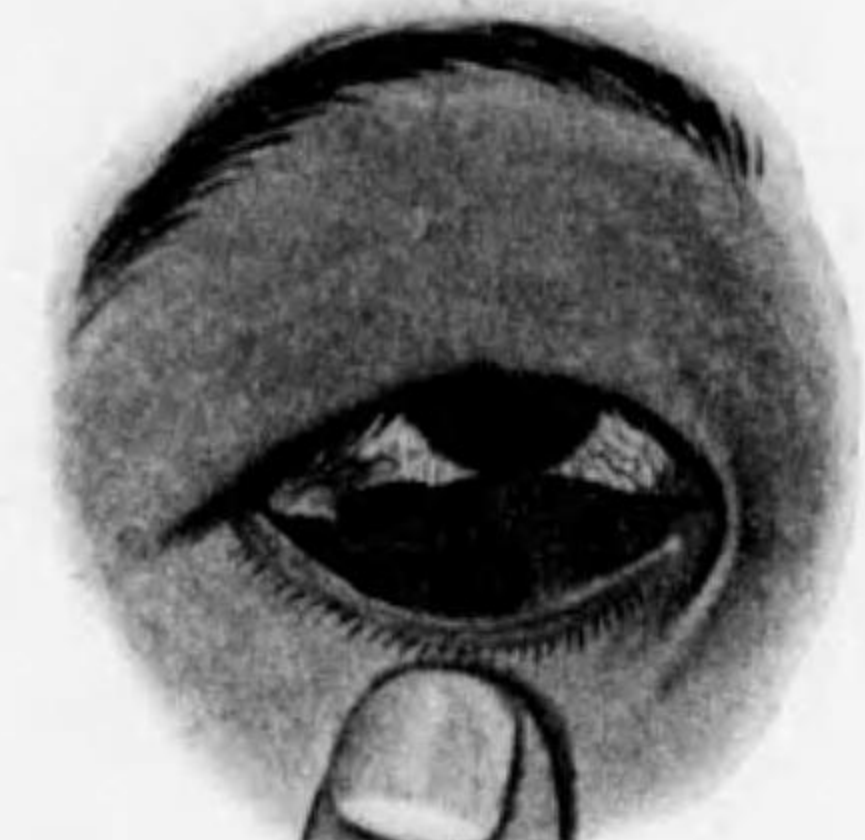
26. 霰粒腫 Chalazion 外面圖



27. 霰粒腫ヲ結膜面ヨリ見タル圖



28. 霰粒腫ノ皮下ニ破レタルモノ



29. 霰粒腫ノ結膜面ニ破レ 息肉腫狀ヲ呈スルモノ



30. 霰粒腫組織圖、「ヘマトキシリン・エオジン」染色 (擴大約40倍)

VII. 瞽部眼瞼炎

(31, 32, 33, 34, 35.)

VIII. 眦部眼瞼炎

31. 眦部眼瞼炎 Blepharitis angularis.

内外眦部ノ瞼縁 並ニ 皮膚ニ 限局シテ 發赤 糜爛ヲ生ズル所ノ 亞急性 又ハ 慢性ノ 炎症デアツテ、多ク「カタル」性結膜炎ヲ合併スルカラ、一ニ 眦部眼瞼結膜炎 Blepharoconjunctivitis angularis ノ稱ガアル。患部ノ皮膚ハ 濕潤シ 粘着性ニ富ンデ居ル。患者ハ 時ニ 癢痒感 及ビ 粘着感ヲ訴ヘル。本病ハ モラクス・アクセンフェルド氏重桿菌 Diplobacillus Morax-Axenfeld (第1圖)ニ 因テ起ル。0.5-1% 硫酸亞鉛水ハ 本病ノ 特效藥デ、點眼ニ 依リ 數日ニシテ 治癒スルヲ常トスルガ、マタ 再發シ易イ。著者ノ 組織的研究ノ 結果ニ 依レバ 重桿菌ハ 皮膚ノ 上皮細胞間ニ 多數ニ 發見セラレ、毛囊ニ 入り込ンデ居ル。是レ 恐ラク 再發ノ 原因デアラウ。結膜組織内ニハ 菌ヲ 發見シナイ。本病ニ 於テハ 屢、Perlècheト 稱セラレル 口角ノ 糜爛ヲ 見ルガ、是レモ亦 コノ 重桿菌ニ 因ツテ起ルコトヲ 著者ガ 發見シタ。其ノ 他 重桿菌ハ 屢、鼻入口部ノ 皮膚糜爛部ニ 寄生シ、又 稀ニ 匐行性角膜炎ヲ 起スコト アガル。

治療法。0.5-1% 硫酸亞鉛水ハ 特效藥デアツテ、一日 4-5回 點眼スレバ 數日ニシテ 治癒スル。但シ 再發スルコトガアルカラ、治癒後モ 1-2箇月間 硫酸亞鉛水ノ 點眼ヲ 繼續スルヲ 可トスル。

本例ハ 18歳ノ 男子ニ 於ケル 眦部眼瞼炎デアル。

本圖ハ 發病後 約10日ノ 所見デアツテ、「カタル」性結膜炎、口角 及ビ 鼻入口部ノ 糜爛ヲ 認メ、モラクス・アクセンフェルド氏重桿菌ヲ 多數ニ 證明シ得タ。

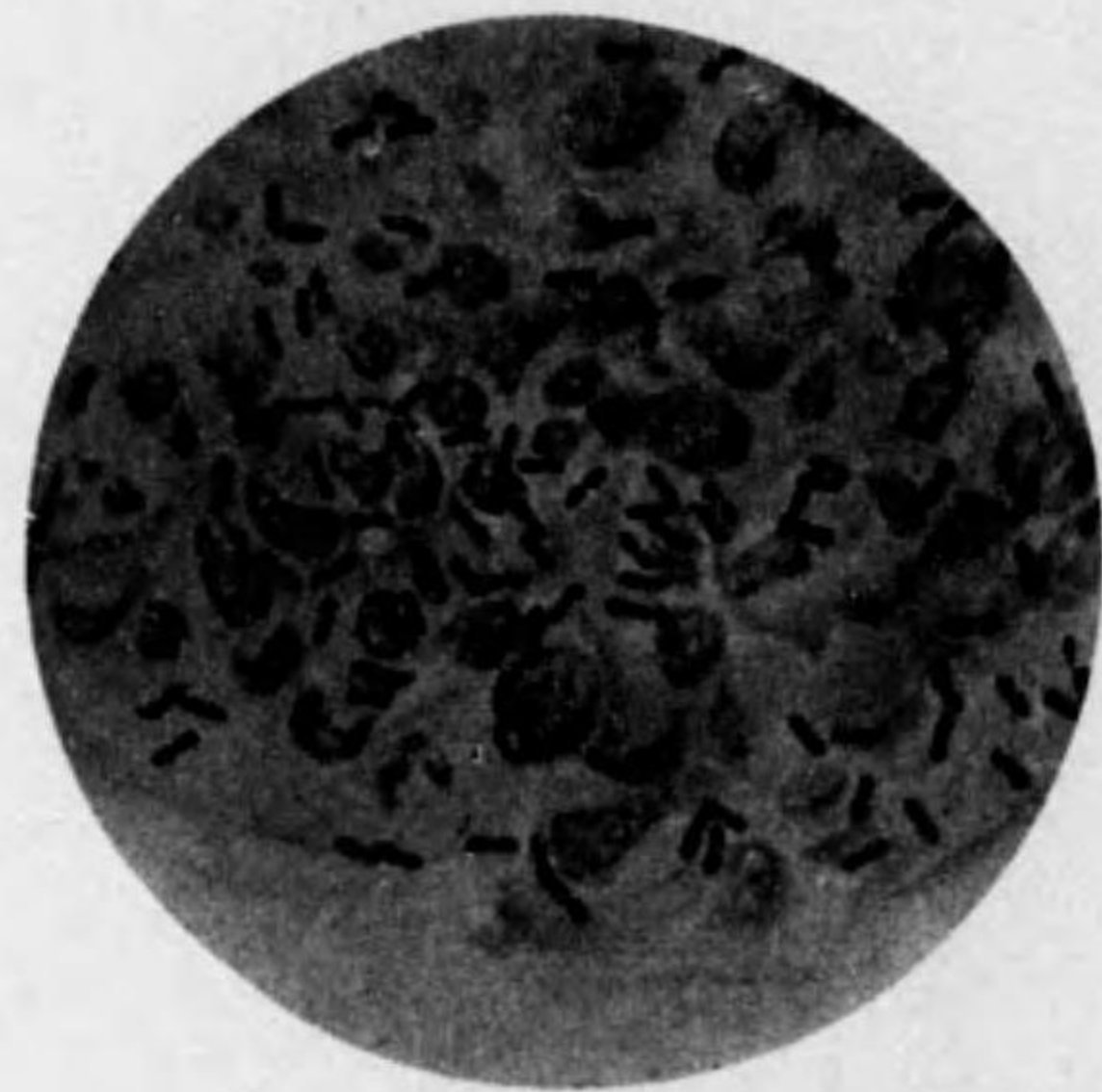
32. 重桿菌性口角糜爛 Perlèche 兼 鼻入口部皮膚糜爛

屢、眦部眼瞼炎ト 同時ニ 口角ニ 灰白色ノ 濕潤セル 濕疹様ノ 皮膚變化ヲ 見ルコトガアル。之ヲ Perlècheト 稱シ 多ク 不潔ナル 少年 又ハ 青年ニ 見ラレル。時ニ 家族ニ 又ハ 學校ニ 於テ 流行性ニ 出現スルコトガアル。原因ハ 眦部眼瞼炎ト 同ジク モラクス・アクセンフェルド氏重桿菌 (第1圖)ニ 因ツテ起リ、豫後ハ 佳良デ 治癒スルコトモ 早イガ、屢、再發スル。併シ 皮膚ニハ 通常癬癩ヲ 胎サナイ。患部皮膚ノ 組織的所見ハ 眦部眼瞼炎ノ 夫ト 同様デアル。眦部眼瞼炎ト 本病トハ 同病原菌ニ 因ツテ起リ、其傳染ニ 當ツテハ 密接ナル 相互關係ガ 認メラレル。尙 本病ト 同時ニ 鼻入口部ノ 糜爛モ 屢、見ラレ、同ジク 重桿菌ノ 寄生ガ 證明サレル。療法ハ 眦部眼瞼炎ニ 同ジ。

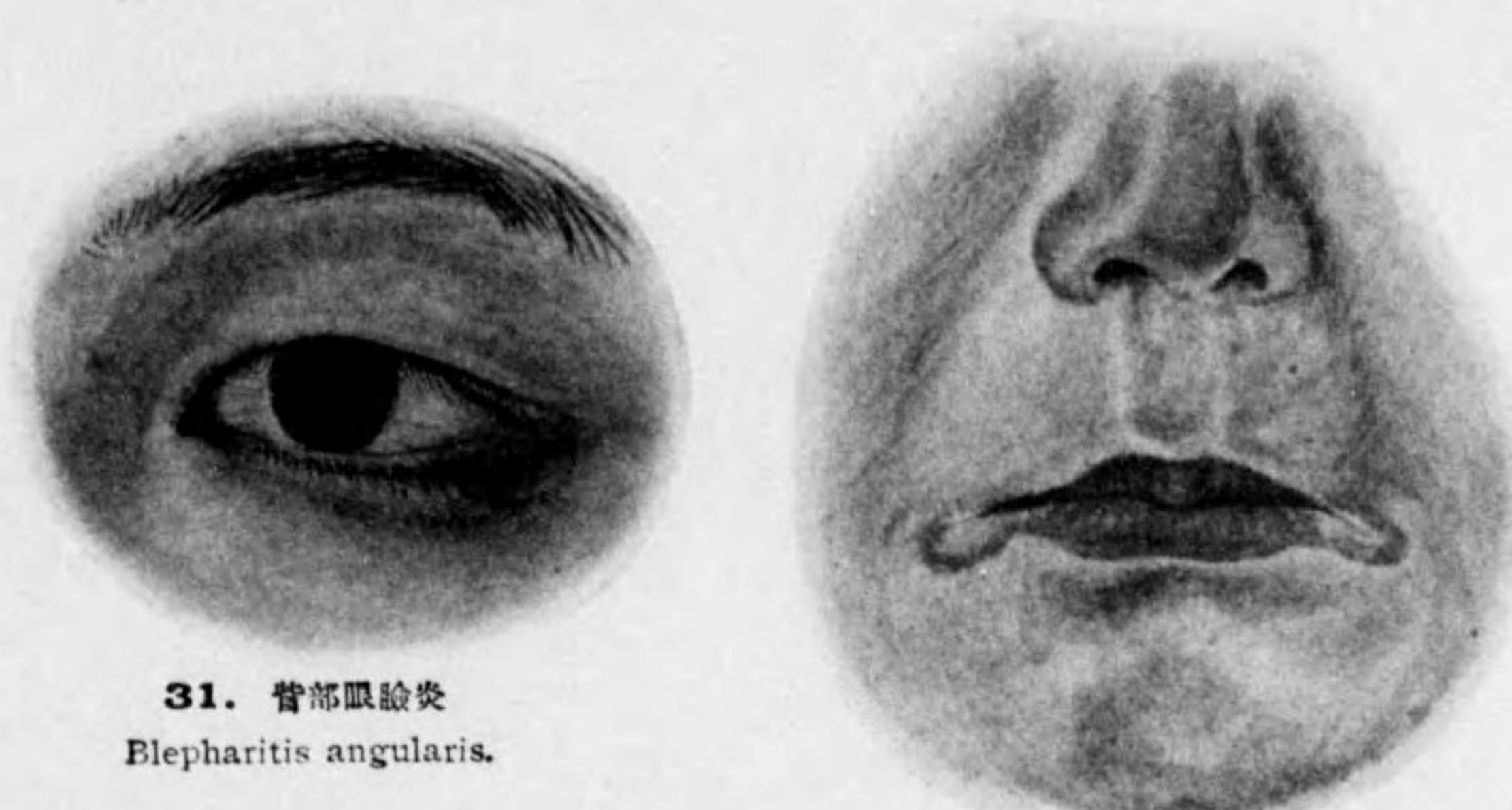
本例ハ 眦部眼瞼炎ヲ 有スル 8歳ノ 男子ニ 於ケル Perlèche 及ビ 鼻入口部皮膚ノ 糜爛デアル。

33. 強度ノ 重桿菌性口角糜爛 Perlèche.

本例ハ 2年6箇月ノ 女兒デ 結膜眼瞼炎ノ 爲メニ 受診シタノ デアルガ、診ルト 眦部ノ 眼瞼炎ノ 外、左右ノ 口角カラ 下唇ノ 周圍ニ 互ル皮膚ガ 一面ニ 糜爛シ、垂涎著シクシテ 一日數回 更衣ヲ 要スルコト云

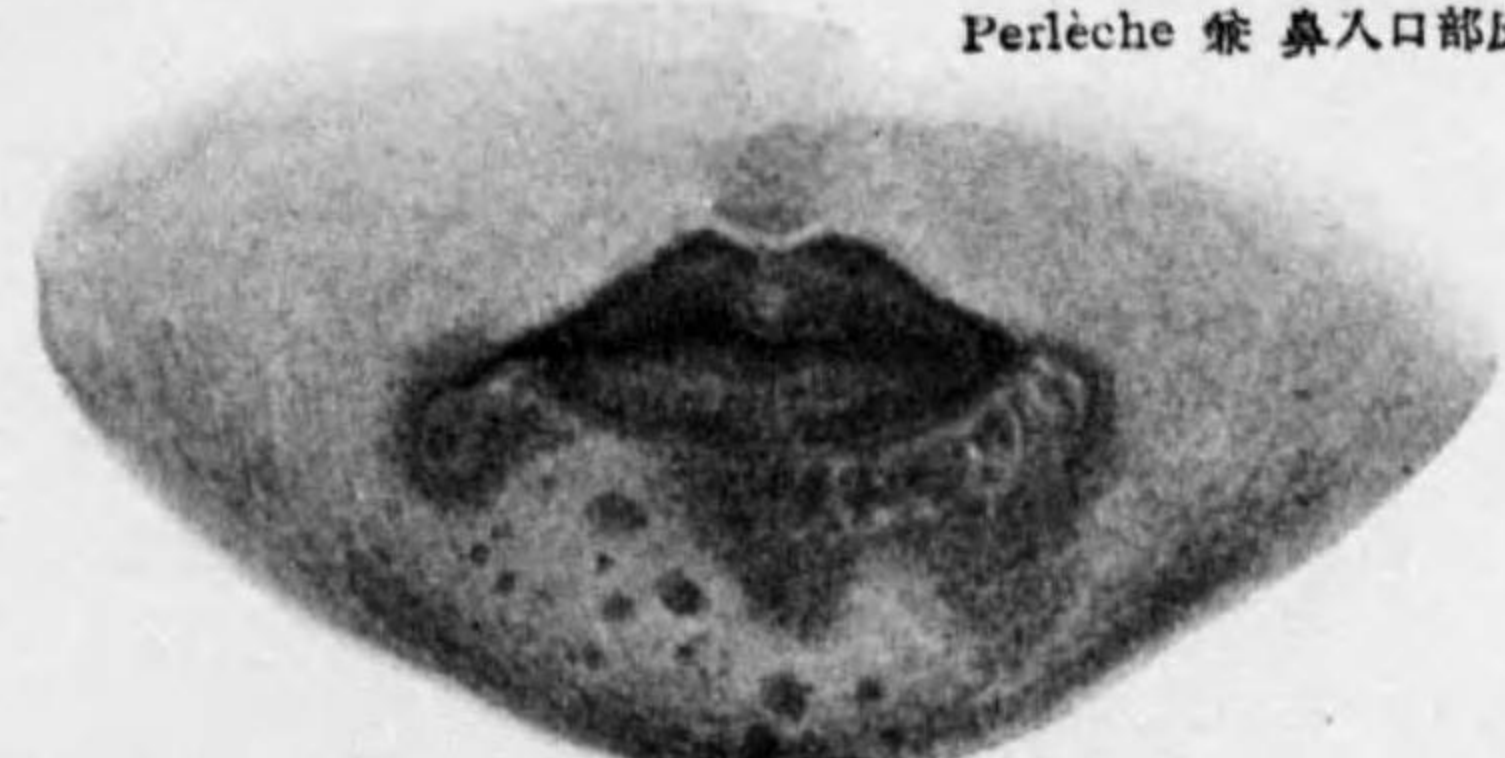


第1圖 モラクス・アクセンフェルド氏 重桿菌
Diplobacillus Morax-Axenfeld. (擴大 約1100倍)



31. 眦部眼瞼炎
Blepharitis angularis.

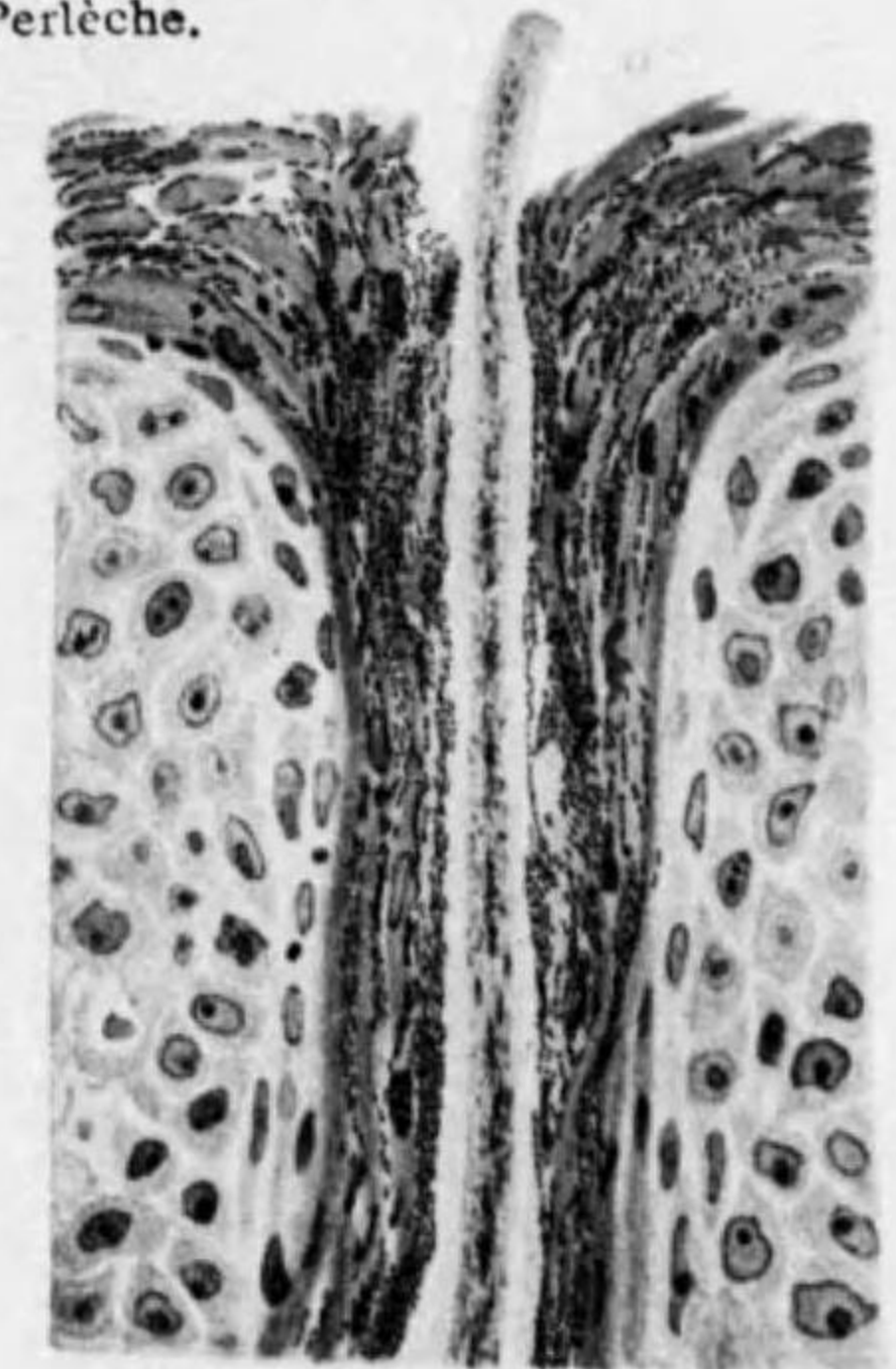
32. 重桿菌性口角糜爛
Perlèche 兼 鼻入口部皮膚糜爛



33. 強度ノ 重桿菌性口角糜爛 Perlèche.



34. 眦部眼瞼炎組織圖
「ヘマトキシリン・エオジン」染色 (擴大 約380倍)



35. 34. = 同ジ

フ有様デアツタ。患者ノ母ノ謂フ所ニ依ルト、口ノ周圍ノ糜爛ニ就テハ、前ニ皮膚科ノ某醫ノ診察ヲ受ケタ所、「ホルトフォルム」末ヲ與ヘラレ、之レヲ撒布シテ見タガ、垂涎ノ爲メ、忽チ流レ去ツテ、少シモ效ガナイ。ソコデ又他ノ専門醫ヲ訪ヒ、硼酸軟膏ヲ與ヘラレタガ、之レモ亦效ナクシテ、一週間程デ止メテシマツタトノ事デアツタ。序デアツタカラ、口角ノ糜爛部カラモ、細菌ヲ探ツテ、調べテ見タラ、矢張り多數ノ重桿菌ガアツタ。重桿菌性ノ結膜眼炎ニハ1%硫酸亞鉛水ガ特效藥デアルカラ、患者ノ母ニ此ノ藥液ヲ稍、多量ニ與ヘテ、1日數回點眼スルト同時ニ、口ノ周圍ノ糜爛部ニ塗布サセテ見タ。トコロガ奏效頗ル顯著デ、約2週間ノ後ニハ、眼瞼ノ糜爛モ口角ノ糜爛モ全ク治ツテンマツタ。

モラックス・アクセンフェルト氏重桿菌ハ大ナル複桿菌デアツテ、常ニ二箇相連続シ、菌體ノ兩端ハ鈍圓デアツテ、中央部少シク膨大シ、全體ニ楕圓形ヲナシ、長サハ約2 μ デアル。「アニリン」色素ニ依ル染色ハ極メテ容易デ、「グラム」陰性デアル。

血清ヲ含メタ培養基ニノミ發育シ、凝固血清ヲ液化スル。試験動物ニハ何等病原性ヲ證明スルコトハ出来ナイ。

34. 35. 眦部眼瞼炎ノ組織的所見

結膜ノ組織的所見ハ慢性結膜炎ニ於ケル夫レト一致シテ、主ナル變化ハ多クノ盞狀細胞ヲ伴フ上皮細胞層ノ變化、及ビ白血球、殊ニ多クノ「プラズマ」細胞ノ粘膜層ニ於ケル浸潤デアル。重桿菌ハ粘膜層ニモ上皮細胞層ニモ見ラレナイ。眼瞼皮膚ニハ特徴アル變化ガ起ルガ、大體ニ於テ濕疹ニ於ケル變化ト一致シテ居ル。即チ有棘層ノ浮腫、及ビ上皮肥厚ト、顆粒層、及ビ角層ノ不全角化デアル。重桿菌ハ殆ンド常ニ病的ニ變化シタ上皮細胞層、殊ニ角層ニ發見セラレル。角層ニ沿ツテ重桿菌ハ毛囊中ニモ侵入シテ居ル。シカシ有棘層ニハ時トシテ見ラルハノミデアル。眼瞼皮膚ノ變化ガ輕度ノ時デモ、重桿菌ハ非常ニ澤山見ラレルカラ、結膜炎ハ眼瞼炎ニ續發シテ起ルト考ヘラレル。

IX. 眼瞼ノ炎症

(36, 37, 38, 39, 40, 41.)

36. 眼瞼膿瘍 Abscessus palpebrae.

眼瞼ノ蜂窩織炎デアツテ、眼瞼殊ニ上眼瞼ノ皮膚發赤腫脹シ皮下ニ硬結ヲ生ジ疼痛アリ、耳前淋巴腺ノ腫脹ヲ起シ、熱發スルコトガアル。日ヲ經ルニ從ヒ硬結ハ軟化シ波動ヲ示シテ自潰排膿スル。炎症高度ナル時ハ眼瞼ノ腫脹著シク、他眼眼瞼ニモ波及シ交感性浮腫トナルコトガアル。蔓延性ノ炎症デハ時ニ靜脈炎ヲ起シ敗血症ヲ起ス危險ガアル。

原因ハ種々アルガ主トシテ外傷ニ因ル化膿菌傳染ニヨリ又ハ副鼻腔炎、微毒、結核等ニ因ル眼窩緣ノ骨膜炎、深囊炎、濕疹、丹毒、癩、麥粒腫等ニ續發シテ起リ、或ハ熱性病等ヨリ轉移的ニ起ル。

療法。初期ニハ冷罨法、極期ヲ過キタ後ニハ温罨法、波動著明トナツタ時ニハ瞼緣ニ平行シテ切開シ、排膿後創腔ヲ「リバノール」液等デ洗滌スル。

本例ハ發病後約10日ノ20歳ノ男子ニ於ケル眼瞼膿瘍デアツテ、波動壓痛ヲ證明シ得タ。初メ上眼瞼ニ痒痒感ガアツテ擦ツタ處、其ノ翌日ヨリ發赤腫脹シ初メト云フ。切開排膿後創口ニ「カーゼ」片ヲ挿入シ、毎日「リバノール」液デ洗滌シタ處、2週間後ニハ創口全ク治癒シタ。

37. 眼瞼デフテリー Diphtheria palpebrae.

「デフテリー」菌ノ感染ニ因ル眼瞼ノ潰瘍又ハ壞疽ハ極メ稀デアル。多クハ乳兒又ハ幼兒ヲ侵ス。眼瞼「デフテリー」ハ原發性ノモノモアルガ又「デフテリー」性結膜炎等ニ續發スルコトモアル。其好發部位ハ内外眥部デ通常一側ニ止ル。時ニ潰瘍及ビ壞疽ガ甚ダ廣面ヲ占メルコトガアル。

眼瞼「デフテリー」ノ潰瘍ハ不規則ナル形ヲナシ相融合スル性質ヲ有シテ居ル。潰瘍底ハ定型的ノ膜様灰白色ノ潰瘍底ニ密着セル苔ニ被ハレ、コノ苔ニハ常ニ「デフテリー」菌ガ證明セラレル。潰瘍ノ周圍ハ浮腫狀ニ腫脹シ炎性浸潤ガ見ラレ、其邊緣ハ輕度ノ縁下潛蝕ヲ有シテ居ル。時ニハ其變化ガ高度デ、壞疽乃至水瘡様ヲ呈スルコトモアル。然シ適當ノ治療ニヨリ之等ノ症狀ハ比較的短時間ニ輕快スルモノデアル。

原發性眼瞼「デフテリー」ノ時ニモ體温上昇、近隣淋巴腺ノ腫脹「デフテリー」後麻痺等ヲ來ス場合ガアル。角膜ニハ屢、潤濁潰瘍等ガ見ラレル。「デフテリー」性結膜炎及ビ鼻咽喉「デフテリー」ハ屢、見ラレルガ必發ノ症狀デハナイ。療法ハ「デフテリー」血清注射ヲナシ、局所ニハ三千倍「オキシアン水銀ワセリン」ヲ塗布シテ濕布ヲ行ヒ、分涎旺盛ナルトキハ1%硝酸銀水等ヲ塗布スル。

本例ハ7歳ノ男兒ニ於ケル眼瞼「デフテリー」デ同時ニ「デフテリー」性結膜炎ガ見ラレタ(109.參照)。

38. 眼瞼水痘 Varicella palpebrae.

水痘ハ主トシテ小兒ニ來リ、輕度ノ全身症狀ノ下ニ、身體ノ隨處、特ニ頭部ニ疎ラニ麻實大乃至豌豆大ノ小水痘ヲ生ズル急性傳染病デアル。水痘ノ基底ハ紅暈ヲ呈シ、數日ニシテ乾燥シ痂皮ヲ結ンデ剝落スル。落痂ノ後ハ皮膚概テ常態ニ復スルガ、又時トシテ淺イ陷凹ヲ胎スコトガアル。

水痘ハ皮膚以外ニ諸處ノ粘膜ニモ發疹スルモノデアルガ、結膜ニ發疹ヲ見ル事ハ極メ稀デアル。

本例ハ生後14箇月ノ男兒デ、7日前ニ38.3ノ發熱ト共ニ全身ニ無數ノ發疹ヲ生ジ、水痘ノ診斷ノ下ニ受療中ノモノデ、全身到處發疹ガアリ、水痘ハ既ニ破レタモノ、黒ク痂皮ヲ結ビカケタモノ、又紅暈ノアルモノ、然ラザルモノガ雜然混在シ、有髮頭部及ビ前額部ニ特ニ多イ。左右上眼瞼ニモ數箇ノ發疹ガアリ、眉毛ノ中ニモ數箇ヲ認メル。尙左眼ノ上瞼結膜ニ一箇ノ米粒大ノ水痘ガ見ラレタ(110.參照)。

39. 眼瞼副痘 Vaccinola palpebrae.

種痘ニ因ル膿瘍ノ内容即チ痘毒ガ種痘ヲ受ケタ人又ハ他人ノ眼瞼皮膚殊ニ睫毛部ニ接觸傳染シテ生ズルモノデ、手指手拭等ニ媒介サレルコトガ多イ。眼瞼副痘ハ多少ノ發熱、耳前又ハ顎下淋巴腺ノ腫脹ヲ伴フコトガ多イ。初メ眼瞼殊ニ瞼緣ニ近キ皮膚ニ發赤腫脹ノ後、麻實大ノ丘疹ヲ生ジ、獨特ノ凹窩アル水痘ヲ見ルガ、内容ハ漸次潤濁シテ膿瘍トナリ、更ニ自潰シテ潰瘍トナル。コノ潰瘍ハ圓形又ハ橢圓形デ、灰白色ノ苔ニ被ハレル。潰瘍ハ一箇ノコトモアルガ多クハ數箇列生シ、全瞼緣ヲ潰瘍ニ被フコトガアル。眼瞼ハ同時ニ浮腫腫脹シ、閉瞼不能トナルコトガアル。合併症トシテ屢、結膜炎ヲ見ル。重症ニハ角膜炎、虹彩炎等ガ起ルコトガアル。豫後ハ一般ニ佳良デ1-2週間後ニハ痂皮ヲ胎シテ治癒スルガ、重症デハ其合併症ニ依ツテ著シキ機能障礙ガ起ルコトガアル。種痘後嚴重ニ注意シ痘毒ノ接觸傳染ヲ防グコトニヨツテ豫防シ得ラレル。



36. 眼瞼膿瘍
Abscessus palpebrae.



37. 眼瞼「デフテリー」
Diphtheria palpebrae.



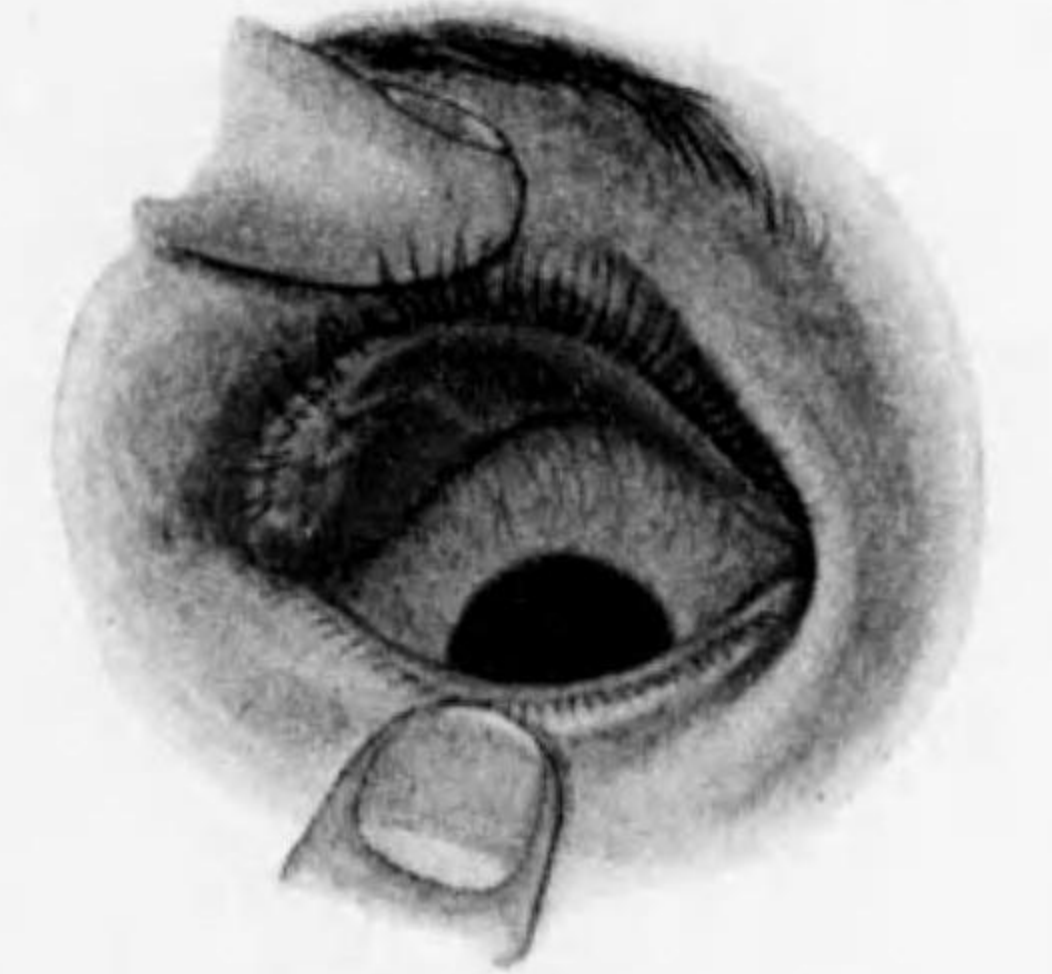
38. 眼瞼水痘
Varicella palpebrae.



39. 眼瞼副痘
Vaccinola palpebrae.



40. 眼瞼皮膚腺病
Scrofuloderma palpebrae.



41. 眼瞼皮膚腺病
Scrofuloderma palpebrae.

本例ハ 1 歳ノ女兒ニ於ケル 眼瞼副痘デアツテ、種痘後 約 2 週間デ 發病シタモノデアル。眼瞼 發赤 腫脹シテ 開瞼不能デアツタガ、其後ノ経過 良好デ、輕度ノ瘢痕ヲ胎シテ 治癒シタ。

40. 眼瞼皮膚腺病 Scrofuloderma palpebrae.

本病ハ 結核菌ノ感染ニ因ツテ發生スル 結節デアツテ、漸次ニ軟化シ 終ニ皮膚ノ表面ニ破潰シテ 潰瘍 又ハ 瘻孔ヲ作り 瘢痕ヲ形成スル。概テ 腺病性ノ青年ニ發シ 極メテ慢性ニ経過スル。本病ハ 多クハ 附近ノ結核菌ヨリ 淋巴管 及ビ 淋巴腺ヲ介シテ 續發スルモノデアルガ、稀ニハ 外傷ニヨツテ 原發スル コトガアル。組織的ニハ 眼局セル結核性浸潤ヨリ成リ 數多ノ巨噬細胞ト 僅少ノ結核菌ヲ含有シテ居ル。皮膚腺病ノ結節ハ 皮下組織中ニ存在シ 次第ニ増大シテ 眞皮ト癒着スルト共ニ 中心次第ニ軟化シテ 潰瘍トナル。本病ノ潰瘍ハ 邊緣薄ク 線下潛蝕ヲ有シ、肉芽ハ蒼白デ 出血シ易イ。潰瘍面ヨリハ 乾酪様 物ヲ混セル 稀薄ノ膿液ヲ分泌シ 乾燥スレバ 結痂スル。結節乃至潰瘍ハ 互ニ融合シテ 廣面ヲ占メルコ トガアル。潰瘍治癒後ニハ 縱横凹凸不正ノ瘢痕ヲ形成スル。本病ノ経過中 若クハ 治癒ト同時ニ 尋 常性狼瘡ニ轉化スルコトモ 稀デナイ。豫後ハ 比較的良好デ、往々 自然治癒モ見ラレルガ、時ニハ 内 臟結核ノ合併ノタメ 死ノ轉歸ヲトルコトガアル。療法トシテハ「レントゲン」照射ガ 最良デアル。 本例ハ 15 歳ノ男子ニ於ケル 下眼瞼ノ皮膚腺病デ、約 3 年前ヨリ 始マツタモノデアル。

41. 眼瞼皮膚腺病 Scrofuloderma palpebrae

本例ハ 26 歳ノ女子ニ於ケル 眼瞼縁ノ皮膚腺病デ、同時ニ 瞼結膜ニ 結核性潰瘍ガ見ラレル。組 織的検査ニヨレバ 定型的ノ結核ノ所見ガ 認メラレ、巨噬細胞モ 證明セラレタ。

X. 眼瞼ノ結核及ヒ黴毒

(42, 43, 44, 45, 46.)

X. 眼瞼ノ結核及ヒ 梅毒

42. 眼瞼尋常性狼瘡 Lupus vulgaris palpebrae.

原發性皮膚結核ノ主ナルモノハ尋常性狼瘡. 疣狀結核. 皮膚腺病. 潰瘍性結核等デアルガ. 眼瞼ニ於テハ 多ク尋常性狼瘡ヲ見ル. 尋常性狼瘡トハ 結核菌ノ直接作用ニ因リ 皮膚又ハ附近粘膜ノ組織中ニ 限局性ノ浸潤ヲ生ジ 密集融合シテ 紅褐色ヲ帶ビ 更ニ頑固ナル潰瘍トナリ 又ハ 萎縮落屑シ 瘻痕ヲ結ブモ 再三破潰シテ 容易ニ治癒シナイ所ノ 慢性傳染性皮膚病デアル. 本症ノ原疹 即チ狼瘡疹ハ 粟粒乃至麻實大デ 深ク皮膚中ニ潜在シ 淡褐色又ハ深紅褐色ヲ帶ビ 指壓スルモ 全然褪色セズ. 却ツテ周圍ノ貧血ニ依ツテ 疹形ハ益々鮮明トナル. 狼瘡疹ハ柔軟デ 消息子デ容易ニ穿孔サレル. 狼瘡性潰瘍ニ於テハ 肉芽面ハ概シテ紅褐色ヲ呈シ 容易ニ出血セズ. 且ツ 邊緣ノ浸潤ト 緣下潜蝕ハ 認メラレナイ. 尋常性狼瘡ノ種類ハ頗ル多ク 各別個ノ外觀ヲ呈スルガ. 孰レモ此狼瘡疹ノ集成ニ依ツテ生ジタモノデ. 必ズ狼瘡ノ附近 及ビ 瘻痕中ニ 狼瘡疹ノ介在ガ認メラレル.

療法. 結核ニ對スル全身療法ノ外. 藥物的 手術的 及ビ 放射線療法ヲ行フ.
本例ハ 15 歳ノ女子ニ見タル 眼瞼尋常性狼瘡デ. 5 箇月前ニ發病シタモノデアル.



42. 尋常性狼瘡
Lupus vulgaris.

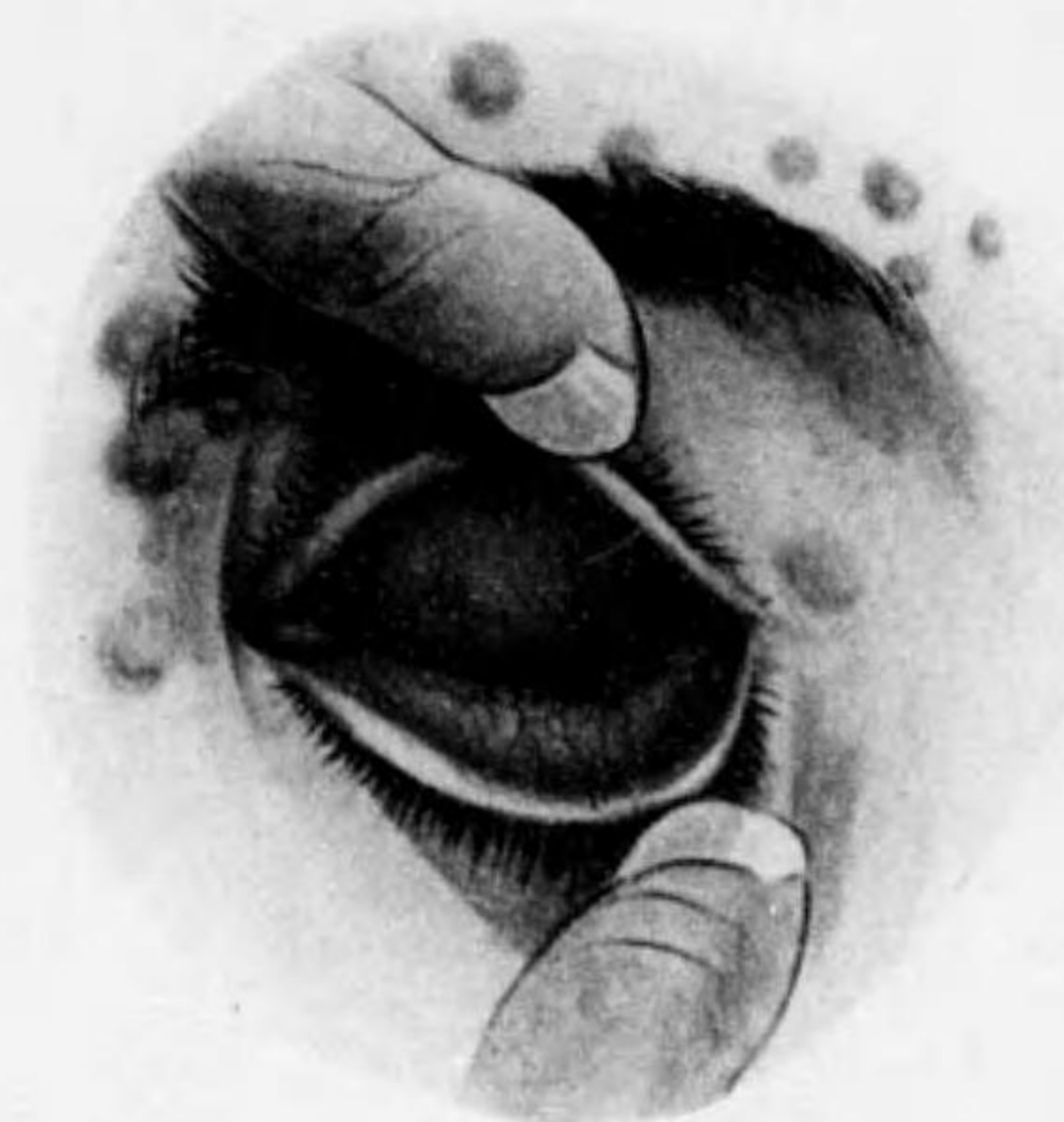
43. 丘狀梅毒疹 Syphilis papulosa.

梅毒ノ經過ヲ概數ヲ以テ示スナラバ 感染後約 3 週間ニシテ 局所ニ硬結 (初期硬結) ヲ生ジ. 9 週ニシテ 第二期發疹ノ最初ノ形トシテ 蕈狀疹ヲ發生シ. 12 週ニシテ丘疹. 15 週ニシテ膿疱疹ヲ見ル. 之ヲ早疹トスル. コノ後 3 箇月乃至 6 箇月ニ晩疹ガアル. ソノ中間ニ 潜伏期ヲ存シテ 3 年後 第三期即チ「ゴム」腫ノ時期ニ入ル. 但シ 病毒ノ強弱. 患者ノ體質. 治療ノ有無等ニヨツテ コレ等ノ概數ガ左右セラレタリ 又 發疹ノ順序ニ不同ヲ來シタリ事ハ 勿論デアル.

眼瞼モ 上述各期 各様ノ發疹ヲ來ス點ニ於テ 敢テ身體他部ト擇ブ所ハナイ.

本圖ハ第二期發疹ノ一ナル丘狀梅毒疹ヲ示スモノデアルガ. 患者ハ 34 歳ノ男子デ. 額面. 後頸部ニ 圓ニ見ル様ナ 特有ナ 銅紅色ヲ呈スル 小豆大 乃至 大豆大ノ丘疹ガ 多數ニ發生シテ居ル. 瘙痒ソノ他ノ 自覺症狀ハナイ.

眼科的ニハ 兩眼ノ流淚. 羞明. 視力障礙ヲ訴ヘテ來タモノデアルガ. 兩眼下穹窿部粘膜ニ 橫橢圓形 帶紫青色ノ丘疹ガアツテ. 周圍ノ結膜ニ 充血ガアル. ソノ左眼ニ於ケルモノハ 圓ニ示ス如クデアル. 右眼ニ於テハ ナホ 虹彩ニモ 小虹彩輪ニ 丘疹様ノモノガ見ラレタ.



43. 丘狀梅毒疹
Syphilis papulosa.

44. 表層皮膚梅毒 Syphilis cutanea superficialis.

「ゴム」腫ハ 普通 深在性デ. 皮下ニ發生シ. 軟骨様硬度ノ結節トシテ存在スルモノデアル. 經過ハ 急性ノモノモアレバ 慢性ノモノモアツテ. 結節ハ 漸次波動ヲ呈シ 潰瘍ヲ形成スルノガ常デアル. 時ニコノ「ゴム」腫ガ 第三期梅毒現象ト合併スル事ガアル. 又コノ「ゴム」腫ガ 淺在性ノ場合ガアツタリ.

本例ハ 41 歳ノ男子. 始メ焚火ノ一片ガ飛ビ 皮膚炎ヲ起シタモノト思ツテ居タトコロ 經過長キタメ 治療ヲ乞ヒ 表在性皮膚梅毒デアル事ヲ發見セラレタモノデアル. 驅菌療法デ 治癒シタ.

44. 表層皮膚梅毒
Syphilis cutanea superficialis.

45. 眼瞼ゴム腫 Gumma palpebrae.

第二期梅毒ノ發疹ガ 痕跡ヲ留メズニ吸收セラルハニ反シテ 「ゴム」腫ハ必ズ局所ノ破壊ヲ營ミ 瘻痕ヲ結ンデ治癒スルノヲ特徴トスル. 眼瞼ゴム腫ハ 一般ニ稀デアル. 梅毒感染後 概ネ 3 年以上ヲ經テ 鳩卵大ノ結節ガ 眼瞼皮膚ノ真皮 或ハ皮下ニ生ジ 又ハ 其下層ニアル諸組織ヨリ生ジテ 皮膚ニ侵入スル. 結節ハ漸次増大シテ 皮膚ニ近接シ 爲ニ皮膚ハ銅紅色ニ着色シ 壓痛ヲ生ジ 終ニ皮膚ヲ破壊シテ 潰瘍ヲ作ル. コノ潰瘍ハ 邊緣銳利デ 強健ナ肉芽ヲ有シ 牛酪様分泌ヲ見ル. 潰瘍周圍ノ浸潤ハ 著明デ 硬靱デアルガ. 緣下潜蝕ハ見ラレナイ. 其ノ増大スル時ハ 一方ニ進行シ 他方ハ治癒ニ傾キ. 斯クテ次第ニ固有ノ腎臟形トナル. 往々數箇ノ結節及ビ潰瘍ガ 融合シテ蛇行狀ヲ呈スルコトガアル.

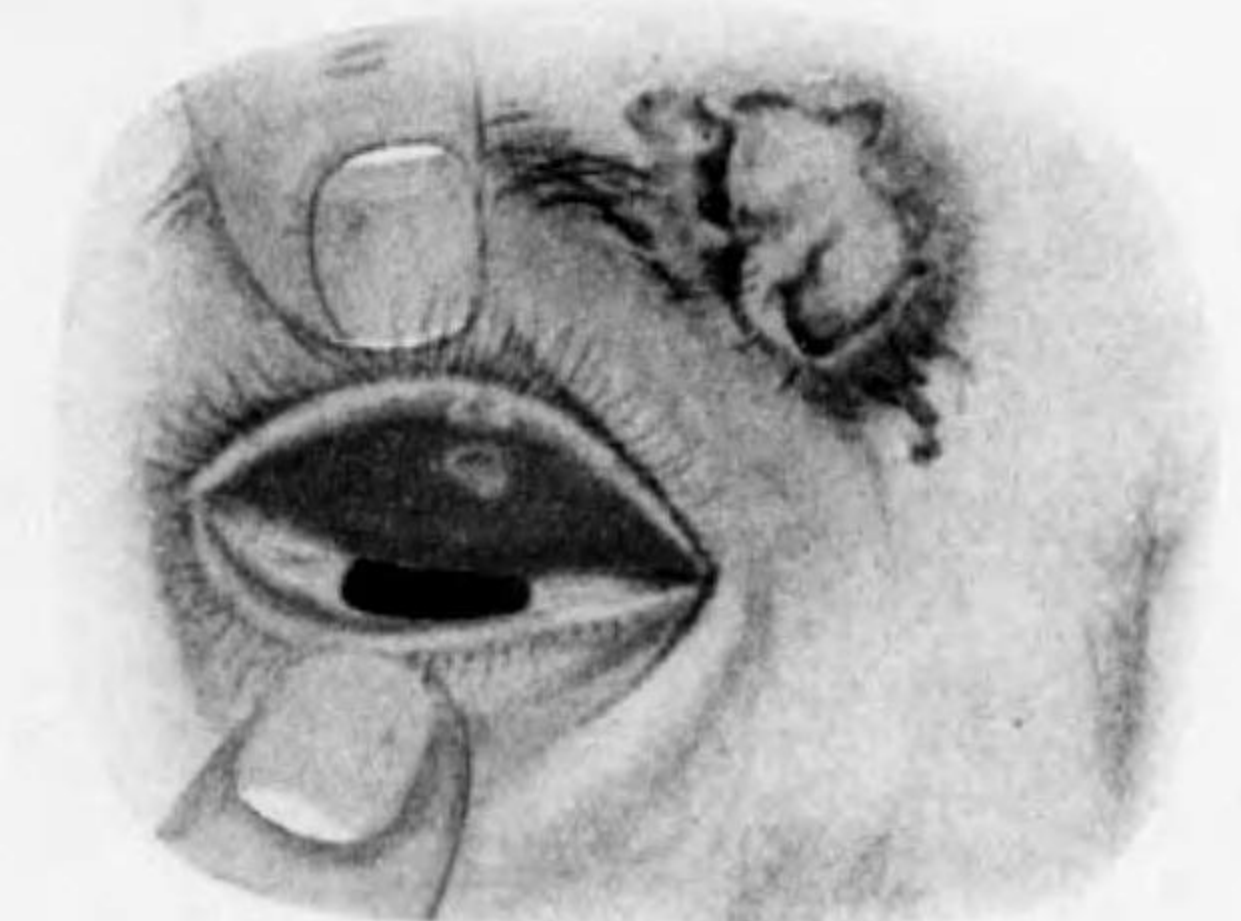
本例ハ 28 歳ノ女子ニ於ケル眼瞼ノ「ゴム」腫デ 2 週間前ヨリ潰瘍トナリ 漸次増大セルモノデアル. 驅菌療法ニヨリ 約 1 箇月ノ後 潰瘍ハ殆ド治癒シタ.



45. 眼瞼ゴム腫
Gumma palpebrae.

46. 眼瞼及ヒ 結膜ゴム腫 Gumma palpebrae et conjunctivae.

「ゴム」腫ハ通常梅毒感染後約 3 年ニシテ發スルモノデアルガ. 病毒ノ強弱 患者ノ體質 治療ノ有無等ニ依ツテモ 其發見ノ時期ハ左右セラレル. 時トシテハ 數種ノ梅毒疹ガ併發シ 又ハ 先後スルコトガアル. 本例ハ 31 歳ノ男子ニ於ケル眼瞼及ヒ 結膜ノ「ゴム」腫デアツテ. 梅毒ノ感染後 約 2 箇年ニシテ起ツタモノデアル. 本例ニテハ其他ニ 左眼結膜. 鼻翼. 外聽道. 扁桃腺. 鼻咽腔等ニモ 「ゴム」腫ガ見ラレタ. 驅菌療法ニ依リ 全治シタ.



46. 眼瞼及ヒ 結膜ゴム腫
Gumma palpebrae et conjunctivae.

XI. 黃色腫

(47, 48, 49, 50.)

XI. 黄色腫

黄色腫 Xanthoma s. Xanthelasma ハ 斑狀 又ハ 結節狀ノ良性腫瘍デアツテ、粟黄色 乃至 枯葉色ヲ呈シ、境界ハ常ニ明劃デアル。表面ハ平滑デ、毫モ落屑ヲ見ナイ。或ハ播種狀ニ 或ハ散點シテ存在スルガ、常ニ左右ニ相對的ニ現レ、一定ノ大サニ達スレバ 成長シナイ。常ニ 血中「コレステリン」量ノ増加ガ證明サレル。扁平黄色腫ト 結節狀黄色腫トノ二種類ニ區別スルガ、コノ區別ハ 其形狀ニ依ツテ爲シタモノデ、組織的ニハ 本質的ノ相違ハ 認メラレナイ。即チ 單核 又ハ 多核ノ細胞デ、原形質中ニ 微細ノ脂肪滴ヲ有スル所謂黄色腫細胞ガ 主ニ皮膚網狀層ノ中ニ巢ヲナシ、増殖セル結締織ニテ境サレテ 腫瘍ニ黄色ノ色調ヲ與ヘテ居ル。

豫後ハ佳良デアルガ、自然ノ治癒ハ望ミ難イ。療法ハ 切除 又ハ 電氣分解、「ラヂウム」療法等ヲ行フ。

47. 扁平黄色腫 Xanthoma planum.
主トシテ眼瞼ニ生ジ、老人 殊ニ女ニ多ク、初メハ小ナル斑點デアルガ、成長シテ瓜核大トナル。扁平デアツテ、或ハ皮膚中ニ潜在シ、或ハ 僅ニ皮膚表面ニ隆起スル。概ネ上眼瞼ノ内背側ニ生ズル。時ニハ下眼瞼ニモ及ンデ 馬蹄形ヲナスコトガアル。
本例ハ 55歳ノ男子ニ於ケル扁平黄色腫デ、約 5年前ヨリ 漸次増大スルヲ認メタ。何等ノ自覺症狀ヲ感ジナイ。
48. 結節狀黄色腫 Xanthoma tuberosum.
粟粒大 乃至 豌豆大デアルガ、稀ニハ 鶏卵大以上ニ及ブモノガアリ、常ニ 球形或ハ橢圓形デアル。幼少ノ頃ニ初發シ、稍。男性ニ多イ。汎發スルヲ常トシ、時ニ扁平黄色腫ヲ混ズルコトガアル。其好發部位ハ 肘、膝蓋ニ最モ多ク、肘窩、膝窩、額部、陰囊、指關節、臀部、手掌、足蹠等 各處ノ皮膚、竝ニ 手足ノ腱中ニモ生ズル。其他 口腔 咽喉 氣管枝ノ諸粘膜、脾臟、肝臟、輸膽管、膀胱、心臟 内膜等ニモ出現スルコトガアル。眼部デハ 扁平黄色腫ヲ見ルコトハ 屢ニデアルガ、結節狀黄色腫ハ稀メテ稀デアル。
本例ハ 19歳ノ女子ニ於ケル結節狀黄色腫デアツテ、2歳ノ時 足背ニ初發シ、漸次上行シテ身體他部ニ汎發シ、7歳頃頸部ニ、16歳ノ時遂ニ眼瞼ニ及ンタ。血中ニハ明カニ「コレステリン」量ノ増加ヲ認メタ。
49. 結節狀黄色腫 Xanthoma tuberosum.
本例ハ 21歳ノ男子ニ於ケル 眼瞼及ビ角膜縁ノ 結節狀黄色腫デアル。15歳ノ頃 右肩部ト 右足背ニ 大痲實大ノ 皮膚色ノ 結節狀ノ 腫瘍ヲ認メタガ、之ハ 何等ノ痕跡ナク吸收サレタ。其後 同様ノ 結節 兩膝ニ 續イテ臀部 四肢 更ニ軀幹ニ發生シ、最近 2-3年間ニ 前驅症狀ナク 急ニ増加シタガ、全身症狀ハ 認メラレナカッタ。尙 口腔粘膜 膀胱壁ニモ 結節狀黄色腫ガ證明サレタ。血中「コレステリン」量ノ増加ハ 著明デアツタガ、黃疸 糖尿病 腎疾患等ハ 證明サレナカッタ。
50. 黄色腫ノ組織圖 (擴大約 200倍)
本圖ハ 49.ノ患者ノ角膜縁部ノ黄色腫ノ組織圖デアル。染色ハ「ズダン III」デ、若キ黄色腫細胞ノ形 及ビ 毛細管壁ノ病變ヲ示シタモノデアル。腫瘍中心部デハ 黄色腫細胞ハ 密ニ存在シ、唯 脂肪粒ト 核ヲ見ルノミデアルガ、周邊部デハ 粗ニ散亂シテ 其形ガ明瞭トナツテ居ル。本圖ハ 其ノ周邊部ノ所見デアル。



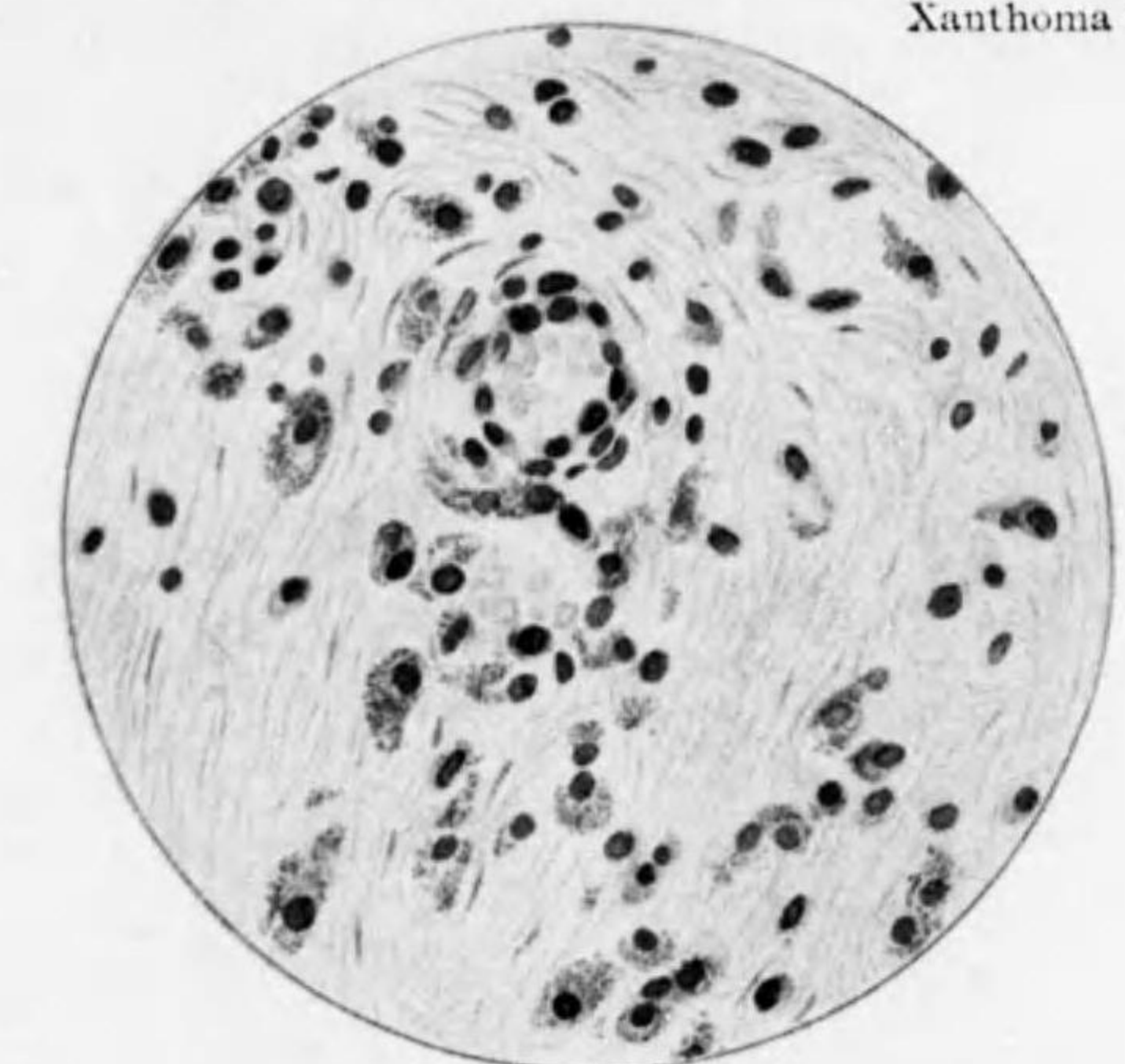
47. 扁平黄色腫
Xanthoma planum.



48. 結節狀黄色腫
Xanthoma tuberosum.



49. 結節狀黄色腫
Xanthoma tuberosum.



50. 黄色腫組織圖 (ズダンIII 染色)
(擴大約 200倍)

XII. 眼瞼良性腫瘍

(51, 52, 53, 54, 55.)

XII. 眼瞼良性腫瘍

51. 單純性血管腫 Haemangioma simplex.

血管腫ハ限局セル血紅色乃至紫紅色ノ腫瘍デアツテ、其形狀ニヨリ單純性血管腫ト海绵様血管腫トニ大別スル。血管腫ハ血管ノ擴張ト新生トニヨツテ成ルモノデ、主トシテ母斑ニ屬スルモノデアル。組織的ニハ血液ヲ充セル空洞ヨリ成リ、單層ノ細胞ヲ被リ、結締織ニテ包被セラレテ居ル。皮膚ノ外層、粘膜ニモ發現シ、増大スル傾向ガアルガ多クハ一定大ニ至ツテ止ル。自然ニ吸收サレルコトハ稀デアル。療法、腫瘍ノ大小ニ從ヒ 摘出、電氣分解、「ラヂウム」療法、「レントゲン」療法等ヲ行フ。幼時ニ「ラヂウム」療法ヲ行ヘバ 最も有效デアル。

單純性血管腫 ハ 淡紅乃至暗紅色ノ斑デ、大サハ 點狀ヨリ 貨幣大 若クハ其以上ニ及ビ、時ニハ 顔面ノ半側ヲ被フコトガアル。大ナル血管腫デハ 全面平等ニ着色セズ 濃淡相錯ハリ 健常ノ皮膚ガ其間ヲ點綴スルノガ見ラレル。單純性血管腫ハ 先天性デアルガ 時ニハ 生後間ニ於テ發生スルコトガアル。其大サハ 生後少シモ増大シナイコトガアリ 或ハ 成長ト共ニ増大スルコトモアル。

本例ハ 22歳ノ男子ニ於ケル 顔面右半側ヲ被ヘル 單純性血管腫デアツテ、同時ニ 該眼ノ 線内障ト左側ノ ジェクソン氏型網膜トヲ合併シテキタ。顔面ノ血管腫ト 線内障ト 網膜トヲ 症候群トスル 疾患ヲ スタージ・ウェーバー氏病 (Sturge-Weber) ト稱ヘル。

52. 海绵様血管腫 Haemangioma cavernosum.

加壓ニヨツテ縮小シ 壓ヲ去レバ再ビ充盈大スル 瘤狀 又ハ海綿狀ノ 柔軟ナ腫瘍デアツテ、其ノ皮膚ノ淺層血管ヨリ發生セルモノハ 紅色 又ハ暗紅色ヲ呈シ、皮下組織中ニ發生セルモノハ 若紅乃至鉛黑色ヲ呈スル。其ノ大サハ種々デ 針頭大ヨリ拳大以上ニ達シ 大ナルモノハ海綿狀ニ膨脹スル。形ハ圓形 又ハ類圓形デ 境界ハ明劃デアル。多クハ先天性ニ存在シ 稀ニハ幼時ニ於テ始メテ發現シテ 成長ト共ニ徐々ニ増大スル。

本例ハ 2歳ノ女兒ニ於ケル 上眼瞼ノ海绵様血管腫デアル。生後 2-3日ニテ黨附キタル時ハ 赤色デ米粒大ナリシモノガ 其ノ後次第ニ増大シタト云フ。

53. 傳染性軟瘤 Molluscum contagiosum.

留針頭大乃至豌豆大ノ 中心ニ凹高アル 疣贅様ノモノデ、皮膚ト同色ナルカ 或ハ 乳白色又ハ淡紅色デ、屢ニ蠟様ノ光澤ガアリ、柔軟デアル。本症ハ眞性腫瘍デナク 不明病原體ニ因ル皮膚疾患デ、組織的ニハ純然タル上皮性ノ腫瘍デアル。試ミニ兩側面ヨリ之ヲ壓迫スレバ 凹高ヨリ白泥様ノ内容ヲ排出シ 次第其下ヨリ出血スル。内容ハ觸接傳染性ヲ有シ、之ヲ移植スル時ニハ 2-3箇月ノ潜伏期ヲ經テ 新ニ軟瘤ガ發生スル。本症ハ年齢性別ヲ問ハズ發生スルガ 幼年期ニ最モ多イ。療法ハ 壓出後「ヨード」チンキ塗布 又ハ 摘出。

本例ハ 2歳ノ女兒ニ於ケル 眼瞼ノ傳染性軟瘤デアツテ、約 10箇月前ニ感染シ、漸次増大シタモノデアル。左側ノ小軟瘤ハ 1箇月前ヨリ認メタ。

54. 眼瞼粉瘤 Atheroma palpebrae.

眼瞼ハ粉瘤ノ好發部位デハナイガ、時ニ之ヲ見ルコトガアル。コノモノハ 毛囊ノ皮脂腺ノ 潴留囊腫デアツテ、初メハ 皮内ニアルガ 増大スルニ從ツテ 皮下ニ位スル様ニナル。從ツテ ソノ一部分ハ 皮膚ト癒着シテ居ル。周圍及ビ下位組織トハ 炎症ヲ起サナイ限リ 移動出來ル。硬度ハ緊張弾力性デアル。春機發動期以前ニハ 通常發生シナイ。皮様囊腫ニ對スル類症鑑別上、コノ發生ノ時期トイフコトガ 皮様囊腫ノ好發部位トイフ事ト共ニ 重要デアル。療法ハ囊外剔出。

本例ハ 67歳ノ男子デ、7-8年前ヨリ 右上眼瞼ニ 一ノ腫隆ヲ生ジ、最初ハ粟粒大デアツタガ 次第ニ大キクナツタ來タモノデアル。診ルト 右上眼瞼ノ略、中央ニ 大豆大 球狀ノ腫隆ガアル。皮膚ヲ透シテ 稍、黄色ニ見エル。表面ハ平滑、硬度ハ弾力性軟。皮膚トハ癒着シテ居ルガ、瞼板トハヨク移動出來テ ソノ間ニ關係ノナイ事ヲ思ハセル。壓痛ハ全然ナイ。

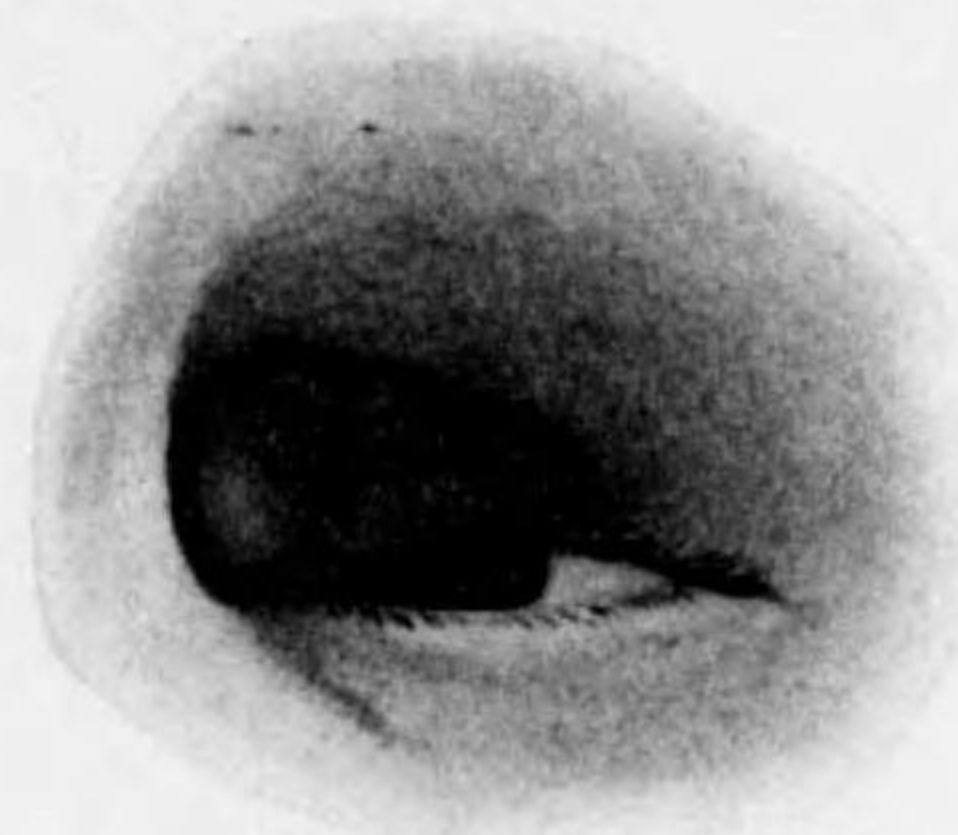
55. 皮様囊腫 Dermoidcyste.

胎生の發育障碍ニ基キ 體腔、洞管、或ハ 罅裂ノ閉鎖ニ際シテ發生スル 柔軟ナル 圓形乃至橢圓形ノ先天性腫瘍デアツテ、上眼瞼内背ニ近キ 或ハ 上外眼窩緣ニ近キ皮下ニ現レル。外壁ノ構造ハ 皮膚ニ一致シ、通常 皮膚トハ癒着シナイガ 屢ニ骨膜ト癒着スル。内壁ハ重層扁平上皮 又ハ 圓柱上皮細胞ヨリ成リ、内壁組織内ニハ 結締織、毛髮、腺體、皮脂腺、汗腺等ガ證明サレル。療法ハ剔出。

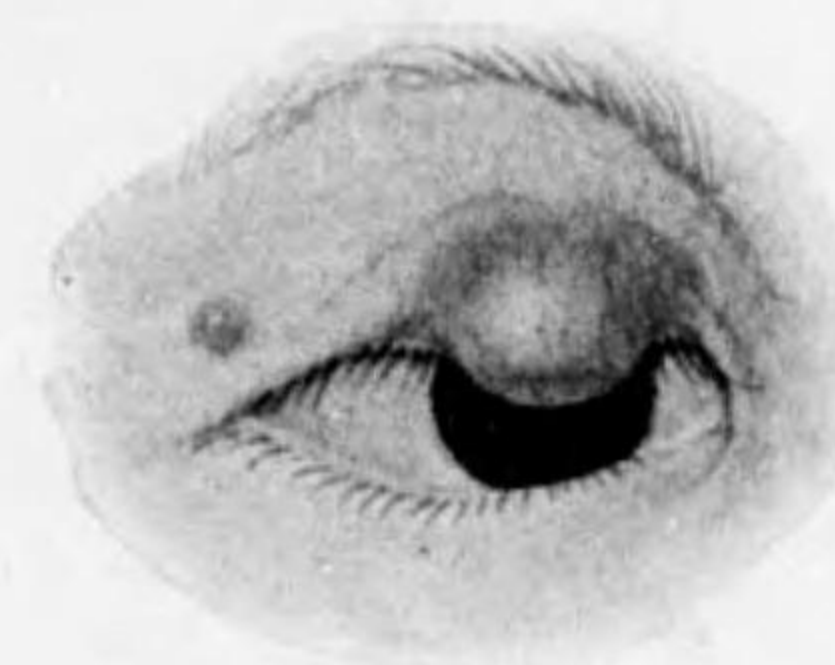
本例ハ 19歳ノ男子ニ於ケル 上眼瞼ノ皮様囊腫デアツテ、一年程前ヨリ 漸次増大スルヲ認メタ。



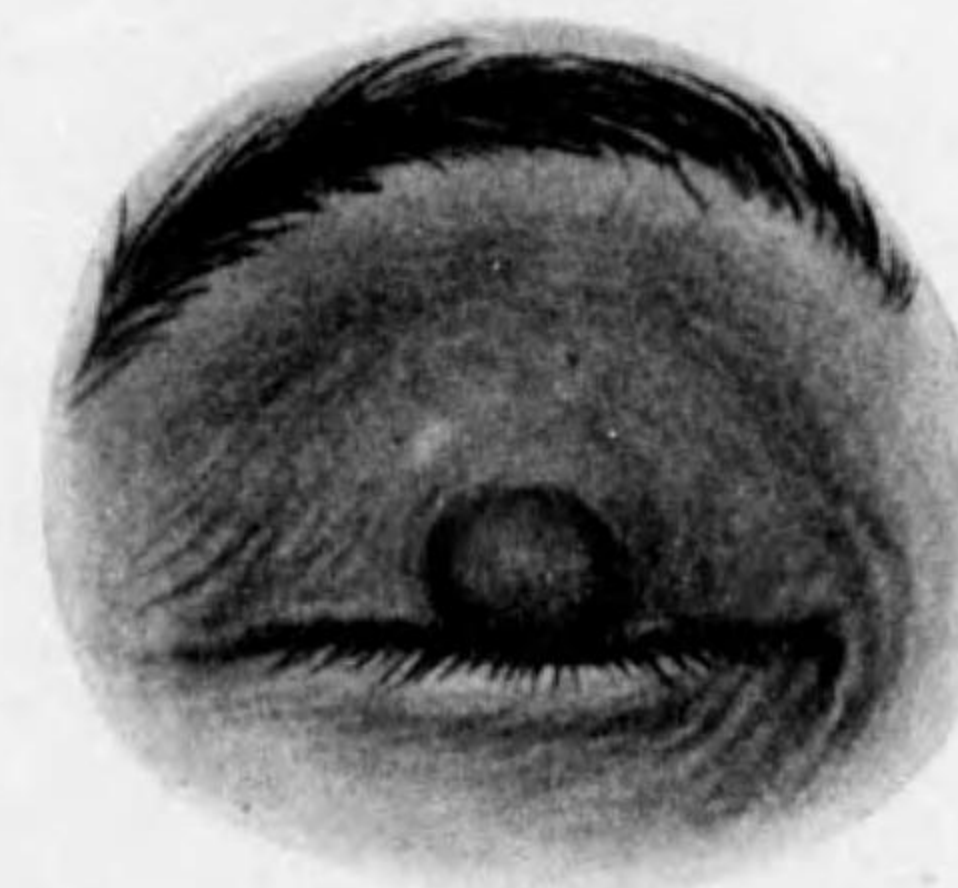
51. 單純性血管腫 Haemangioma simplex.



52. 海绵様血管腫
Haemangioma cavernosum.



53. 傳染性軟瘤
Molluscum contagiosum.



54. 粉瘤 Atheroma.



55. 皮様囊腫
Dermoidcyste.

XIII. 良性及恶性腫瘍

(56, 57, 58, 59, 60.)

XIII. 良性及ヒ悪性腫瘍

56. 稗粒腫 Milium.

健常ノ皮膚面ニ現レル稗粒大球狀ノ白色乃至黄白色ノ一種ノ毛囊腫デアツテ、組織的ニハ眞皮組織中ニ於テ表皮ニ近ク存在スル所ノ小囊デアル。其壁面ハ單層又ハ數層ノ扁平上皮細胞ヨリ成リ、内ニ角化セル上皮ヲ含有シテ居ル。針頭ニテ表皮ヲ破ル時ハ、容易ニ眞珠様ノ小粒ヲ壓出シ得ル。眼瞼ハ稗粒腫ノ好發部位デアルガ、其外ニ額面ニテハ額顫頰邊ニモ現レル。青年殊ニ婦人ニ多イ。

療法ハ切開排出。

本例ハ16歳ノ男子ニ於ケル眼瞼稗粒腫デアル。



56. 稗粒腫
Milium.

57. 眼瞼色素母斑 Naevus pigmentosus palpebrae.

母斑ハ皮膚ノ限局性小畸形デ、黑色又ハ黒褐色ヲ呈シ、周圍トハ比較的明カニ境セラレテ居ル。コレニ色素増殖ノミヲ存シテ皮膚ヨリ隆起シナイモノト、結締織ノ増殖著明デ表面ガ平滑ニ又ハ乳嘴狀ニ隆起スルモノトアル。發育ハ極メテ緩慢デ、全身ノ發育ニ伴フ外ハ獨立増大スルコトハ少イガ、時ニハ之ヨリ悪性腫瘍ノ發生スルコトガアル。眼瞼ニ於ケル母斑ノ好發部位ハ眼瞼縁デ、特ニ下眼瞼ニ多イ。療法ハ電氣燒灼、電氣分解、雪狀炭酸貼用又ハ切除。

本例ハ17歳ノ女子。生來右眼瞼内眥部ニ現在見ル如キ腫瘍ガアリ何等ノ苦痛ハナイガ僅カニ増大シタト云フ。現今右眼瞼縁ノ鼻側半部ハ幅約5耗程黒褐色ヲ呈シ、下眼瞼縁ニハ小豆大ノ軟イ黒褐色疣狀ノ腫瘍ガアル。着色ノ限界ハ明瞭デ極小部分ニ於テハ眼瞼縁ヲ越エテ結膜面ニ及ンデ居ル。本例ハ約1箇月ノ間隔ヲ以テ雪狀炭酸ヲ貼用スルコト6回、着色ハ著シク淡クナリ、腫瘍ハ約半分程ニ縮小シタガ、更ニ腫瘍ノ殘餘ノ部分ヲ切除シ外觀大イニ改良セラレタ。



57. 眼瞼色素母斑
Naevus pigmentosus palpebrae.

58. 眼瞼プラスモーム Plasmoma palpebrae.

「プラスモーム」ハ主トシテ「プラスマ」細胞ノ密集カラ成ルトコロノ極メテ徐々ニ限局性又ハ漸變性ニ増殖スル腫瘍デ、通常ハ良性デアルガ、時ニハ前眼部ノ全體ヲ侵シ、眼窩内ニ侵入シ、遂ニハ眼ヲ破壊セシムルコトモアル。腫瘍ハ帶黄赤色又ハ暗赤色デ、稍、弾力性ノ硬度ヲ有シ、周圍トノ限界ハ比較的明瞭デ、光澤ガアル。潰瘍ヲ作ルコトハナイ。

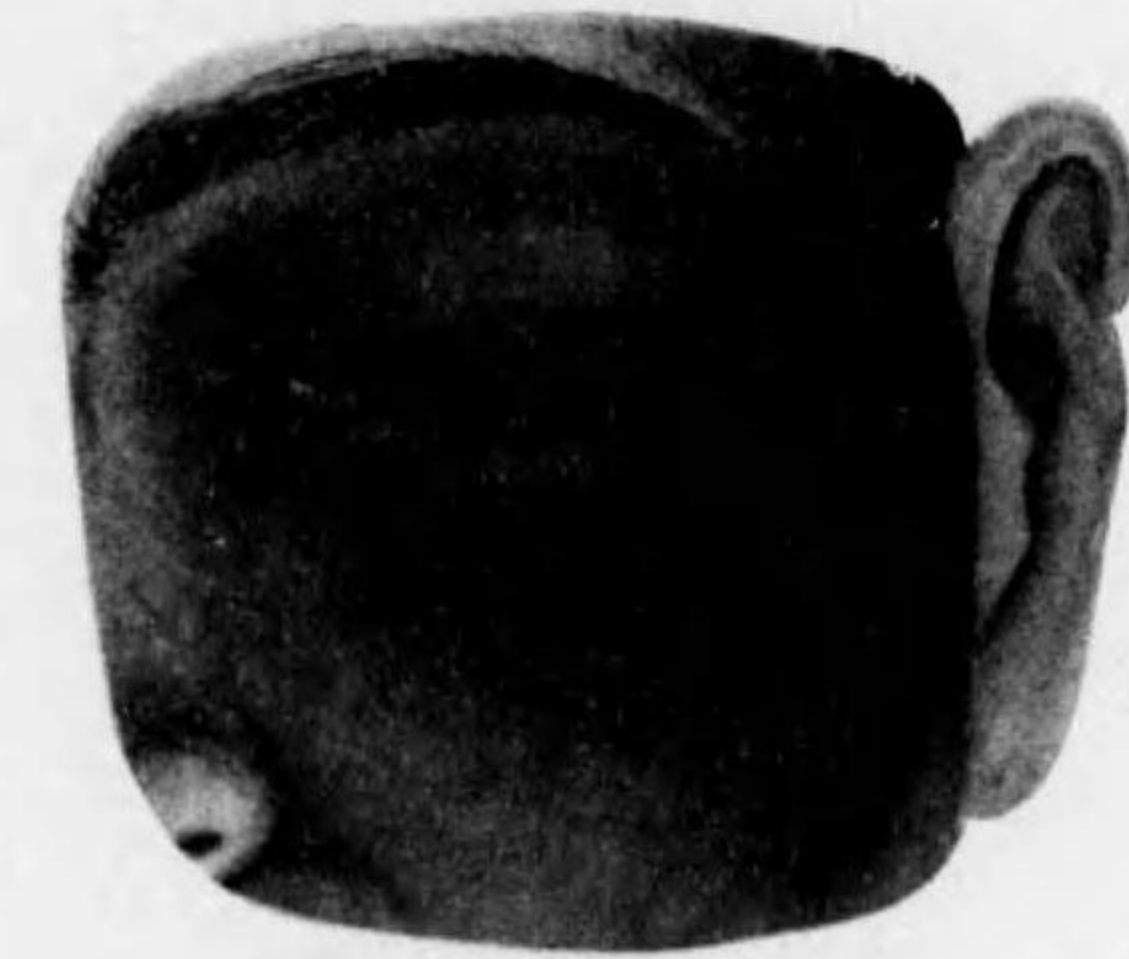
自覺的ニハ異物感、眼脂ガアル外、大ナル苦痛ヲ伴ハナイノガ普通デアル。

組織的所見。腫瘍ノ實質ハ大部分「プラスマ」細胞ヨリ成リ、細胞間ニハ微細ナ結締織纖維ノ亂走スルヲ見ル。

「プラスモーム」ガ眞ノ腫瘍デアルカ、炎症肉芽腫デアルカニ就テハ尙異論ノアル所デアルガ、結膜ノ「プラスモーム」ハ「トラコーム」ノ膠様顆粒ヨリ變性シテ生ズルコトガ最多ク、此ノモノハ更ニ轉ジテ澱粉様變性ニ陥ルコトガ屢、アル。

治療法ハ部分的ニ切除スレバ漸次縮小スル。

本例ハ40歳ノ男子。圖ハ左眼ノ眼脂及上下眼瞼ノ腫脹ヲ氣附イテカラ約1年半後ノ所見デアル。發病1箇年頃ヨリ腫脹ハ次第ニ硬度ヲ増シ、開眼ガ困難トナツタガ疼痛ハナイ。ワッセルマン氏反應陰性。左眼部ハ眼瞼ヨリ頬部ニカケ銅赤色ヲ呈シ、無痛性ニ腫脹シテ、觸診スルト稍、弾力ノアル捏粉様ノ硬度ヲ有シ、周圍トノ限界ハ比較的明瞭デアル。臉結膜及球結膜ハ一帯ニ黄赤色ニ肥厚シ、膿様ノ分泌ガアル。角膜ハ同様ノ腫瘍ノ一部デ膜様ニ被ハレテ居ル。



58. 眼瞼プラスモーム
Plasmoma palpebrae.

59. 眼瞼癌腫 Carcinoma palpebrae.

眼瞼ニ於ケル悪性腫瘍中 最モ屢、見ラレルモノハ癌腫デアツテ、多クハ皮膚癌ニ屬シ、眼瞼皮膚即チ表皮ノ基底細胞ニ原發スルガ、時ニハ汗腺ヨリ生ズルコトモアル。マイボーム氏腺ヨリ發スルコトハ極メテ稀デアル。其好發部位ハ眥部殊ニ内眥部デ、睑縁ニ發スルコトガ多イ。眼瞼癌腫ハ殆ンド常ニ基底細胞癌デ、40歳以上ノ人ニ多ク、先ヅ何等自覺症狀ナキ皮膚面ニ餘リ突出セザル結節ヲ生ジ、夫レガ極メテ徐々ニ増大シテ皮膚面ニ擴ル。次デ其表面ハ潰瘍トナリ、出血シ易クナル。コノ潰瘍ハ軟骨様硬度ノ隆起セル邊縁ヲ有シ、周圍ノ皮膚ヲ蠶蝕スル。

類症鑑別上重要ナル「ゴム」腫ハ、驅癬療法ニ反應シ潰瘍ノ邊縁ハ、癌腫ニ於ケル程ノ硬度ヲ有シナイ。時トシテハ、癌腫ガ皮膚面ヨリモ深部ニ進ンデ、臉板、結膜、眼球、眼窩等ヲ侵スコトガアル。之ヲ深行性皮膚癌ト稱シ、棘細胞癌腫ニ屬スルコトガ多イ。患者ハ神経痛様ノ疼痛ヲ訴ヘル。眼瞼癌腫ノ發見及ヒ剔出ガ早期ニ行ハレタ時ニハ、豫後ハ良好デ再發スルコトハ稀デアルガ、深部ニ進ンデ、



59. 眼瞼癌腫
Carcinoma palpebrae.



60. 眼瞼癌腫
Carcinoma palpebrae.

板、結膜、眼球、眼窩等ヲ侵シタモノハ不良デ 癌腫ハ 更ニ他ノ諸組織ニモ轉移スル。

療法。症狀ニ依リ「ラヂウム」「レントゲン」線療法、剝出、切除、眼窩内容除去等ヲ適宜ニ行フ。

本例ハ 65歳ノ女子ニ於ケル 眼瞼ノ乳頭狀皮膚癌腫デアル。組織的ニハ 基底細胞癌腫ナルコトガ 證明サレタ。約5年前 左眼上眼瞼ニ 蠶豆大ノ腫瘍ヲ生ジ 剝出手術ヲ受ケタガ 再發シテ 一年後ニハ 小豆大トナツタ。自覺症狀ハ 全クナカツタ。其後 コノ腫瘍ハ 徐々ニ増大シテ 雀卵大トナツタガ 約10日 前ヨリ 急激ニ腫隆シテ 現在ニ至ツタ。硬度ハ 軟骨様デ 縁下潜蝕ヲ有スル潰瘍ガ見ラレル。

60. 眼瞼癌腫 Carcinoma palpebrae.

本例ハ 83歳ノ女子ニ於ケル 眼瞼ノ扁平皮膚癌腫デアル。約2年前 内眥附近ノ皮膚ニ 疣様ノ結節 ヲ認メタガ。其後増大シ 終ニ蠶蝕性潰瘍トナツタ。コノ潰瘍ハ 深い處ハ 深サ2-3cmニ及ビ。上縁ハ 上眼瞼縁ヨリ成ツテ居ル。潰瘍面ハ 出血シ易イ。眼球ハ萎縮シ 觸診及ビ共同運動ニヨリ 僅ニ其ノ存在ガ證明セラレル。

XIV. 睫毛異常

(61, 62, 63, 64, 65, 66.)

XIV. 睫毛異常

61. 白癜風 Vitiligo vulgaris.

一名尋常性白斑 Leucoderma vulgaris 又ハ しろなまづ トモ稱シ。後天性ニ發スル限局性色素缺乏症デ 徐々ニ増大シ 周圍ニハ 却ツテ色素増殖ガ見ラレル。白斑ノ形狀ハ 圓形又ハ不正形デ。指頭大ヨリ 掌大以上ニ及ビ。或ハ融合シテ廣面ヲ占メ 又ハ 病勢休止シ 毫モ蔓延シナイコトモアル。患部ノ皮膚ハ 平滑柔軟デ 大ナル機能障礙ヲ認メナイガ。精密ニ検査スル時ニハ 知覺鈍麻 汗分泌機能ノ減弱ガ證明セラレル。白斑ガ被髮部ニ生ジタ時ニハ 毛幹ハ 毛根ヨリ尖端ニ向ツテ次第ニ色素ヲ失ヒ。終ニ全ク白變スル。之ヲ 後天性白髮 Poliosis acquisita ト 謂フ。原因ハ不明デアアル。本例ハ 55歳ノ男子ニ於ケル白癜風デ。約15年前 先ヅ睫毛ノ白變ヲ認メ。次デ約半年ノ後 眉毛白變シ。終ニ皮膚ニ及ンダモノデアアル。

62. 皮膚性眼瞼内反 Entropium cutaneum.

皮膚性眼瞼内反ハ 下眼瞼ノ内背側ニ來ルコトガ多イ。概ネ 皮膚ノ皺襞ノ爲メニ 眼瞼ガ壓迫セラレテ 内瞼スルモノデアアルガ。時ニハ 眼瞼脂肪過多ニ因ツテモ 生ズルコトガアル。一種ノ先天異常デ。小兒ニ多イ。眼瞼ガ内方ニ彎曲スル爲 睫毛ハ角膜ニ向ツテ 之ヲ刺戟シ。流淚 異物感 視力減退等ガ起ル。輕度ノモノハ 小兒ノ成長ト共ニ 自然ニ治癒スルヲ常トスルガ。強度ノモノ 及ビ 青年期ニ至ツテモ尙ホ治セザルモノハ 手術スル。本例ハ 1歳ノ女兒ニ於ケル皮膚性内反デアツテ。患兒ハ 2箇月前ヨリ 流淚 及ビ 眼瞼ヲ訴ヘタ。兩眼共 下眼瞼ハ 外背附近ノ一部ヲ除ク外ハ 悉ク内瞼シ。睫毛ハ角膜ニ向ツテ 之ト接觸シテ居ル。

63. 瘢痕性眼瞼内反 Entropium cicatricium.

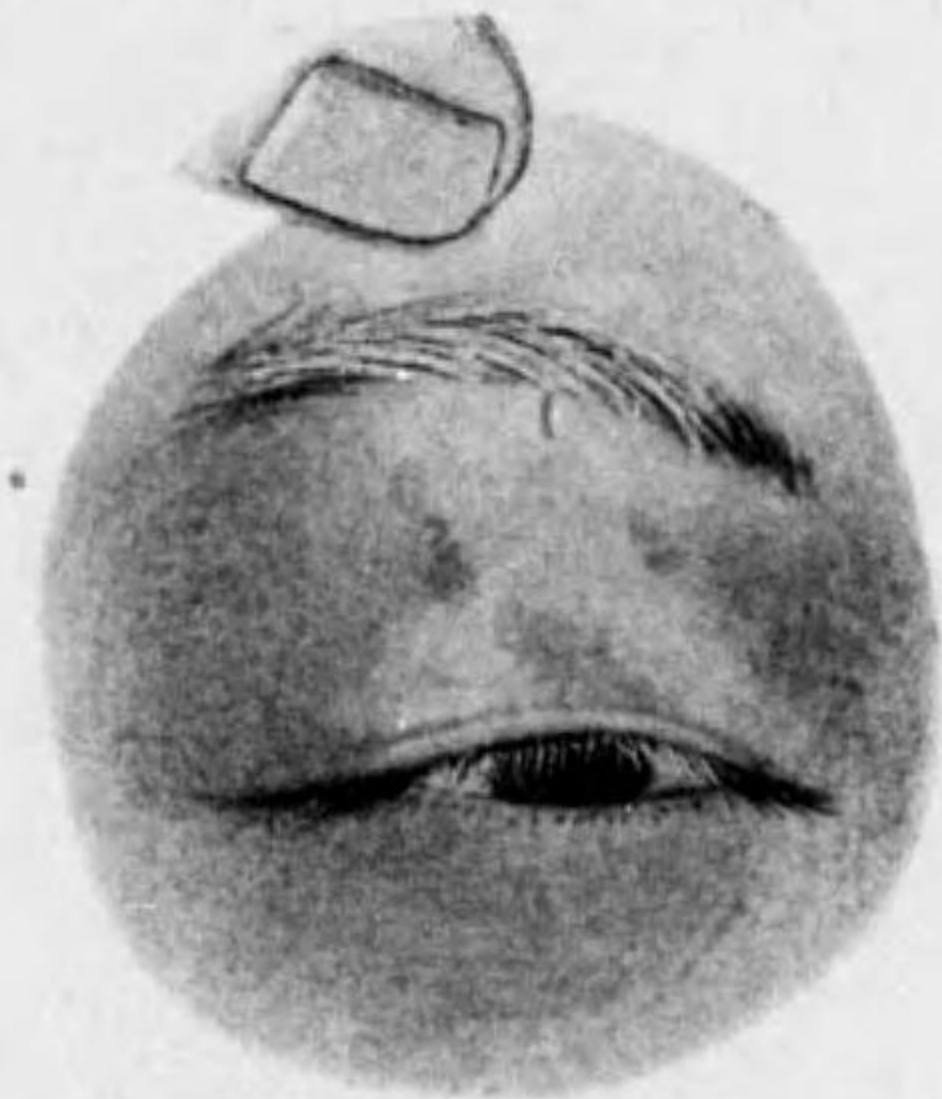
「トラコーマ」, 「チフテリ」性結膜炎, 淋菌性結膜炎, 結膜天疱瘡, 外傷, 熱傷, 腐蝕等ニ因ル結膜及ビ 瞼板ノ瘢痕收縮ニヨツテ起ルモノデアアルガ。本邦デハ 瘢痕性眼瞼内反ノ大部分ハ 「トラコーマ」ニ因ルモノデ, 「トラコーマ」ノ後胎症トシテ 屢ニ 睫毛亂生ト合併シテ現レル。其ノ症狀トシテ 睫毛ハ角膜ニ向ツテ 之ヲ刺戟シ。流淚 及ビ 異物感ヲ起シ。角膜ハ次第ニ潤濁シテ 視力障礙ガ起ル。療法。ホッツ氏手術ヲ行フカ。又ハ クラント氏法ニヨツテ瞼板ヲ切除スル。本例ハ 69歳ノ男子ノ「トラコーマ」ニ因ル瘢痕性内反デ。睫毛亂生ヲ併發シテ居ル。患者ハ 28歳ノ時 既ニ瘢痕性内反及ビ睫毛亂生ヲ認メタガ。其後 何等手術ヲ受ケザル爲。諸症狀ハ増悪シ。角膜ニハ重篤ナル角膜白斑ヲ生ジ。現在デハ 視力ハ 右眼 手動, 左眼 20 種指數デアアル。

64. 睫毛亂生 兼 後眼瞼癒着 Trichiasis et Symbblepharon posterius.

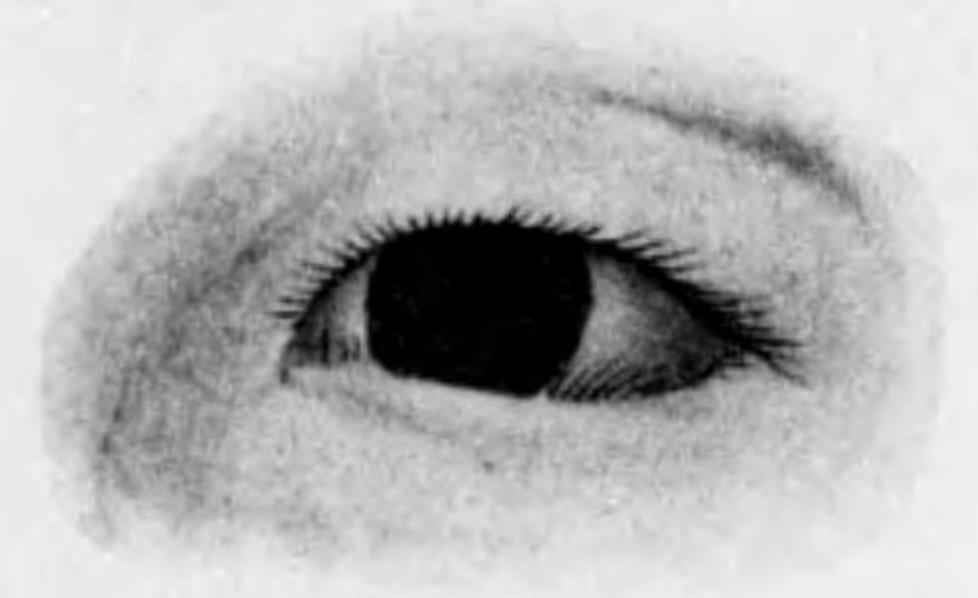
睫毛亂生ハ俗ニさかさまつげト稱シ。睫毛ノ排列 若シクハ其方向ガ不整デ。且ツ睫毛ノ發育モ亦不全デ。異常ニ太ク短ク。或ハ著シク纖細デ 毳毛ノ如キ狀ヲ呈スルコトモアル。其ノ角膜ニ向ヘルモノハ 角膜面ニ接觸シテ 之ヲ刺戟シ。流淚, 羞明, 異物感等ヲ起シ。角膜ハ次第ニ潤濁シテ 視力ヲ害スル。甚ダシキ時ニハ 角膜ニ「パンヌス」又ハ潰瘍ガ起ル。睫毛亂生ハ「トラコーマ」ノ後胎症トシテ 眼瞼内反ト同時ニ來ルコトガ最も多イ。即チ「トラコーマ」ニ因リ 結膜及ビ 瞼板ノ瘢痕收縮ガ起リ。眼瞼内反ヲ來シ。睫毛囊モ亦病變ヲ受ケテ 本症ガ發現スル。其他稀デハアルガ 眼瞼緣炎, 熱傷, 腐蝕, 眼瞼潰瘍等ニヨル瘢痕ニヨツテ 本症ガ起ルコトガアル。睫毛亂生ノ療法トシテ 亂生睫毛ヲ拔去スル法ハ 一時的デ 通常 2-3 週間デ再發スル。少數ナラバ電氣分解法ニヨツテ 毛囊ヲ一々破壊スルノモイガ。亂生睫毛ガ多數ナル時ニハ 手術ニヨツテ 瞼緣ヲ外方ニ向ハシメル。ホッツ氏法 又ハ 瞼板切除術ガ最も多ク行ハレル。眼瞼癒着ニ就テハ XV 参照。本例ハ 73歳ノ女子ニ於ケル 陳舊ナル「トラコーマ」ニ因ル 睫毛亂生 兼 後眼瞼癒着デアアル。

65. 麻痺性眼瞼外反 兼 兔眼性角膜炎 Ectropium paralyticum et Ceratitis e lagophthalamo.

麻痺性眼瞼外反ハ 眼輪匝筋麻痺(顔面神經麻痺)ニヨツテ起リ。下眼瞼ハ 其ノ重サノ爲ニ 次第ニ下垂シ 且ツ外反シ。眼輪匝筋收縮ニヨツテモ 眼瞼ハ眼球ヲ蔽覆シ得ザルニ至ル。故ニ 麻痺性外反ハ 上眼瞼ニ見ル事ナク。常ニ 下眼瞼ニ見ラレル。瞼裂閉鎖ニ際シテ 下眼瞼ヲ上ゲル事ガ不能デアアル爲 遂ニハ 兔眼ヲ來ス。兔眼ガ長ク續イテ 瞼裂ガ閉鎖不全デアアル時ハ。角膜ハ外界ノ刺戟ニヨリ 兔眼性角膜炎ヲ惹起スルコトガアル。



61. 睫毛白癜風 Vitiligo vulgaris.



62. 皮膚性眼瞼内反 Entropium cutaneum.



63. 瘢痕性眼瞼内反 Entropium cicatricium.



64. 睫毛亂生 Trichiasis 兼 後眼瞼癒着 Symbblepharon posterius.



65. 麻痺性眼瞼外反 Ectropium paralyticum 兼 兔眼性角膜炎 Ceratitis e lagophthalamo.



66. 瘢痕性眼瞼外反 Ectropium cicatricium 兼 兔眼性角膜炎 Ceratitis e lagophthalamo.

療法。顔面神経麻痺ニ對スル療法ヲ行ヒ、尙ホ長ク治セザル場合ニハ、整形手術トシテ下眼瞼短縮術ヲ行フ。

本例ハ 61 歳ノ男子デ 腦出血ニヨル顔面神経麻痺ノ爲メ 麻痺性眼瞼外反ヲ起シタモノデ。左眼ハ閉瞼不能トナリ。下眼瞼ハ輕度ノ外反ヲ示シ、結膜ハ充血シ 角膜ハ一般ニ潤濁シ、其ノ下半部ニ 着色性白斑ガアル。此白斑ノ一部ハ フルオレスチン液ニ染色スル。角膜ニハ知覺減退ガアツテ、同時ニ三又神經麻痺ガ認めラレタ。下眼瞼整形術ニヨツテ 眼瞼外反ハ殆ンド治癒シタ。

66. 癩痕性眼瞼外反 Ectropium cicatricium.

癩痕性外反ハ 眼瞼外反中 最も多ク H 高度ノモノガ見ラレル。原因ハ 眼瞼皮膚ノ癩毒、結核、外傷、熱傷、腐蝕、其ノ他ノ潰瘍、眼窩縁ノ骨瘍等ニ因ル癩痕收縮。外反ガ極メテ輕度ナル時ニハ 瞼縁ハ僅カニ眼球ヨリ隔離シ 深點外反 Eversio puncti lacrimalis ガ 起リ 流淚ヲ訴フルニ過ギナイガ、高度ノモノニアツテハ 瞼結膜ハ空氣中ニ暴露サレテ 充血肥厚シ、著シク外貌ヲ損シ、又 瞼裂閉鎖不全ノ爲ニ 屢、兔眼 Lagophthalmus ヲ 起シ 兔眼性角膜炎 Ceratitis e lagophthalmo ノ 爲ニ 失明スルコトガアル。

療法。輕度ノ場合ニハ 癩痕部ヲ横ニ切開シ 之ヲ縦ニ縫合スル。高度ノ時ニハ 皮膚瓣ヲ移植シテ 癩痕ノ牽引ヲ緩メル。

本例ハ 21 歳ノ女子ニ於ケル 熱傷ニ因ル癩痕性外反デアル。患者ハ 14 歳ノ時ヨリ 癩癩ニ罹患シテ 居タガ、約一年前 其發作時ニ際シ 携ヘタル提燈ヨリノ失火ニヨツテ 顔面 頸部 手等ニ廣汎ナル火傷ヲ 受ケタモノデアル。高度ノ癩痕性外反ノ外 充血肥厚セル結膜、兔眼、角膜潰瘍等ガ見ラレル。療法トシテ下眼瞼ニ 左腕上膊ヨリ 皮膚瓣ヲ移植シタ。

XV. 臉球癒着・臉裂縮小

(67, 68, 69, 70, 71.)

XV. 瞼球癒着・瞼裂縮小

瞼球癒着 Symblepharon トハ 瞼結膜ト球結膜 若クハ 瞼結膜ト角膜トガ癒着シタモノヲ 謂フノ
 デ、其ノ形状ニ從ツテ 之レヲ三種ニ區別スル。即チ 結膜穹窿部ニ於テ 瞼結膜ト球結膜トガ癒着スル時ニ
 ハ 之ヲ 後瞼球癒着 Symblepharon posterius ト稱シ、眼瞼ヲ反轉スレバ 索狀癒着ガ見ラレル。結
 膜穹窿部以外ニ於テ 瞼結膜ト球結膜トガ癒着スル時ニハ 橋狀癒着ガ生ジ 消息子ハ其下ヲ自由ニ通
 ジ得ルコトガアル。之ヲ 前瞼球癒着 Symblepharon anterius ト謂フ。癒着ガ更ニ高度トナレバ 眼
 瞼ト眼球前面トハ 全ク癒着シテ 全瞼球癒着 Symblepharon totale トナル。瞼球癒着ノ結果 結膜
 囊ハ其ノ深サヲ減ジ、甚ダシキ場合ニハ 眼球ノ運動ガ制限セラレル。本邦ニテハ 最モ屢、「トラコーマ」ニ
 因ル穹窿部結膜ノ癒着収縮ニヨツテ起リ、從ツテ後瞼球癒着ガ見ラレル。其ノ他ノ原因トシテ 外傷、殊ニ
 熱傷、腐蝕、又 結膜ノ潰瘍等ガ舉ゲラレル。療法ハ 成形手術。

67. 前瞼球癒着 Symblepharon anterius.

本例ハ 17 歳ノ女子ニ於ケル前瞼球癒着デ、原因ハ 不明デアル。

68. 後瞼球癒着 Symblepharon posterius.

本例ハ 23 歳ノ男子デ 10 歳ノ時 橋ノ上カラ 河ノ中ニ墜落シ、枕ニ當ツテ 左眼外背部ニ外傷ヲ受ケ
 瞼球癒着ヲ起シタモノデアル (64. 参照)。

69. 全瞼球癒着 Symblepharon totale.

本例ハ 23 歳ノ男子ニ於ケル 全瞼球癒着 及ビ 瞼縁癒着デ、原因ハ 灼熱セル鐵片ガ 内背部ニ飛
 來衝突シテ起ツタ熱傷デアル。

70. 瞼縁癒着 Ancyloblepharon.

外傷又ハ潰瘍等ノタメニ 上下兩眼瞼縁ガ癒着スルトキ 之ヲ瞼縁癒着ト謂フ。稀ニ眼瞼ノ先天異常ト
 シテ 先天性瞼縁癒着ヲ見ルコトガアル。瞼縁癒着ハ 眼瞼縁ノ一部ニ止ルコトアリ、或ハ全眼瞼縁ニ起
 ルコトガアツテ、瞼裂縮小ノ一原因トナル。同時ニ瞼球癒着ヲ合併スルコトガ多イ。

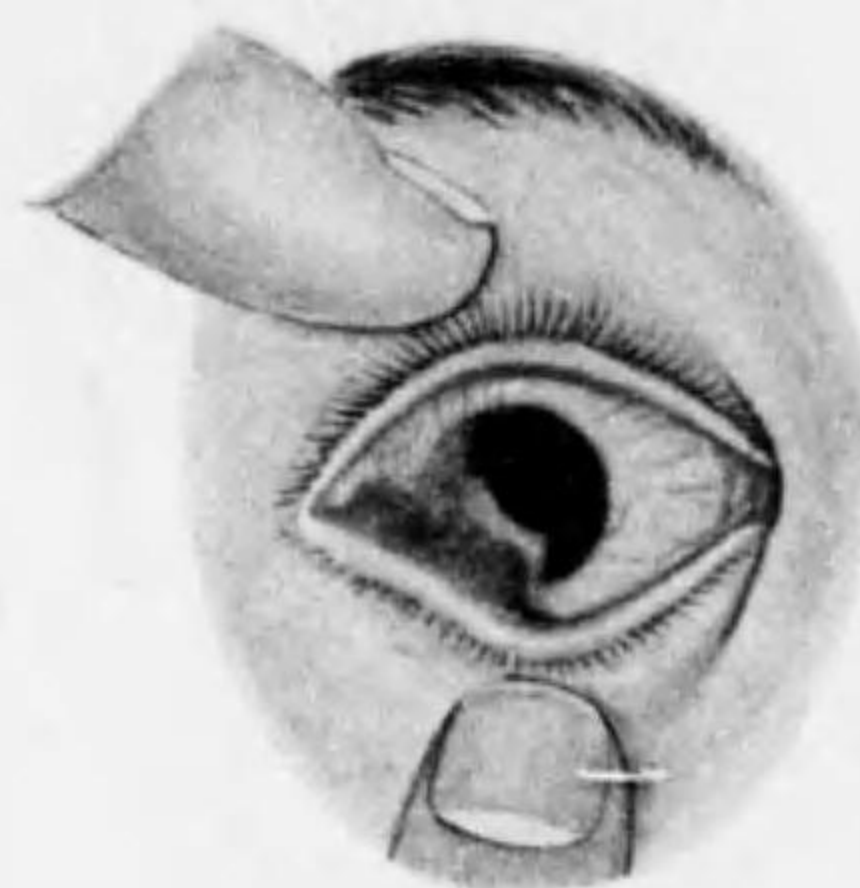
療法。成形手術。

本例ハ 13 歳ノ女子ニ於ケル 瞼縁癒着デアル。外背部ニ於テ 上下兩眼瞼縁ハ 約 0.5 釐ノ幅ヲ有ス
 ル橋狀ノ癒着ヲ以テ癒着シテ居ル。瞼球癒着ハ見ラレナカツタ。

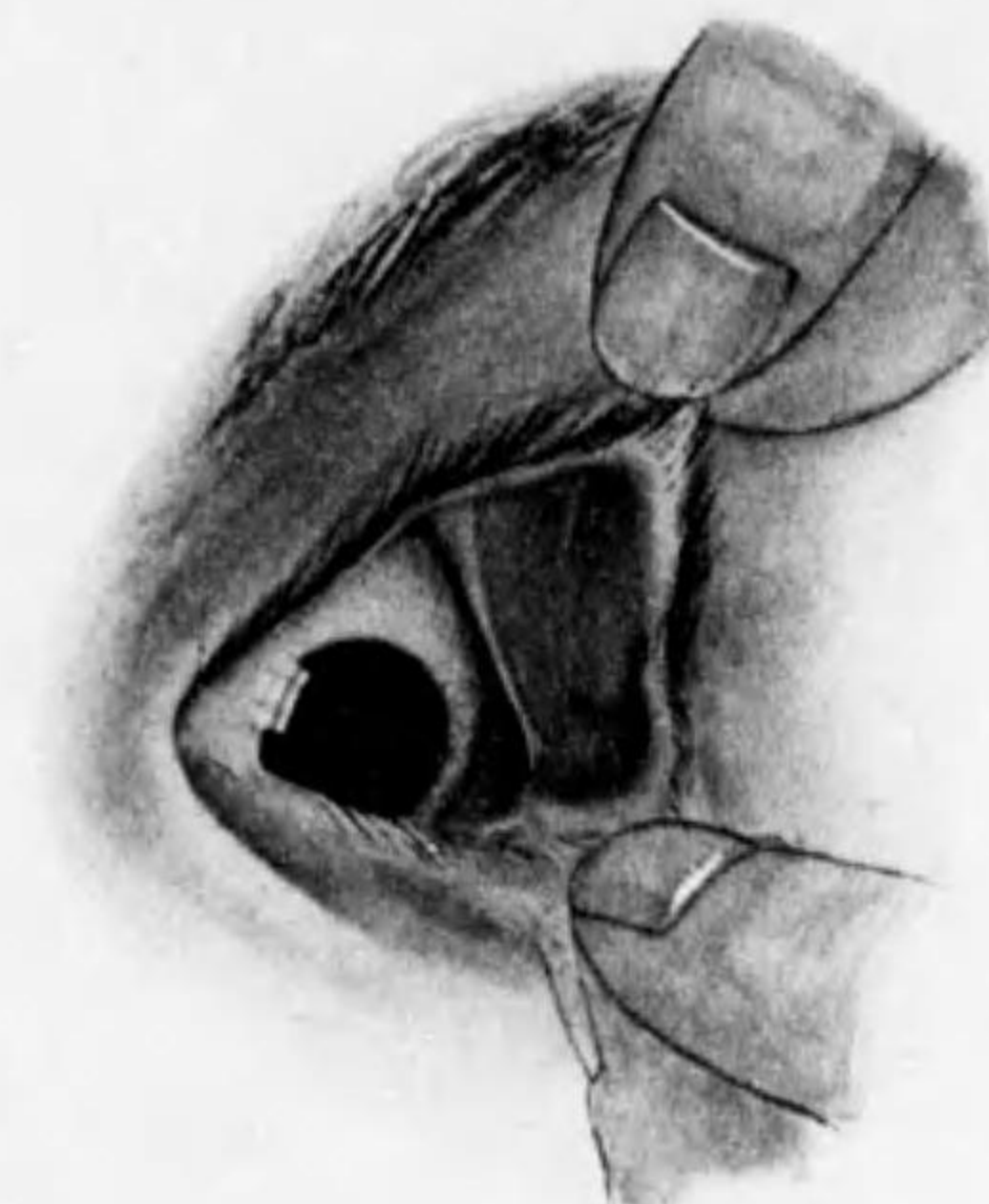
71. 瞼裂縮小 Blepharophimosis.

瞼縁癒着ニ因リ、或ハ 眼瞼収縮シテ、又ハ 稀ニ 先天性ニ 瞼裂ガ 縮小スル。之ヲ 瞼裂縮小ト謂
 フ。主トシテ「トラコーマ」ノ癒着期ニ 眼瞼内反、睫毛亂生、瞼球癒着等ニ合併シテ來ル。即チ「トラコー
 マ」ニヨル 結膜ノ癒着収縮、或ハ 眼瞼痙攣ニヨル 靱帶ノ伸長等ノ爲ニ 瞼裂縮小ガ起ル。先天性ノモノ
 ハ 之ヲ 小眼瞼ト稱シ、眼瞼下垂、眼瞼内反、小眼球等ヲ伴フコトガ多イ (3. 参照)。療法ハ外背成
 形術。

本例ハ 38 歳ノ男子ニ於ケル「トラコーマ」ニ因ル 瞼裂縮小デアル。「トラコーマ」ハ 陳舊ナルモノデ、
 既ニ癒着期ニ入り、睫毛亂生、眼瞼内反、「パンヌス」等ガ見ラレル。



67. 前瞼球癒着
Symblepharon anterius.



68. 後瞼球癒着
Symblepharon posterius.



69. 全瞼球癒着
Symblepharon totale.



70. 瞼縁癒着
Ancyloblepharon.



71. 瞼裂縮小 Blepharophimosis.

XVI. 臉裂哆開·眼臉下垂

(72, 73, 74.)

XVI. 瞼裂哆開・眼瞼下垂

72. 交感神経ノ刺激及ビ麻痺ニ因ル 瞼裂哆開及ビ眼瞼下垂

バセドウ氏病ニ於テハ 交感神経緊張ガ起リ、瞼裂哆開 散瞳 調節障碍 眼球突出等ノ眼症状ガ起ル。瞼裂哆開ハ 交感神経ニヨツテ支配サル、上下兩瞼板筋ガ 刺激サレルニ因ツテ起ル。之ニ反シテ 甲状腺腫等ニ因リ 頸部交感神経ガ 壓迫セラレテ 萎縮シ 麻痺ニ陥ル時ニハ 眼瞼下垂 縮瞳 眼球陥没(ホルネル氏症候群)及ビ 眼壓下降等ノ眼症状ガ現レル。之レ等ノ諸眼症状ハ 總テ 軽度ノモノデア

ル。
本例ハ 29歳ノ女子ニ於ケル 右眼ノ交感神経緊張 左眼ノ交感神経麻痺デアル。右眼ノ瞼裂哆開 左眼ノ眼瞼下垂等 交感神経ノ異常ニ因ル諸症状ガ見ラレル。内科的検査ニヨリ 不完全ノバセドウ氏病及ビ 甲状腺腫ガ證明サレタ。

73. 交感神経麻痺ニ因ル 眼瞼下垂 Ptosis.(右)

本例ハ 70歳ノ男子デ 右側頸部交感神経切除後 5日ノ所見デアル。瞼裂ハ 左 8mmニ對シ 右 5mm。瞳孔徑 左 4.5mmニ對シ 右 3.5mm。眼壓 左 13mm Hgニ對シ 右 10mm Hgデアルガ、眼球ノ陥没ハ 證明セラレナカッタ。

74. 動眼神経麻痺ニ因ル 眼瞼下垂 Ptosis.(左)

動眼神経ハ 大脳導水管ノ底部ニ存在スル核ヨリ發シ 腦橋ノ前ニテ 大脳ヲ出デテ 海綿竇外壁ニ接シ ツツ 滑車神經ト共ニ前進シ、上眼窩裂ヲ通過シテ 眼窩内ニ出デ 眼球ニ達シテ、上直筋、内直筋、下直筋、下斜筋、上瞼舉筋、毛様筋、及ビ 瞳孔括約筋ヲ支配シテ居ル。微毒、眼窩腫瘍、副鼻竇ノ炎症、外傷等ニ因リ 動眼神経ガ麻痺スル時ニハ 其支配ヲ受ケル各筋モ 麻痺スル。各筋ノ單獨ノ麻痺ハ 極メテ稀デ、多クハ 數筋ガ 共ニ麻痺スル。其症状ハ 麻痺性斜視、麻痺性眼瞼下垂、麻痺性散瞳、及ビ 調節麻痺デアル。上瞼舉筋ノ麻痺 即チ 動眼神経麻痺ニヨル麻痺性眼瞼下垂ハ 上瞼板筋ノ麻痺 即チ 交感神経麻痺ニ因ルモノヨリハ 下垂ノ度ガ 遙ニ強イ。麻痺性眼瞼下垂ニ對スル療法トシテハ 原因的療法ヲ第一トシ、若シ長ク治セザル場合ハ 手術スル。

本例ハ 35歳ノ男子ニ於ケル 左眼動眼神経麻痺性眼瞼下垂デアル。眼球運動ハ 上下内方ニ障碍セラレ、瞳孔ハ散大シ、調節ハ麻痺シテキル。



72. 交感神経ノ刺激及ビ麻痺ニ因ル 瞼裂哆開(右)及ビ眼瞼下垂(左)



73. 交感神経麻痺ニ因ル眼瞼下垂(右)



74. 動眼神経麻痺ニ因ル眼瞼下垂(左)

XVII. 眼瞼下垂

(75, 76, 77, 78.)

XVII. 眼瞼下垂

75. 先天眼瞼下垂 Ptosis congenita.

本症ハ先天異常デアツテ、上瞼挙筋 若クハ 之ヲ支配スル神經ノ發育異常 又ハ 缺損ニ因ツテ起リ、眼球ノ他ノ異常 即チ 眼筋麻痺、眼球震盪、無眼球、小眼球、小眼瞼等ヲ合併スルコトガ多イ。家族性ニ現ハレルコトガアル。一眼ノミノコトガアルガ、概ネ兩眼ニ來リ、下垂高度ナル時ハ 患者ハ 努力シテ開瞼セントスル爲メ 前頭筋 M. frontalis ヲ緊張セシメ 其結果 眉弓ハ舉上サレ 前額ニ多数ノ横皺ガ生ズル。尙 患者ハ 瞳孔ヲ險裂ニ移サント努メテ 頭部ヲ後方ニ傾ケ 一種特有ナル頭位ヲ示スコトガ多イ。療法ハ手術。石原式眼瞼下垂手術式ガ良イ。

本例ハ 17 歳ノ女子ニ於ケル 左眼ノ先天眼瞼下垂デアル。眼瞼下垂ハ 3 歳ノ頃ニ氣付キ、其後漸次其度ヲ増加シタ。左眼ニハ 眼瞼下垂ノ外 麻痺性内斜視ガ認めラレルガ、兩眼共視機能ニハ異常ガナカッタ。

76. トラコーマ性眼瞼下垂 Ptosis trachomatosa.

「トラコーマ」ニ因リ 瞼結膜 及ビ 穹窿部結膜ニ 汎發性ノ 細胞浸潤ガ起リ、結膜ハ 肥厚潤濁スルヲ常トスルガ、「トラコーマ」ノ病勢旺盛ナル時ハ コノ浸潤ハ 更ニ進シテ 眼瞼ノ深部ニ波及シ、眼瞼 及ビ 瞼板ハ 著シク肥厚スル。此際 上眼瞼ノ瞼板上縁ニ附着セル上瞼板筋 M. tarsalis superior モ亦侵サレテ麻痺シ、上眼瞼ノ肥厚ニ因ル重量増加ト相俟ツテ 中等度ノ眼瞼下垂ガ起ルコトガアル。之ヲ「トラコーマ」性眼瞼下垂ト謂フ。此眼瞼下垂ハ「トラコーマ」ノ病勢ト共ニ 或ハ増悪シ 或ハ輕快スルモノデ、適時ニ「トラコーマ」ニ對スル療法ヲ行フ時ハ 治癒スル。

本例ハ 49 歳ノ女子ニ於ケル「トラコーマ」性眼瞼下垂デアル。約一年半前ヨリ 左眼瞼陶シクナリ、漸次 上眼瞼ガ下垂シタ。「トラコーマ」ハ 兩眼ニアルノデアルガ、其ノ炎症ノ程度ニ 左右著明ノ相異ガアリ、右眼ニ比シテ 左眼ガ高度デ 眼瞼ノ肥厚ガ強イ爲メニ 下垂ノ程度モ 左眼ガ高度デアル。

77. 78. 眼筋無力症 Myasthenia ocularis. (田野邊氏)

本症ハ好シテ 15 歳以下ノ幼年者ヲ侵シ 相次イデ兩眼外眼筋ノ運動障礙ヲ起シテ來ル 比較的稀ナ慢性ノ疾患デアル。著シイモノニアツテハ 兩眼球ハ各方向ニ殆ド動カズ 上眼瞼下垂シ 前頭筋ノ力ヲ借りテ僅ニ 2-3 耗險裂ヲ開キ得ルノミデアルガ、カハル場合デモ 内眼筋ガ全ク正常デアルコトガ 特徴デアル。

本症ハ 休息ニヨツテ眼症輕快シ 疲勞時ニハ増悪スルトイフ特有ナ現象ヲ示ス。從ツテ 朝ハ良ク 午後ニナルト 悪クナル。然シ 内科デイフ 重症筋無力症 Myasthenia gravis 又 Asthenische Bulbärparalyse ト異ル點ハ 重症筋無力症ハ 20-40 歳ニ發病シ 15 歳以下ニハ殆ド起ラズ 且ツ 眼筋以外ニモ 咬筋、背筋、四肢筋等ヲ侵シ 遂ニハ呼吸筋ニモ及ンデ 其ノ過半数ニ於テ死亡スルニ反シ、本症デハ 15 歳以下ノ若年者ニ好發シ 相當長年月ヲ經ルモ 眼筋ニダケ止ツテ 生命自身ニ對スル豫後ノヨイコトデアル。

本症ノ本態ハ 神經系統トハ無關係デ、横紋筋タル外眼筋自身ガ ソノ特有ノ疲勞性ヲ有スルモノト考ヘラレル。

治療法。甲状腺製劑ニヨリ輕快シ 又 治療ヲ見ルコトガアル。

本例ハ 9 歳ノ女子ニ於ケル眼筋無力症デ、約 3 年前ニ 左眼ノ斜視ニ氣付キ、2 年前カラ 左眼瞼下垂起リ、本年ニ入り 右眼瞼下垂ト右眼球運動障礙トヲ起シテ來タ。眼球ハ 兩眼共ニ運動ガ障礙サレテキルガ 瞳孔反應ニハ 異常ガナイ。十數分間閉瞼シテ休息セシメルト 圖ニ見ル如ク 眼瞼下垂ハ消失シ、眼球運動モ ヨクナル。



75. 先天眼瞼下垂(左)
Ptosis congenita.



76. トラコーマ性眼瞼下垂(左)
Ptosis trachomatosa.



77. 眼筋無力症
Myasthenia ocularis.



77. 76. 患者ノ 30 分間閉瞼休息後

XVIII. 眼險痙攣·險裂閉鎖不全

(79, 80, 81, 82.)

XVIII. 眼瞼痙攣・瞼裂閉鎖不全

眼瞼痙攣 Blepharospasmus ハ 顔面神経ノ支配ヲ受ケル 眼輪匝筋ノ 強直性(強直性眼瞼痙攣 Blepharospasmus tonicus) 又ハ 間代性(間代性眼瞼痙攣 Blepharospasmus clonicus)ノ痙攣デ...

79. 症候性眼瞼痙攣 Blepharospasmus symptomaticus.

角膜又ハ結膜囊内ノ異物. 睫毛亂生. 角膜フリクテン. 角膜潰瘍. 虹彩毛様體炎. 緑内障等ニ際シニ又神經ガ刺戟セラレ 反射的ニ 眼輪匝筋ノ痙攣ガ起ルコトガアル. 此痙攣ハ 原病ノ一ツノ症候ト見ルベキデ...

80. 特發眼瞼痙攣 Blepharospasmus essentialis.

眼輪匝筋ノ特發性痙攣デアツテ「ヒステリー」ニ因ルモノガ最多イ. 故ニ「ヒステリー」性眼瞼痙攣 Blepharospasmus hystericus トモ稱セラレレル. 通常若キ女子ニ多ク. 瞼裂ハ 何等ノ誘因ナクシテ 完全ニ 或ハ 不完全ニ閉鎖サレテ 恰モ眼レカ如キ状態トナル. 常ニ 兩眼ニ來リ. 重症ノ患者ハ 他人ノ扶助ヲ受ケナケレバ 歩行不可能デアル.

81. 顔面神経痙攣 Spasmus nervi facialis. (右)

顔面神経ニヨツテ支配セラレレル筋肉ノ痙攣ハ 此種ノ痙攣中 最も屢ニ見ラレル. 痙攣ハ 顔面神経ノ全分布部ニ汎發スルコトモアリ 又 部分的ニ 一二ノ顔面筋ニ發スルコトモアル. 眼瞼痙攣 Blepharospasmus ハ 眼輪匝筋ノ痙攣デ 後者ニ屬シ. 其ノ代表的ナルモノデアル.

82. 顔面神経麻痺. 麻痺性兔眼 Paralysis nervi facialis, Lagophthalmus paralyticus. (右)

顔面神経ハ 其位置竝ニ走行ノ關係上 脳神経中 最も屢ニ侵サレテ 麻痺ニ陥ル. 最も普通ニ現レル症状ハ 表情運動ノ麻痺 即チ 顔面筋ノ麻痺デ. 麻痺ノアル顔面半側ニ於テハ 筋肉ハ弛緩シテ 表情ヲ失ヒ. 前額ノ皺襞ハ消失シ. 鼻唇襞ハ不明トナリ. 口角ハ下垂シ. 流涎ヲ見ルコトガ多イ.



79. 「フリクテン」ニ因ル 症候性眼瞼痙攣 Blepharospasmus symptomaticus.



80. 「ヒステリー」ニ因ル 特發眼瞼痙攣 Blepharospasmus essentialis.



81. 顔面神経痙攣(右) Spasmus n. facialis.



82. 顔面神経麻痺(右) Paralysis n. facialis.

第二篇 淚器疾患

(XIX—XX)

XIX. 淚腺疾患

(83, 84, 85, 86.)

XIX. 涙腺疾患

83. 健常涙腺 Glandula lacrimalis normalis.

涙腺ハ上下ノ二部ニ分テ居ル。上涙腺 Glandula lacrimalis superior ハ一ニ主涙腺 又ハ眼窩涙腺トモ稱セラレ、眼窩ノ上外方 骨壁ニ存スル 涙腺窩 Fossa glandulae lacrimalis 中ニ存在スル。下涙腺 Glandula lacrimalis inferior ハ一ニ副涙腺 又ハ眼瞼涙腺ト稱シ。上涙腺ヨリ小デ。上涙腺ト並ニテ 其ノ下ニアリ。上瞼舉筋腱ニヨツテ 上涙腺ト區別セラレ。上下兩涙腺ノ排泄管ハ 上結膜穹窿部ノ外半部ニ開口シテ居ル。上下兩涙腺ハ 共ニ管狀デ 99%ノ水 0.8%ノ食鹽 0.1%ノ蛋白質ヨリ成ル 清澄ナル 涙液ヲ分泌スル。涙液ノ分泌ハ 睡眠時ニハ行ハレナイ。覺醒時 即チ 約 16時間中ニ 0.4-0.6 g ノ涙液ガ分泌サレ。本例ハ 24歳ノ女子ニ於ケル 健常ナル下涙腺デア。上涙腺ハ 其解剖學的位置ヨリ 結膜面カラハ見エナイ。本例ニテハ 尙 瞼裂斑 (192. 參照) ガ見ラレ。

84. 涙腺脱臼 Luxatio glandulae lacrimalis.

涙腺脱臼ハ 外傷性涙腺脱臼ト 自發性涙腺脱臼トニ種ニ區別セラレ。外傷性涙腺脱臼ハ 上涙腺ノ脱臼デ 幼年者ニ多イ。自發性涙腺脱臼ハ 概シ眼瞼皮膚弛緩 Blepharochalasis ニ隨伴シテ起ル。即チ眼瞼皮膚弛緩ニ於ケル 弛緩現象ガ 皮膚ヨリ深部ニ進シテ 眼窩隔障 Septum orbitale ヲ 侵セバ 眼窩脂肪ノ 脱出ヲ來シ、更ニ涙腺周圍ノ組織ニ波及スレバ 涙腺ハ下垂脱臼スル。脱臼セル涙腺ハ 周圍ノ組織トハ癒着シナイ。觸診スレバ 皮下ニ 自由ニ移動スル 涙腺ヲ觸レル。自發性涙腺脱臼ノ 症狀ハ 外背ノ上方ニ於テ 小ナル皮膚ノ隆起ヲ見ルノミデ 時ニ重壓感ヲ生ズルコトモアルガ 患者ハ多クハ何等ノ自覺症狀ヲモ感ジナイ。本例ハ 18歳ノ女子デ、4年前ヨリ 兩側上眼瞼ノ腫脹 下垂ヲ來シタモノデ、觸診スルト 左右ノ上眼瞼中ニ 大サモ硬サモ共ニ尋常ナル 涙腺ヲ觸レル。コノモノハ周圍ト癒着スルコトナク 自由ニ移動サセルコトガデキル。

85. ミクリツツ氏病 Morbus Mikuliczi.

本病ハ涙腺並ニ唾液腺 殊ニ耳下腺ノ兩側對稱ノ慢性腫脹ヲ主徴トスル疾患デ、其ノ原因ニ就テハ諸説一致セズ、未ダ明ラカデナイ。本病ハ各年齢ニ於テ見ラレルガ 殊ニ壯年者ニ多イ。數月乃至數年中ニ 徐々ニ兩側ノ涙腺及ビ唾液腺ガ腫脹スル。コノ腫脹ノ大サハ 通常 正常ノ二倍大以上ニ及ビ、硬キ又ハ肉様ノ硬度ヲ有シ、附近ノ組織トハ癒着セズ、化膿シナイ。本病ハ 生命ニ對スル豫後ハ佳良デア。種々ノ治療ヲ行フモ 概シ治癒シナイ。極メテ稀ニ自發的ニ又ハ治療ニヨリ治癒スル。

療法。「ヨードカリ」又ハ砒素劑ヲ内服セシメ 對症ノ治療ヲ行フ。結核又ハ梅毒アレバ 之レヲ驅除スル。「レントゲン」線照射ガ 時ニ奏效スルコトガアル。

本例ハ 17歳ノ男子ニ於ケルミクリツツ氏病デ 約3年前ニ微候ガ發現シタモノデア。ワッセルマン氏反應ハ 陰性デアツタガ ビルケー氏反應ハ 弱陽性デ 肺尖浸潤ガ認めラレタ。「レントゲン」線照射、砒素劑 及ビ「ヨードカリ」内服、「ツベルクリン」注射ニヨリ 約4箇月後輕快シタ。

86. 涙腺癌腫 Carcinoma glandulae lacrimalis.

涙腺ニ原發セル癌腫ハ 稀ナル疾患デアツテ、流涙又ハ結膜ノ乾燥感等ニテ始マリ、緩慢ニ成長増大シ、漸次隆起シ、觸診スレバ 皮膚ト癒着セザル 分葉狀ノ 軟骨様ノ硬度ヲ有スル腫瘍トシテ認メラレル。癌腫更ニ増大スレバ 眼窩内ニ侵入シ、動眼神經末梢 又ハ 上瞼舉筋ハ 壓迫サレ 又ハ 癌細胞ニ浸潤サレテ 眼瞼下垂シ、茲ニ眼窩腫瘍ノ諸症狀ガ現レル。即チ 眼球ハ突出スルト共ニ内下方ニ偏位シ 同時ニ上外方ヘノ眼球運動ガ制限セラレ。眼球偏位ノ結果 複視ガ起ル。眼球突出高度ナル時ハ 兎眼トナリ、終ニハ眼球脱臼ガ起ル。視神經ハ 癌腫塊ノ爲メニ壓迫伸展セラレテ 視神經炎 鬱血乳頭等ガ起リ、視神經萎縮ニ移行スル。末期ニ至レバ 癌細胞ハ 眼瞼 眼球 眼窩 大隅等ニ侵入シ、且淋巴腺ニ轉移シ、豫後ハ不良デア。

本例ハ 21歳ノ女子ニ於ケル左側ノ涙腺ニ原發シタ涙腺癌腫デア。約2年前ヨリ 左眼ノ結膜ニ乾燥感ガアツタガ、6箇月前ニ 左眼瞼涙腺部ニ相當シテ 小指頭大ノ隆起ヲ認メタ。自發的疼痛ナク、眼球運動及ビ視力ハ健常デアツタガ、輕度ノ眼球突出及ビ壓痛ガアルタメ 某醫ヲ訪レタ所、涙腺腫瘍ノ診斷ノ下ニ 該腫瘍ノ摘出手術ヲ受ケタ。手術後 既ニ1箇月ニシテ 再發起リ、腫瘍ノ増大ト共ニ 漸次左眼ノ視力減退 及ビ 眼球ノ上方運動障礙ガ起ツタノデ、治療ヲ乞フニ至ツタモノデア。本圖ハ其當



83. 健常涙腺 Glandula lacrimalis normalis, 瞼裂斑 Pinguecula



84. 涙腺脱臼 Luxatio glandulae lacrimalis.



85. ミクリツツ氏病 Morbus Mikuliczi.



86. 涙腺癌腫 (左) Carcinoma glandulae lacrimalis.

時ノ寫眞デアル。其所見トシテ 左眼涙腺ニ相當スル部ニ 鳩卵大ノ 多少表面ニ隆起ノアル腫瘍ガ認メラレル。該腫瘍ハ 皮膚トハ癒着セズ、硬度ハ軟骨様デ、輕度ノ壓痛ヲ認メタ。眼瞼ハ下垂シ、臉裂ハ小デアル。尙左眼ハ下方ニ偏位シ、眼球ノ上方回轉ハ 殆ンド不能デ、視力ハ 0.6 ニ減退シ、且右眼ヨリモ 6 耗突出シテ居タ。涙腺腫瘍ノ推定ノ下ニ 當該部ノ皮膚ヲ切開シ、深ク眼窩内ニ達セル該腫瘍ニ對シ殆ンド完全ナリト思ハレル。摘出手術ヲ行ツタ。摘出シタ腫瘍片ニ就テ 組織學的検査ヲ行ツテ、涙腺癌腫ナルコトヲ確定シ得タ。其後一時全治シタカノ如ク思ハレタガ、手術後 9 箇月ニテ再發シタノデ、「レントゲン」線照射ヲ試ミタ。



第 2 圖 涙腺癌腫ノ組織圖
(「ヘマトキシリン・エオジン」染色、擴大約 25 倍)

本圖ハ 86. ノ涙腺癌腫ノ組織圖デアル。本例ハ涙腺ニ原發シタ腺細胞癌デアツテ、腫瘍實質ハ所謂胞巢狀構造ヲ呈シテ 結締織ヨリ成レル間質ニヨツテ圍繞セラレテ居ル。間質ハ實質ニ比シテ多イ所モアルガ一般ニ少イ。實質即チ胞巢ヲナセル癌細胞ハ 直接ニ相密接シ 細胞間ニハ 纖維ハ認メラレナイ。細胞核ハ大デアル。胞巢中ニハ 圓形乃至楕圓形ノ空洞ガ見ラレル。

XX. 淚道疾患

(87, 88, 89, 90.)

XX. 涙道疾患

87. 涙嚢水腫 Hydrops sacci lacrimalis.

主トシテ 結膜「トラコーマ」ガ 涙嚢及ビ 涙鼻管ノ 粘膜ニ 波及スル時、又ハ 稀デハアルガ 外傷 結核性潰瘍 涙道周囲ノ 骨膜炎 骨瘍等ニ 因リ 涙鼻管ノ 粘膜ニ 瘢痕收縮ガ 起リ、涙鼻管ハ 狭窄シ、遂ニ 閉塞サレドモ、之ヲ 涙鼻管閉塞 Obstructio ductus nasolacrimalis ト 稱スル。涙鼻管閉塞ハ 又 先天異常トシテ 來リ、或ハ 鼻腔ノ 疾患 例ヘバ 鼻カタル 臭鼻等ノ 鼻粘膜ノ 炎症ガ 涙鼻管ノ 粘膜ニ 移行スルコトニ 因ツテモ 起ル。涙鼻管閉塞ニ 際シテ 涙嚢ニ 涙液ガ 滯留シ、涙嚢壁ハ 漸次 其 彈性ヲ 失フテ 嚢腔ハ 擴張セラレ、涙嚢部ニ 指壓ヲ 加ヘル時ニハ 涙點ヨリ 涙液ガ 逆流スルコトガアル。之ヲ 涙嚢無力 Atonia sacci lacrimalis ト 謂フ。涙嚢壁ノ 擴張ガ 高度トナレバ 涙嚢ハ 著シク 大トナリ 嚢腫狀ヲ 呈シ、前面ニテハ 皮膚面ニ 波動ヲ 觸レル隆起トシテ 現レ、後方ニテハ 深ク 眼窩内ニ 進入シ 稀ニハ 眼球ヲ 壓排シテ 眼球突出ヲ 起スコトガアル。之ヲ 涙嚢水腫 Hydrops sacci lacrimalis ト 稱スル。患者ハ 醜貌及ビ 流涙ヲ 訴ヘル。涙嚢水腫ハ 又 急性 及ビ 慢性 涙嚢炎ノ 治癒後ニ 起ルコトモアル。

療法。摘出 又ハ 「ヨードチンキ」ノ 注入。

本例ハ 34 歳ノ 女子ニ 於ケル 急性 涙嚢炎ノ 治癒後ニ 起ツタ 巨大ナル 涙嚢水腫 デアル。

88. 涙嚢「トラコーマ」

涙嚢ハ 重層圓柱上皮ニ 被ハレ、穹窿部 結膜ト 類似ノ 構造ヲ 有シ、且ツ 結膜囊ト 連絡シテ キルガ 爲メ、「トラコーマ」ニ 罹リ 易イ。結膜ニ 「トラコーマ」ガ 發病スルト 引續イテ 涙嚢ハ 殆ド 常ニ 罹患シ、組織的ニハ 夫ノ 時期ノ 結膜ト 同様ノ 所見ヲ 呈シ、組織的ニ プロウツェク氏小體ヲ 證明スル事ガ 出來ル。併シ 涙嚢「トラコーマ」ソレ 自身ハ 自覺症狀ガ 少ク、炎症變化ノ 高度ノ 場合ニ 外部カラ 肥厚セル 涙嚢ヲ 觸知シ 得ル 程度 デアル。

結膜「トラコーマ」ガ 慢性期ニ 移行シ、次第ニ 陳舊ニ ナルト、涙嚢「トラコーマ」モ 陳舊ナル 所見ヲ 呈シ、兩者ノ 組織所見ハ 病機ノ 新舊ト 謂フ點デハ 概ニ 並行シテ キル。

涙嚢「トラコーマ」ガ 瘢痕期ニ 移行スルト、瘢痕收縮ノ 爲メ 屢ニ 涙鼻管ノ 狭窄 乃至 ハ 閉塞ヲ 來シ、流涙ヲ 訴ヘ、コレニ 續發傳染ヲ 來タスト 慢性 涙嚢炎(89.)ヲ 併發スル。

本圖ハ 慢性期「トラコーマ」ニ 合併シタ 涙嚢「トラコーマ」ノ 組織圖デ、顆粒 其ノ 他ノ 定型ノ 「トラコーマ」性 變化ガ 見ラレル。

89. 慢性涙嚢炎 Dacryocystitis chronica.

涙鼻管閉塞ニ 因リ 涙嚢ハ 多少 擴張セラレ 涙液ガ 之ニ 蓄留シタトキ 諸種ノ 細菌ガ 涙嚢内ニ 繁殖シテ 化膿ヲ 起スコトガアル。此ノ 際 涙嚢部ヲ 指壓スル時ニハ 涙點ヨリ 膿汁ガ 漏出スル。コノ 状態ヲ 慢性 涙嚢炎ト 稱スル。慢性 涙嚢炎ニテハ 急性 涙嚢炎ト 異リ 發赤 腫脹 疼痛ハ 起ラナイ。患者ハ 多クハ 流涙ヲ 訴ヘルノ ミデアアルガ、涙點ヨリ 漏出シタ 膿汁ハ 結膜囊ニ 流レテ 視力ヲ 害シ、結膜炎ヲ 起シ、又 時トシテ 輕度ノ 角膜外傷ニ 傳染シテ 匍行性 角膜潰瘍ヲ 起スコトガアル。

療法ハ 2% 硼酸水 又ハ 0.03% オキシシアン水銀水ヲ 以テ 涙嚢ヲ 洗滌スレバ 一時的ノ 效果ガアル。根治的療法トシテハ 涙嚢ヲ 摘出スルカ 又ハ トチ Toti 氏法ニ ヲリ 涙嚢ヲ 直接 鼻腔ニ 連絡セシメル。

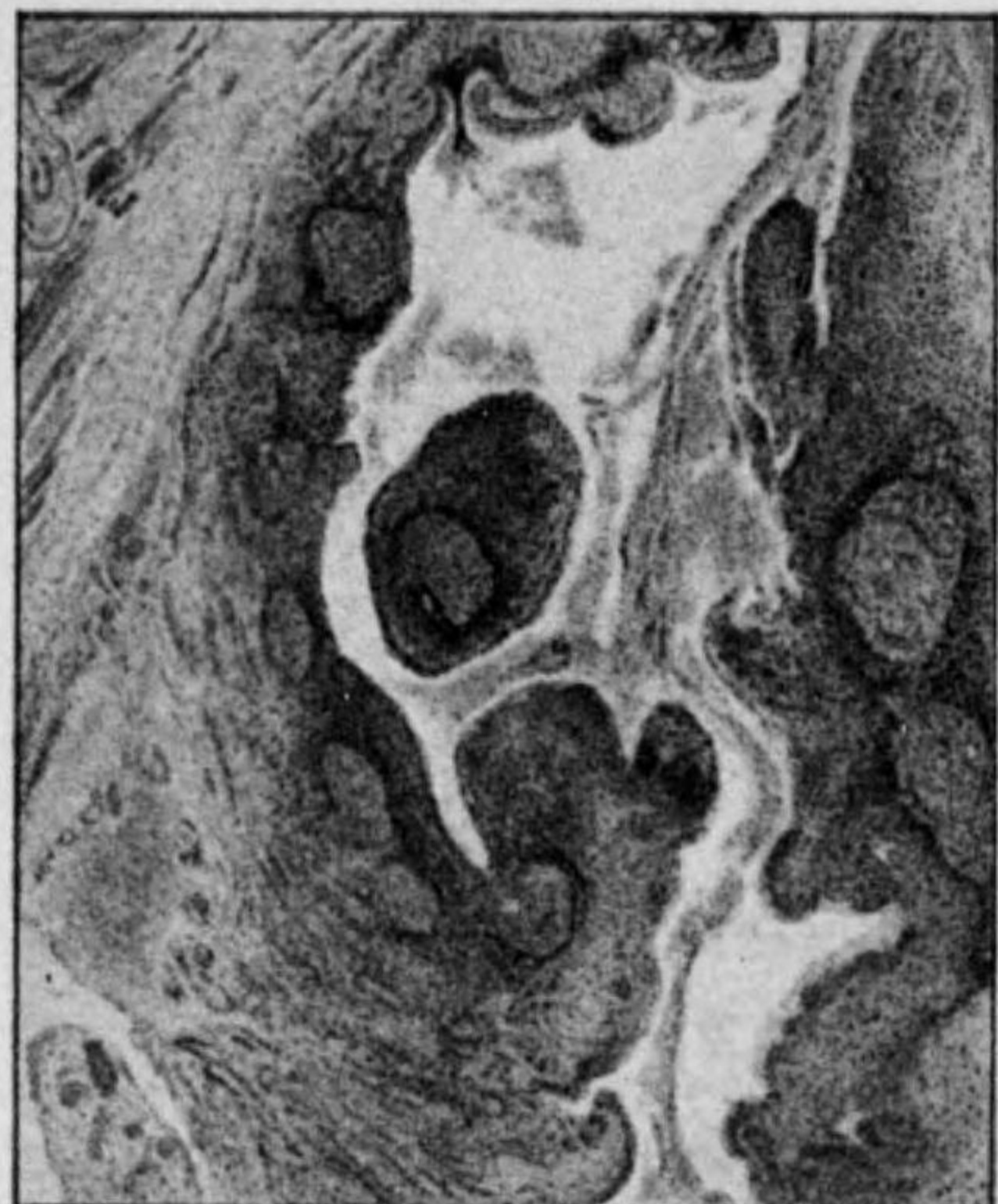
本例ハ 17 歳ノ 女子ニ 於ケル 慢性 涙嚢炎 デアル。本例ハ 「トラコーマ」ニ 因ル 涙鼻管閉塞ニ ヲツテ 生ジタモノデ、患者ハ 約 一年前ヨリ 流涙ヲ 訴ヘテ 居タガ、最近 涙點ヨリ 膿汁ノ 漏出スルノヲ 認メタ。肺炎球菌ガ 膿汁中ニ 證明サレタ。

90. 急性涙嚢炎 Dacryocystitis acuta.

慢性 涙嚢炎ガアルトキ 時トシテ 涙嚢内ノ 細菌ガ 嚢壁ヲ 通過シテ 涙嚢周囲ノ 蜂窠織炎ヲ 起スコトガアル。之ヲ 急性 涙嚢炎ト 稱スル。涙嚢ニ 相當スル 内背部ノ 皮膚ハ 緊張 發赤 腫脹シテ 疼痛ガ 起リ、球結膜ニハ 浮腫ガ 見ラレル。腫脹及ビ 發赤ハ 下行シテ 下眼瞼及ビ 頬部ニ 及ブコトガアルガ、前額竇又ハ 篩骨蜂窠ノ 蓄膿ニ 因ル 内背部ノ 蜂窠織炎ニ 於ケル 場合ト 異リ 急性 涙嚢炎ニ 於ケル 腫脹發赤ハ 通常 内背靭帶ヨリ 上方ニハ 強ク 現ハレナイ。1-2 週間ノ 後 通常 内背ノ 下方ニ 膿瘍ヲ 現ハシ、自然ニ 排膿 治癒スル。治癒後 涙嚢瘻 Fistula sacci lacrimalis ヲ 貽スコトガアル。

療法。初期ニハ 冷電法、極期ヲ 過ギレバ 温電法、波動ヲ 觸レルニ 至レバ 切開 排膿スル。

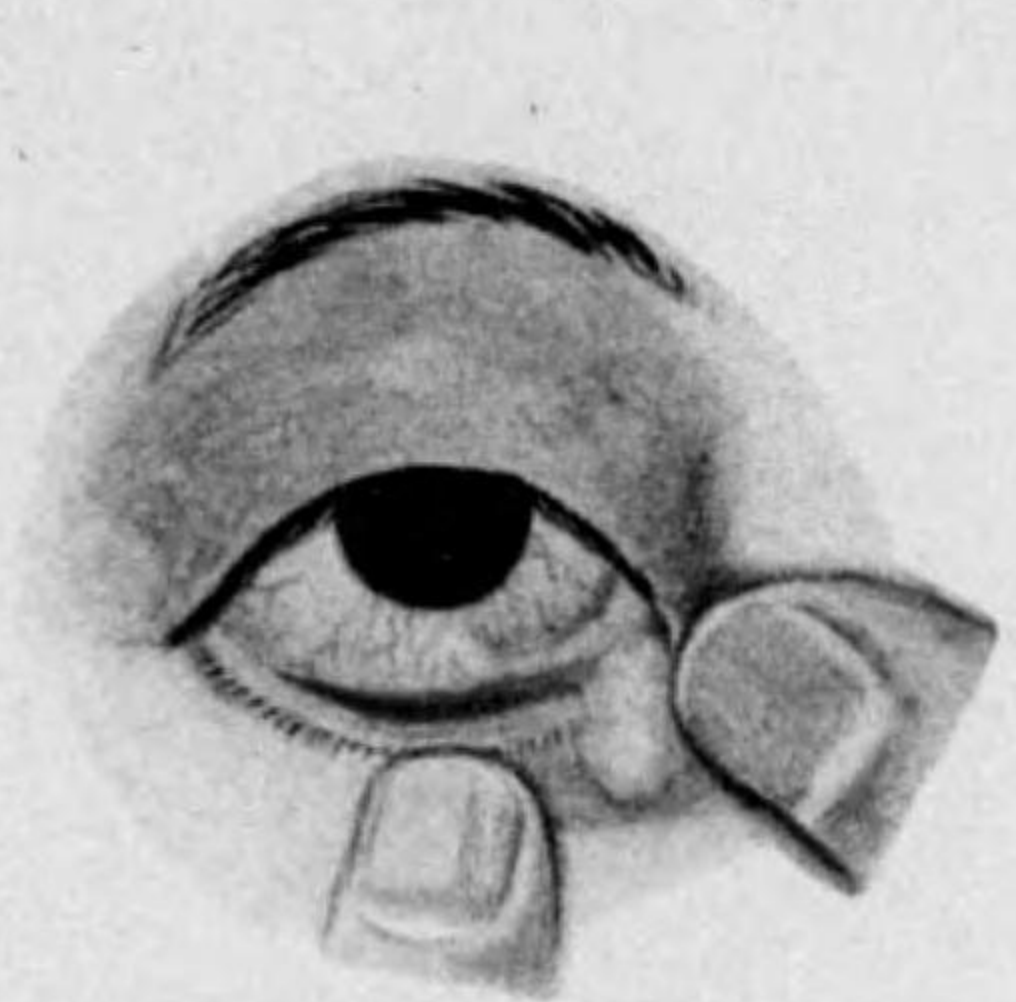
本例ハ 48 歳ノ 女子ニ 於ケル 急性 涙嚢炎 デアル。患者ハ 以前カラ 「トラコーマ」ニ 罹ツテ 居テ 眼脂ト 流涙ト ガアツタ。數年前カラ 兩眼ニ 慢性 涙嚢炎ガ アツタ 度々 涙管消息子ヲ 通シテ モラツタガ 治癒シナカッタ。數日前カラ 涙嚢部ガ 發赤 腫脹シテ 壓痛ヲ 覺エルヤウニ ナツタ。腫脹部ニ 切開ヲ 施シ 濕布 繃帶ヲ 行ツタ處、數日ニシテ 症狀ガ 大ニ 輕快シタ。



88. 涙嚢「トラコーマ」 「ヘマトキシリン・エオジン」染色 (擴大約 20 倍)



87. 涙嚢水腫 Hydrops sacci lacrimalis.



89. 慢性 涙嚢炎 Dacryocystitis chronica.



90. 急性 涙嚢炎 Dacryocystitis acuta.

第三篇 結膜疾患

(XXI—XXXIX)

XXI. 健常結膜・結膜出血

(91, 92, 93, 94, 95, 96.)

91. 92. 93. 健常結膜 Conjunctiva normalis.

結膜ヲ分ツテ 瞼結膜 Conjunctiva palpebrae s. tarsi, 球結膜 Conjunctiva bulbi 及ビ穹窿部結膜 Conjunctiva forniciis ノ三部トスル。又 角膜ノ表層ハ 結膜ノ性質ヲ有シ 諸種ノ結膜病ニ罹ルヲ以テ 此ノ部ヲ 角膜部結膜 Conjunctiva corneae ト 稱シテ 便宜上結膜ノ部ニ加ヘラレル。角膜部結膜ト 球結膜トノ移行部ヲ 角膜縁 Limbus corneae ト 謂フ。球結膜ト 穹窿部結膜トノ移行部ニハ 鼻側ニ 半月狀ノ皺襞ガアル。之レヲ半月狀皺襞 Plica semilunaris ト 稱シ 動物ニ存在スル所ノ瞬膜ノ遺物デアアル。

結膜ハ 全體トシテ 皴裂ヲロトスル所ノ一ノ囊ヲ形成スル。之レヲ結膜囊 Saccus conjunctivae ト 呼ブ。上瞼結膜 及ビ 角膜部結膜ノ全部。並ニ下瞼結膜ノ 瞼縁ニ近イ一部。及ビ 球結膜ノ 角膜縁ニ近イ一部ハ 鞏固ニ下層ノ鞏韌ナ組織ト結合シテ 移動サセ難ク。穹窿部結膜ノ全部。球結膜ノ大部。並ニ下瞼結膜ノ一部ハ 下層ニ鬆粗ナ結締織ガアルタメ 自由ニ移動サセルコトガ出來ル。

結膜ノ上皮ハ 角膜部結膜ト 球結膜ト 瞼結膜ノ 瞼縁ニ近イ一部分トニ於テハ 重層扁平上皮デ。其ノ他ノ部分。即チ穹窿部結膜ト 之レニ隣接シテキル 瞼結膜ノ大部分ニ於テハ 重層圓柱上皮デアアル。

健常結膜ハ 菲薄透明デ 良ク血管及ビ下層ノ組織ヲ透視シ得ル。臨床上 瞼結膜ガ帶黃色ヲ呈シ。球結膜ガ乳白色ヲ呈シ。穹窿部結膜ガ淡紫紅色ヲ呈スルノハ 皆下層組織ノ色ヲ透視スルガ爲デアアル。

94. 結膜淋巴管擴張 Lymphangiectasia conjunctivae.

結膜ノ淋巴管ハ 肉眼デハ通常認メ得ザルモノデアアル。但シ 結膜下出血ノ際ニハ 往々之ヲ認メ得ルコトガアル。又 時ニハ 圓ニ見ル如ク 淋巴管ガ高度ニ擴張スル時ハ 透明ナ水泡狀ノ 蔓狀 又ハ 平坦ナ小疱トシテ現レルコトガアル。自覺的ニハ 異狀ヲ認メナイノガ常デアアル。

本例ハ 37 歳ノ女デ 右眼ニ異物感ヲ訴ヘテ外來ヲ訪レタモノデアアル。球結膜ニ於ケル水泡狀ノ 蔓狀ノ 淋巴管ハ 壓迫スレバ消失スルガ 壓ヲ去ル時ニハ 直ニ再ビ現レテ來ル

95. 單純性紫斑病 Purpura simplex.

本例ハ 26 歳ノ男子。約一箇月前 手足ニ 小出血點ガ 澤山ニ現レ。皮膚科ニテ Purpura simplex ノ診斷ヲ下サレタモノデアアルガ。眼科ニテ結膜炎ノ治療ヲ行フ中 偶然 結膜ニ出血斑ガ現レタモノデアアル。出血ハ 數日ノ後 殆ド消失シタ。眼底ニハ 出血ヲ認メズ。

一般ニ 單純性紫斑ハ 最モ多ク下腿ニ發シ。時ニ上腿ヨリ上肢及ビ。稀ニ軀幹ニ波及スルコトガアルガ。齒齦並ニ爾餘ノ諸粘膜ハ 健全ナルモノトサレテ居ル。

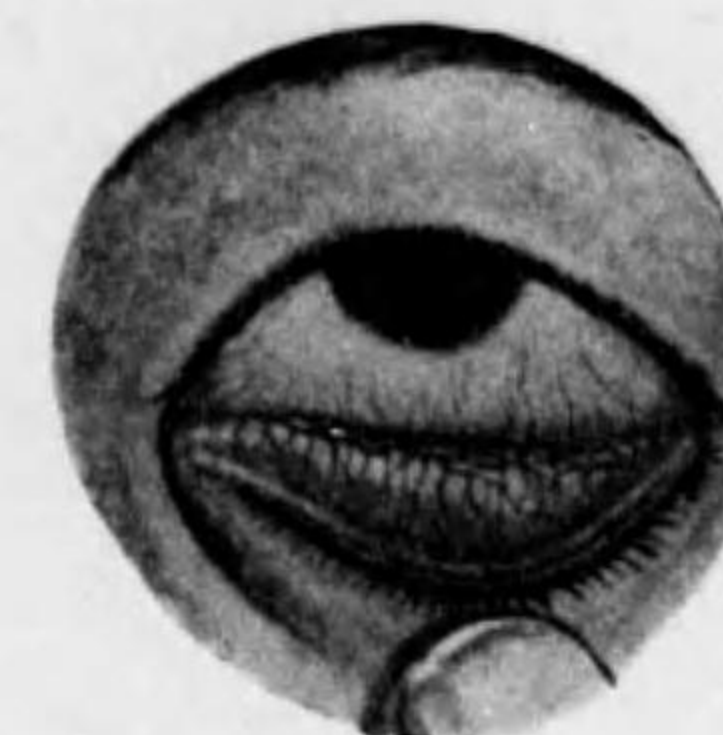
96. 結膜出血 Hyposphagma.

結膜 特ニ 球結膜 及ビ 穹窿部結膜ニ 出血ヲ見ル事ガ屢ニアル。原因トシテ 認メ得ベキモノノ無イコトモアルガ。又 外傷ニ因ル場合モ少クナイ。豫後ハ良好デ。出血ハ 通常 1-2 週デ 完全ニ消失スル。

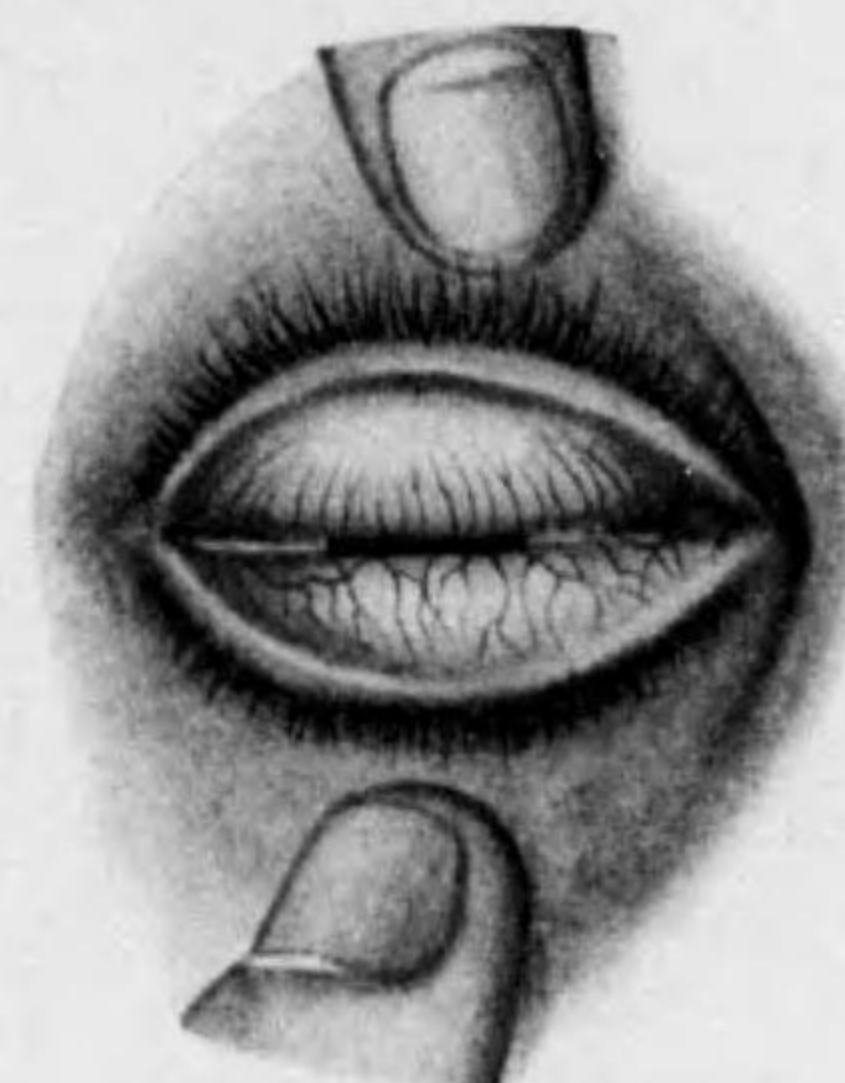
本例ハ 18 歳ノ男。友人ト相撲ヲ取り 頭ヲ打ツタ後ニ 結膜出血ヲ起シタモノデ。此ノ出血ノ他ニハ 兩眼共 全く異常ナク。視力モ 1.2 デアツタ。



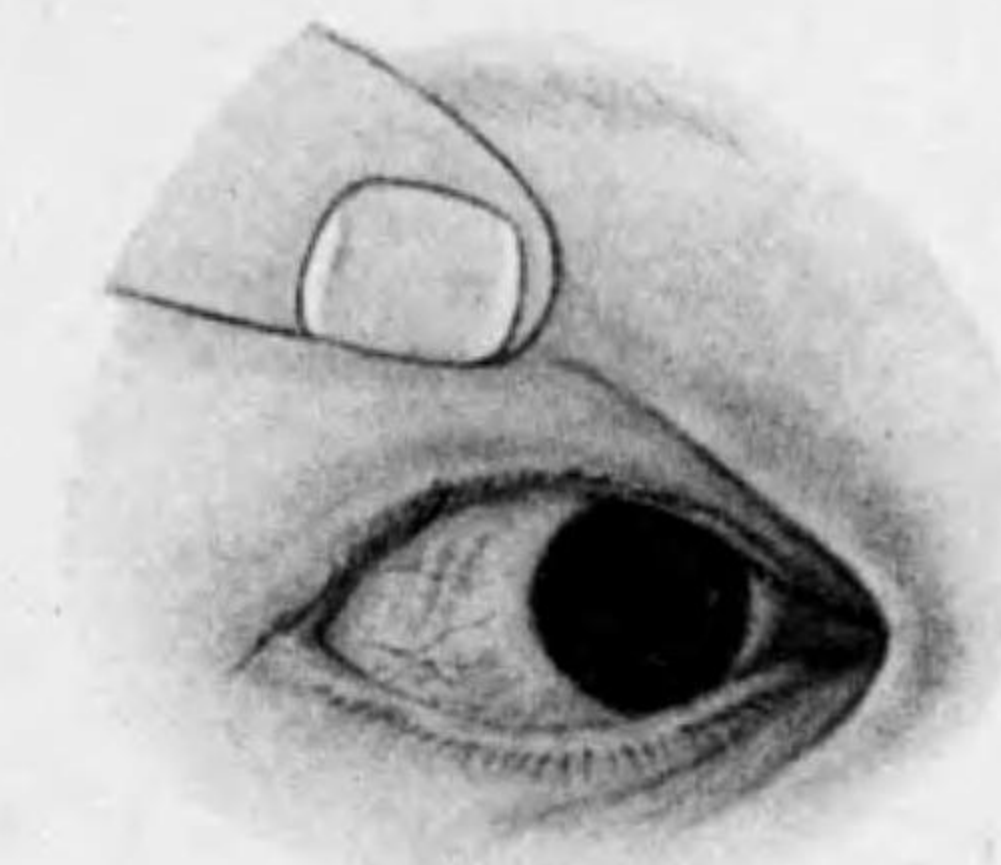
91. 健常結膜 Conjunctiva normalis.
(上瞼結膜 及ビ 上穹窿部結膜)



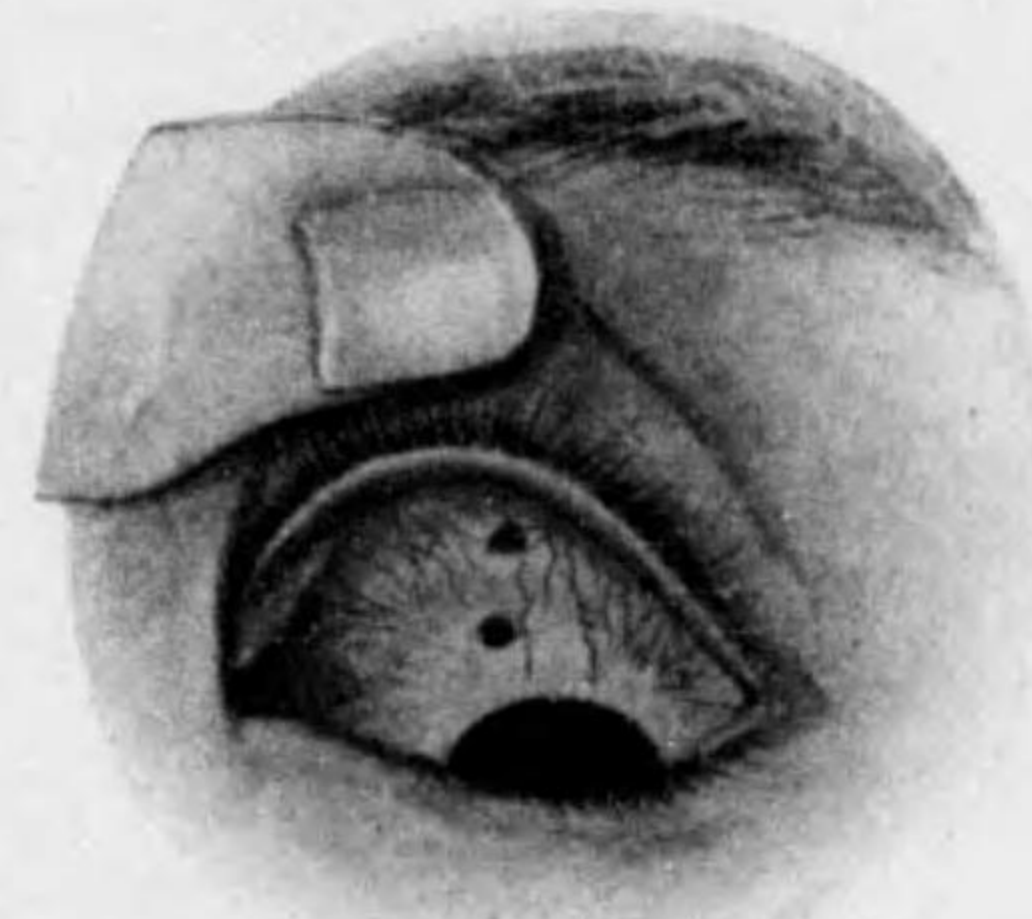
92. 健常結膜 Conjunctiva normalis.
(下瞼結膜 及ビ 下穹窿部結膜)



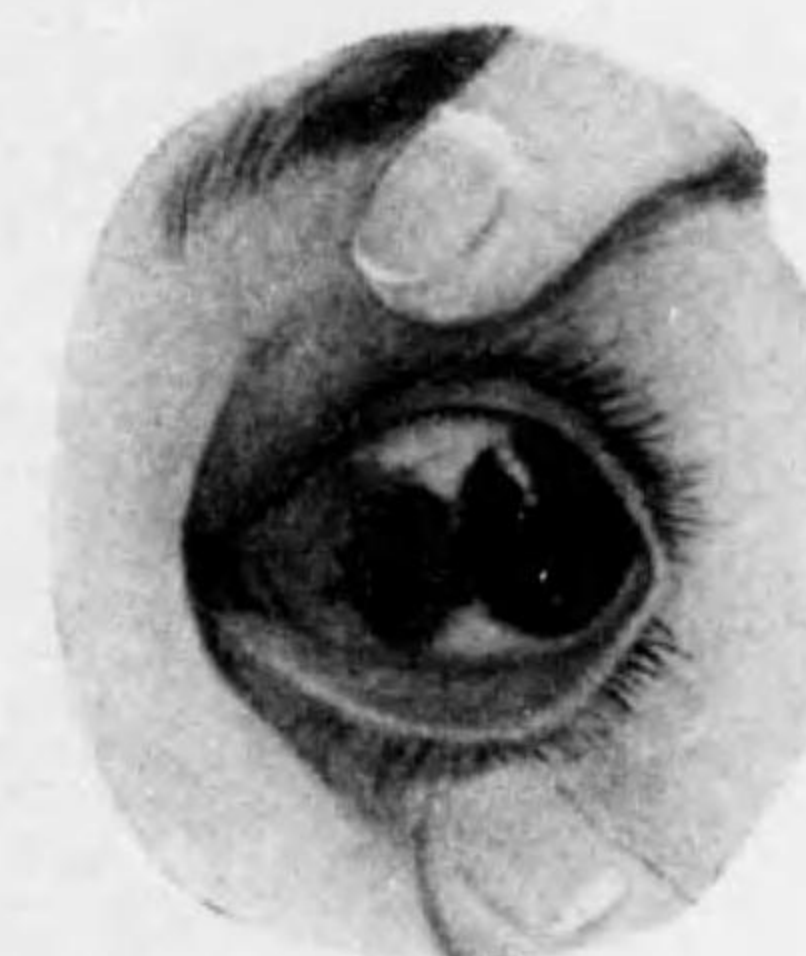
93. 健常上下瞼結膜
Conjunctiva palpebrae normalis
superior et inferior.



94. 結膜淋巴管擴張
Lymphangiectasia conjunctivae.



95. 單純性紫斑病
Purpura simplex.



96. 結膜出血
Hyposphagma.

XXII. カタル性結膜炎

(97, 98, 99, 100, 101, 102.)

XXII. カタル性結膜炎

カタル性結膜炎 Conjunctivitis catarrhalis ハ 結膜ガ 諸種ノ刺戟ニヨツテ 發赤 腫脹シテ 眼脂ヲ出スモノデアル。之レニ 急性症ト 慢性症トヲ區別スル。急性症ハ 發赤、腫脹、分泌ガ多イガ、結膜面ハ滑澤デ 血管ガ透視出來ル。

慢性症ハ 諸症狀ガ 急性症ヨリモ輕イケレドモ、多クノ場合 結膜ガ潤濁シテ 血管ヲ透視シ難ク、且 結膜ニハ 通常 乳嘴ガ増殖シテ 表面ガ粗糙トナル。

原因ハ 細菌ニヨルモノト 然ラザルモノトガアル。前者ノ中 最多イノハ コッホウイクス Koch-Weeks 氏桿菌、モラクサアクセンフェルド氏重桿菌、稀ニ 肺炎球菌、連鎖状球菌、葡萄状球菌 又 細菌以外ノ原因トシテハ 器械的刺戟 (摺擦、塵埃等)、化學的刺戟 (酸、アルカリ、毛染薬、煙等)、熱ノ刺戟、光ノ刺戟 (電氣性眼炎、雪眼炎)、又 淚囊炎、眼瞼縁炎等ニ續發スルモノ等ガアル。

治療法ハ 原因ノ如何ニ係ラズ 大體同一デ、炎症ノ強イ時ニハ 毎日一回 0.5—1% 硝酸銀水ヲ 結膜面ニ塗布又ハ點眼シテ後 1% 食鹽水デ洗滌スル。眼脂アレバ 2% 硼酸水 又ハ 0.02% 「オキシアン」水銀水デ洗眼スル。炎症ノ輕イ場合ニハ 1日 2—3回 0.2—0.5% 硫酸亞鉛水ヲ點眼スル。重桿菌性ノモノハ 0.5—1% 硫酸亞鉛水ヲ點眼スル。尙原因ノ明カナルモノハ 之レヲ除ク様ニスル。

豫後ハ 概シテ佳良。

97. 電氣性眼炎 Ophthalmia electrica.

太陽「スペクトル」中 吾人ノ網膜ニ 光トシテ感ズルノハ 概シテ 波長 800 m μ 乃至 400 m μ ノ部分デ、紫外線 (400 m μ 乃至 100 m μ) ハ 光線トシテ感受サレナイ。其大部分ハ 眼前部 殊ニ 結膜、角膜、水晶體等ニ吸收サレル。此ノ紫外線ハ 化學作用強ク、之レヲ多量ニ含有スル光線ヲ眼ニ受ケル時ニハ 數時間ノ潜伏期ノ後、球結膜ノ充血、並ニ 滲透性表層角膜炎ヲ起シテ、羞明、流淚、並ニ 疼痛ガ激シク、眼ヲ開ク事ガ出來ナクナル。コレハ數時間 乃至 數日デ自然ニ恢復スル。此ノ眼炎ガ 紫外線ヲ多量ニ含有スル電氣ノ光ニ因ツテ起ツタ場合ニ 之レヲ電氣性眼炎ト謂フ。又雪中行軍ノ後等ニ起ツタ場合ニハ 之レヲ雪眼炎 Ophthalmia nivalis 又ハ 雪盲ト謂フ。

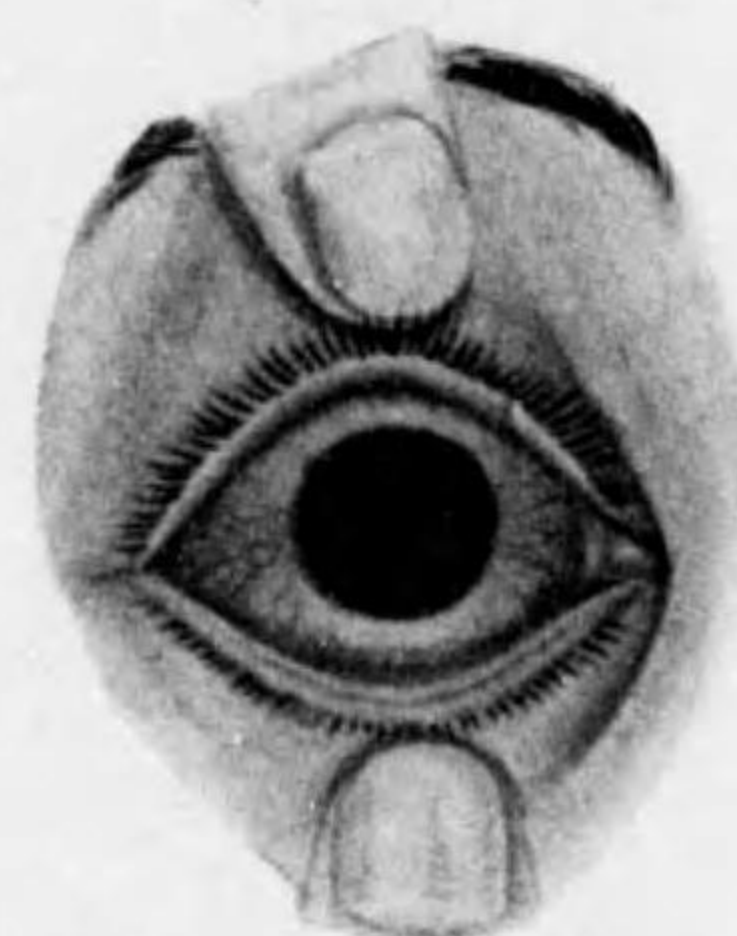
本例ハ 19歳ノ男子デ 酸素熔接及ビ電氣熔接ヲ業トシテ居ル。普通ハ 保護眼鏡ヲ用ヒテ仕事ヲシテキルノデアルガ、昨日 保護眼鏡ヲ用ヒズシテ作業ヲシタトコロ、昨晚カラ 兩眼ニ疼痛ガ起リ、今日ハ 羞明ト流淚ガ著シイ。視力ハ 兩眼共 0.9 デ、瞼裂ニ相當シテ球結膜ニ 充血ガアリ、角膜ニハ 微細ナ潤濁ガ 多數ニ認メラレル。コノ潤濁ハ 「フルオレスチン」ニ染マルモノト 染ラスモノトガ混合シテキル。「アドリナリン・コカイン」水ヲ點眼シ 冷罨法ヲ行ハシメ 休養ヲ命ジタトコロ、自然ニ治癒シタモノト見エ 翌日カラ 來院シナクナツタ。

98. 99. 毛染薬ニ因ル毒物性結膜炎 Conjunctivitis venenata.

毛染薬カラ發生スル蒸氣ガ 皮膚 又ハ 結膜ニ觸レルト、時トシテ 急性皮膚炎 並ニ 急性結膜炎ヲ起スコトガアル。眼瞼モ 結膜モ 汎發性ニ發赤 腫脹 潤濁シテ 充血ハ 殊ニ瞼裂部ニ強イ。20.ト同一例デアルカラ 其ノ記載ヲ参照セラレタイ。

100. 急性カタル性結膜炎 (コッホウイクス氏桿菌ニヨル) Conjunctivitis catarrhalis acuta.

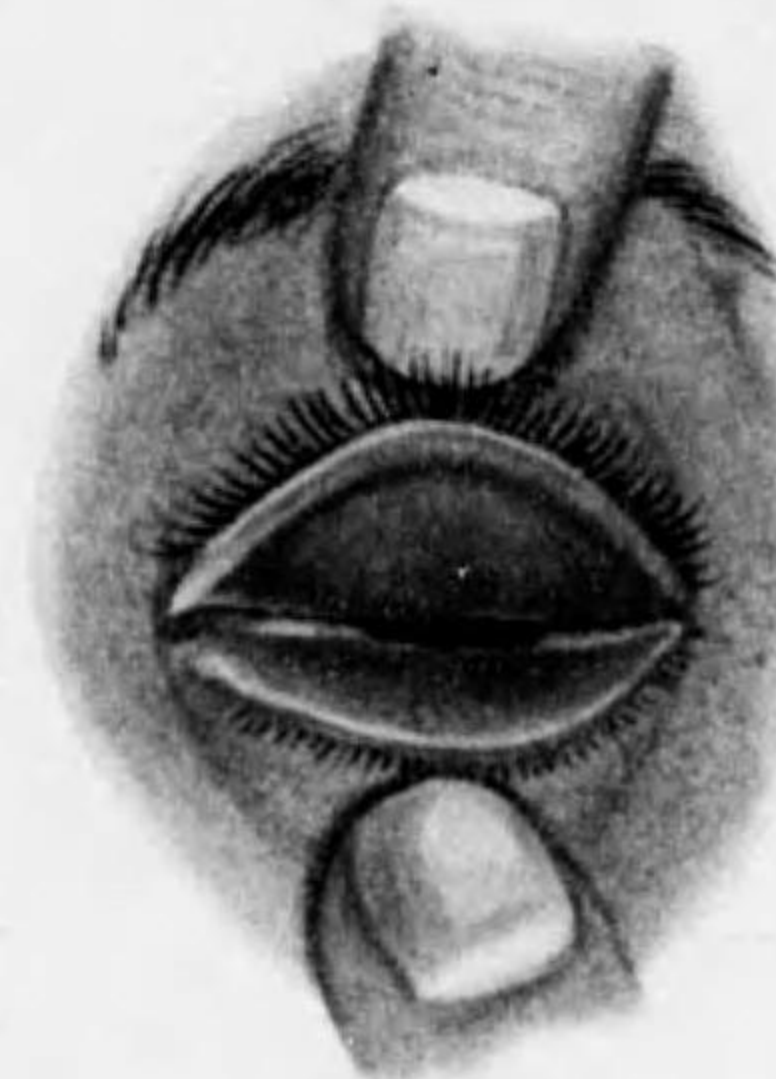
本圖ハ コッホウイクス Koch-Weeks 氏桿菌ニヨル 急性カタル性結膜炎ノ 瞼結膜ノ圖デ、發赤ト 腫脹トガ著明デ 之ニ潤濁モ幾分アルガ 不鮮明ナカラ 血管ノ走行ガ透視サレル。本症ニハ 比較的粘稠ナ眼脂ガ多量ニ出ルコトガ多イガ 圖ニハ現ハレテキナイ。本例ハ 13歳ノ子供ニ起ツタ急性カタル性結膜炎デ、發病後 5日目ノ所見デアル。眼脂ノ中ニ 多數ノ コッホウイクス氏桿菌ガ 證明サレタ。



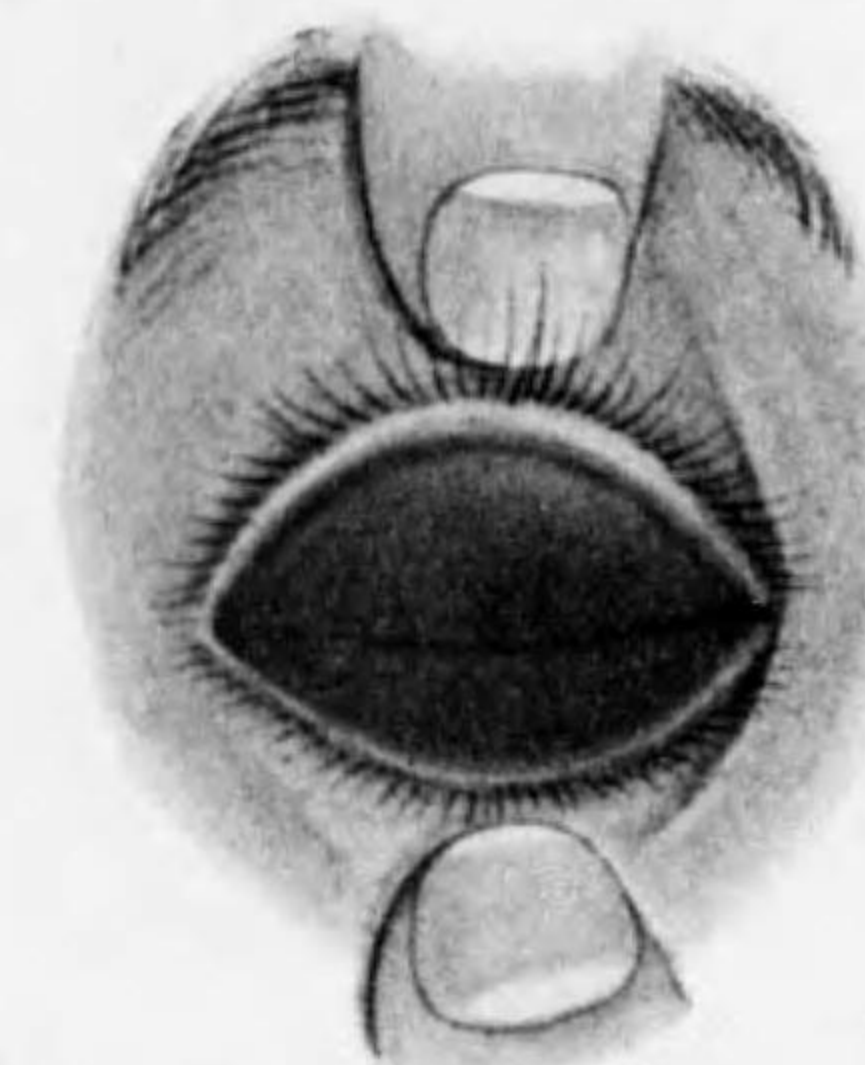
97. 電氣性眼炎 Ophthalmia electrica.



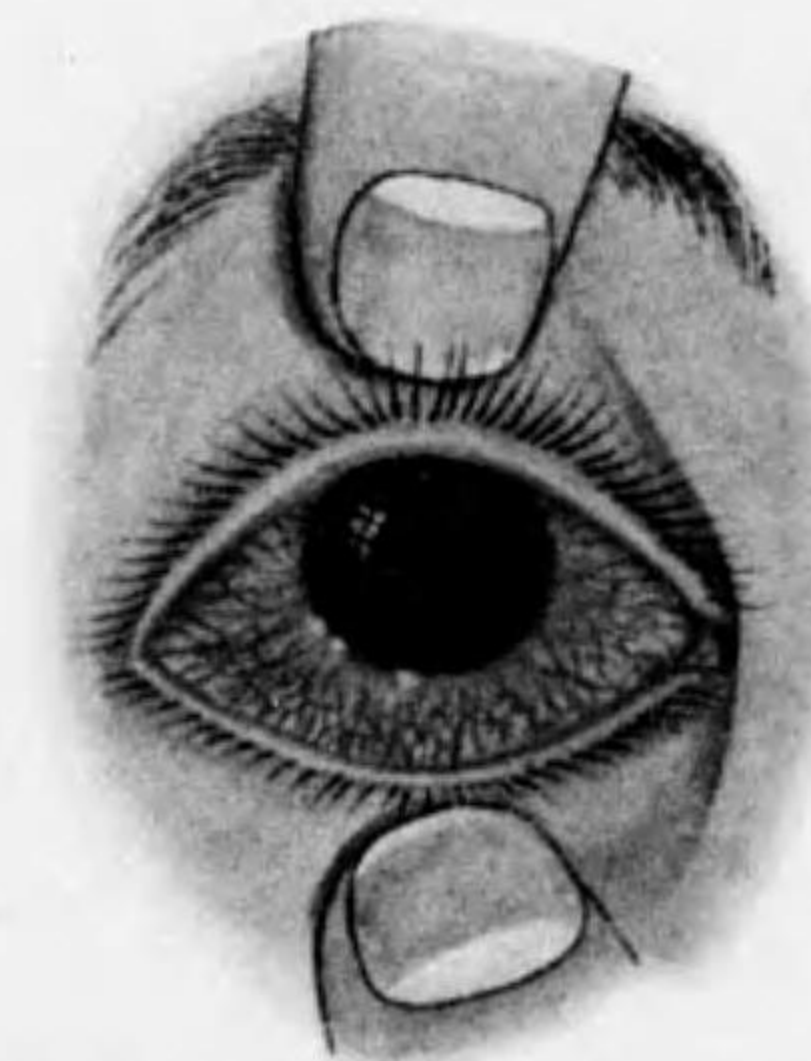
98. 毛染薬ニ因ル毒物性結膜炎 Conjunctivitis venenata.



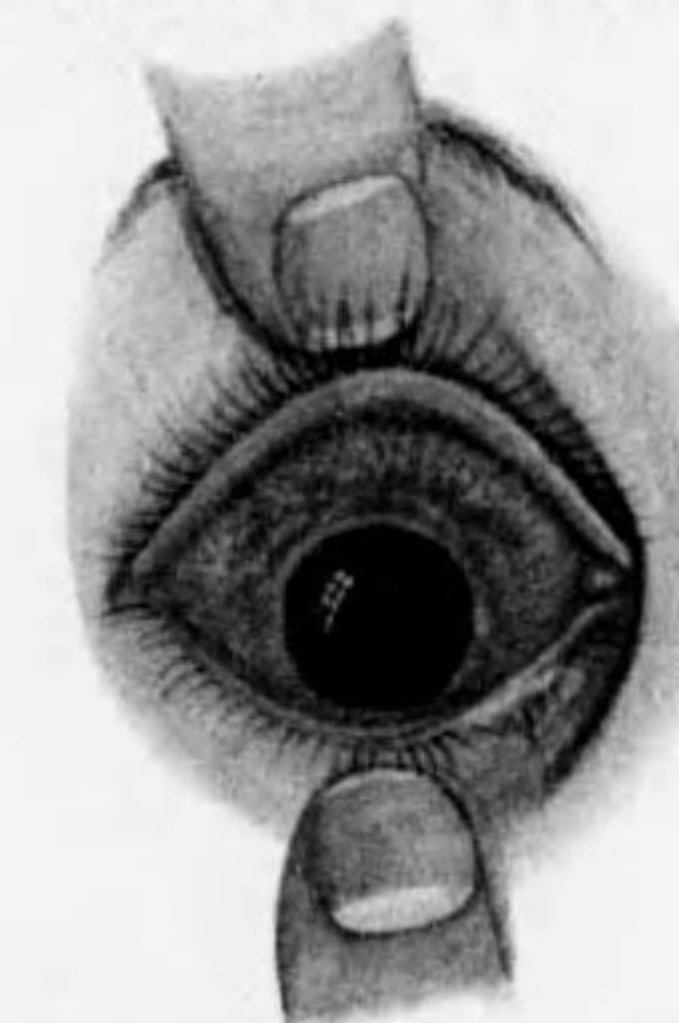
99. 毛染薬ニ因ル毒物性結膜炎 Conjunctivitis venenata.



100. コッホウイクス氏桿菌ニ因ル急性結膜炎 Conjunctivitis catarrhalis acuta.



101. コッホウイクス氏桿菌ニ因ル結膜炎ニ「フリクテン」ヲ發生セルモノ



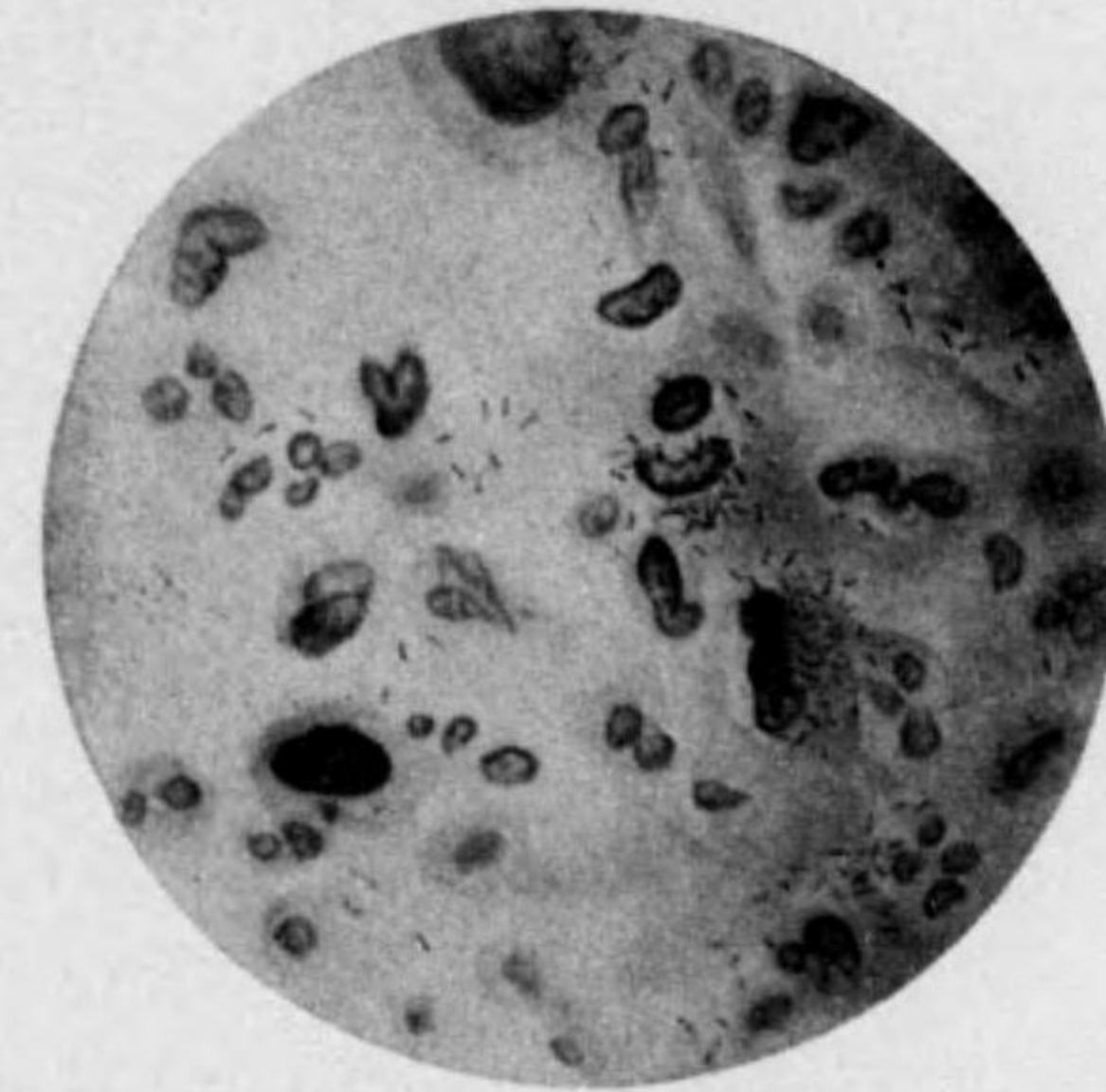
102. コッホウイクス氏桿菌ニ因ル結膜炎ニ現ハレタル結膜出血

101. 同 上

100, 1 同一眼ノ球結膜ノ所見デ. 角膜輪部ノ向ツテ左下部ニ 3 個ノ「フリクテン」ガ見エル. 此ノ「フリクテン」ハ 必發ノ症候デハナイガ. コッホウイクス氏桿菌ニ因ル結膜炎ノ時ニ 時々現レルコトガアル.

102. 同 上

之レモ コッホウイクス氏桿菌ニ因ル 急性カタル性結膜炎ノ一例デ. 15 歳ノ少女デアル. 球結膜ニ 出血ガアル. 斯様ナ結膜出血モ 炎症ノ劇シイ時ニハ 屢ニ見ラレル.



第 3 圖 コッホウイクス氏桿菌 (擴大約 1100 倍)

纖小ナ「グラム」陰性ノ桿菌デ. 血清ヲ含有スル培養基ニノミ發育スル. 急性結膜炎ノ病原菌デ. 傳染力ガ強イ.

XXIII. 臙胞性結膜炎・包括體性結膜炎・淋菌性結膜炎

(103, 104, 105, 106, 107.)

XXIII. 臚胞性結膜炎・包括體性結膜炎・淋菌性結膜炎

103. 結膜臚胞症 Folliculosis conjunctivae.

結膜臚胞症ハ 學校ノ兒童ニ多發スルヲ以テ 學校臚胞トモ謂ハレル。結膜ニハ 全然炎衝症狀ヲ認メズ。全ク透明ナ穹窿部結膜 殊ニ 下穹窿部結膜ニ 粟粒大ノ 殆ド透明ナル 水泡狀ノ臚胞ガ 數箇 半球狀ニ突出スル。自覺的及他覺的ニ 何等ノ變狀ヲ認メナイ。此ノ臚胞ハ 時ト共ニ 通常自然ニ消失スル。原因不明デ。治療ノ必要ハナイ。

本例ハ 10 歳ノ小學兒童デ。學校ノ身體検査デ 眼疾アリト云ハレ。受診シタモノデアル。自覺的ニハ 何等異常ヲ認メナイ。

104. アトロピンカタル Atropin-catarrh.

「アトロピン」ノ點眼ヲ持續スル時。時トシテ 臚胞性結膜炎ヲ起スコトガアル。之レヲ「アトロピンカタル」ト云フ。「アトロピン」ノ使用ヲ廢メレバ 自然ニ治癒スル。

本例ハ 21 歳ノ男子デ。針金デ右眼ヲ突キ。外傷性白内障ヲ起シ。毛様充血ガアリ。「アトロピン」點眼ヲ 約 10 日間連續シテ行ツタ處。結膜ノ充血ガ漸次烈シクナツテ 圓ノ様ナ 臚胞性結膜炎ヲ起シタモノデアル。「アトロピン」使用中止後 約 1 箇月デ全治シタ。

105. 臚胞性結膜炎 Conjunctivitis follicularis.

臚胞性結膜炎ハ 「カタル」性結膜炎ノ一種デ。結膜ニ「カタル」ヲ起シヤウナ諸種ノ原因ガ働イタ時ニ 患者ノ體質 或ハ 特異質ニヨツテ。結膜ニ 炎衝ト同時ニ 臚胞ヲ發生スルモノデ。一見甚ダ「トラコーマ」ニ似テキルカラ。通常「トラコーマ疑似症」トシテ取扱ハレル。然シナガラ「トラコーマ」ノ如ク 痕痕ヤ「パンマス」ヤ 後胎症ヲ來スコトナク。結膜炎ノ治療法ニヨツテ 結膜ノ炎衝ガ去レバ。臚胞モ亦 痕跡ナク消失スルモノデアル。「トラコーマ」トノ 鑑別診斷ハ プロウツク氏小體ヲ檢索スルノガ 最モ確實デアル。

本例ハ コホ・ウークス氏桿菌ノ傳染ニ因ツテ起ツタ 急性臚胞性結膜炎デアル。患者ハ 10 歳ノ男子デ。右眼ガ 2 週間前ヨリ發赤シ。分泌物ガ出テキタガ。3-4 日前カラ 左眼ニモ 同様ノ症狀ヲ來シタ。0.5% 硝酸銀水ニテ處置シタ處。約 1 箇月ノ後 結膜炎モ 臚胞モ 痕跡ヲ止メズ消失シタ。尙ホ患者ノ家族中 3 歳ノ妹ト。16 歳ノ兄ト。38 歳ノ母トガ 感染シテ引續キ 結膜炎ヲ起シタガ。何レモ皆臚胞性結膜炎ノ所見ヲ呈シタ。之ニ由ツテ觀レバ 臚胞ヲ發生シ易イ體質ヲ有スル人ニハ 「カタル性結膜炎」ヲ起スベキ諸種ノ刺戟ニヨツテ 臚胞性結膜炎ヲ起スモノト 推測セラレル。

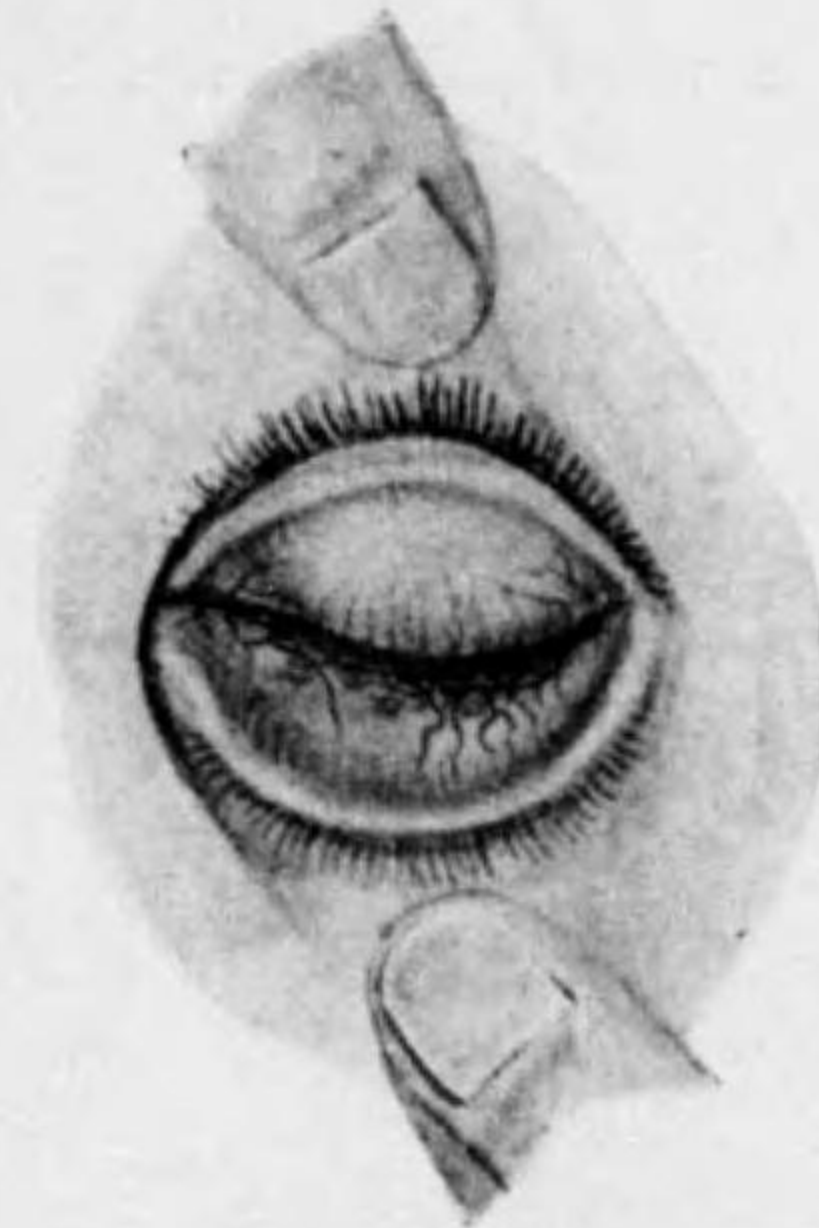
106. 106ノ2. 包括體性結膜炎 Conjunctivitis inclusionalis.

所謂 初生兒臚漏眼ニハ 淋菌性(107.)ト非淋菌性トガアリ。後者ハ「トラコーマ」ニ見ラレルモノト 同一形態ノ プロウツク氏小體(130.參照)ヲ 病原體トスル。コレヲ 初生兒包括體性結膜炎ト謂フ。

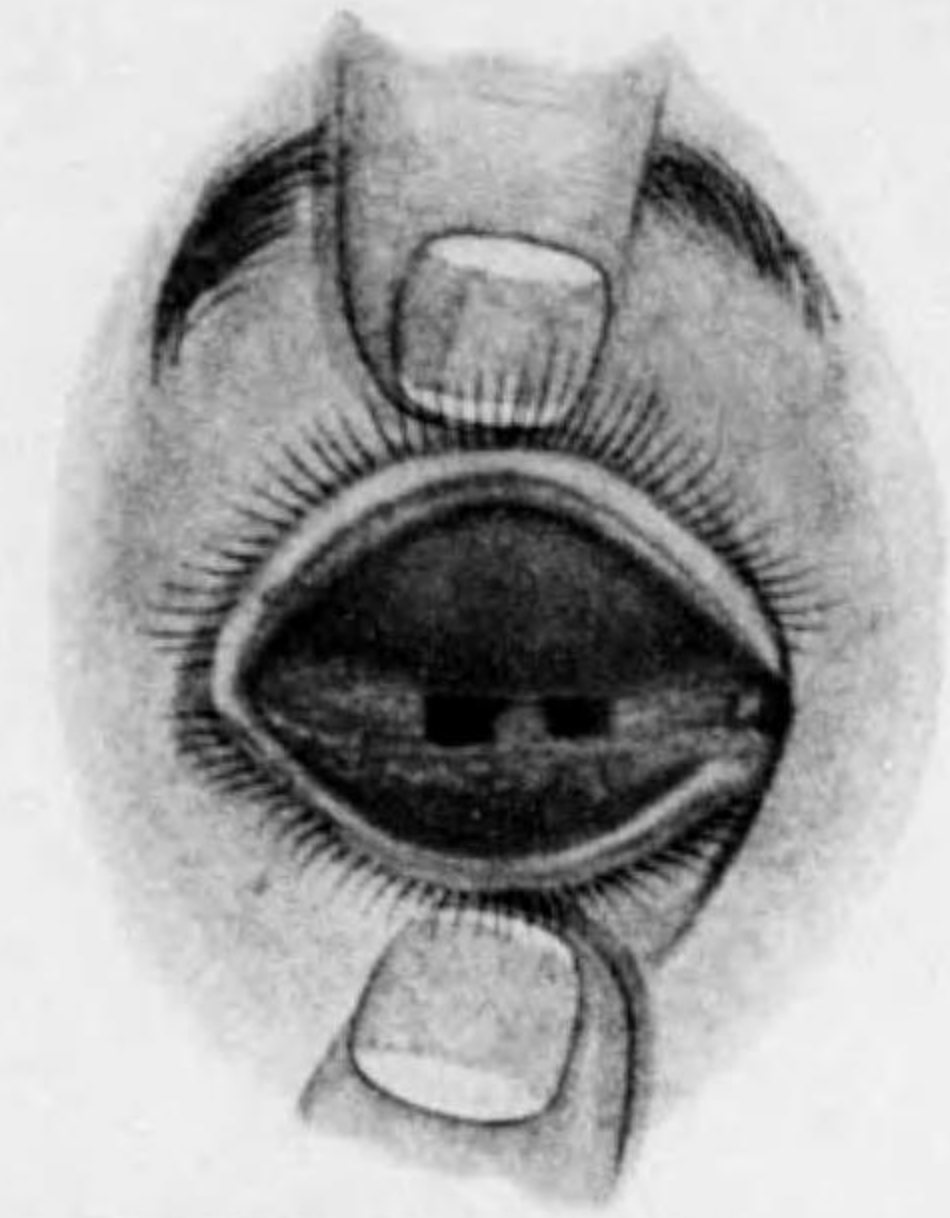
本症ハ 生後 1 週間内外ノ 潛伏期ノ後 臚漏眼ノ症狀ヲ以テ 發病スルガ。淋菌性ノモノヨリ 一般ニ 輕ク。合併症ヲ來シタリ失明シタリスル事ハナイ。併シ 經過ハ長クシテ 治癒迄ニ 數箇月 乃至 一年以上ヲ要スル。母體ノ生殖器ヨリ 傳染シタモノデ 母



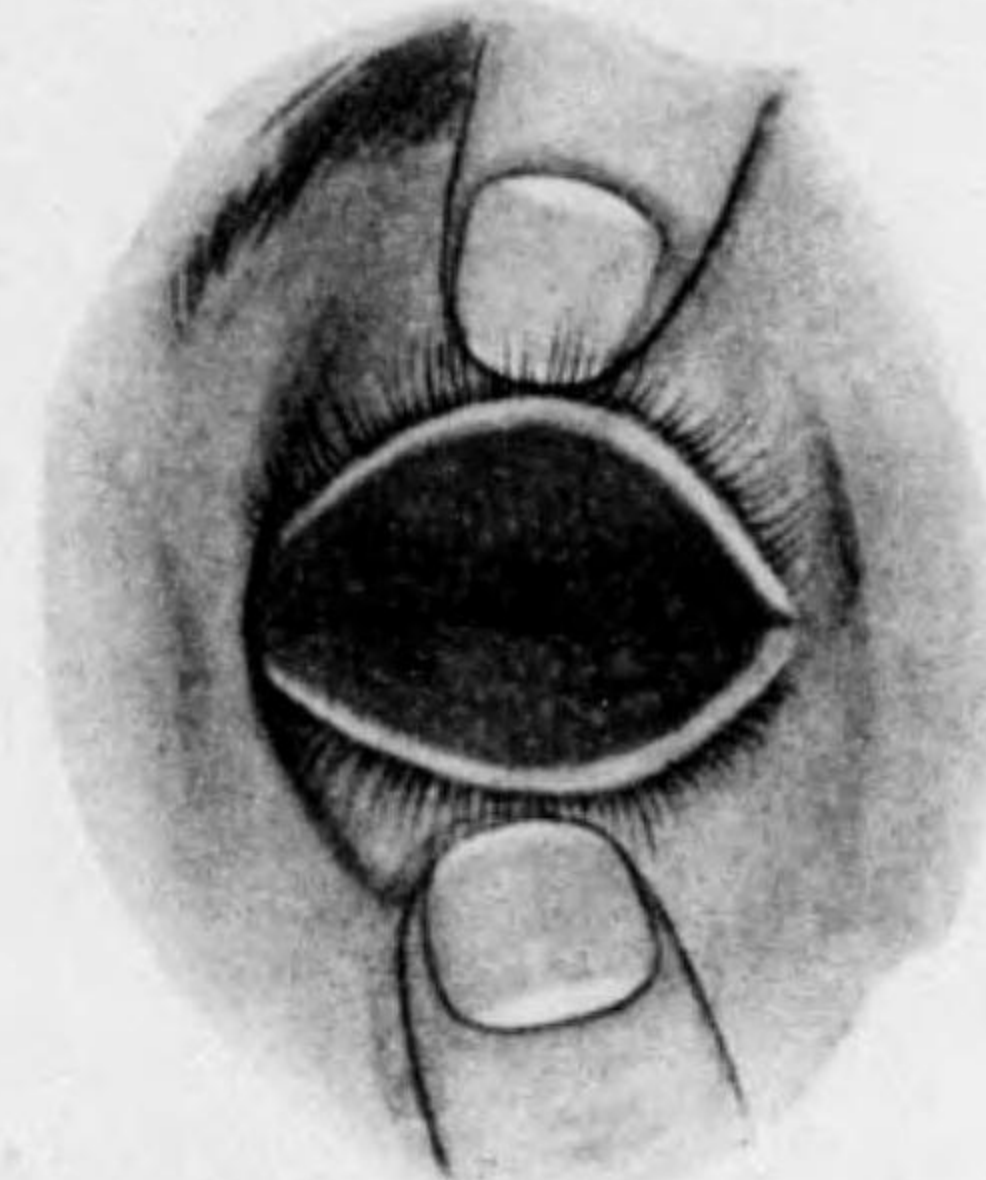
第4圖 初生兒包括體性結膜炎(顔面所見)



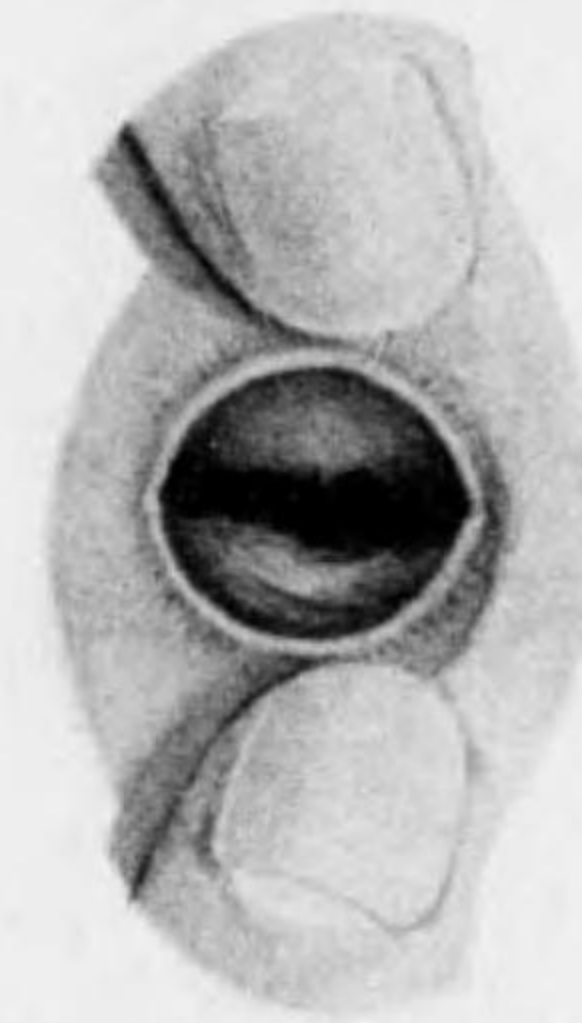
103. 結膜臚胞症 Folliculosis conjunctivae.



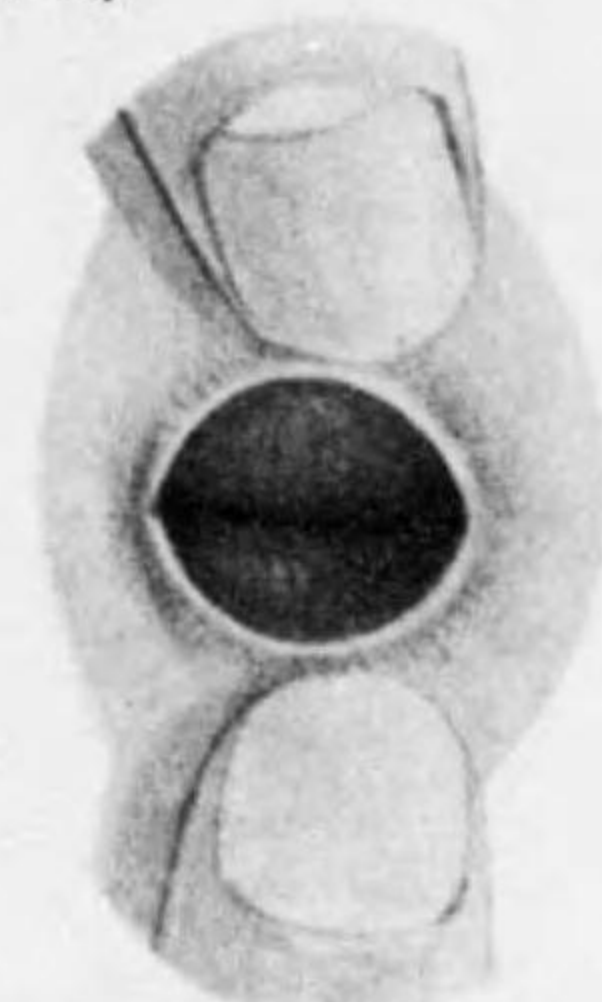
104. アトロピンカタル (臚胞性結膜炎 Conjunctivitis follicularis.)



105. コホ・ウークス氏桿菌ニ因ル 臚胞性結膜炎 Conjunctivitis follicularis.



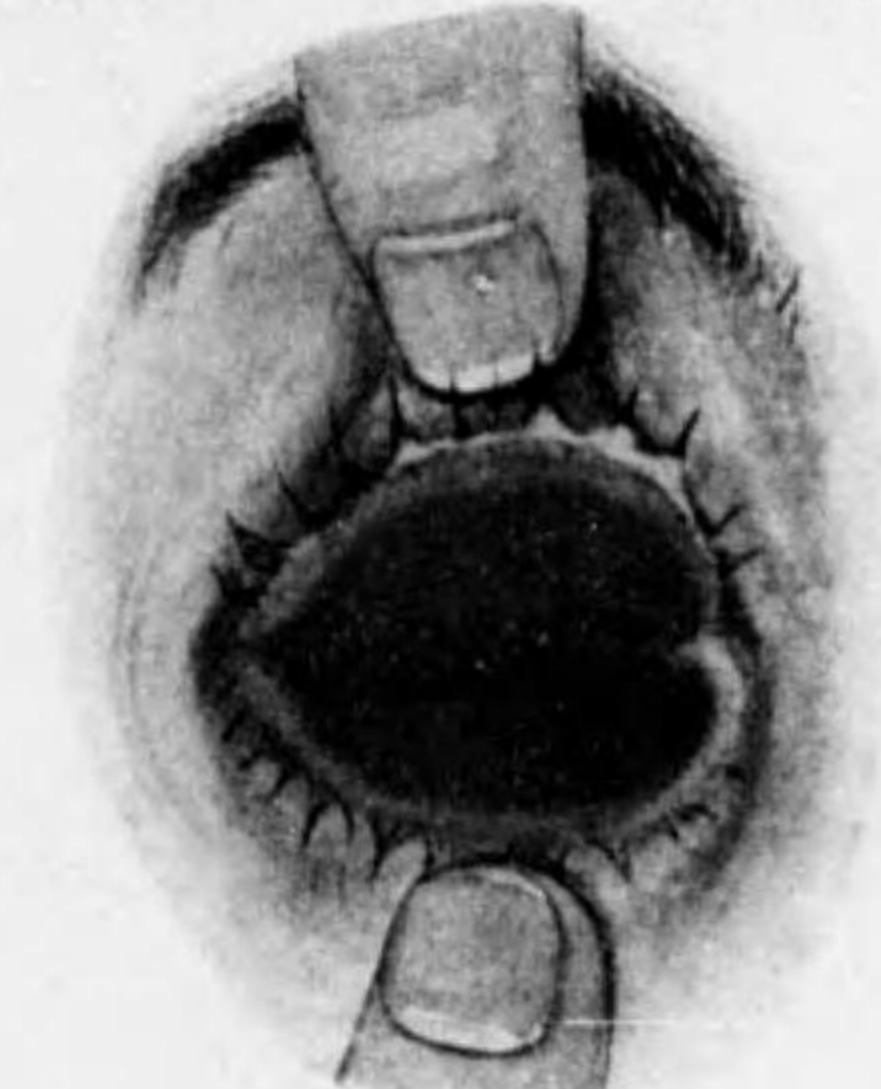
106. 包括體性結膜炎 Conjunctivitis inclusionalis.



106ノ2. 包括體性結膜炎 Conjunctivitis inclusionalis.



107. 淋菌性結膜炎 Conjunctivitis gonorrhoeica.



107ノ2. 淋菌性結膜炎 Conjunctivitis gonorrhoeica.

體生殖器ニモ プロウツェク氏小體ヲ證明スル。クレーデ氏法ハ豫防効果ガ無イ。

多クハ最初一眼ニ發病シ數日或ハソレ以上ヲ經テ他眼ニモ續發スルガ、兩眼同時ニ發病スル事モアル。初發症狀ハ眼瞼浮腫發赤、纖維素性膿性ノ分泌物ニ因ル眼瞼膠着、及ビ結膜ノ充血濁濁腫脹ヲ主トシ、數日ニシテ極期ニ達シ、2-3週後カラ漸次消退シテ慢性期ニ移行スル。炎症消退期ニ一時症狀ノ増悪スル事ガアリ、生後早キハ1箇月後通常2-3箇月頃カラ多クハ膿胞ヲ形成スル。炎症ノ極期ニ屢、偽膜ヲ形成シテ「チフテリー」様トナリ、又容易ニ結膜面カラ出血スル。偽膜形成著明ノモノデハ治癒後ニ特有ノ瘢痕ヲ形成シ、高度ノモノデハ結膜前垂トナル。

治療法ハ急性期「トラコーマ」(114, 115.)ニ準ズル。

淋菌性ノモノトノ鑑別ハ潜伏期ノ長イ事、症狀ガ淋菌性ノモノ程激烈デナク、純膿性ノ分泌物ヲ多量ニハ出サズ點ナドカラ推定シ得ルモ、確實ニハ細菌乃至 プロウツェク氏小體検査ヲ俟タネバナラヌ。本疾患ヲ淋菌性ト診斷シテモ患者ノ豫後ニハ障碍無イガ、兩親並ビニ出産時ノ醫師或ハ助産婦ニ對シテ過失ヲ犯ス事ニナルカラ眼科醫ハ診斷ニ慎重デナケレバナラナイ。稀ニ兩者ノ混合感染ノアル事モ注意セネバナラヌ。

包括體性結膜炎ガ成人ニ感染スルト急性期「トラコーマ」様ノ症狀ヲ呈シ、「トラコーマ」ガ生後間モ無イ初生兒ニ感染スルト膿漏眼様ノ症狀ヲ呈スル。兩者ハ臨床的ニ多少ノ相違ハアルガ、元來同一起源ノ プロウツェク氏小體ガ一方ハ結膜ニ他方ハ生殖器ニ寄生シテ生物學の性質ヲ多少變化シタモノト思ハレル。

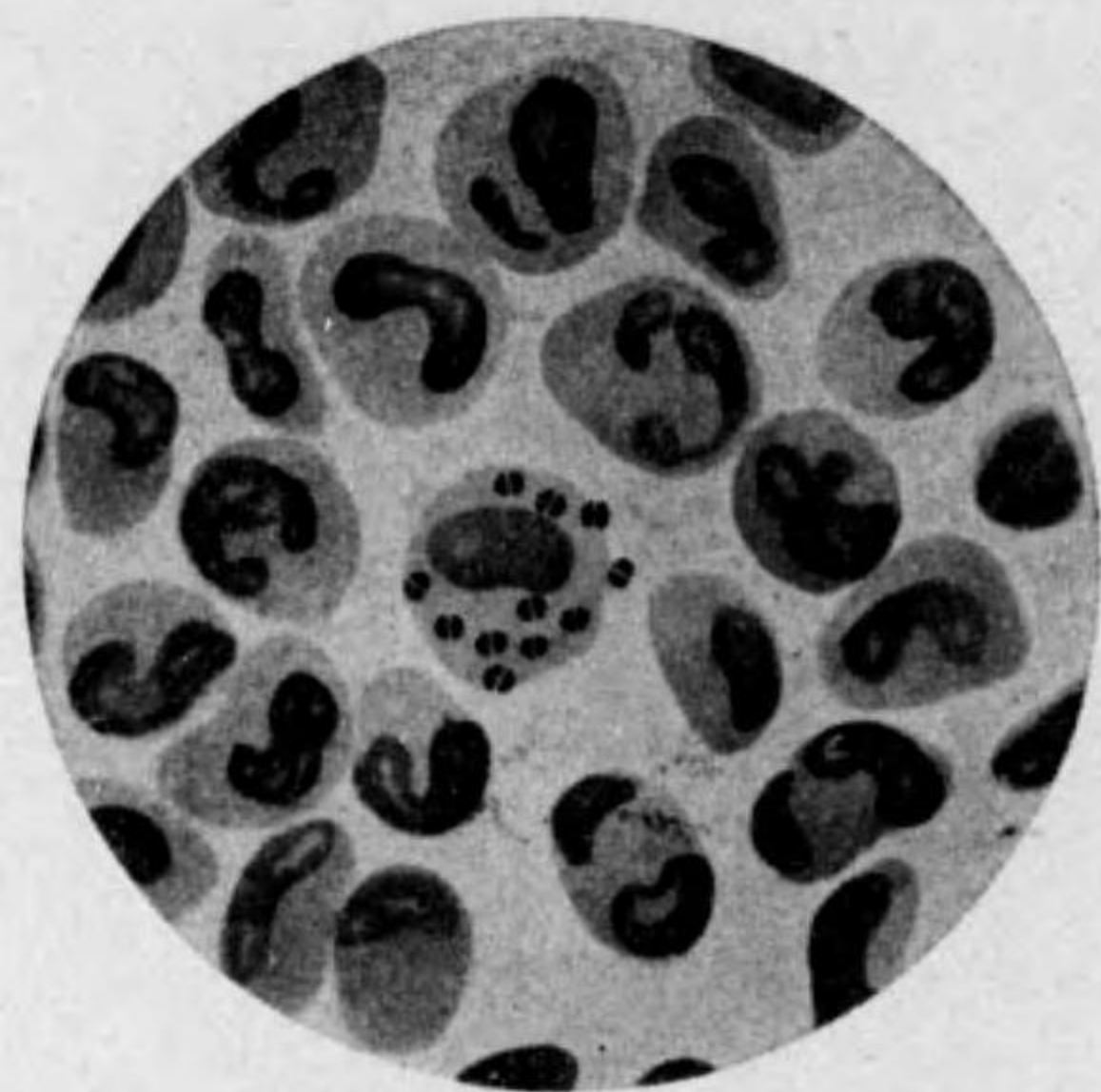
本例ハ生後7日目ニ右眼(106.)、更ニ4日ノ後左眼(106ノ2.)ニ發病シタモノデ、本圖ハ右眼發病7日目、左眼發病3日目ノ所見デアル。右眼ニハ偽膜形成ガ著明デアル。發病1-2週頃カラ症狀ハ一時輕快シタガ、50日頃カラ増悪シテ顆粒ヲ形成シ、3箇月頃カラ再ビ消退シテ右眼ニハ著明ノ瘢痕ヲ形成シタ。プロウツェク氏小體(卅)。

107. 107ノ2. 淋菌性結膜炎 Conjunctivitis gonorrhoeica.

淋菌ノ傳染ニヨツテ起ル所ノ急性結膜炎デ、一ニ膿漏眼 Blennorrhoeaト稱シ、俗ニ風眼ト稱スル。病原菌ノ侵入後半日乃至3日デ發病シ、眼瞼腫脹發赤シテ、瞼裂カラ膿様分泌物ガ漏レル。結膜ハ強ク發赤腫脹シテ血管ヲ透視シ難ク、表面粗糙(乳嘴増殖)トナリ、膿様分泌物中ニ淋菌ヲ證明出來ル。

合併症トシテ好シテ角膜ニ潰瘍ヲ生ジ、屢ニ穿孔シテ癒着性白斑ヲ貽シ、視力ヲ害スル故古來人ノ恐レル所トナル。殊ニ初生兒ガ分娩セラレルニ際シ、母體ノ生殖器カラ感染シテ生後3-4日ニシテ發病シ、角膜潰瘍ヲ起シテ失明スル事ガ多ク、特ニ之レヲ初生兒淋菌性結膜炎 Conjunctivitis gonorrhoeica neonatorumト謂ヒ世人ノ注意ヲ惹イタガ、近年クレーデ Crede氏法(助産婦ヲシテ初生兒ノ眼ニ1-2%硝酸銀水ヲ點眼セシメル法)ガ勵行サレル様ニナツテ頓ニ其ノ數ガ減少シタ。

豫防法ハ初生兒ニ對シテハクレーデ氏法ヲ勵行シ、其他ノ場合ニハ淋菌ノ眼ニ入ルコトヲ避ケ、患者ヲ隔離シ、若シ一眼ニ發病シタ場合ニハ他ノ健康眼ヲ硝子類デ被ヒ、自家傳染ヲ防グ。



第5圖 淋菌 Gonococcus.

淋菌性結膜炎ノ分泌物中ニ發見サレタ淋菌デアル。
二連球菌デ、グラム陰性デアル(擴大約1400倍)

治療法ハ全身的ニハ「スルファンアミド」劑ノ内服又ハ發熱療法ガ著効ヲ奏スル。局所的ニハ1日1回上下眼瞼ヲ翻轉シテ1-2%硝酸銀水ヲ稍多量ニ點眼シ1%食鹽水ニテ洗滌シ、尙ホ1日2-3回10%「プロタルゴール」水ヲ點眼シ、分泌物ノ滲溜ヲ防グタメ眼瞼縁ニハ時々二千倍「オキシシアン水銀ワセリン」ヲ硝子棒デ塗布シ、且ツ一萬倍「オキシシアン」水銀水又ハ一萬倍過「マンガン酸カリ」水ヲ温タメ、折リ疊ンダ「ガーゼ」ニ浸シ眼瞼上ニ貼シ、温養法ト同時ニ分泌物ヲ吸取ラシメル。

XXIV. 結膜ノ炎症

(108, 109, 110, 111, 112, 113.)

XXIV. 結膜ノ炎症

108. 偽膜性結膜炎 Conjunctivitis pseudomembranosa.

「カタル」性結膜炎ヲ炎症ノ劇シイ時ニハ 時トシテ 結膜面ニ 灰白色ノ膜様物ヲ形成スルコトガアル。之レヲ偽膜性結膜炎ト稱シテ「ヂフテリー」性結膜炎ト區別スル。

原因 治療法ハ 共ニ急性「カタル」性結膜炎ニ等シク。概ネ 10-20 日デ治療シ 瘢痕ヲ胎サナイ。本例ハ 34 歳ノ男ヲ 5 日前カラ 左眼ノ充血 腫脹 流涙 分泌等ガ起リ。耳前淋巴腺ノ腫脹ヲ來シタモノデ。分泌物中ニ 細菌ハ 證明サレナカッタ。

109. チフテリー性結膜炎 Conjunctivitis diphtherica.

「ヂフテリー」菌ノ感染ニ因ツテ起ル 劇シイ結膜炎デ。比較的結膜ノ表層ノ侵サレルモノト 深く迄病變ノ及ブモノトアル。表層ノモノハ 睑結膜ニ 灰白色ノ被膜ヲ生ジ。之レガ 結膜ト密着シテ居ルタメ 結膜カラ剝離スレバ 結膜ハ甚シク充血シ 時ニハ出血ヲ見ル。通常 1-2 週デ 被膜ハ消失シ。結膜炎モ 其ノ後 徐々ニ治癒スル。

深層ノモノハ 眼瞼ノ腫脹甚シク。之ニ手指ヲ觸レル時ハ 刺痛ガアツテ。重症ノ場合ニハ 眼瞼ノ翻轉ハ困難トナル。此ノ浸潤ノタメ 血行障礙ヲ起シテ。時ニハ 結膜ハ壊死ニ陥リ。其ノ後ハ肉芽組織ニヨリ治癒スルヲ以テ。後ニ瘢痕ヲ胎シ。結膜ノ收縮 又ハ 睑球癒着等モ 屢々見ラレル。治療法ハ 消毒。墨法等ノ局所的療法ノ他ニ「ヂフテリー」血清療法ヲ行フ必要ガアル。

本例ハ 7 歳ノ男兒ヲ 1 週前ヨリ 初メ眉毛ノ邊ニ膿疱様ノ發疹ヲ生ジ。段々擴ガツタモノデ。結膜ニ 膿様白色ノ偽膜ヲ有シ。之ヲ除カウトスレバ 出血スル (37. 及ビ其ノ説明参照)。

110. 結膜水痘 Varicella conjunctivae.

水痘ハ 皮膚以外ニ 好シク 結膜ニモ 發疹ヲ生ジ。殊ニ 軟硬口蓋ニ多ク。口唇。舌。咽頭。齒齦。鼻粘膜。結膜等ニモ來ルコトハ 一般皮膚科學書ノ記載スル所デアルガ。結膜ニ水痘ヲ見ル事ハ 極メテ稀ナ事ニ屬シ。コレニ關スル報告ハ 十指ヲ以テ數ヘ得ル程シカナク。

結膜水痘ハ (1) 皮膚發疹ト同時 又ハ 2-3 日後ニ發疹シ。(2) 結膜面 (睑結膜。球結膜。穹窿部結膜) ニ 帽針頭大 乃至 麻實大ノ水疱ヲ生ジ。(3) 次デ 水疱ハ破レテ 淺イ小潰瘍トナリ。ソノ角膜縁ニ生ジタモノハ 一見「フリクテン」ノ様ヲ觀テ呈シ。(4) 刺戟症狀ハ 甚ダ強イモノモアリ。又 殆ドコレヲ缺クモノモアリ。(5) 皮膚ガ 結痂治癒ニ向フト同時ニ 治ニ就キ。通常 瘢痕ヲ胎サズ。唯 二次的傳染アル時ニモ 瘢痕化シ。(6) 豫後極メテ良好ナモノノ様デアル。

本例ハ 生後 14 箇月ノ男兒ヲ。水痘ノ發疹第五日目ノ朝カラ。兩眼 特ニ左眼カラ 膿様ノ眼脂ガ出ルヤウニナツタ。

初診當時。全身皮膚ニ 新舊種々ノ發疹ガ 雜然ト混在シ 左右上眼瞼ニモ 多數ノ發疹ガアツタ。結膜ハ 左右共 球結膜ニハ 殆ド變化ガナク。睑結膜ニハ 一般ニ 輕度ノ充血ノアル他ニ。左眼上睑結膜ノ下半分ハ 薄イ帶黄灰白色ノ偽膜ニ被ハレ コレヲ綿ヲ擦レバ 容易ニ剝ケ去リ。ソノ下ニ 睑縁中央ニ近ク 一個ノ 帽針頭大 灰白色ノ 稍ニ深イ潰瘍ヲ見タ。コノモノハ 紅暈ヲ繞ラシ 膿様分泌物ヲ被ハレテ。一見「フリクテン」ノ様デアツタ。穹窿部ニハ 全體ニ 中等度ノ充血ガアツテ。中央ニ 相竝ンデ 二個ノ 粟粒大ノ 水疱ヲ見タ。コレハ 皮膚ノ水痘ニ似テ 内容ガ透明デ 紅暈ハナイ。右眼ニモ 上睑結膜ノ内角ニ近ク 睑縁ニ接シテ 直径 4 耗位ノ 紅暈ガアツテ。中央ニ 水疱ノ破レタ跡ノ様ナモノヲ認メタ。刺戟症狀ハ 極メテ渺カッタ。

本圖ハ 初診後 3 日ノ 左眼ヲ描イタモノデアルガ。眼脂 充血 共ニ減退シテ。偽膜ハ去リ 潰瘍ハ小クナツテキル。穹窿部ノ水痘ハ 破レテ 糜爛狀ヲ呈シテキル。當時右眼モ 紅暈ハ去リ。充血ハ 極メテ輕度デ。眼脂ハナクナツテ居タ (38. 参照)。

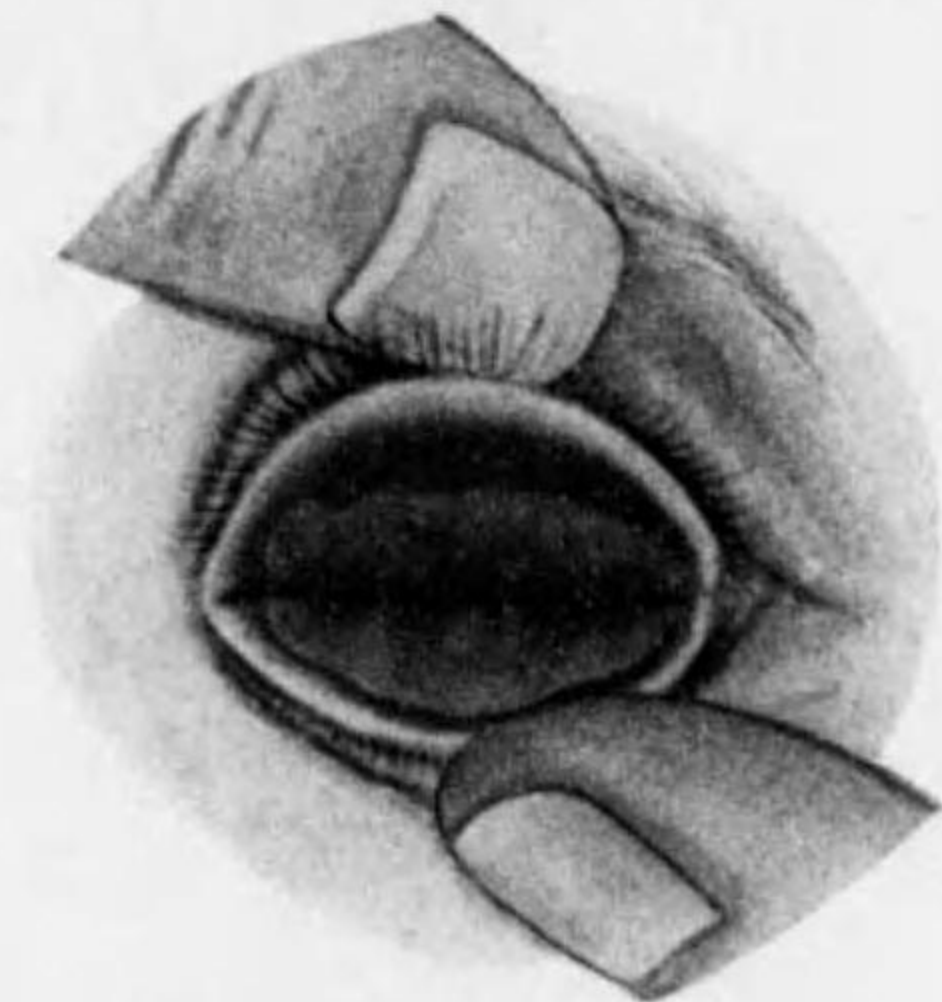
治療トシテハ 0.5% 硝酸銀水點眼。硼酸軟膏點入。冷電法ヲ行ツタノデアルガ。初診後 7 日ニシテ兩眼共 眼脂 充血ハ 全クナクナリ。左眼ノ潰瘍ノミガ 白色ノ瘢痕トナツタ以外ニハ 瘢痕ヲ胎サズニ 治癒シタ。當時 皮膚モ 殆ド全部 結痂 黑色トナリ。治療ニ向ツタ。即チ 全經過 及ビ 症狀ハ 全ク 皮膚ニ平行シ。全經過ヲ通ジテ。角膜。虹彩等ハ 全ク變化ヲ見ナカッタ。

111. 結膜天疱瘡 Pemphigus conjunctivae.

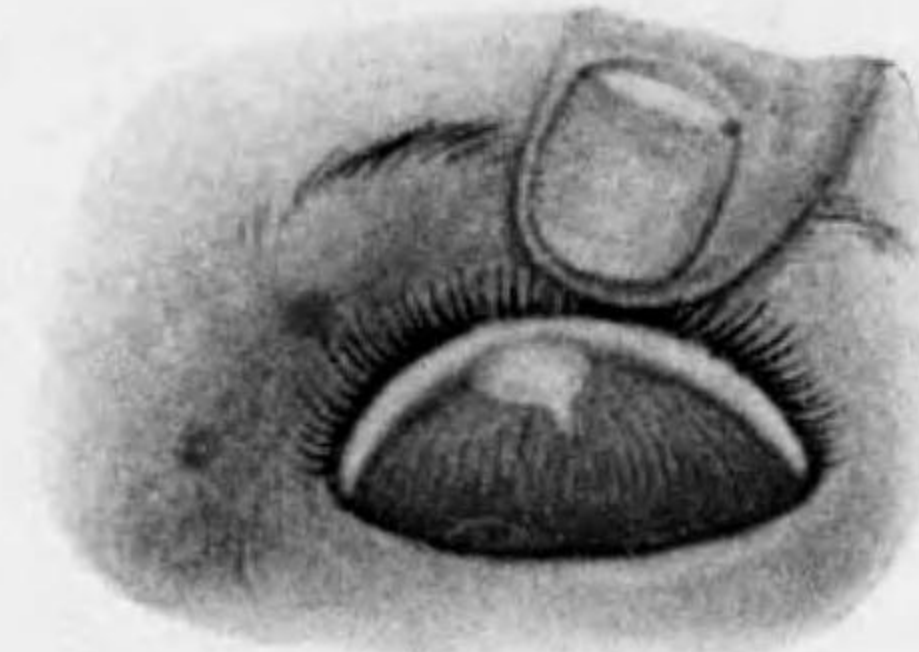
結膜天疱瘡ハ 甚稀ナル疾患デアル。其ノ特徴ハ 結膜ニ水痘ヲ發生シ。其ノ消失後ハ 瘢痕ヲ胎シ。漸次 結膜ノ萎縮ヲ來スコトデアル。水痘ノ反復シテ發生スル事。及ビ 全身ノ皮膚ノ水痘ノ斷續的發生



108. 偽膜性結膜炎
Conjunctivitis pseudomembranosa.



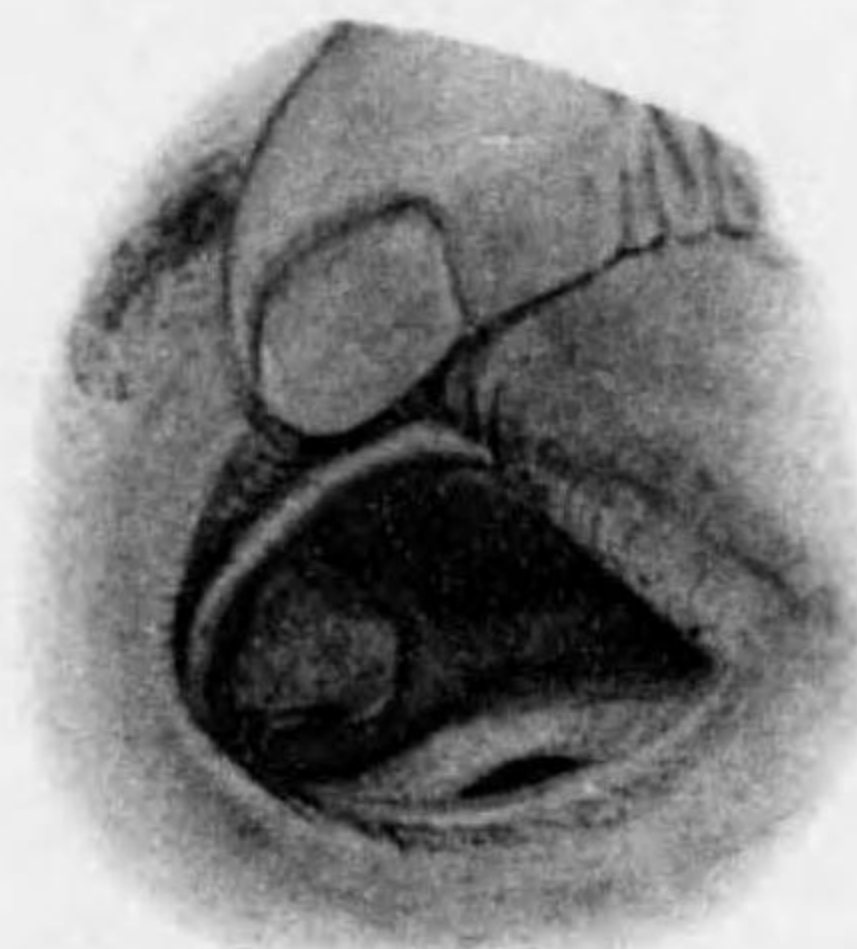
109. チフテリー性結膜炎
Conjunctivitis diphtherica.



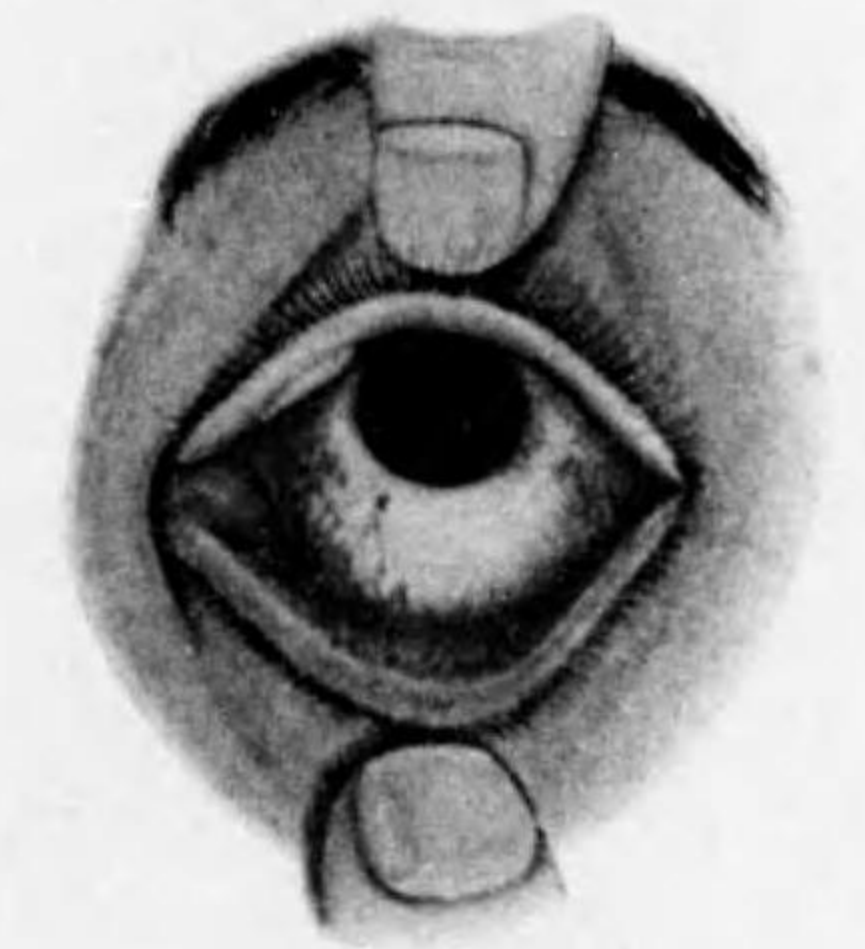
110. 結膜水痘
Varicella conjunctivae.



111. 結膜天疱瘡
Pemphigus conjunctivae.



112. 結膜潰瘍 Ulcus conjunctivae.
(酵母菌病 Blastomycosis.)



113. 苛性「カリ」ニ因ル結膜腐蝕

等カラ 他ノ結膜ノ水疱 及ビ 瘰癧ノ生ズル疾患ト 區別サレル。

原因不明ノ疾患デ。適當ナ治療法ナク。對症療法ヲ行フニ過ギナイ。

豫後ハ多クハ不良デ。眼瞼内反 睫毛亂生等ヲ起シ易イ。

本例ハ 21 歳ノ男デ。1 年前ニ 左下腿ニ 5-6 箇ノ天疱瘡ヲ生ジ。約一箇月デ治ツタ。約二箇月前左下腿内側ヨリ後面ニ互リ 天疱瘡再發シ。約 3 週間デ治ツタ。約 40 日前 更ニ再發 約二週間デ治ツタ。其ノ經過中 顔面 殊ニ 左眼瞼ニ 粟粒大ノ水疱ガ 簇生シ。5-6 日ノ後 左眼内背部ニ 疼痛ヲ覺ニ 其ノ部ノ結膜 及ビ 半月狀皺襞ニ 同様ノ水疱ヲ發生シタ。外眼部ノ水疱ハ 治癒シタガ。結膜ノモノハ 破潰シテ 圓ニ示ス様ナモノニナツタ。圓ハ發病後 18 日ノ所見デ。水疱部ハ 壞疽ニ陥ツテ居ル。自覺症トシテハ 異物感 及 疼痛ガアル。

各種ノ對症療法ニヨリ 約 4 箇月デ瘰癧ヲ結ンデ治癒シタ。

112. 結膜潰瘍 Ulcus conjunctivae. 釀母菌病 (Blastomycosis.)

患者ハ 55 歳ノ男デ。11 年前カラ 上腿。腹。背。臀部ニ 釀母菌病様ノ潰瘍ヲ生ジタガ 皮膚科ノ 診斷ハ 明カデナイ。約 8 箇月前カラ 左眼ノ分泌ガ甚シク。上瞼結膜ニ 白色ノ隆起ヲ認メタ。ソノモノハ 約一箇月ニシテ潰瘍トナリ。次第ニ大キクナリ。現在ノ状態ニ至ツタ。未ダ醫藥ハ受ケナカツタ。

結膜ニ 圓ノ如キ潰瘍ガアリ。其ノ縁ハ 縁下淋蝕サレテ居ル。潰瘍ノ周圍部ヲ切除シ 潰瘍底ヲ燒灼シ タトコロ。潰瘍ハ次第ニ治癒シテ 僅ノ瘰癧ヲ胎シテ 全治シタ。

113. 苛性「カリ」ニヨル 結膜ノ腐蝕

21 歳ノ學生。化學實驗中。肝油ニ苛性「カリ」ヲ入レテ煮沸シツ。左眼デ「フラスコ」ノ口ヲ覗イタ時。煮沸中ノ苛性「カリ」液 (約 2-5%) ガ 沸騰シテ 左眼ニ入ツタ。

受傷後 直ニ眼科病室ニ驅ケ付ケテ 治療ヲ受ケタ。其時ニハ 疼痛ト 羞明トノタメニ 殆ト閉瞼シ得ズ。結膜ハ 腐蝕サレ。球結膜ハ 所々剝脱サレテ 著明ニ充血シ。角膜上半部ハ 淺キ潰瘍ヲ形成シ。潤潤シテ 居タ。約 10 日ノ後ニハ 角膜ノ上半部ニハ 薄キ翳ヲ胎シ。上瞼結膜 及 球結膜ニ 瘰癧ヲ胎シテ治癒シタ。本圖ハ受傷後 2 日ノ所見デアル。

XXV. トラコーマ

(114, 115, 116, 117, 118, 119.)

XXV. トラコーマ Trachoma.

「トラコーマ」Trachoma ハ プロウツェク氏小體ヲ病原體トスル 傳染性ノ結膜炎ナル。「トラコーマ」ハ 結膜ノ外 涙囊 小涙管 生殖器 等ヲ侵ス。「トラコーマ」ハ 慢性ニ經過スル疾患ナルガ、移植試験ノ結果ニ依レバ ソノ初期ハ 3-10日ノ潜伏期ノ後 多クハ 急性 又ハ 亞急性膿胞性結膜炎ノ症狀ヲ以テ 發病スル(急性期)。コノ急性症狀ハ 1-2箇月ノ經過ヲ以テ消退シ、次ノ慢性期ニ移行スル。コノ急性期ハ 一般ニ 單ナル急性結膜炎トシテ 看過サレテ居リ、急性症狀ガ 消退スルト「トラコーマ」ノ慢性期ソレ自身ハ 自覺症狀ガ少イ爲メ 治癒シタモノト 思ハレテ居ル場合ガ多イ。特ニ「トラコーマ」ノ蔓延シテキル地方デハ 初期感染ノ多クガ 幼時ニ起ツテキル爲メ 一層 看過サレ易イ。

慢性期ニ移行シタ「トラコーマ」ハ 最初ハ 新鮮ナル症狀ヲ呈シ、ソノ定型ノモノハ 顆粒性「トラコーマ」Trachoma granulosum ト呼バレル状態デ、穹窿部結膜 其ノ他ニ 多數ノ 潤濁セル顆粒ガ簇生シ、瞼結膜ニハ 屢、乳嘴増殖ヲ來タシ、結膜面 一帯ニ 充血 潤濁 等ヲ 認メルガ、球結膜ノ充血ハ 既ニ消滅シテキル。且ツ 著明ノ 瘢痕形成ヤ 其ノ他ノ合併症ヲ 見ナイ。

輕症 乃至 經過ノ良好ノモノデハ 病變ハ 次第ニ 穹窿部結膜 半月狀皺襞 等ニ 限局シ、慢性膿胞性結膜炎 乃至ハ 結膜膿胞症ト 類似ノ所見ヲ呈スルヤウナリ、一部ノモノデハ 後胎症ヲ 殆ド 殆サズニ 治癒シ得ル。然ラザル場合ニハ 症狀ガ 一進一退シテ 長年月ノ間ニ 一部ニハ 菲薄ナ 瘢痕ヲ 形成シ、顆粒ハ 次第ニ 膠様ニ 融合シ、稍、陳舊ナル所見ヲ 呈スルニ至リ、更ニ 長年月ノ後ニハ 膠様ニ 融合シタ 顆粒ノ 簇生、高度ノ 瘢痕形成、瘢痕收縮ニ 因ル 眼瞼内反、睫毛亂生、瞼球癒着 等ノ 後胎症、慢性淚囊炎 等ノ 合併症、角膜ノ「パンヌス」形成 等ヲ來タシ、甚ダ 陳舊ナル所見ヲ呈スルニ至ル。「トラコーマ」ノ進行ハ 體質 生活状態 等ニ 依リ 一様デハナイガ、甚ダ 陳舊ナル所見ヲ呈スル迄ニハ 一般ニ 數年乃至 數十年ヲ要スル事ガ多イ。

初期ノ「トラコーマ」ガ 常ニ カル陳舊ノ状態ニマデ 進行スルトハ 限ラナイ。體質 生活状態 等ニ 依リ 如何ナル時期カラモ 治癒シ得ル。且ツ 病機ノ新鮮ナモノ程 治癒シ易ク、初期ニ 治癒シタモノ程 痕跡或ハ 後胎症ヲ 殆ス事 僅少ナル。

プロウツェク氏小體ニ就テハ 130、涙囊「トラコーマ」ニ就テハ 88、包括體性結膜炎ニ就テハ 106、ヲ見ヨ。

114. 115. 急性期「トラコーマ」Trachoma acutum.

「トラコーマ」ハ 前述ノ如ク 3-10日ノ潜伏期ノ後 多クハ 急性 乃至 亞急性膿胞性結膜炎ノ症狀ヲ以テ 發病スル。然シ 上述ノ如キ理由カラ 此ノ急性期ハ 單ナル 急性結膜炎トシテ 看過サレ、慢性期ニ移行スルト 治癒シタモノト 思ハレテキル場合ガ多イ。

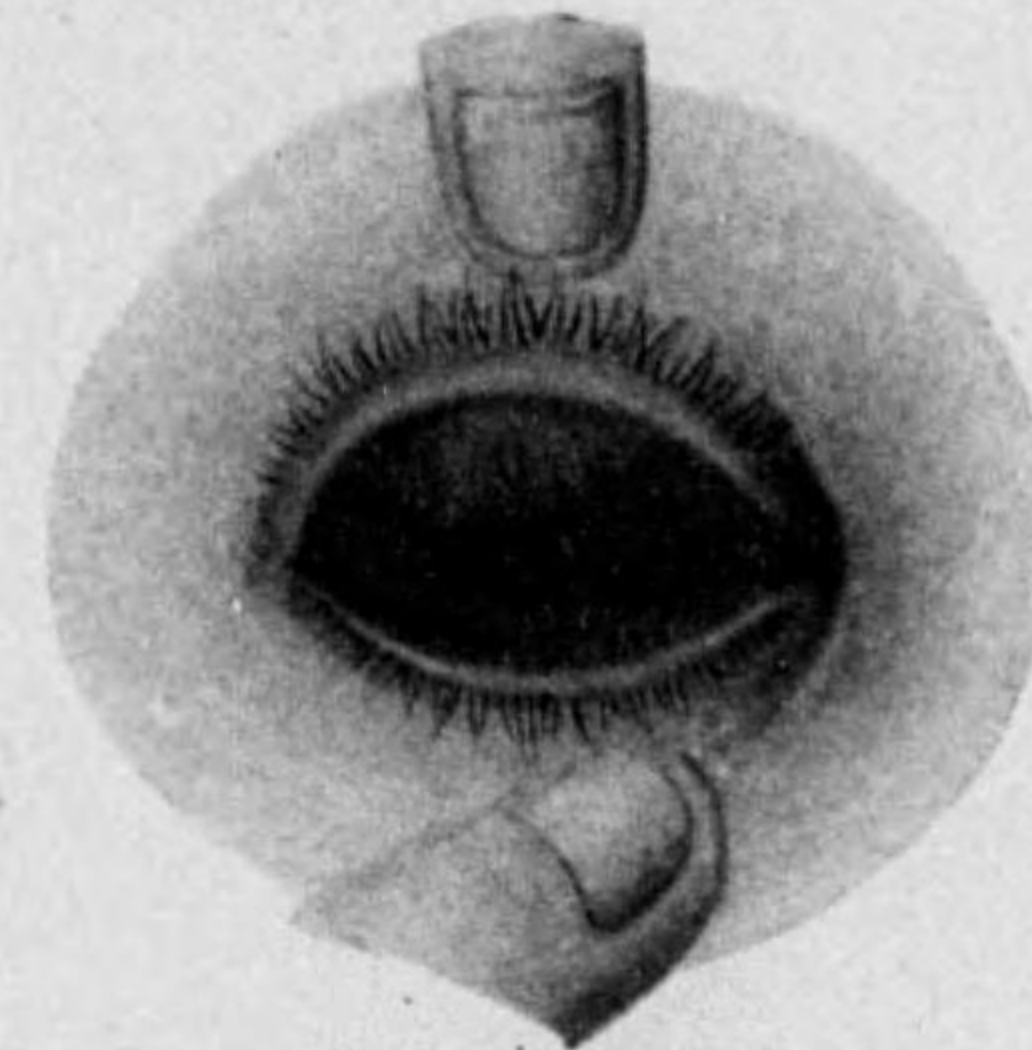
初發症狀ハ 結膜囊全體ノ 充血、腫脹、潤濁ト、穹窿部結膜 及ビ 瞼結膜ニ於ケル 顆粒ノ 簇生、乳嘴ノ 増殖 等トデアツテ、多量ノ 分泌物ヲ來タス。多クハ 一眼ニ初發シ、數日以上ノ間隔ヲオイト、他眼ニ 續發傳染ヲ起ス。

臨床的ニハ 他ノ原因ニ 因ル 急性膿胞性結膜炎ト 鑑別困難ナ事ガ 屢、デアルガ、プロウツェク氏小體ヲ 證明シ得ルカ 否カニヨツテ 鑑別シ得ル。

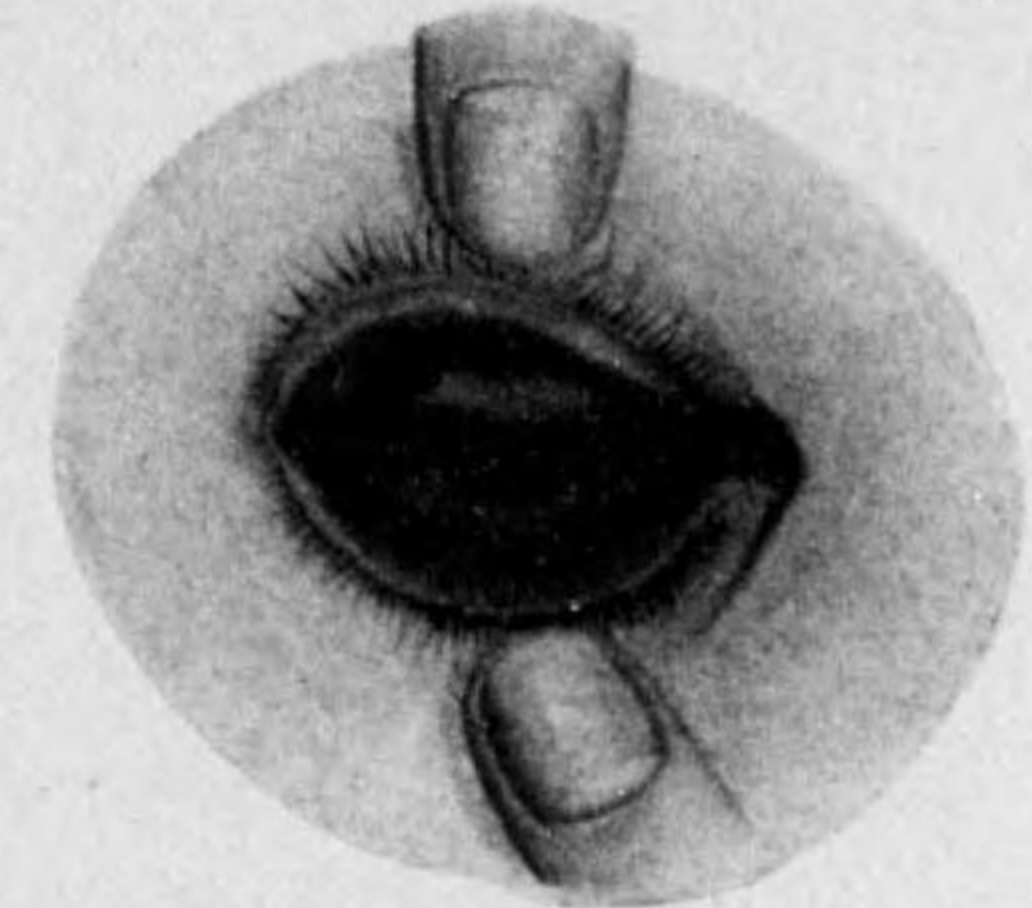
急性症狀ハ 一般ニ 1-2箇月ノ後 消退シテ、慢性期ニ移行シ、長年月ノ間ニ 次第ニ 陳舊ナル慢性期「トラコーマ」ニ移行シテ 治療ガ困難ニナル。併シ初期ニ 適當ニ治療ヲ加ヘルト、比較的 治癒シ易ク、經過ノ良好ナル場合ニハ 數箇月ノ後ニ 殆ド 痕跡ヲ殆サヌカ、輕イ 表在性ノ 瘢痕ヲ殆シテ 治癒スル。

治療法: 急性症狀ノ 強イ間ハ 0.1% 硝酸銀水 2% 「メルクロクロム」 0.5-1% 「トリパフラビン」 等ノ 點眼 洗滌。慢性期ニ移行シテ 顆粒ガ 主トシテ 穹窿部ニ 限局スル場合ニハ 穹窿部結膜ノ 病變ノ 強イ部分ヲ 切除スルト 有效ナル。片眼性ノ場合ニハ 滅菌假綿帶ヲ施シ、他眼ヘノ 感染ヲ 避ケネバナラヌ。

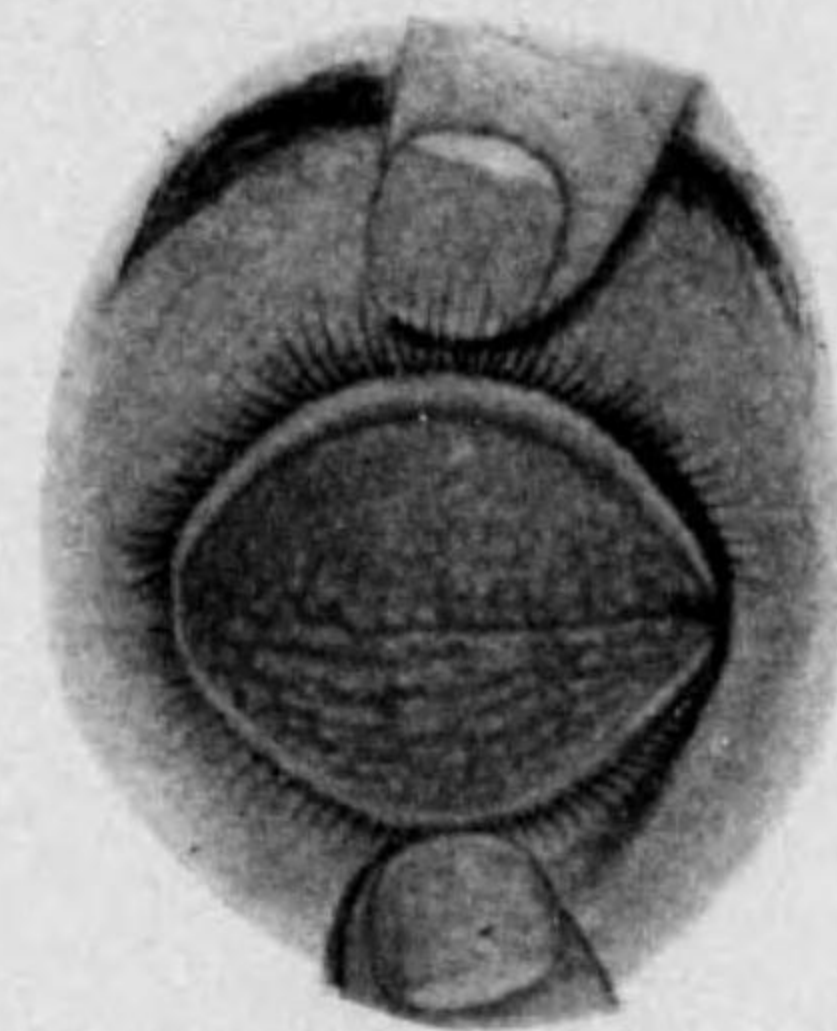
本例ハ 21歳ノ女子ニ見ラレタモノデ「トラコーマ」患者ト同居シテカラ 7日目ニ 右眼ニ 發病シタモノデアル。



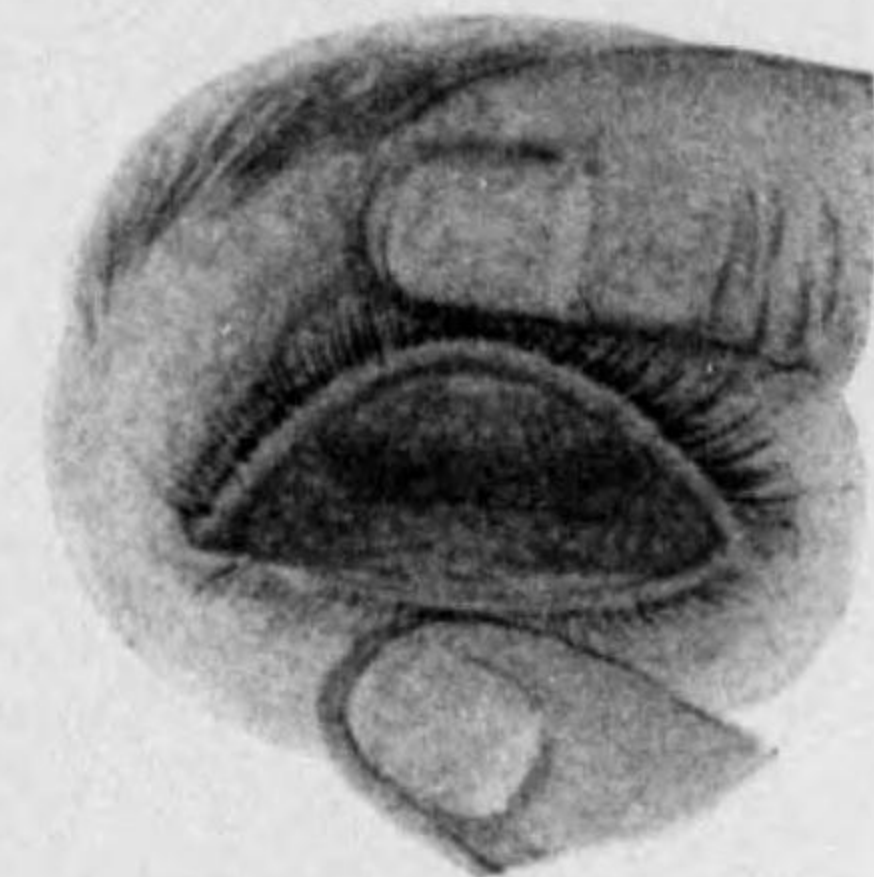
114. 急性期「トラコーマ」



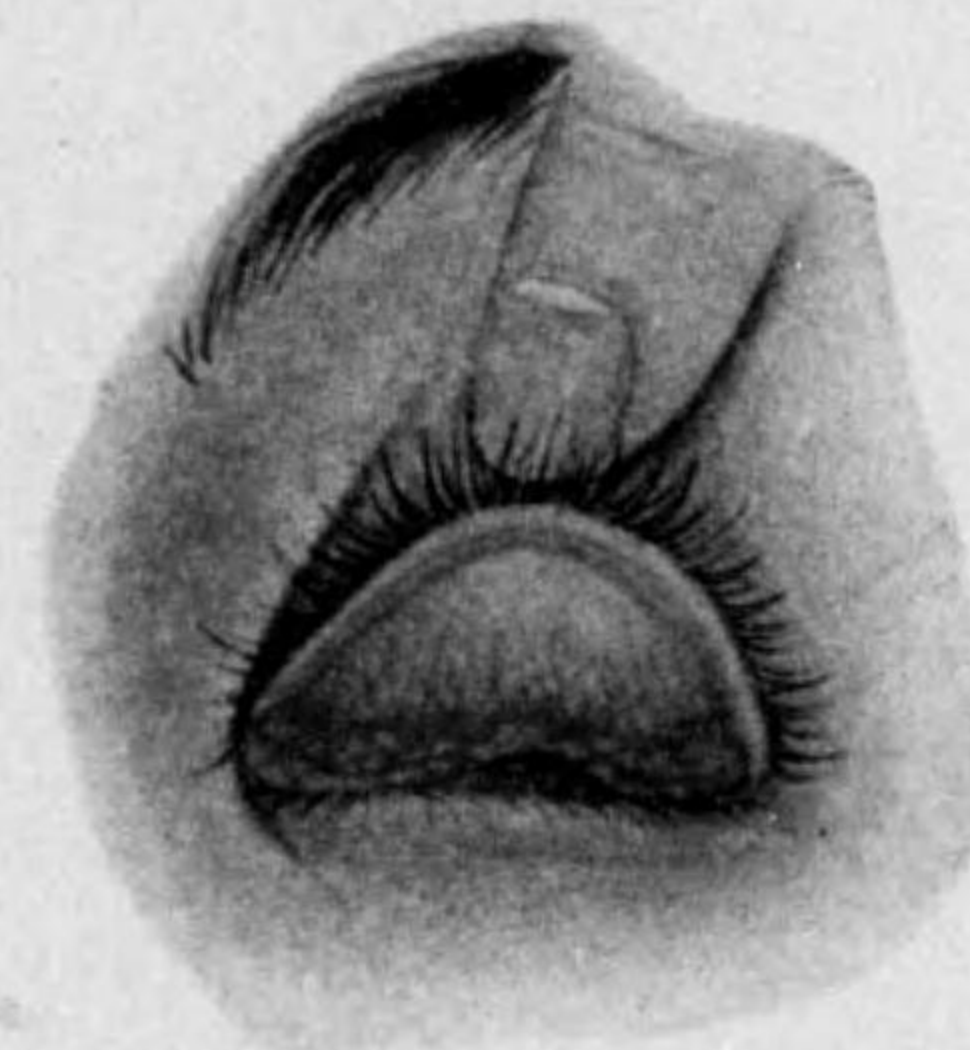
115. 急性期「トラコーマ」



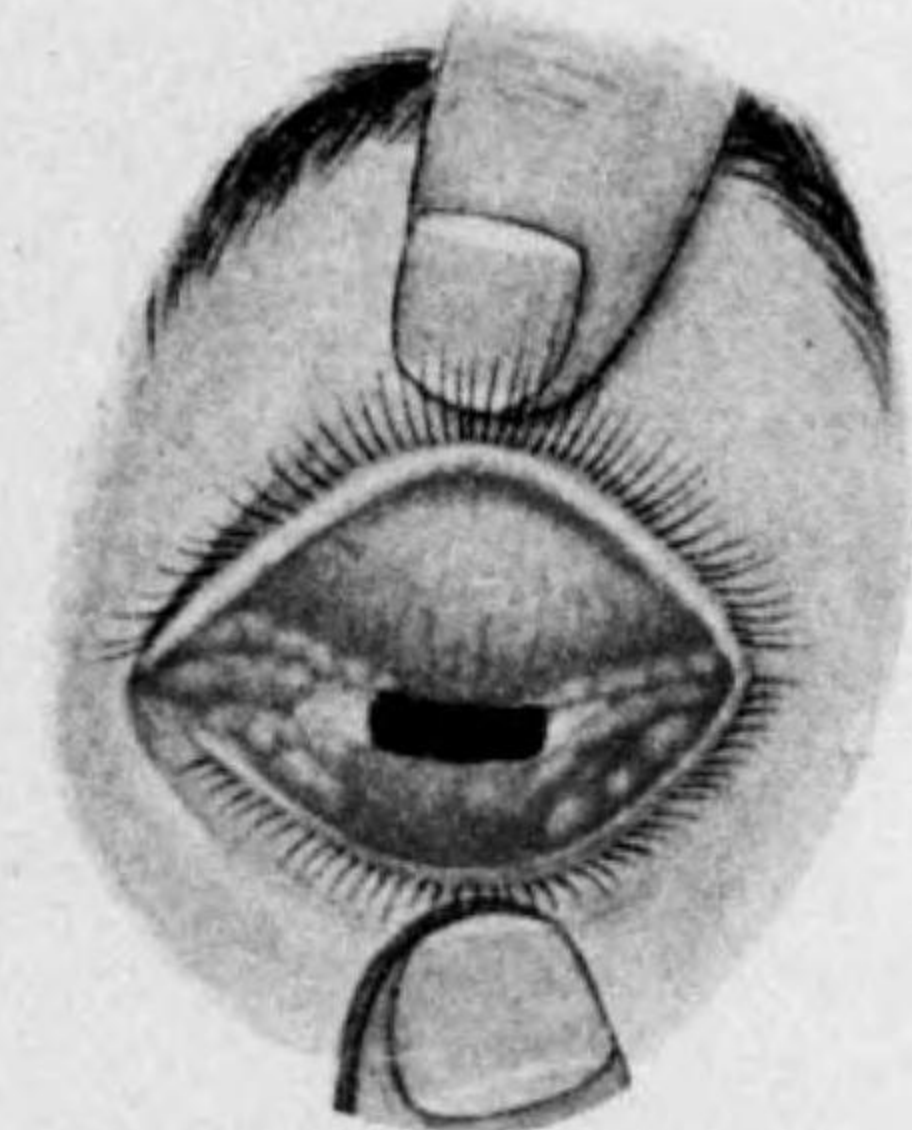
116. 新鮮ナル「トラコーマ」



117. 新鮮ナル「トラコーマ」



118. 新鮮ナル「トラコーマ」



119. 稍、陳舊ナル「トラコーマ」

116. 117. 118. 新鮮ナル「トラコーマ」

急性期「トラコーマ」ノ急性症状ガ消退スト。新鮮ナル慢性期「トラコーマ」ニ移行スル。116. ハ極メテ新鮮ナル所見デアツテ。重篤ナ急性期「トラコーマ」ノ慢性期ニ移行シタ時期ニ屢、見ラレ。穹窿部結膜 臉結膜ニ一面ニ潤濁シタ顆粒ガ皺襞狀ニ簇生シ。多數ノ ブロウツク氏小體ヲ證明スル。瘢痕形成ハ臨床的ニハ認メ難イ。

其ノ後ノ経過ハ體質 生活狀態 處置 等ニヨリ。経過良好ノ場合ニハ炎症ハ次第ニ消退シテ慢性膿胞性結膜炎 乃至ハ結膜膿胞症ノ所見ヲ經テ。アマリ痕跡ヲ貽サズニ治癒シ得ル。其ノ他ノ場合ニハカハル症状ガ一進一退シテ。長年間ノ間ニ炎症變化ハ深部ニ波及シ。一部ニハ瘢痕ヲ形成シツツ顆粒ハ膠様ニ融合シテ陳舊ナ「トラコーマ」ニマデ進行スル。衛生狀態ノ不良ナ者。特ニ女子ニ於テハ病機ノ進行ガ速カデアル。本例ハ13歳ノ兒童ニ見ラレタモノデアル。

117. 118. モ比較的 新鮮ナル所見デアルガ。早期ニ於テ比較的 良好ノ経過ヲトリツツアルモノデ。臉結膜ノ變化ハ輕ク。顆粒ハ主トシテ穹窿部ニ局限シテ潤濁ヲ融合ハ強クナク 孤立シテキル。未ダ臨床的ニ瘢痕形成ハ認メラレナイ。117. デハ 臉結膜ノ内外背部ニモ。マタ 118. デハ 臉結膜ニモ顆粒ヲ認メル。臉結膜ノ顆粒ハ一般ニ粟粒大デ 稍、黄味ヲ帶ビ。アマリ表面ニ隆起シナイ事ガ多イ。臉結膜ノ顆粒ガ赤ク潤濁シタ乳嘴ニ被ハレテ見エナイ時ニハ結膜ヲ「コカイン」水ニテ麻醉後 食鹽末ヲ塗布シテ後 洗滌スルト 明瞭ニ認メラレルヤウニナル(河本氏食鹽法)。之ニ反シテ穹窿部ノ顆粒ハ一般ニ大キクシテ 赤味ヲ帶ビ。結膜面ニ隆起スル。

良好ノ経過ヲトリツツアルモノデハ ブロウツク氏小體ノ證明ハ困難デアル事ガ屢、アル。

「トラコーマ」ガ結膜ニ局限シテキル間ハ。自覺症状ハ通常 輕クシテ。眼精疲勞ト 眼脂ノ爲メニ起ル所ノ 一時的ノ 視力障碍トヲ主トスル。

本例ハ 夫。15歳 及ビ 13歳ノ 學童ニ見ラレタモノデアル。

治療法：新鮮ナル時期ニ適當ナ治療ヲ加ヘルト。後貽症ヲ貽ス事 少クシテ 治癒シ得ル。炎症々狀ノ強イ時ハ 硝酸銀水。然ラザル時ハ 硫酸銅水 又ハ 硫酸亞鉛水ヲ 點眼 洗滌シ。結膜擦過法。亂切法。穹窿部結膜切除法 等ノ 手術ヲ行フ外。生活狀態ヲ 可良ナラシメ。常ニ 顔面ヲ 清潔ニ保タシメル事ガ 必要デアル。天然水ヲ以テ 頻回 充分ナル洗眼ヲ 施行スル事ハ 極メテ大切デアル。又 治療ニ際シテハ 時々 方法ヲ 變ヘル事ガ 必要デアル。

119. 稍、陳舊ナル「トラコーマ」

「トラコーマ」ガ 稍、陳舊ニナルト。顆粒ハ 黄色半透明ナ 膠様ヲ呈シ。穹窿部結膜。半月狀皺襞。下臉結膜ノ外背部險縁近クナドニ。堤防狀ニ 融合シテ局限シ。一部ニハ 輕度ノ瘢痕形成ヲ認メル。カハル膠様顆粒ハ 壓スレバ 容易ニ 内容ヲ漏出スル。組織的ニ 検査スルト。主トシテ 顆粒上ノ上皮ニ局限シテ 多數ノ ブロウツク氏小體ヲ證明スル。

治療法ハ 大約 新鮮ナル時期ニ準ズルガ。治癒後ニ 中等度ノ 瘢痕ヲ貽ス。膠様顆粒ハ 針又ハ 尖刃刀ヲ以テコレヲ破壊スルトヨイ。

本例ハ 29歳ノ 男子ニ見ラレタモノデアル。

XXVI. トラコーマ (膠様顆粒)

(120, 121, 122, 123, 124, 125.)

XXVI. トラコーマ (膠様顆粒)

120. 半月状皺襞 Plica semilunaris ノ顆粒

半月状皺襞ハ穹窿部結膜ト共ニ顆粒ノ好發部位デアル。發病初期カラ屢、著明ノ顆粒ヲ發生シ、陳舊ニナルト膠様顆粒トナル。又屢、結膜症狀ガ輕快シテモ、半月状皺襞附近ニ顆粒ヲ殘存スル事ガアル。手術ニ際シテ該部ノ顆粒ヲ看過シテハナラナイ。

本例ハ15歳ノ男子デ、顆粒ハ穹窿部結膜ニモ多數存在シ、瞼結膜ニハ顆粒ノ外乳嚢ノ増殖モ見ラレル。

121. 122. 123. 陳舊ナル「トラコーマ」

「トラコーマ」ガ慢性期ニ移行スルト、長年月ノ間ニ顆粒ハ膠様ニ融合シテ、時トシテ結膜面全體ヲ覆ヒ、甚ダシイ場合ニハ結膜面全體ガ一ツノ融合シテ膠様顆粒トナル(123.)。カハル所見ヲ呈スルモノハ膠様「トラコーマ」Trachoma gelatum ト謂ハレル。コレニ對シテ116.-119.ノ如キモノヲ顆粒性「トラコーマ」Trachoma granulosum. 乳嚢増殖ノ強イモノヲ乳嚢性「トラコーマ」Trachoma papillare (133, 134.). 瘢痕期ニ移行セルモノヲ瘢痕性「トラコーマ」Trachoma cicatriceum (124, 125.) 等ト稱スル。

「トラコーマ」ガ陳舊ニナルト、屢、角膜ニ著明ノ「パンヌス」ヲ發生スル。輕度ノ「パンヌス」ハ「トラコーマ」ノ種々ノ時期ニ發生スルガ、定型ノモノハ主トシテ瘢痕期ノ「トラコーマ」ニ合併スル(138.)。又「トラコーマ」ノ末期ニハ屢、瘢痕性收縮ノ爲メ種々ノ後胎症ヲ來ス(143.-147.)。

「トラコーマ」ガ、末期症狀ヲ呈スル迄ニハ一般ニ長年月ヲ要スルガ、コレハ體質生活狀態等ガ關係スル。衛生狀態ノ良イ者デハ病機ノ進行ガ遅クシテ長年月ヲ要シ、又比較的早期ニ治癒ニ赴ク者ガ多イ。又女子デハ男子ヨリ病機ノ進行ガ速カナ事ガ屢、デアル。

陳舊ナル「トラコーマ」デハプロウツク氏小體ハ大型ノ包括體ヲ形成シテキルモノガ多イ(130. 参照)。治療法ハ進行性ノ「パンヌス」ヤ潰瘍ノアル場合(138. 参照)以外ニハ硝酸銀水ハアメリ使用サレナイ。硫酸銅水「クエン酸銅水(クシロール)ノ點眼、黃降降軟膏ノ點眼按摩等ノ外、硫酸銅結晶ニヨル結膜腐蝕法ガ用ヒラレル。コレニヨリ膠様顆粒ノ吸收ガ促進サレル。膠様顆粒ハ之ヲ破壊スル。尙ホ結膜擦過法、亂切法等ノ器械的療法ハ著効ヲ奏スル。合併症後胎症ノ處置ハXXIX, XXX. ヲ見ヨ。

本例ハ夫、11歳、27歳、30歳ノ女子ニ見ラレタモノデ、123. デハ著明ノ「パンヌス」ノ爲メ視力ハ0.2ニ低下シテキル。一般ニカハル陳舊ナル「トラコーマ」ハ中年以上ノ人ニ見ラレルガ、女子デハ屢、若年者ニ於テモコレヲ見ル。

124. 125. 瘢痕ニ移行スル時期ノ陳舊ナル「トラコーマ」

「トラコーマ」ハ如何ナル時期カラモ治癒シ得ル。初期ニ治癒スレバ臨床的ニハ殆ド痕跡ヲ殆サズ(196. 参照)。比較的早期ニ治癒スレバ薄イ瘢痕ヲ殆スノミデアル(131. 参照)。病變ガ進行スレバ治癒ニ際シテ本例ノ如ク結膜面全體ガ白色膠様ノ瘢痕ヲ覆ハレ、屢、瘢痕性收縮ノ爲メ睫毛亂生眼瞼内反、瞼球癒着、瞼裂縮小等ノ後胎症ヲ殆シ。同時ニ「パンヌス」ヤ角膜潰瘍ヲ起シ、ソノ爲メ視力障礙ヲ來ス事ガ多イ。

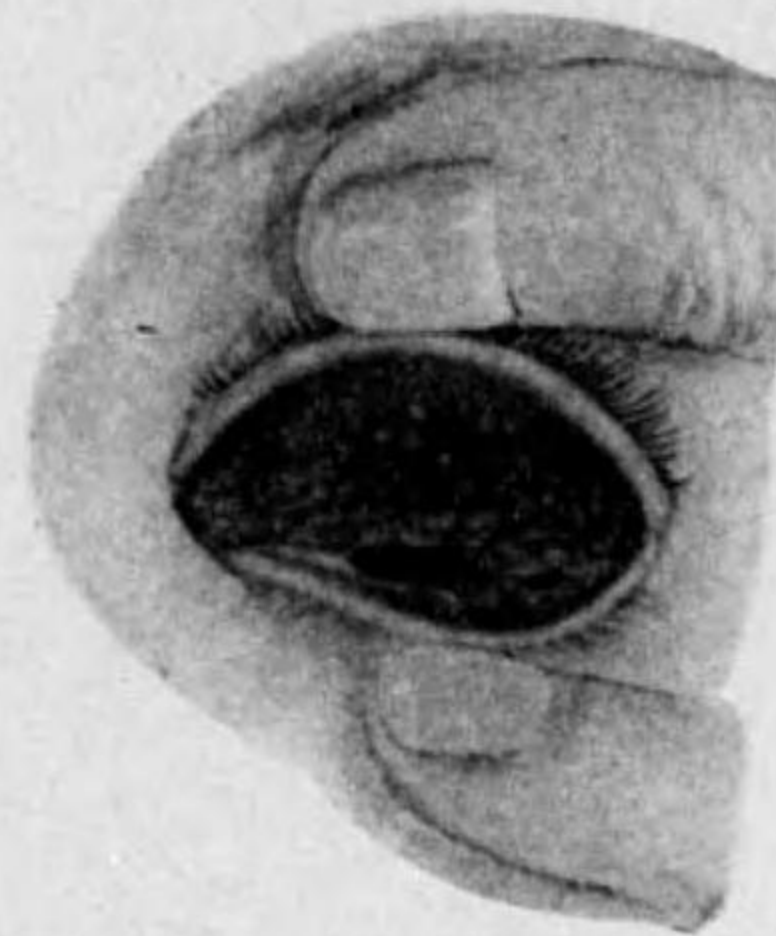
陳舊ナル膠様顆粒ハ時トシテ變性ヲ起シテ結膜「プラスモーム」(148, 149.) トナリ、更ニ進ンデ結膜澱粉様變性(150, 151.) トナル事ガアル。

「トラコーマ」ガ瘢痕ニ移行シテ炎症ガ消退スレバプロウツク氏小體ノ證明ハ困難トナル。

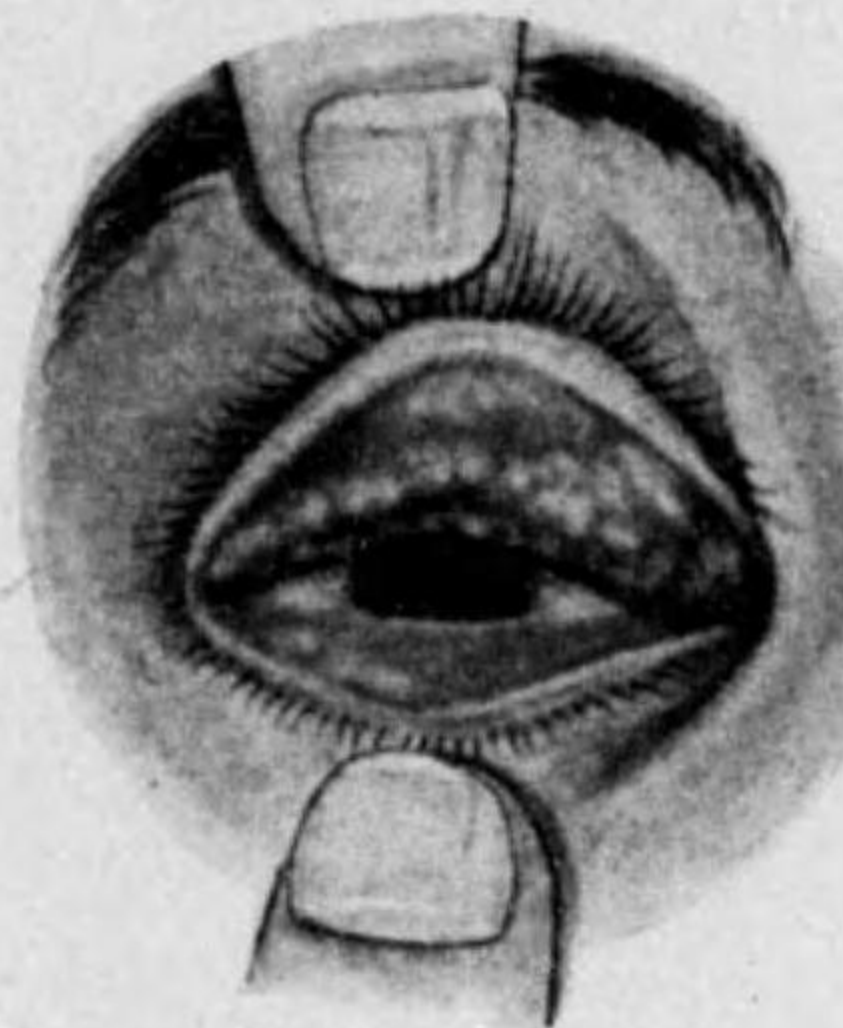
124. ハ35歳ノ女子ニ見ラレタモノデ、結膜ニ寄生シテ膠様顆粒ガ瘢痕化シツツアル所見デ、一部ニハ瘢痕一部ニハ尙ホ膠様ノ光澤ヲ認メル。



120. 半月状皺襞 Plica semilunaris ノ顆粒



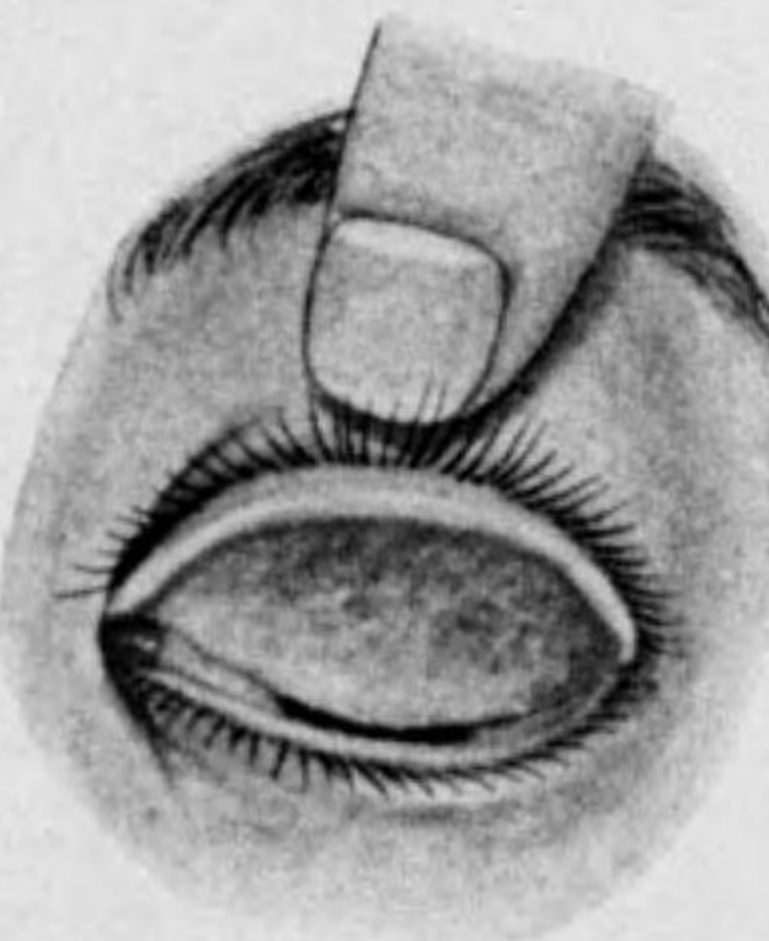
121. 陳舊ナル「トラコーマ」



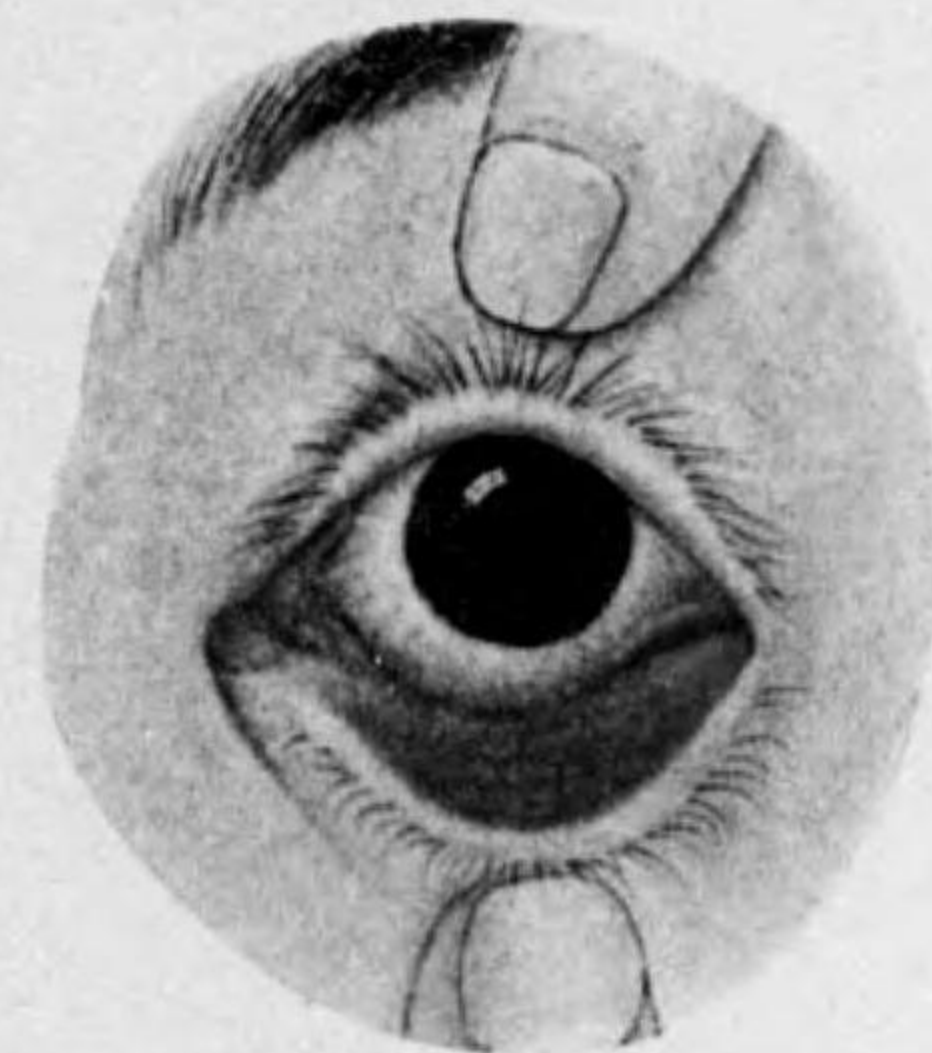
122. 陳舊ナル「トラコーマ」



123. 陳舊ナル「トラコーマ」



124. 瘢痕ニ移行スル時期ノ陳舊ナル「トラコーマ」

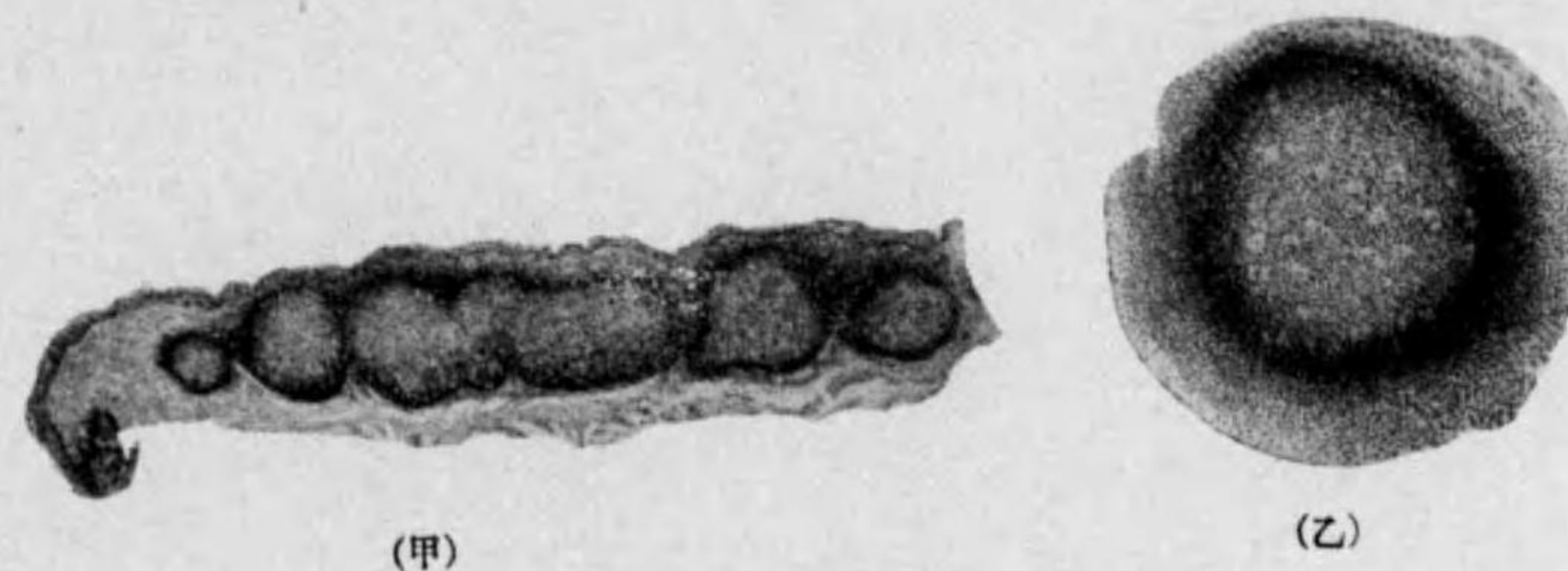


125. 瘢痕ニ移行スル時期ノ陳舊ナル「トラコーマ」

125. ハ 41 歳ノ女子デ、屢、睫毛亂生ヲ 來シタ事ガアル。穹窿部結膜ノ膠様顆粒ハ 融合シ 半バ
 瘰癧ニ移行シテ 横走突起トナツテキル。尙ホ 險結膜ニハ 乳嘴ノ増殖ガ 著明デ、ソノ中ニ 黄白色ノ瘰
 癧ノ存在スルノガ 認メラレル。



第 6 圖 「トフコーマ」結膜ノ組織切片。乳嘴ノ増殖著シク
 ソノ間ニ顆粒ヲ認メル (擴大 約 12 倍)。



第 7 圖 膠様顆粒組織圖

隣接シテ居ル顆粒ハ 相互ニ融合シテ 花壇狀ノ大顆粒トナツテキル (甲)。顆粒ハ概ネ三種類ノ單核
 細胞ノ集合カラ成リ立ツテキテ (乙)。周邊部ハ 淋巴細胞ヲ取り巻カレ、中央部ニハ 上皮様細胞ガ密
 集シ、其ノ上皮様細胞ノ間ニ 點々ト 大キナ小體細胞ガ混ツテキル。小體細胞ハ原形質ニ富ンデキテ 原
 形質内ニ「ヘマトキシリン」ニ 濃染スル小體ガ入ツテキル。

XXVII. トラコーマ (膠様顆粒)・プロワツェク氏小體

(126, 127, 128, 129, 130.)

XXVII. トラコーマ (膠様顆粒)・プロワツェク氏小體

126. 球結膜ノ膠様顆粒

「トラコーマ」ノ膠様顆粒ガ 球結膜上ニ出來タ例デアル。患者ハ 25歳ノ女デ。半年前カラ 右眼ノ 泣涙 分泌 異物感ガアツテ。其ノ球結膜ニ 圖ニ示ス様ナ 帶赤黄色ノ膠様顆粒ガ出來タ。此ノモノハ 一部ハ 壓出ニヨリ 一部ハ 切除ニヨツテ 約二箇月デ 消失シタ。穹窿部ニモ 一面ニ 融合シタ膠様ノ顆粒ガ 認めラレタ。

127. 球結膜ノ膠様顆粒

本例モ 球結膜ニ 生ジタ膠様顆粒デアルガ。前例ニ 比ベテ 稍。古ク。半ハ 瘢痕ニ 移行シテ 居ル様ガ 見ラレル。患者ハ 33歳ノ男デ。約 10年前 「トラコーマ」ヲ 患ヒ。4箇月程 治療ヲ 受ケタコトガアル。最近 異物感ガアツテ 眼ガ 霞ムト云フ 訴デ 外來ヲ 訪レタモノデ。穹窿部結膜ニモ 同様ノ 膠様顆粒ガ 認めラレタ。

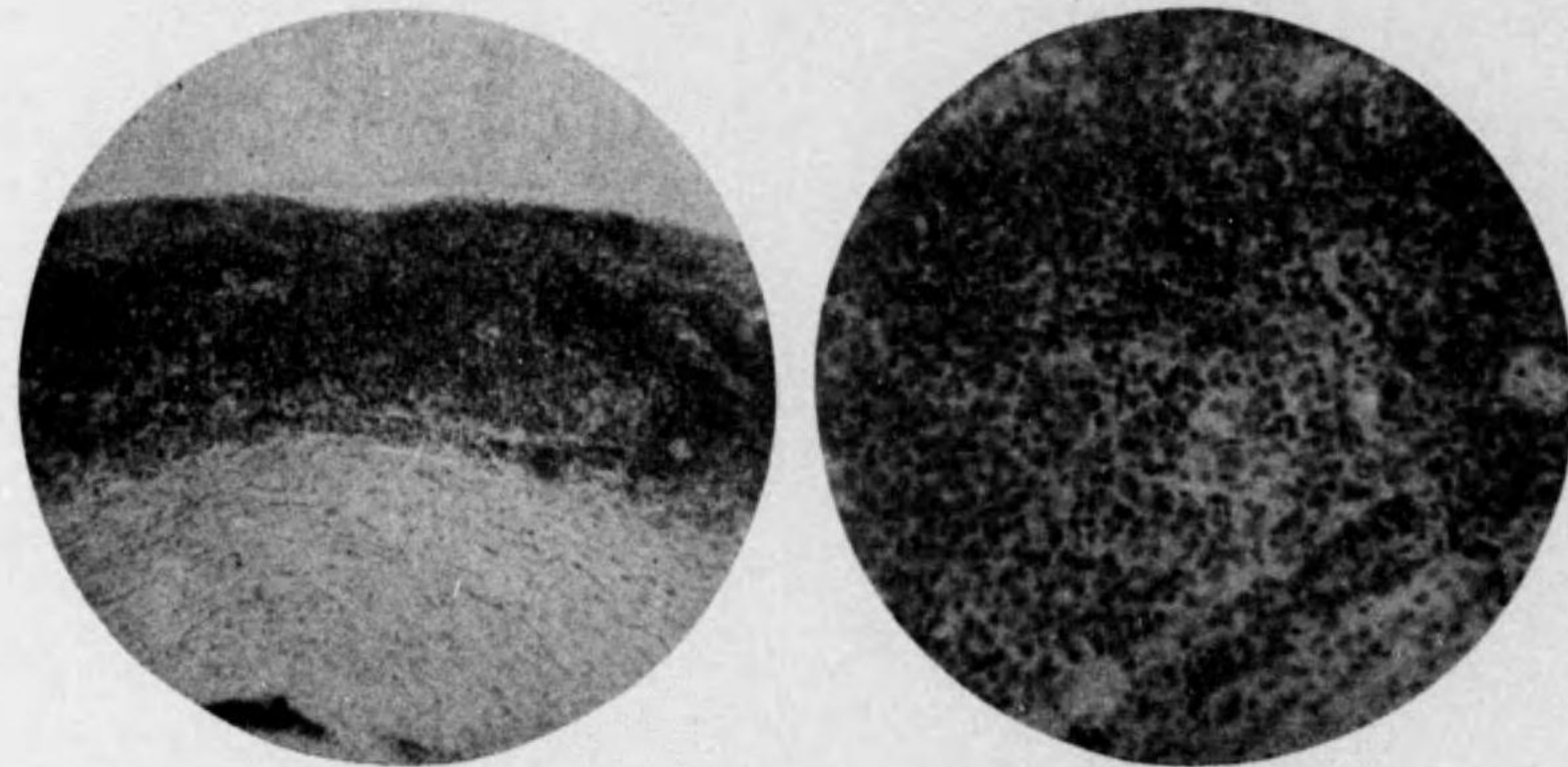
128. 半月狀皺襞 竝ニ 角膜ノ 膠様顆粒

膠様「トラコーマ」デ 角膜 半月狀皺襞 及ビ 結膜ニ 顆粒ノ 出來タ例デ。患者ハ 26歳ノ男。約 2週前カラ 角膜上縁ニ 目星ガ 出來テ 泣涙 異物感等ガ 起ツタト云フ。圖ニ 見ル様ニ 角膜上縁ニ 稍。大ナル 顆粒ガ 一個。又 半月狀皺襞ノ部ニ 數個ノ 顆粒群ガ アツテ。尙 臉結膜ニモ 多數ノ 膠様顆粒ガ 出來テ 居タ。角膜ノ 顆粒ハ 切除シ。半月狀皺襞 竝ニ 臉結膜ノ ソレハ 壓出ヲ 行ヒ。約 2週間デ 刺戟症狀ハ 消失シ。病症ハ 輕快シタ。

129. 角膜上ノ 膠様顆粒

「トラコーマ性全パンス」ノ 中ニ 膠様顆粒ノ 出來タモノ。患者ハ 36歳ノ男デ。約 10年前 「トラコーマ」ヲ 患ヒ。手術ヲ 受ケテ 治療シタト云フ。3年前カラ 再ビ 兩眼「トラコーマ」デ 視力障碍ガ 起ツテ 來タガ。醫 療ハ 受ケナカッタ。

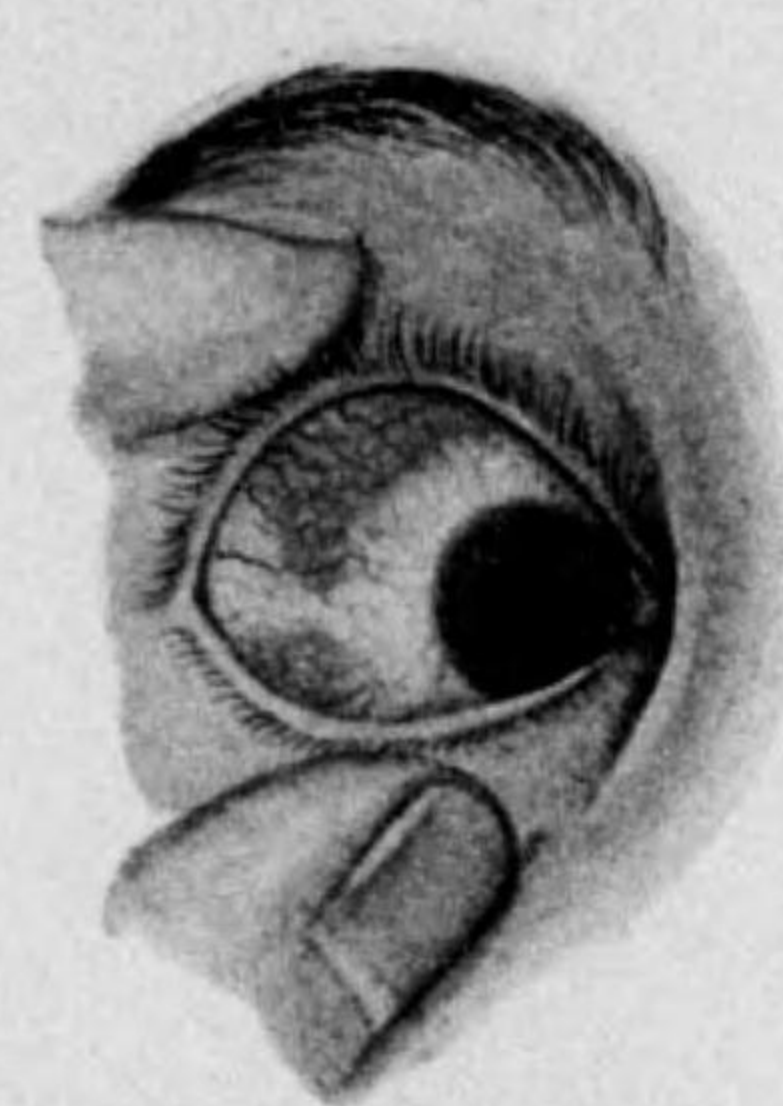
初診當時ハ 兩眼共ニ 瘢痕性「トラコーマ」デ。「パンス」膠様顆粒 等ヲ 伴フ 重症ノ モノデ。左眼ノ 視力ハ 眼前手動デアツタガ。治療ノ 結果 2箇月後ニハ 視力ハ 0.02 マデ 恢復シタ。圖ニ 示ス「パンス」上ノ 顆粒ヲ 切除シテ 組織標本ヲ 作ツタコロ。其ノ 組織ノ 變化ガ 結膜ノ 「トラコーマ」性變化ニ 甚ダ 似テ キタ。第 8圖ハ 弱擴大。第 9圖ハ 強擴大デ 鏡檢シタモノデアル。



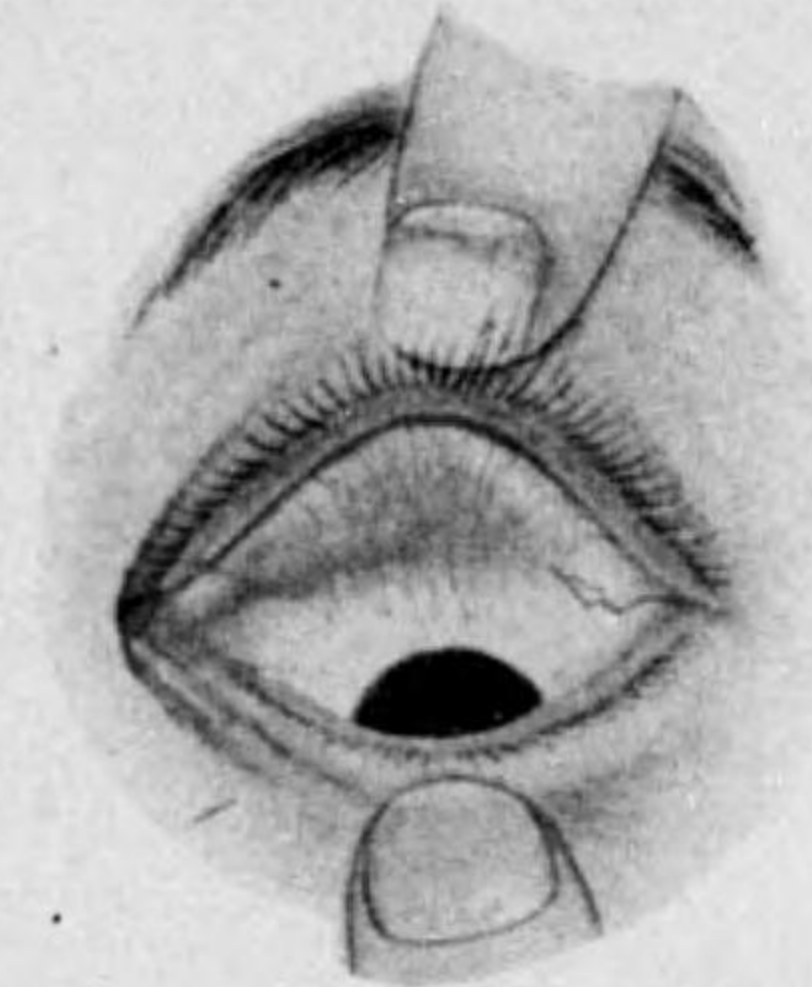
甲 (擴大約 90 倍)

乙 (擴大約 220 倍)

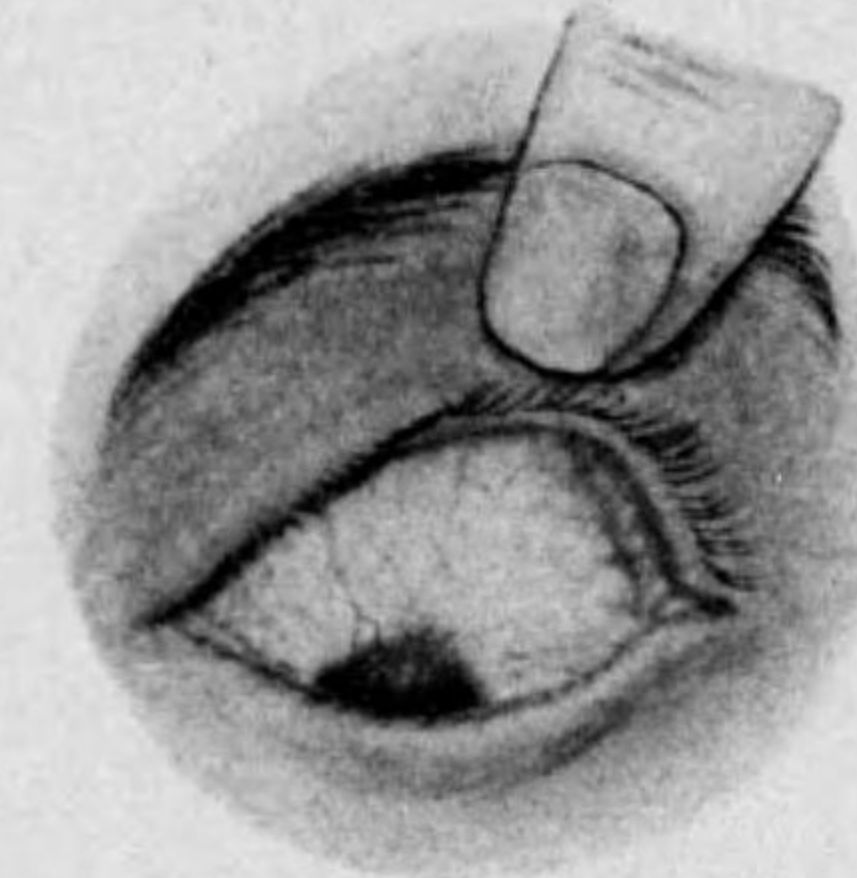
第 8 圖



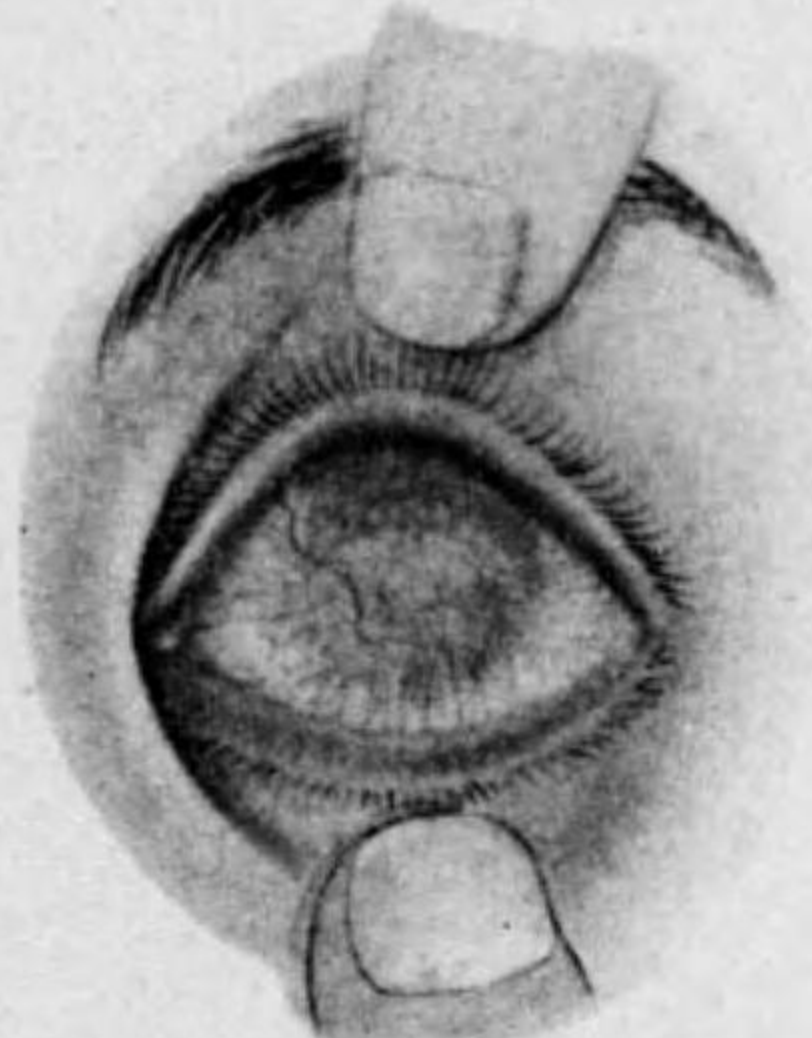
126. 球結膜ノ膠様顆粒



127. 球結膜ノ膠様顆粒 (陳舊ナルモノ)



128. 半月狀皺襞 竝ニ 角膜ノ 膠様顆粒



129. 角膜上ノ 膠様顆粒



(甲)



(丙)



(乙)



(丁)

130. プロワツェク氏小體

(ギームサ氏液染色 擴大約 1500 倍)

130. プロワツェク氏小體

プロワツェク氏小體ハ 1907年 プロワツェク・ハルベルステッテル Prowazek-Halberstädter 兩氏ガ 狸々ニ接種シタ「トラコーマ」結膜カラ 發見シタ小體デ、最近 主トシテ 日本學術振興會ノ研究ニ依ツテ 「トラコーマ」ノ病原體デアル事ガ 殆ド確定サレタ モノデアル。

本小體ハ「トラコーマ」以外ニ 初生兒包括體性結膜炎 (106, 106ノ2) ニモ 證明サレルガ、兩者ハ 元來 同一系統ノ疾患デアツテ、「トラコーマ」ハ 結膜カラ結膜ヘ、包括體性結膜炎ハ 生殖器カラ結膜ヘ 傳染スル爲メ、臨牀的ニ 多少 相違スルニ 過ギナイモノト思ハレル。

プロワツェク氏小體ハ「トラコーマ」並ビニ 包括體性結膜炎ニ 罹患セル部位(結膜・淚囊・小淚管・生殖器)ノ 上皮細胞内ニ 包括體ヲ形成シテキル。包括體ヲ形成スル プロワツェク氏小體ニハ 小型(1/4 μ 内外)デ ギームサ氏液ニ依リ 青色 紫色 赤色 等ニ染色シ 概ネ 圓形ヲ呈スル 元素小體、大型(0.4-1.5 μ)デ 青色 乃至 青紫色ニ 染色シ 球型 楕圓形 桿菌型 コンマ型 等ヲ呈スル 原始體、大型デ 赤染スル 不定型ノ 殘餘體ノ 三種ガアリ、元素小體ガ 最モ 多ク、原始體 コレニ次ギ、殘餘體ハ 稀デアル。此ノ外ニ 包括體外ニ 遊離シテ リンドネル Lindner 氏ノ所謂遊離原始體ヲ 證明スル。

組織的ニハ 包括體ハ 主トシテ 炎性變化ノ 最モ強イ部位、特ニ 顆粒ノ存在スル部位ニ一致シテ 該部ノ 上皮層ノ 主トシテ 上層ニ 證明サレル(第9圖)。

本小體ハ 急性期「トラコーマ」ニ於テハ 殆ド 100%。慢性期ニ於テモ 定型的症狀ヲ 呈スルモノニ於テハ 80-90%ニ 證明スル事ガ出來、ソノ陽性度ハ 病機ノ新舊トハ 關係 無ク、症狀ノ 輕重ニ 比例スル。症狀ガ 増悪スレバ 多數 出現シ、輕快スレバ 減少スル。急性期 乃至 新鮮ナ症例デハ 主トシテ 小型ノ包括體ヲ證明シ、慢性期デハ 陳舊ニナル程 大型ノ包括體ガ 證明サレル。本小體ノ檢索ハ 結膜上皮擦過標本ニ就テ ナサルベキデアリ、染色ハ ギームサ氏液ガ 最モ良イ。

本例ハ 急性期「トラコーマ」ニ見ラレタ 包括體デアル。甲 乙ハ 主トシテ 元素小體ヨリ成ルモノ、丙ハ 原始體ノミヨリ成ルモノ、丁ハ 橙赤色ノ殘餘體ヲ 含ムモノデアル。何レモ 上皮細胞ノ原形質内ニ 包括體ヲ 形成シテキル。

XXVIII. トラコーマ (癩痕期)

(131, 132, 133, 134, 135, 136.)

131. 132. 癩痕化シツツアル「トラコーマ」

124, 125. = 述べた如ク「トラコーマ」ハ如何ナル時期カラモ治癒シ得ル。早期ニ治癒スレバ癩痕ヤ痕跡ヲ殆ス事僅少デアリ (196. 参照)。末期ニマデ進行シテ治癒スレバ高度ノ癩痕ヤ後胎症ヲ殆ス (124, 125, 143.-147. 参照)。治癒ニ際シテ初期ノ顆粒ハ殆ド痕跡ヲ殆サズニ吸收サレルガ、陳舊ナ顆粒 (膠様顆粒) ハ癩痕トナル。先ヅ顆粒ノ境界ハ不鮮明トナリ。隆起度ハ減ジテ低クナリ。次第ニ不明瞭トナツテ周圍ノ癩痕ニ移行スル。遂ニ顆粒ハ癩痕トナツテ收縮シ乳嘴増殖ヤ炎症モ去ツテ治癒スル。

本例ハ稍、進行シタ「トラコーマ」(119. 参照) ガ、重症ニマデ進行セズシテ治癒ニ赴キツツアル所見デアリ。カハル時期ニ治癒スレバ或程度ノ癩痕ハ殆スガ、癩痕性收縮ノ爲メノ後胎症ヲ來ス程高度ニハナラナイ。

131. ハ41歳ノ女子。穹窿部ニ薄イ癩痕ガアリ。臉結膜ニハ穹窿部ニ近イ部分ニ發赤肥厚ガアツテ中ニ點々ト顆粒ノ癩痕ニ移行スルモノヲ認メル。自覺症ハ約半年來風ニ當ルト涙ガ出ル事デ。外ニ「トラコーマ」ノ自覺症ハナイ。

132. ハ45歳ノ男子。略。前者ト同様デ點々ト癩痕ニ移行スル顆粒ヲ認メル。結膜ノ潤濁充血乳嘴増殖ハ前者ヨリ稍、強イ。角膜ニハ輕度ノ「パンヌス」ガアル。患者ハ20歳ノ頃カラ「トラコーマ」ニ氣付キ。3年來多少視力ノ減退ヲ來シタト云フ。カハル長年月「トラコーマ」ニ罹患シテキテモ、體質ヤ衛生状態ノ良好ナ人デハ重症ニマデハ進行シナイ。

133. 稍、陳舊ナル「トラコーマ」(乳嘴増殖ノ著明ナモノ)

「トラコーマ」ガ顆粒發生又ハ癩痕形成ニ比シテ乳嘴ノ増殖ヲ主症候トスルコトガアル。之ヲ乳嘴性「トラコーマ」Trachoma papillareト謂フ。患者ハ36歳ノ男デアルガ、今マデ眼病ヲ患ツタ事ハナク、約2箇月前眼脂ガ多ク眼ガ充血シタノデ醫療ヲ受ケ、「トラコーマ」ト云ハレ今日マデ加療シタガ全快シナイト云フ。本例デハ乳嘴ノ間ニ多數ノ微小ナル癩痕ヲ認メル。

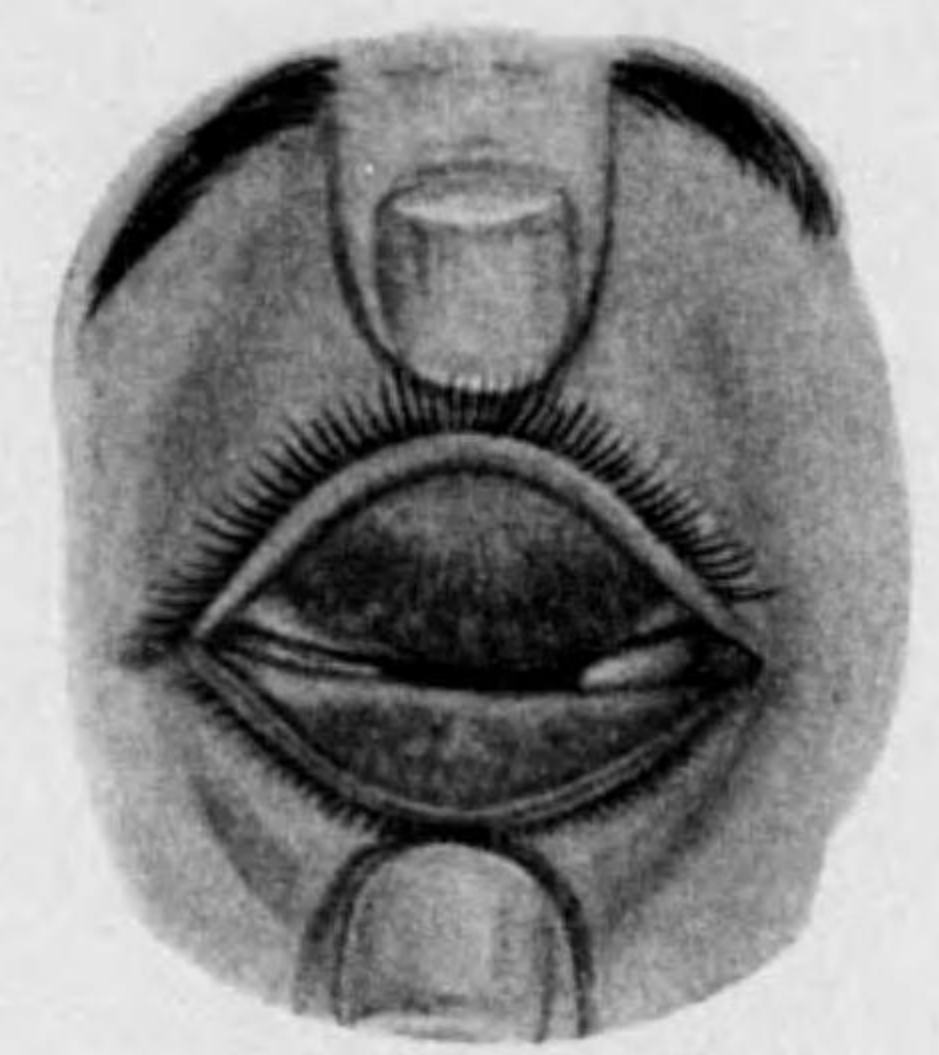
乳嘴性「トラコーマ」ハ顆粒性ノモノヨリモ治癒ガ困難デ。治療法シテハ通常0.5-1% 硝酸銀水又ハ0.5-1% 硫酸銅水ノ點眼、硫酸銅桿ノ使用、或ハ綿球摩擦法、或ハ搔爬法、或ハ燒灼法等ヲ行フ。

134. 稍、陳舊ナル「トラコーマ」(乳嘴増殖ノ著明ナモノ)

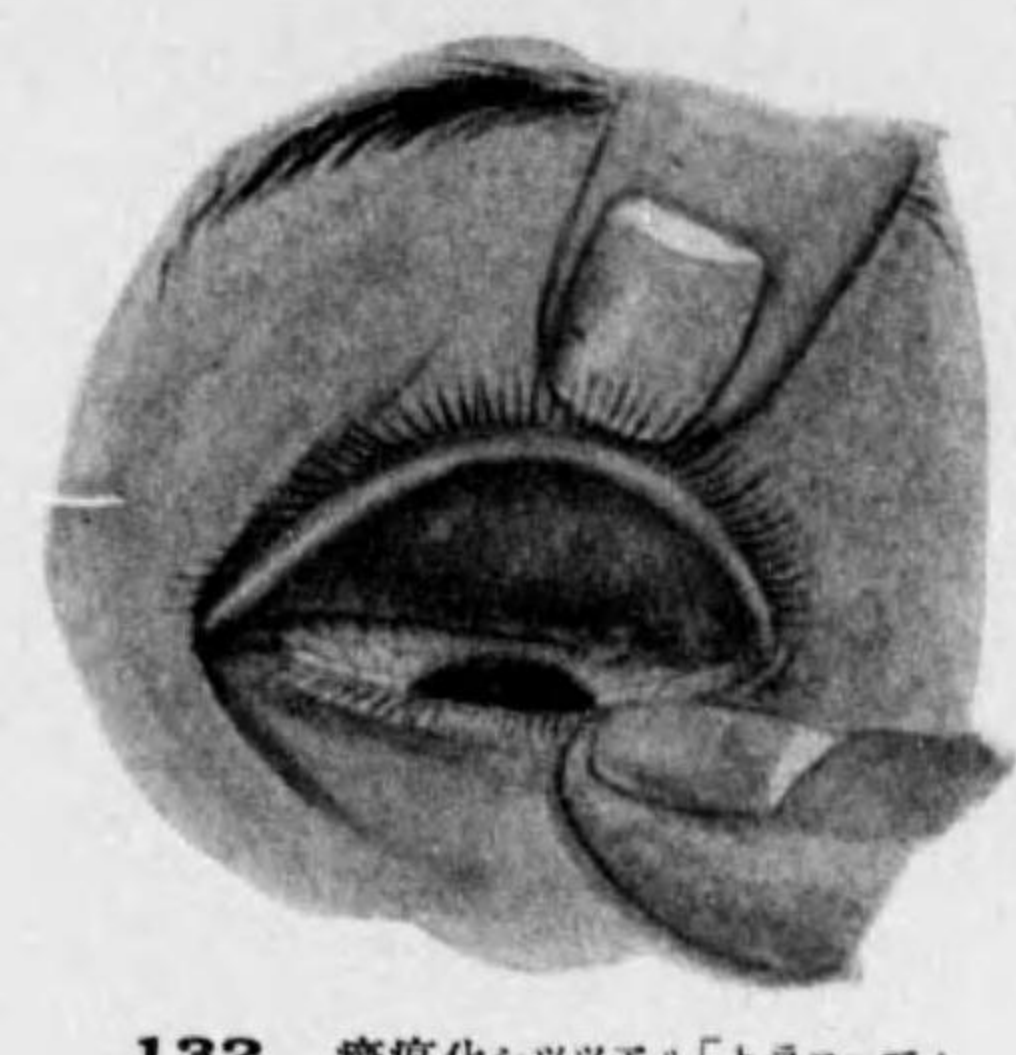
本例ハ39歳ノ女子デ約1箇月前カラ兩眼ノ異物感ト羞明トガアツテ眼脂ガ多イ。結膜ハ圓ノ如ク乳嘴ノ増殖甚シク且ツ充血シテ居ル。乳嘴ノ間ニ小癩痕モ認メラレルガ、角膜ニハ異常ガナイ。乳嘴ノ間ニ顆粒ガアツテモ時トシテ乳嘴ノ潤濁ニ被ハレテ見エナイコトガアル。コノ場合ニ河本氏食鹽法ヲ行ナヘバ顆粒ハ白ク濁ツテ明瞭ニ出現スル。河本氏食鹽法ハ豫メ結膜ニ2-3%「コカイン」水ヲ點眼シテ置キ、食鹽ヲ稍、大量ニ結膜ニ塗布シ、20-30秒後ニ洗滌スルノデアル。

135. 「トラコーマ」治癒後ノ癩痕

「トラコーマ」ハ前述ノ如キ經過ヲ取ツテ次第ニ癩痕化シテ治癒スルモノデアル。治癒後ニハ癩痕ノミデ炎症ハ無イガ、實際上治癒シタカ否カノ診斷ハ甚ダ困難デ。多クノ場合1-2年間其ノ經過ヲ觀察シ愈、再發シナイコトヲ確カメテカラデナイト、診斷ヲ誤ルコトガアル。斯カル場合ニハ疑似症ト診斷スルノガ安全デアル。



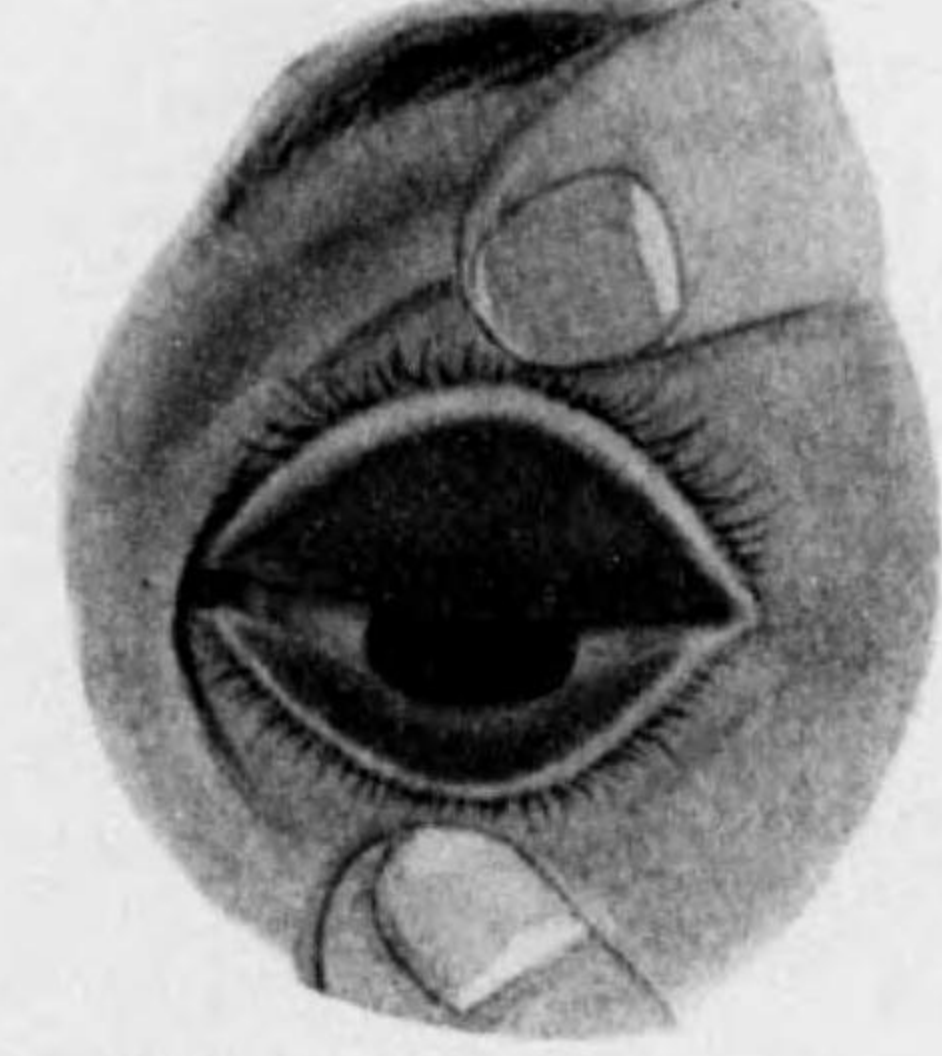
131. 癩痕化シツツアル「トラコーマ」



132. 癩痕化シツツアル「トラコーマ」



133. 稍、陳舊ナル「トラコーマ」
(乳嘴増殖ノ著明ナモノ)



134. 稍、陳舊ナル「トラコーマ」
(乳嘴増殖ノ著明ナモノ)



135. 「トラコーマ」治癒後ノ癩痕



136. 「トラコーマ」治癒後ノ癩痕、
色素斑、睫毛亂生

本例ハ 42 歳ノ男子ノ「トラコーマ」ノ瘢痕デ。患者ハ 子供ノ時ニ「トラコーマ」ヲ患ヒ 醫療ヲ受ケテ治癒シタモノデアル。瘢痕化シタ結膜ニハ 顆粒。乳頭ノ増殖。肥厚。潤濁。充血 等ノ症候ガ無ク。表面ハ滑カニ光ツテ居ル。

136. 「トラコーマ」治癒後ノ瘢痕。色素斑。睫毛亂生

本例ハ 70 歳ノ男デ 長年ノ間「トラコーマ」ヲ患ツテ居リ。最近ハ 眼脂ハ少イガ 視力 ガ衰ヘタト云フ。

結膜ノ「トラコーマ」ハ 概ネ 治癒シテ居ルガ。圖ニ見ル様ニ 上脛結膜ノ部ニ 色素斑ガ胎ツテキル。尙ホ「トラコーマ」瘢痕化ノタメ 睫毛亂生ヲ起シテ 圖上ニモ 數本ノ亂生シタ睫毛ガ見エル。

XXIX. 「トラコーマ」ニ因ル 角膜變化

(137, 138, 139, 140, 141, 142.)

137. 「トラコーマ」ニ合併セル 瀰漫性表層角膜炎 Ceratitis superficialis diffusa.

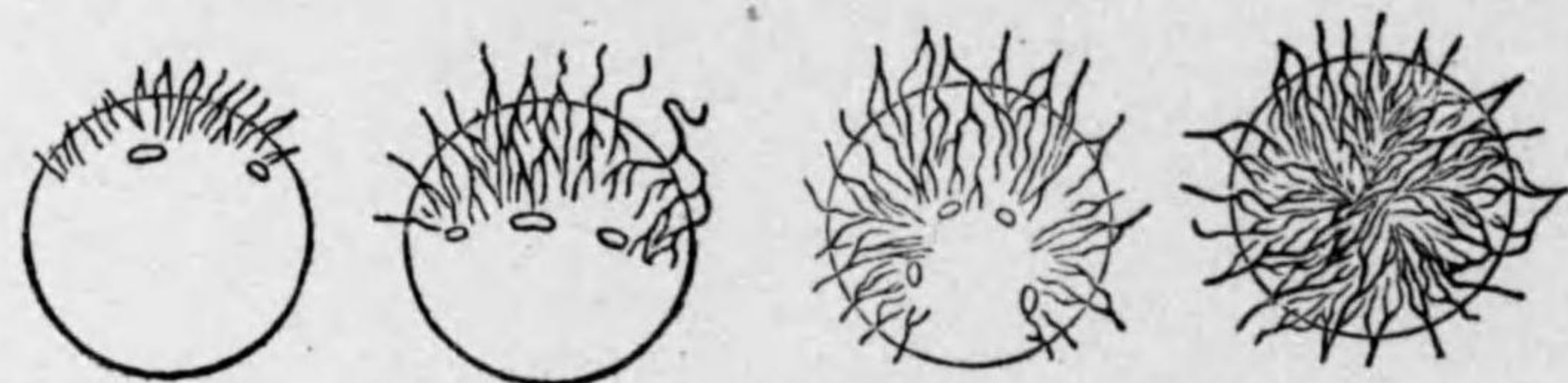
瀰漫性表層角膜炎ハ 屢、「トラコーマ」ヤ其ノ他ノ結膜炎ノ經過中ニ合併スル。本病ハ 種々程度ノ「トラコーマ」ニ合併シ得ルケレドモ 最多ク 炎症ノ旺盛ナ時期デ 結膜ノ發赤腫脹ヤ乳嚢ノ増殖ノ著明ナモノニ合併スル。兩眼ニ「トラコーマ」ヲ有スル者ニアツテハ「トラコーマ」病變ノ強イ眼ハ 他眼ニ比シテ 本病ニ犯サレル事ガ多ク 又其ノ程度ガ強イ。故ニ 本病ノ治療ニ當ツテハ 角膜炎ノ治療ト同時ニ「トラコーマ」ノ治療ニ 意ヲ用ヒナケレバナラス。尙ホ瀰漫性表層角膜炎ノ發生ニハ「ウイタミン」B₂ノ缺乏ガ關係スルモノト考ヘラレルカラ、局處ノ治療ト同時ニ「ウイタミン」B₂ヲ内服サセルコトガ 有効デアル。

本例ハ 35歳ノ男子デ 兩眼ニ乳嚢性「トラコーマ」ガアリ、穹窿部ニハ 少數ノ膠様顆粒ガ認めラレル。角膜ノ表面ハ 粗糙デ、灰ヲ撒布シタヤウナ微細ナ潤濁ガ 角膜ノ表面 特ニ上半部ニ 著明ニ認めラレ、
「フルオレスチン」液ニヨツテ 綠色ニ染色セラレル。

尙 瀰漫性表層角膜炎ニ就テハ XLIヲ参照サレタイ。

138. 「トラコーマ性パンヌス」 Pannus trachomatous, 角膜潰瘍 Ulcus corneae.

「トラコーマ」ノ癢痕期ニハ 屢、角膜「パンヌス」ヲ起ス。「トラコーマ性パンヌス」ハ 殆ンド常ニ角膜ノ上縁



第 10 圖 「トラコーマ性パンヌス」進行ノ順序ヲ示ス

ニ始マリ、第 10 圖ノ如キ形狀ヲナシテ 漸次下方ニ進行シ、通常 角膜ノ上半部ニ局限スルケレ共、時ニハ 角膜全邊ニ擴ガリ、全「パンヌス」トナルコトモアル。

「パンヌス」ガ起レバ 自覺的ニ 羞明、流淚、異物感、疼痛等ノ症狀ガ現ハレ、ソレガ瞳孔領ヲ侵セバ 視力ガ減退スル。

「パンヌス」ノ治療後ニハ 癢痕 卽 角膜薄翳 Nubecula corneae ヲ胎ス。

「トラコーマ」ノ經過中ニ 屢、「パンヌス」ノ縁 又ハ 角膜ノ縁ニ近キ部分ニ 通常 楕圓形 又ハ 蠶豆形ノ角膜潰瘍ヲ起ス事ガアル。

「パンヌス」又ハ 角膜潰瘍ヲ伴フ「トラコーマ」ノ治療法ハ 險結膜ヲ燒灼 又ハ 腐蝕シ、更ニ角膜周縁ノ球結膜ニ 腐蝕、切開、凍冷等ノ手術ヲ加ヘルノデアル。即チ 毎日一回 1-2% 硝酸銀水ヲ 險結膜ニ點眼塗布、又ハ 烙白金ヲ險結膜面ヲ輕ク燒灼シ、「デオニン」水ヲ點眼、溫電法等ヲ行ハシメル。強度ノ場合ニハ 更ニ 角膜周縁ノ球結膜ニ 5% 硝酸銀水ヲ塗布スルトヨイ。尙ホ 自家血液ノ腎筋内注射、「カルシウム」ノ靜脈内注射、「スルフ」ニアミド劑ノ内服、發熱療法 等ノ 全身ノ轉調療法ヲ併用スレバ 經過ハ一層ヨイ。

本例ハ 25歳ノ女デ、癢痕性「トラコーマ」ガアリ 約 1 週前カラ 右眼球ガ發赤腫脹シ、羞明、流淚、異物感等ガ起ツタモノデ、圖ノ様ナ「パンヌス」及ビ 角膜潰瘍ガ認めラレタモノデアル。

139. 「トラコーマ性パンヌス」 Pannus trachomatous.

本例ハ 64歳ノ女デ、數年來「トラコーマ」ガアルガ、治療ヲ受ケテモ 治ラナイト云フ。最近 兩眼ノ 羞明、疼痛、流淚、異物感等ガ甚クナツタ。結膜ニハ 癢痕性「トラコーマ」ガアリ、角膜ニハ 圖ノ様ナ「パンヌス」ガアツテ、視力ハ 兩眼共ニ 1 米指數ニ低下シテ居タ。



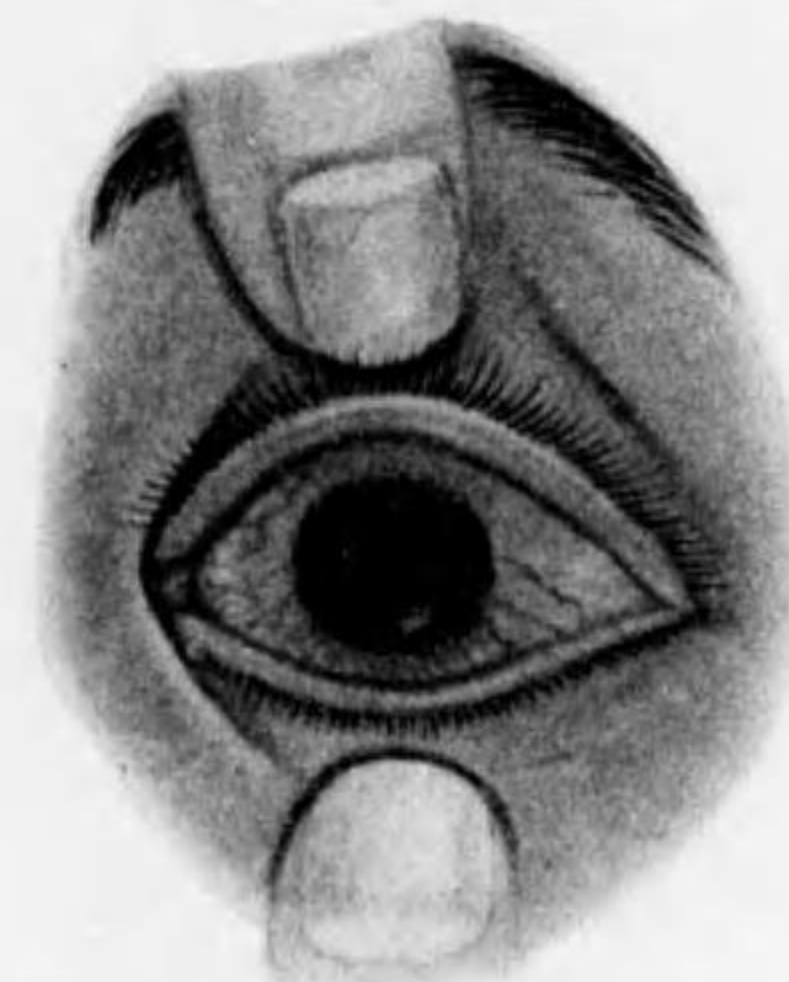
137. 「トラコーマ」ニ合併セル 瀰漫性表層角膜炎 Ceratitis superficialis diffusa. (フルオレスチン染色)



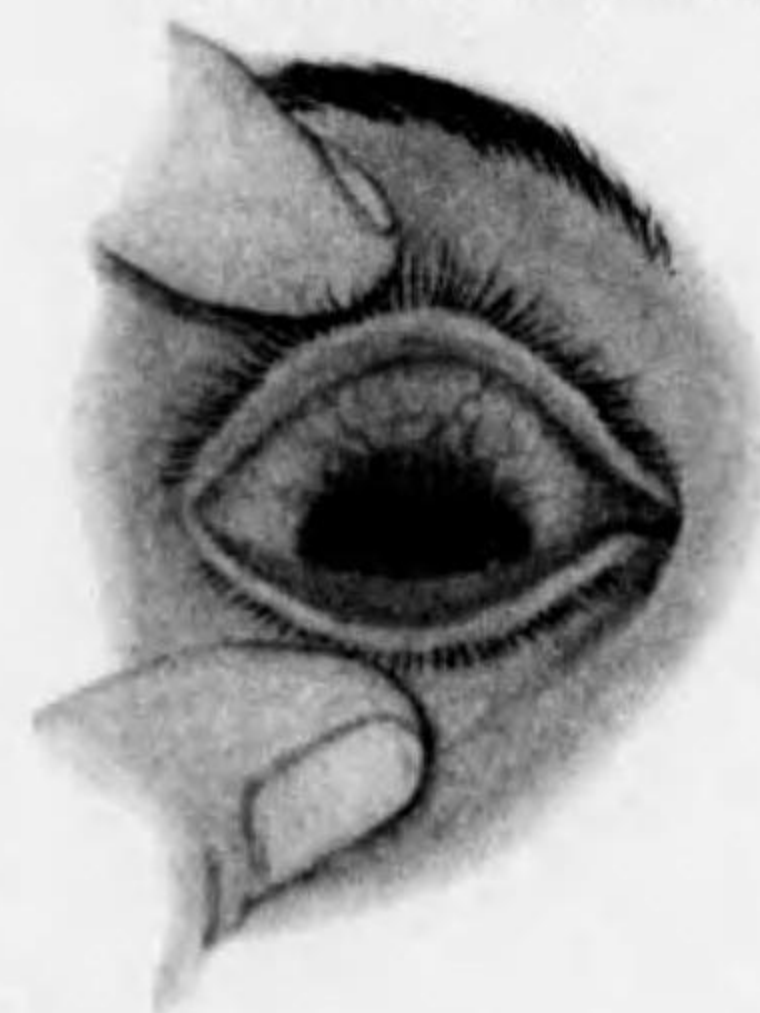
138. 「トラコーマ性パンヌス」 Pannus trachomatous, 角膜潰瘍 Ulcus corneae.



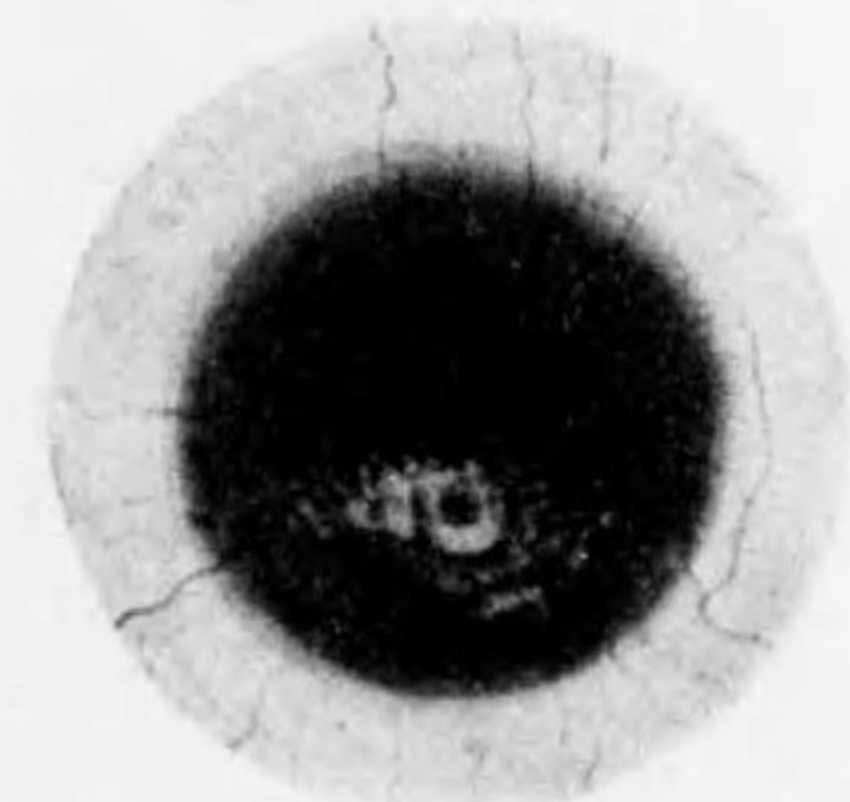
139. 「トラコーマ性パンヌス」 Pannus trachomatous.



140. 「トラコーマ性パンヌス」 Pannus trachomatous.



141. 「トラコーマ性パンヌス」内ノ膠様顆粒



142. 「トラコーマ」ニ因ル 角膜脂肪變性

140. 「トラコーマ性パンヌス」 Pannus trachomatosus.

本例ハ 49 歳ノ男子デ、約 1 週間前カラ 羞明ト異物感ガ増シテ來ト云フ。結膜ニハ 瘢痕性「トラコーマ」ガアリ、角膜ニハ 前例ヨリモ 一層進行シタ「パンヌス」ガアル。之カラ更ニ進ムト、全「パンヌス」トナルノデアル。

141. 「トラコーマ性パンヌス」内ノ 膠様顆粒

膠様顆粒ノ角膜ニ出來ル事ハ 前ニモ述ベタガ、本例ハ 「パンヌス」内ニ膠様顆粒ノ出來タ例デアル。52 歳ノ女デ、數年來「トラコーマ」ヲ患ヒ、昨年カラ 兩眼ガカスミ、目下 眼脂、羞明、及ビ 流涙ガアルト云フ。治療法トシテ「パンヌス」内ノ顆粒ヲ切除シタ。其ノ組織的所見ハ 第 11 圖ノ如ク、定型的ノ顆粒ヲ形成シテキル。



第 11 圖 角膜内ノ顆粒 (擴大約 100 倍)

142. 「トラコーマ」ニヨル 角膜脂肪變性

「トラコーマ」ノ時ニハ 稀ニ圖ノ様ナ 角膜脂肪變性ヲ見ル事ガアル。患者ハ 19 歳ノ女デ、約 3 年前カラ 兩眼ノ角膜ガ潤濁シタト云フ。兩眼ニ 稍、重イ瘢痕性「トラコーマ」ガアリ、角膜ニハ「パンヌス」ガ認めラレ、尙ホ 右眼ニハ 圖ノ様ナ角膜脂肪變性ガアツタ。角膜變性部ヲ 削リ取ツタトコロ、其ノ後ハ 其ノ部ガ一樣ニ薄ク潤濁シタガ、前ヨリハ 透ニ良クナツタ。

XXX. 「トラコーマ」後胎症

(143, 144, 145, 146, 147.)

XXX. 「トラコーマ」後胎症

143. 睫毛亂生 Trichiasis.

「トラコーマ」が眼瞼ノ深部ニ進行シテ後 瘢痕化シテ收縮スル時ニ 眼瞼板ガ内方ニ彎曲シテ 眼瞼内反ヲ起シ、又睫毛根部ノ瘢痕收縮ノ爲ニ 睫毛亂生ヲ起スコトガ屢アル。之等ガアレバ 睫毛ガ角膜ヲ摩擦シテ 羞明、流涙、異物感、疼痛等ガ起リ、角膜ハ漸次潤濁シテ 視力障碍ヲ來ス。

本例ハ 60歳ノ女デ、瘢痕性「トラコーマ」ニ 睫毛亂生ヲ起シ、其ノタメ 角膜ニ圓ニ見ル様ニ 潤濁シテ居ル。

144. 瘢痕性眼瞼内反 Entropium cicatricium.

前述ノ如ク「トラコーマ」ガ 眼瞼板ヲ侵シテ 瘢痕收縮ヲスル時ニハ、眼瞼ハ内反スル。睫毛亂生ト同様ニ 角膜面ヲ 睫毛ガ摩擦スルタメ、角膜ガ潤濁シテ 視力障碍ヲ起ス。

本例ハ 39歳ノ男デ 瘢痕性「トラコーマ」ノタメニ 眼瞼内反ヲ起シタモノデアル。角膜ハ潤濁シテ「トラコーマ」性「パンヌス」モアツタ。

治療法ハ 手術ニヨツテ 眼瞼ヲ外方ニ向ケ、睫毛ガ角膜ニ觸レナイ様ニスル。手術ノ式ニハ ホッフ氏法、クアント氏眼瞼板切除術等ガ 最も普通ニ用ヒラレル。

145. 後眼瞼癒着 Symblepharon posterius, 睫毛亂生 Trichiasis, 眼瞼内反 Entropium palpebrae.

「トラコーマ」ノ瘢痕化ト共ニ 穹窿部結膜ガ收縮シテ 後眼瞼癒着ヲ起スコトガアル。眼瞼癒着ト云フ程度デナク 單ニ穹窿部ノ淺クナツタ程度ノモノハ 瘢痕性「トラコーマ」ニハ極メテ多イ。或ハ「トラコーマ」手術ノ時ニ傷ケラレタ結膜面ガ 互ニ癒着シテ 結膜囊ガ狭クナリ、眼瞼癒着トナルコトガアル故、手術後數日間ハ 特ニ注意シテ 之レヲ防グ様ニ努メルコトガ 必要デアル。

本例ハ 73歳ノ女デ 瘢痕性「トラコーマ」ノタメ 後眼瞼癒着 及ビ 睫毛亂生ヲ起シタモノデアル。

146. 實質性結膜及角膜乾燥 Xerosis conjunctivae et corneae parenchymatosa.

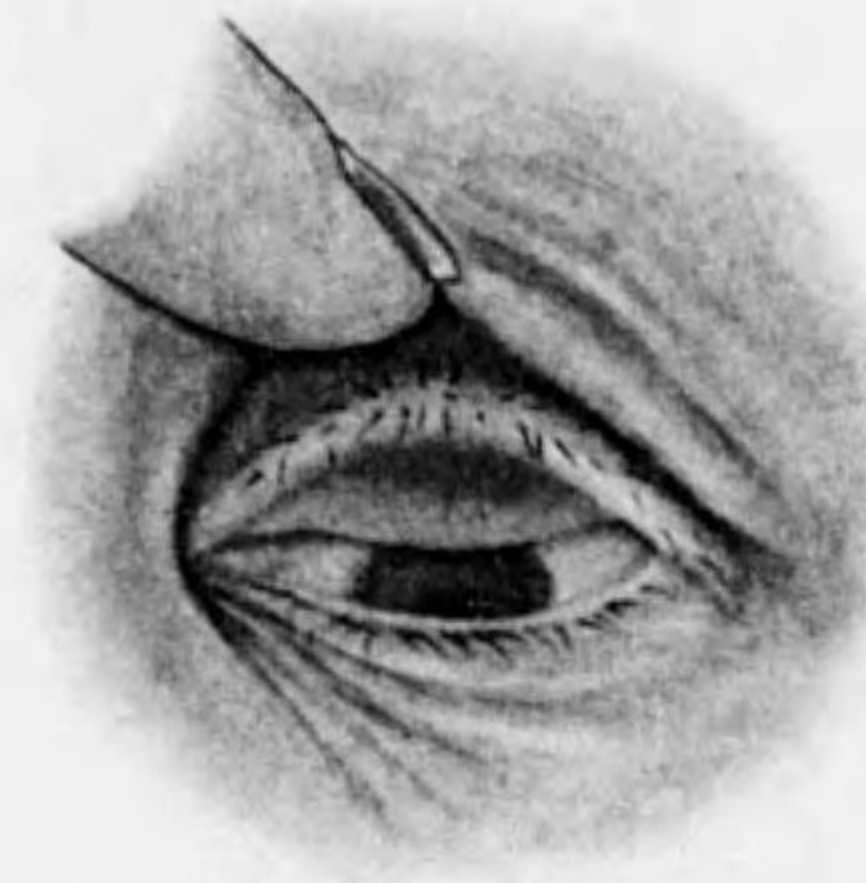
「トラコーマ」ノタメ 結膜ガ高度ニ瘢痕化シ 更ニ角化シタ時ニハ 結膜ノ粘液分泌ガ妨ゲラレ 眼球全體ガ乾クコトガアル。他覺的ニハ 結膜及ビ角膜ガ乾燥潤濁スルガ、自覺的ニハ 眼ガ乾イテ 眼瞼ノ開閉ガ圓滑ヲ缺キ 視力ガ障碍セラレル。

本例ハ 61歳ノ女デ、瘢痕性「トラコーマ」ガアツテ 約6年前カラ 漸次ニ 視力障碍ヲ起シタト云フ。視力ハ 兩眼共手動デ、結膜角膜ガ乾燥シテ 睫毛亂生、眼瞼内反ガアリ、角膜ニ「パンヌス」ガ見ラレル。眼球乾燥ニ對シテハ 無刺戟性ノ「ワセリン」、油類ノ點眼ニヨツテ 自覺症ヲ輕クスルコトガ出來ル。

147. 眼裂縮小 Blepharophimosis.

「トラコーマ」ガ結膜及眼瞼深部マデモ侵シテ 瘢痕收縮ヲスル時ニハ 屢ニ眼裂縮小ヲ起ス。此ノ時ニハ 同時ニ 眼瞼内反 又ハ 睫毛亂生ヲ見ル事ガ多イ。

治療法トシテハ 外眥成形術 Canthoplastic ヲ行フ。眼瞼内反アル時ニハ 同時ニ ホッフ氏手術等ニヨリ 眼瞼内反ヲ 同時ニ治療スベキコトハ 云フマデモナイ。



143. 睫毛亂生 Trichiasis.



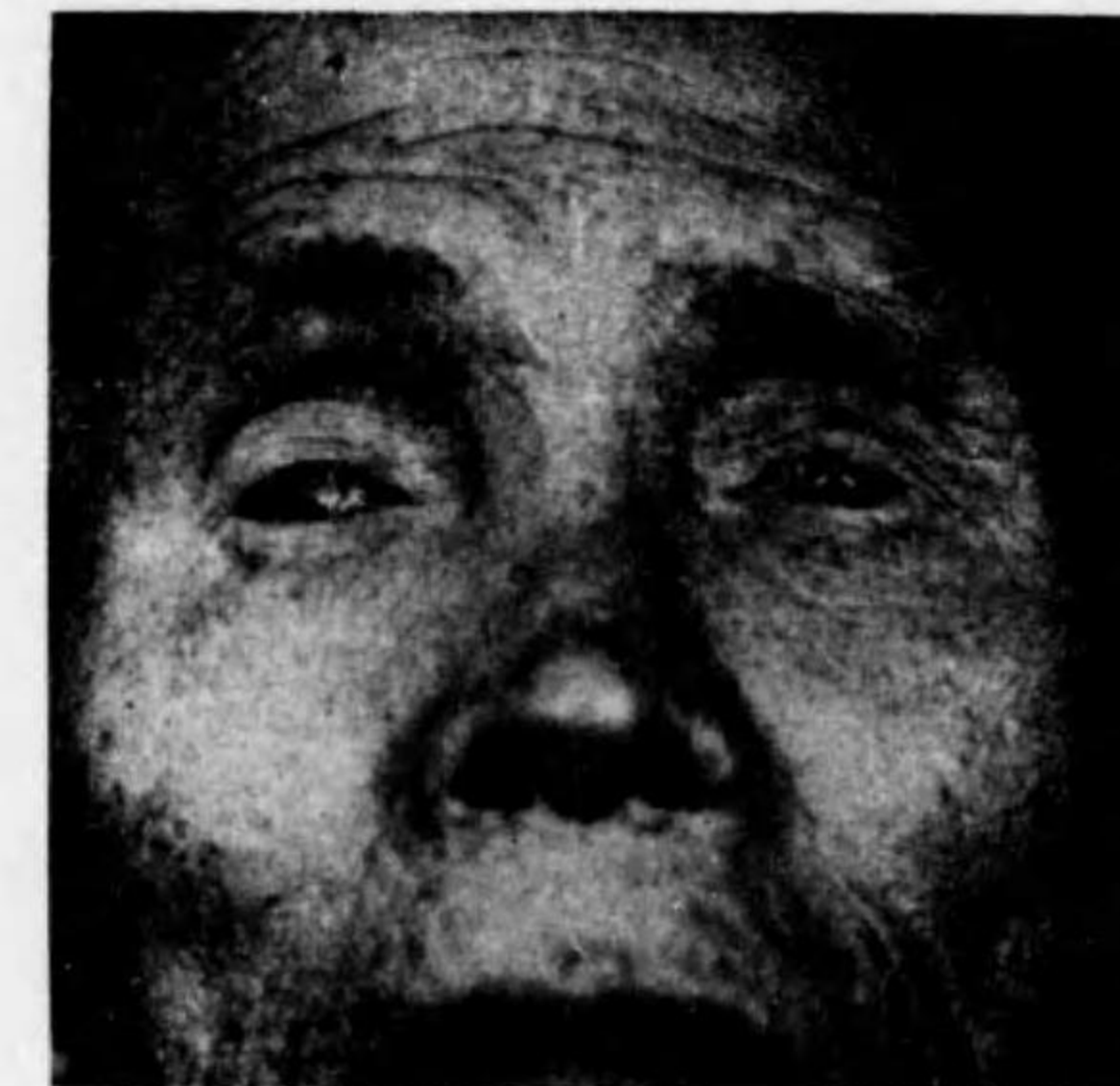
144. 瘢痕性眼瞼内反 Entropium cicatricium.



145. 後眼瞼癒着 Symblepharon posterius, 睫毛亂生 Trichiasis, 眼瞼内反 Entropium palpebrae



146. 實質性結膜及角膜乾燥 Xerosis conjunctivae et corneae parenchymatosa.



147. 眼裂縮小 Blepharophimosis.

XXXI. プラスモーム・澱粉様變性

(148, 149, 150, 151, 152.)

XXXI. プラスモーム・澱粉様變性

148. 149. 結膜「プラスモーム」 Plasmoma conjunctivae.

「プラスモーム」ハ「プラスマ」細胞ノ増殖ニ因ツテ生ズル良性腫瘍デ。「トラコーマ」ニ關係深ク。「トラコーマ」ノ無イ結膜ニ之ヲ見ル事ハ 稀メテ稀デアル。「トラコーマ」ニヨル膠様顆粒ノ變性ガ「プラスモーム」發生ノ基礎ニナルモノト考ヘラレテ居ル。

發生部位ハ 穹窿部結膜 並ニ 眼結膜、稀ニ 球結膜デ、腫瘍ガ眼瞼ノ深部ニ及ベバ 眼瞼ハ紫紅色ヲ呈シ 肥厚下垂スル (58. 参照)。

治療法ハ 肥大シタ腫瘍ヲ 全部又ハ部分的ニ切除スル。

豫後ハ必ずしも不良デハナイガ、「プラスモーム」ヲ起ス様ナ「トラコーマ」ハ 何レモ陳舊ナルモノガ多ク、其ノタメ 種々ナル「トラコーマ」ノ後胎症ニ罹ラサレルコトガ屢ニアル。又 切除シタ「プラスモーム」ガ 更ニ成長シテ 再三ノ手術ニヨリ 眼球癒着ヲ起スコトモアル。

148. ハ 18歳ノ女デ、12歳頃カラ「トラコーマ」ニ罹リ 今日マデ 症状ハ一進一退デ、終ニ圓ノ様ナ腫瘍ガ發生シタ。之レヲ切除シテ組織的ニ検査シテ「プラスモーム」ナルコトヲ確定シ得タモノデアル。

149. ハ 18歳ノ男デ、10歳頃カラ「トラコーマ」ヲ患ツテ居タモノデ、度々其ノ治療ヲ受ケタガ 全治セズ。眼瞼ト眼瞼ノ腫脹トガアツテ 眼瞼ガ重イト云フ。結膜ニハ圓ノ様ナ「プラスモーム」ガ見ラレル (125. 及 151. ト比較セラレヨ)。

150. 151. 152. 結膜澱粉様變性 Degeneratio amyloidea conjunctivae.

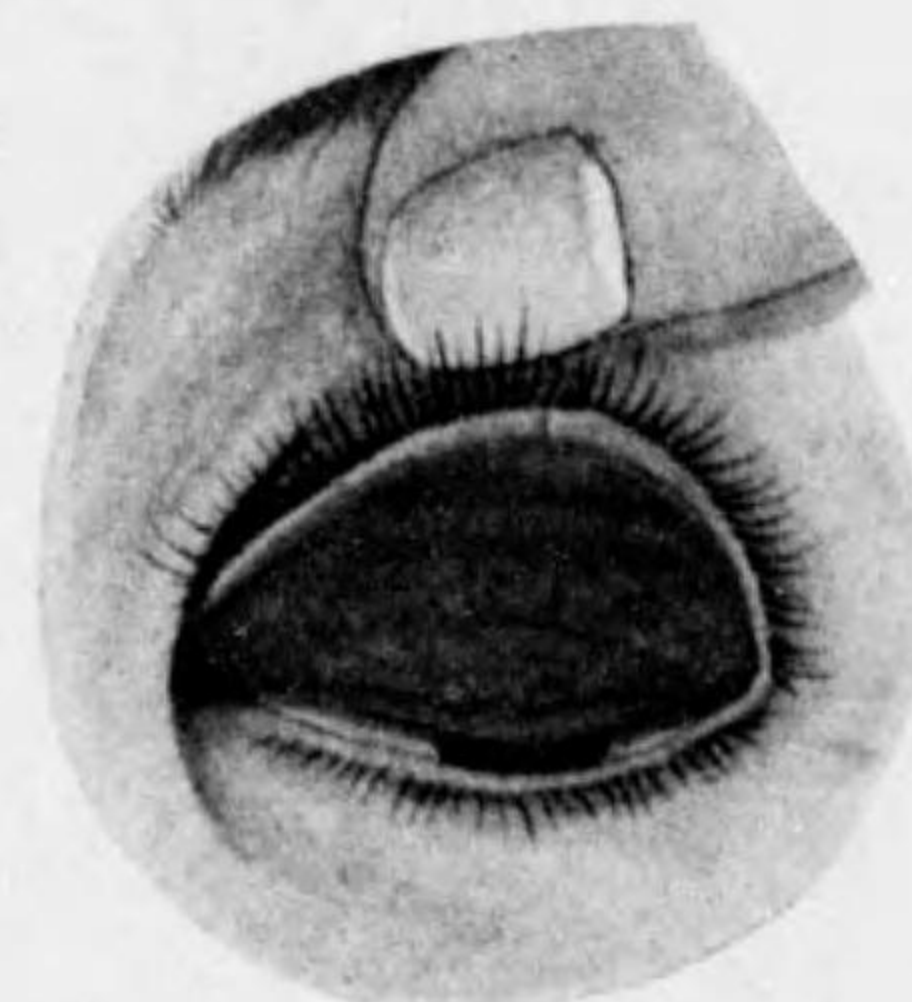
「トラコーマ」ノ時ニハ 結膜ニ澱粉様變性ヲ見ルコトガアル。其ノ成因ニ就イテハ 結膜ニ於ケル膠様顆粒ガ 變性シテ「プラスモーム」トナリ、更ニ進ンデ澱粉様變性ヲ起スモノデアルガ、稀ニ「トラコーマ」ニ因ラズシテ起ルコトモアル。「プラスモーム」ハ 觸診上柔軟デアルガ、澱粉様變性ハ 稍、堅クシテ 鑷子ヲ以テ撮ムニ 脆クシテ破壊シ易イ。

治療法ハ 變性ニ陥ツタ結膜ヲ切除スル。

150. ハ 33歳ノ男ニ見タ 結膜澱粉様變性デアル。

151. ハ 48歳ノ女デ、3年前カラ「トラコーマ」ニ罹ツテキタガ、約半年前 右眼ノ内背ニ近イ下眼瞼ノ縁ニ 粟粒大ノ硬結ガ現ハレ、漸次増大シテ 今日ニ至ツタモノデアル。之レヲ觸レルト 弾力性デ 硬ク、其ノ一部ヲ切除シテ 組織的ニ検査シタコト、一部分ニハ「プラスマ」細胞ガ多數ニ認メラレ、其ノ他ノ部分ハ無構造デ 澱粉様變性ノ反應ヲ呈シタ (152.) (125. 及 149. ト比較セラレヨ)。

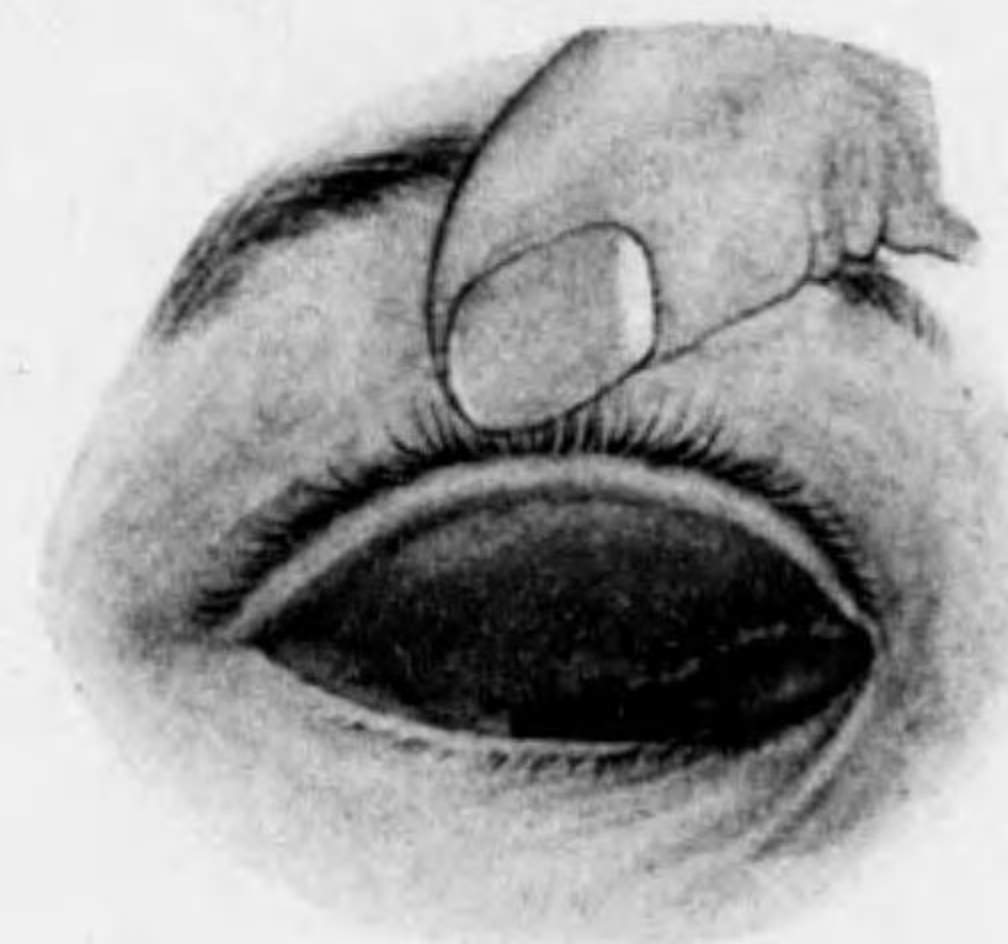
152. ハ 151. ノ患者ノ病變部ノ組織的ノ所見デ「ゲンチアナヴ、オレ、ト」及ビ「ワンギーン」氏複染色ヲ施シタモノデアル。



148. 結膜プラスモーム
Plasmoma conjunctivae.



149. 結膜プラスモーム
Plasmoma conjunctivae.



150. 結膜澱粉様變性
Degeneratio amyloidea conjunctivae



151. 結膜澱粉様變性
Degeneratio amyloidea
conjunctivae.



152. 結膜澱粉様變性組織圖
「ゲンチアナヴ、オレ、ト」及ビ「ワンギーン」氏複染色 (擴大約500倍)

XXXII. 春季カタル

(153, 154, 155, 156, 157.)

XXXII. 春季カタル

春季カタル Conjunctivitis vernalis ハ 稀ナ疾患デアルガ、「トラコーマ」トノ鑑別上 重要ナモノデア
ル。本病ハ 春夏ノ交ニ増悪シ、冬期ニ輕快スルタメ 春季「カタル」ト呼バレル。好シテ 20歳以下ノ男
子ヲ侵シ、眼瞼型ト眼球型トノ二種類ガアル。眼瞼型ハ 瞼結膜ニ 石垣狀ノ 赤イ 不透明ナ乳嘴ヲ發生
シ、指デ之レニ觸レテ見ルト、弾力ガアツテ 硬イ。「トラコーマ」ノ顆粒ハ 半透明デ 柔軟デア
ルカラ 兩者ノ鑑別ハ 困難デハナイ。

眼球型ハ 角膜輪部 特ニ 角膜ノ内外側ニ 灰褐色 膠様ノ 光澤アル隆起物ヲ 發生スルノデア
ル。時ニハ 兩型ガ同時ニ發生セルコトモアルガ、一方ノ型ダケガ見ラレルコトモ 相當ニ多イ。



第 12 圖 春季カタル眼瞼型ノ組織圖 (擴大 約 30 倍)

自覺症ハ 癢痒ト 眼脂ノ分泌トデ、組織中ニ「エオジン」嗜好細胞ガ多ク見ラレ(第 12 圖) 眼脂中ニモ
亦 此ノ細胞ガ出現スル。從ツテ「トラコーマ」トノ鑑別ニ際シテハ、分泌物ヲ取ツテ 其ノ細胞ヲ検査ス
ル事ガ必要デア
ル。

原因ハ明カデナイ。從ツテ治療法モ 良法ガナイガ、眼瞼帶ハ 最も有効デア
ル。又「アドリナリン」
コカイン」水ノ點眼モ 効ガアル。粘膜炎ヲ刺戟スルヤウナ藥品ヲ用ヒルト 却ツテ増悪スル。毎年春夏ノ交ニ
症狀ガ増悪シ、冬期ニ輕快シテ 毎年反復スルコトガ多イガ、年齢ノ長ズルニ及ンデ 通常 自然ニ治癒ス
ル。

153. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼瞼型)

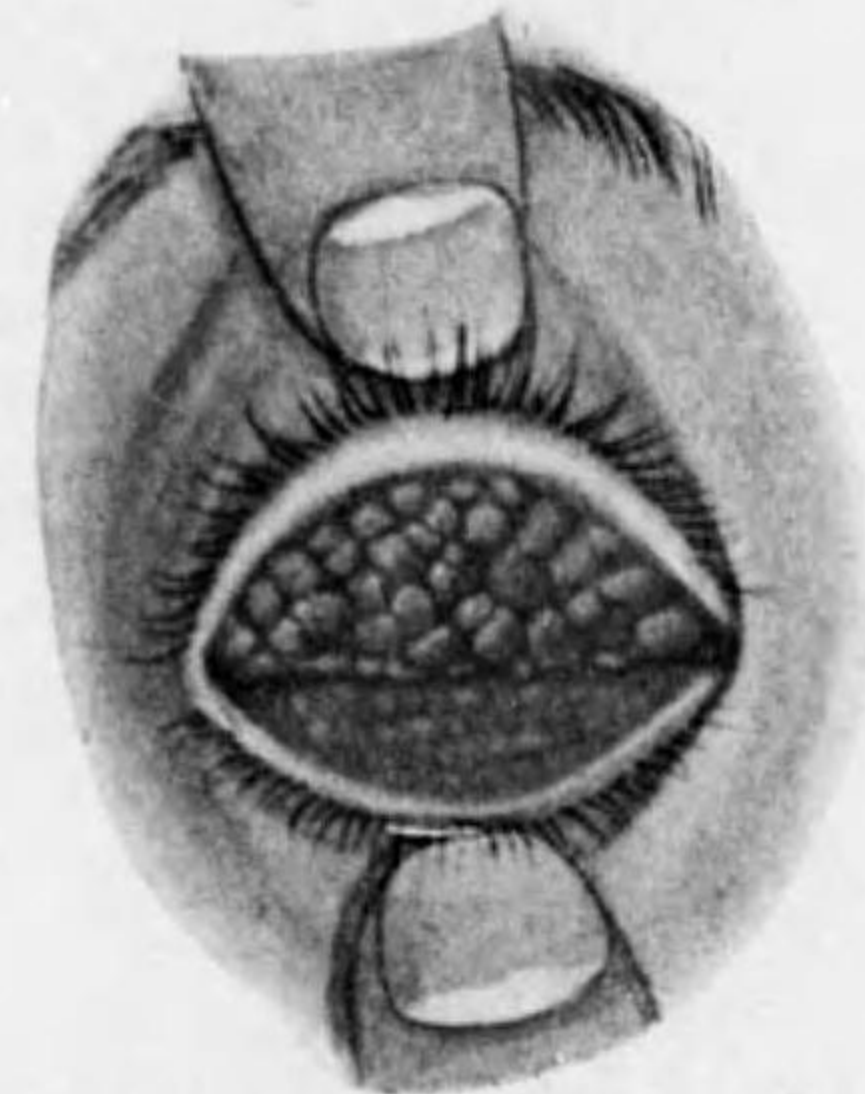
17歳ノ男デ 約 1 箇月前カラ 眼脂 流涙ガアリ、癢痒ヲ感ズル。瞼結膜ニハ 圓ノ如キ石垣狀ノ乳嘴
増殖ガアルガ、球結膜ハ 輕度ノ充血ノ外ニハ 變化ヲ認メナイ。分泌物中ニハ 多數ノ「エオジン」嗜好
細胞ヲ認メタ (157.)。

154. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼瞼型)

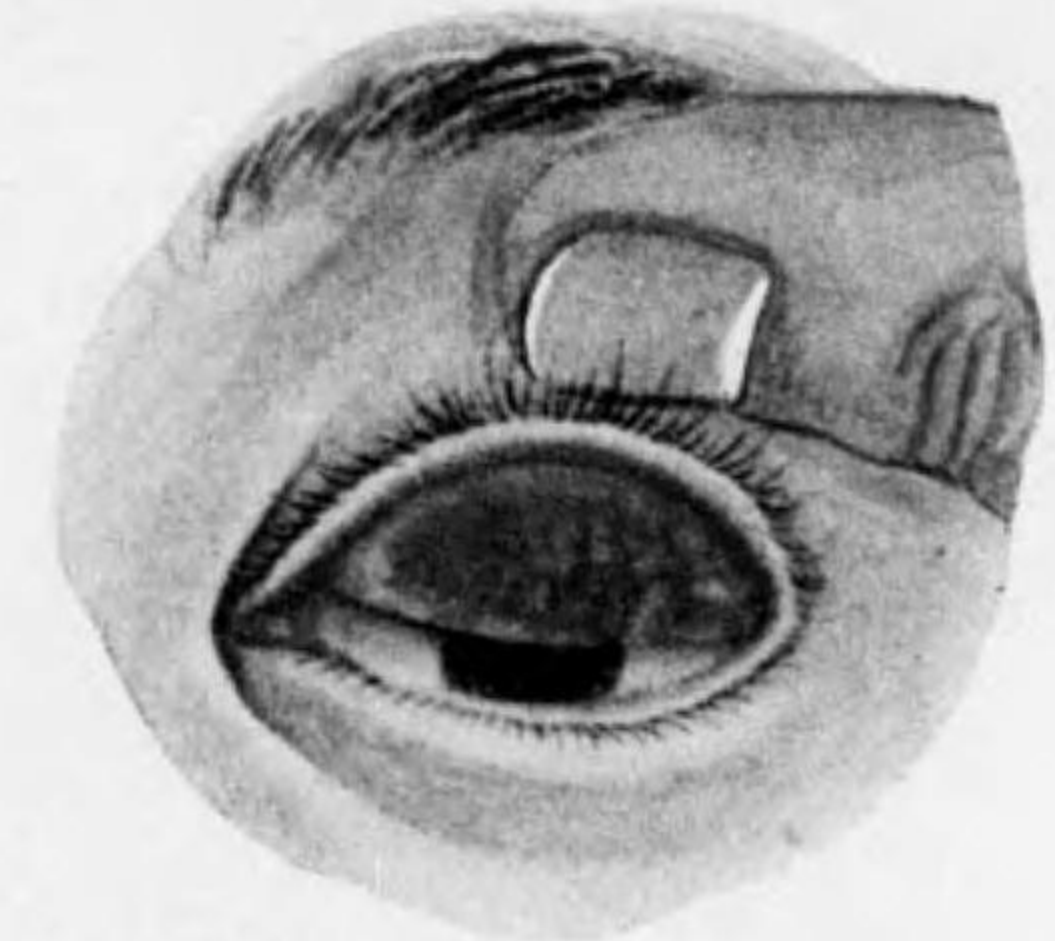
本例ハ 27歳ノ男デ、3-4年前カラ 兩眼ニ異物感ガアリ、春ニハ最も甚シイト云フ。前ノ例ホド定型的
デハナイガ、瞼結膜ニ 特有ノ變化ガアリ、尙ホ 分泌物中ニ 多數ノ「エオジン」嗜好細胞ヲ見タ。球結
膜ヤ角膜ニハ變化ガナイ。

155. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼球型 兼 眼瞼型)

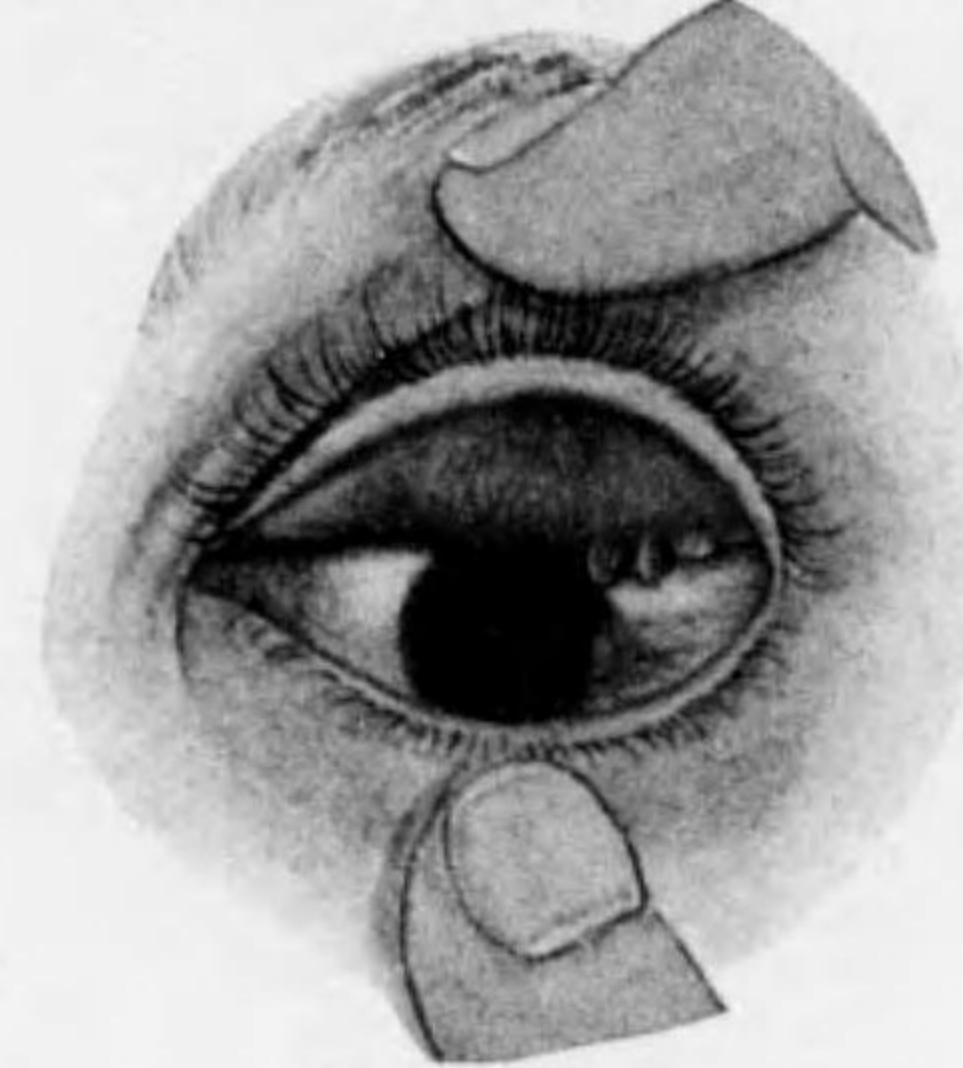
本例ハ 24歳ノ男デ、眼瞼ニ 約 5 個ノ顆粒狀ノ小突起ガアリ、球結膜ハ 輕度ニ充血シ、角膜輪部ノ
瞼裂ニ相當シタ部分ニ 膠様ノ光澤アル小隆起部ガアツテ、其ノ部ノ角膜ガ 多少 潤濁シテ居ル。



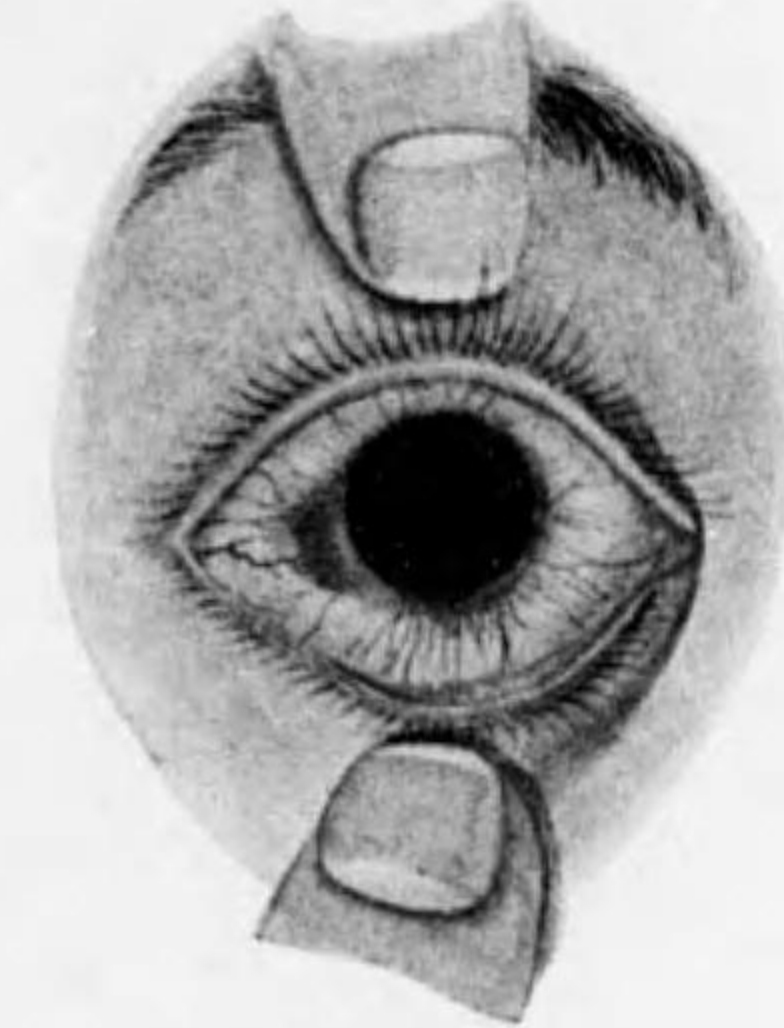
153. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼瞼型)



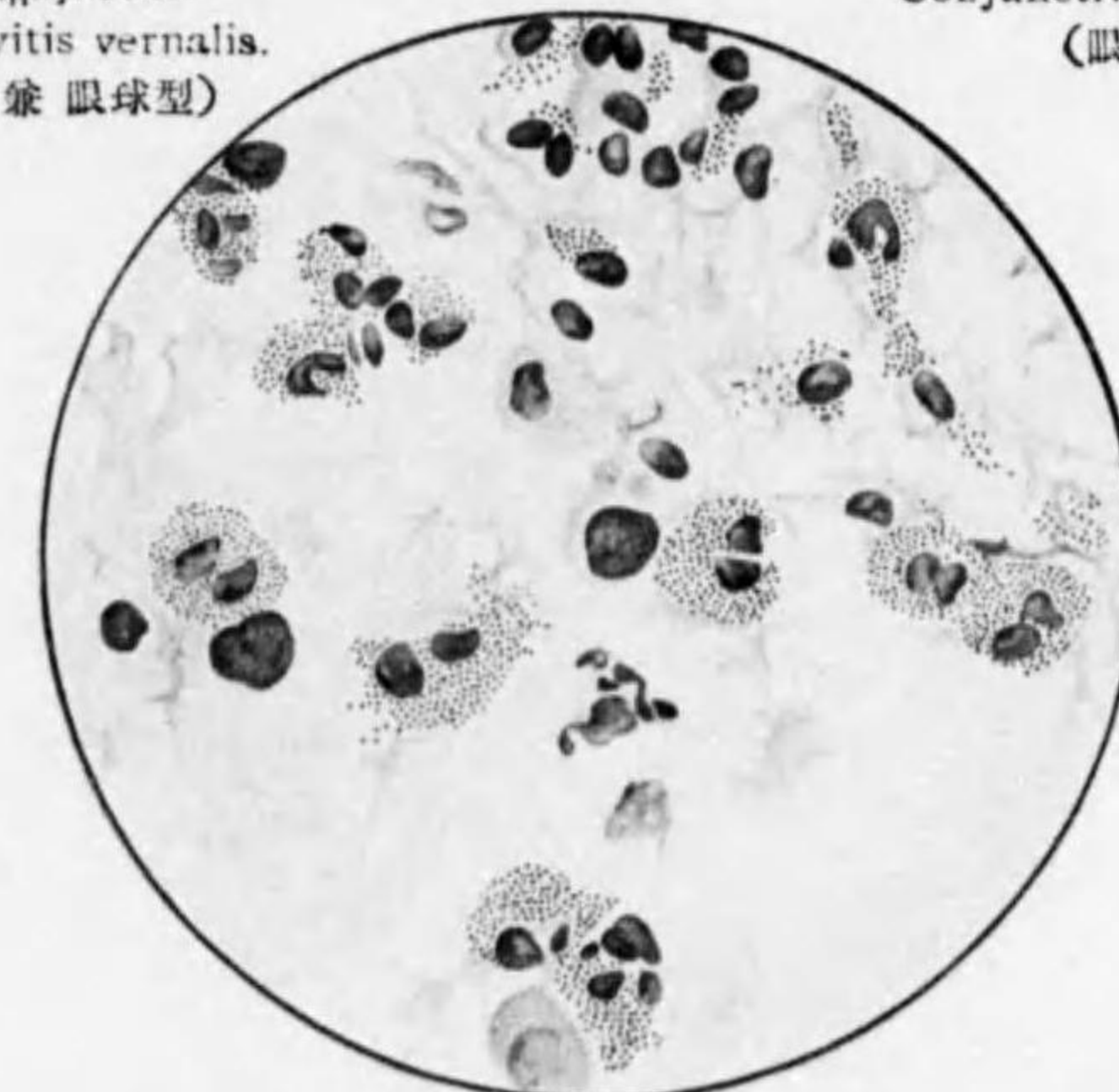
154. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼瞼型)



155. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼瞼型 兼 眼球型)



156. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼球型)



157. 153. 患者ノ眼分泌物ノ塗抹標本「エオジン」メチレンブラウ」複染色 (擴大約 500 倍)

156. 春季カタル Conjunctivitis vernalis. (眼球型)

球結膜ノ角膜ニ接シタ所ガ充血シテ、殊ニ其ノ外側ニハ汚穢褐色膠様ノ隆起部ガアル。本例ハ20歳ノ男デ、昨年3月頃カラ時々眼ガ充血スルト云フ。球結膜ニハ圖ノ様ナ變化ガアルガ、險結膜ニハ變化ヲ認メナカツタ。

157. 春季「カタル」分泌物中ニ見ル「エオジン」嗜好細胞

本圖ハ153.ノ結膜分泌物ノ塗抹標本デ、「エオジン」ト「メチレンブラウ」トノ複染色デアル。此ノ「エオジン」嗜好細胞ハ症例ニヨツテ其ノ數ノ多少ハアルガ、春季カタル分泌物中ニ通常見ラレルモノデアルカラ、診斷上重要ナルモノデアル。

XXXIII. フリクテン

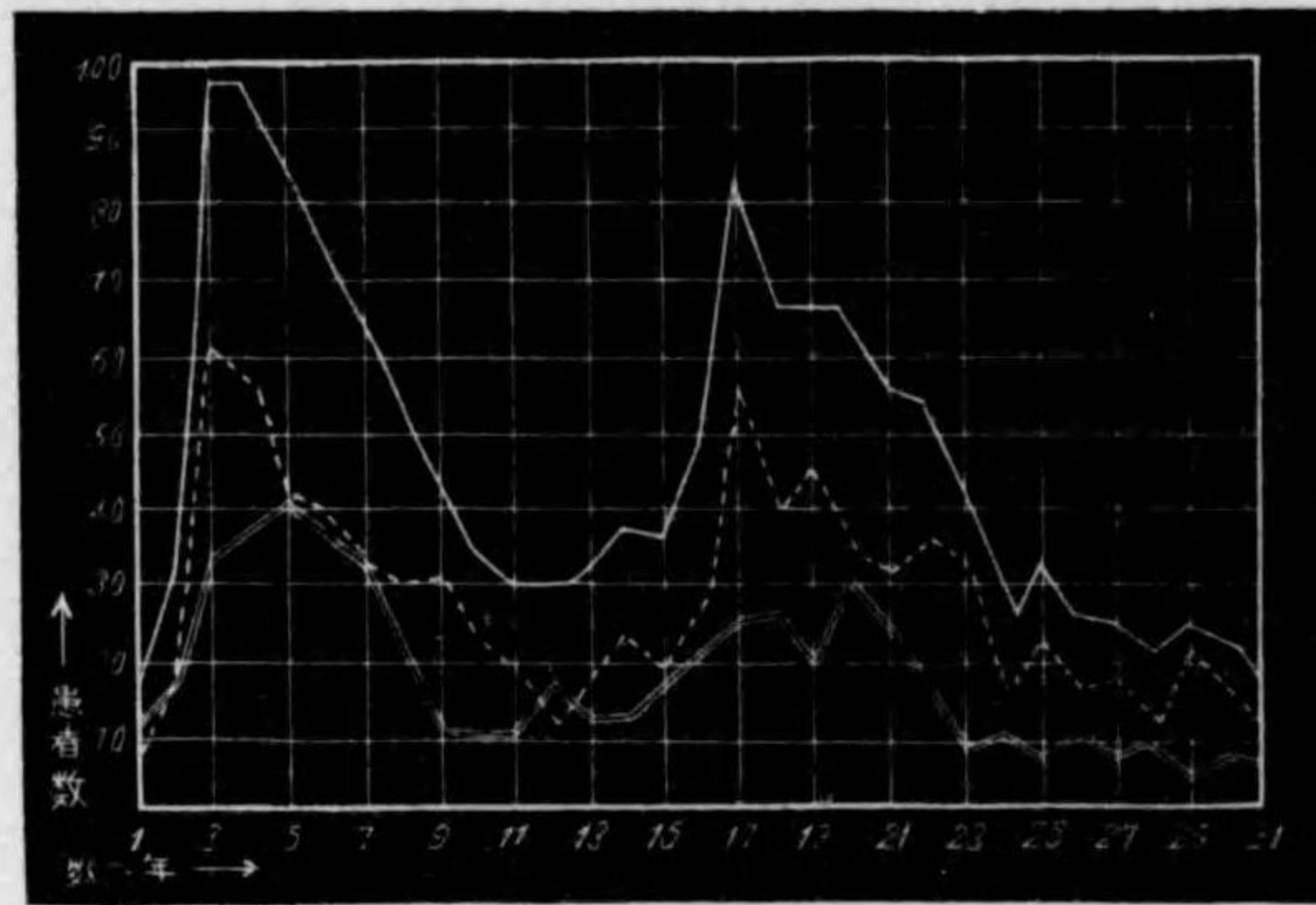
(158, 159, 160, 161, 162.)

フリクテン Phlyctaene ハ「トラコーマ」ニ次デ多發スル眼病デ、球結膜 又ハ 角膜ニ殊ニ好シテ角膜縁ニ 又 稀ニハ 睑結膜ノ 縁ニ近イ部分ニ 概テ粟粒大ノ 通常 圓形ノ 限局性ノ 稍、隆起シテキル灰白色ノ 斑點(主トシテ淋巴球ノ 浸潤)ヲ生ジ、之レニ接シテ結膜ガ 充血スル。分泌ハ少イ。數日ノ經過ノ後、浸潤ハ 破レテ潰瘍トナリ、概テ 1—2 週ノ後 瘢痕ヲ結ンデ治癒スル。

結膜ノ「フリクテン」ハ 自覺的症狀ガ輕イガ、角膜ニ來クモノハ 羞明ヤ 流淚ガ強クテ、屢、開眼シ得ナイコトガアル。之レヲ「フリクテン」性眼險痙攣(79. 参照)ト謂フ。

原因ハ 結核乃至腺病質デ、屢、顔面濕疹、特ニ濕疹性眼險炎、眼險縁炎、或ハ コッホウキウス氏桿菌性結膜炎ニ 合併スル。

本病ハ 5 歳前後 及ビ 20 歳前後ノ 腺病質ノ女子ニ多ク(男子ノ約 2 倍)、屢、反復再發シテ 角膜ニ多數ノ斑點ヲ貽ス。



第 13 圖 「フリクテン」發生年齢一覽表

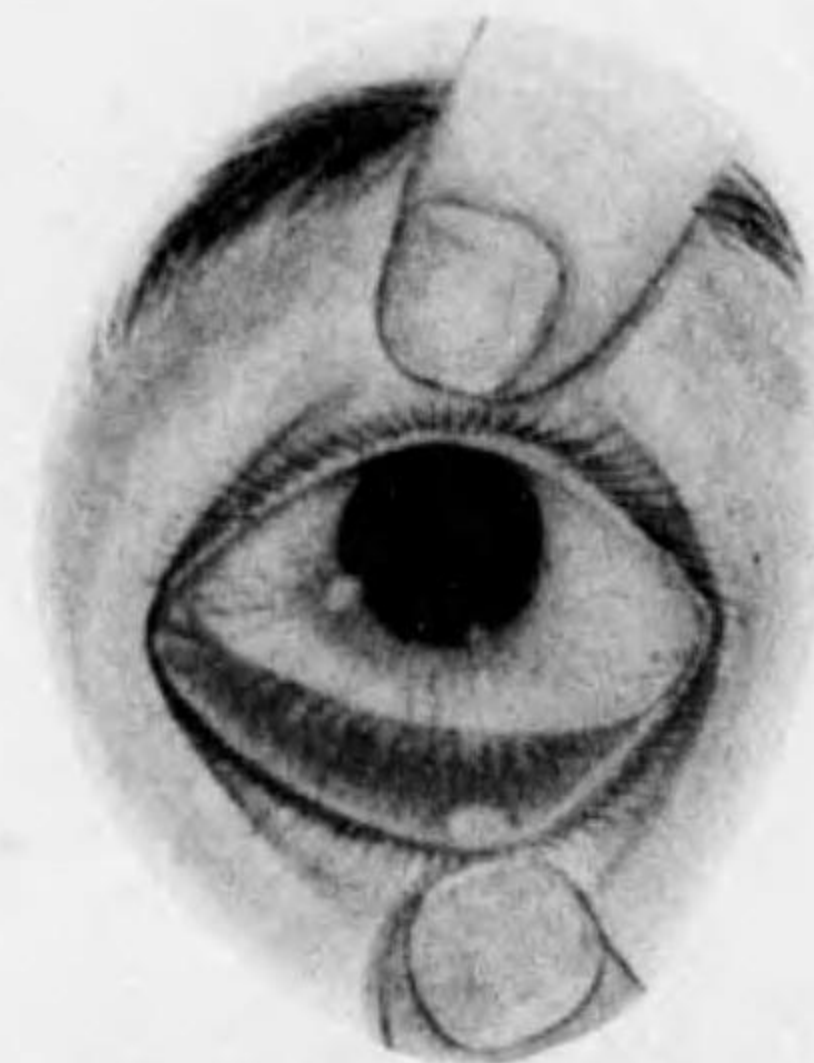
「フリクテン」ノ 發生年齢ニ就テハ 昭和 3 年カラ 同 7 年ニ至ル 5 箇年間ニ於ケル 東京帝國大學眼科外來患者ニ就テ、「フリクテン」ノ統計ヲツタトコロ、患者總數 3 4602 人中ニ「フリクテン」患者ガ 1573 人(4.5%)アツテ、ソノ發生年齢ヲ調査シテ見ルト、第 13 圖ノ如クナツタ。即チ「フリクテン」ハ東京地方デハ 5 歳前後ニ最モ多ク、次デ 20 歳前後ニ多イ。即チ曲線ガ二箇所ニ於テ 隆起ヲ示シテキル。女子ハ 概シテ 男子ヨリ多イ(968:605)。

治療法ハ 局所的ニハ 毎日一回 睑結膜ヲ翻轉シテ 0.5—1% 硝酸銀水ヲ點眼シ 後 1% 食鹽水デ洗滌シ、蒸氣製甘汞ノ少量ヲ 結膜囊内ニ撒布スル。恢復期ニハ 毎日 1 回 1—2% 黃降汞軟膏ヲ點眼シ按摩シ、尙ホ 2% 硼酸水ノ溫湯法ヲ行ハシメルトヨイ。

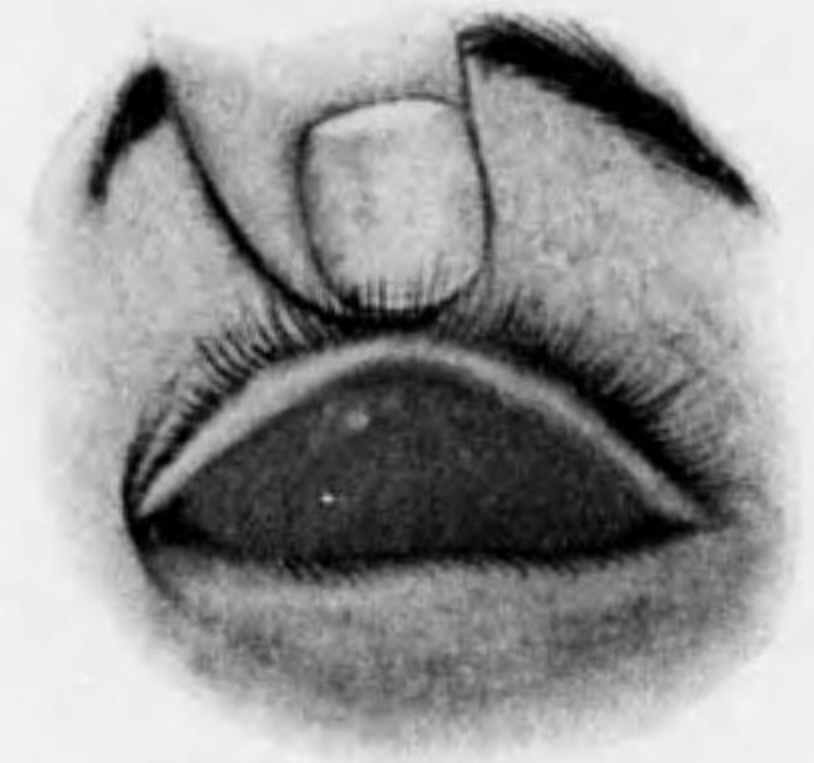
全身療法ヲ行ヘバ 治癒ヲ助ケ 再發ヲ豫防スル効ガアル。鐵劑、砒素劑「ヨード」劑、「サリチル」酸劑、肝油等ノ内服、優良ナル營養、新鮮ナル空氣、充分ノ光線、適度ノ運動「ツベルクリン」療法等ガ行ハレル。

158. 邊緣フリクテン Phlyctaene conjunctivae limbi, **睑結膜フリクテン** Phlyctaene conjunctivae palpebrae.

本例ハ 19 歳ノ男デ 圖ニ示ス如ク、角膜縁ニ 2 箇、眼險縁ニ近イ下睑結膜ニ 1 箇ノ「フリクテン」ノ發生シタモノデアル。睑結膜ノ「フリクテン」ハ 少ナイモノデアル。



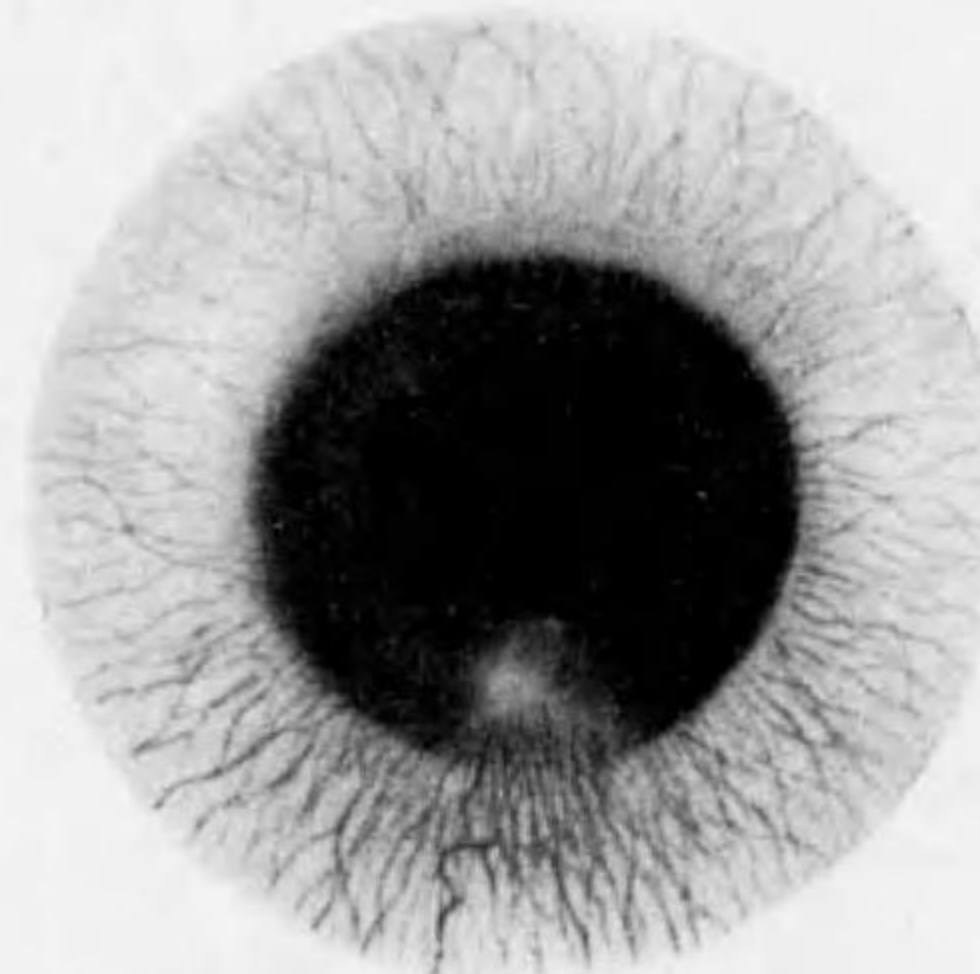
158. 邊緣フリクテン Phlyctaene conjunctivae limbi, 睑結膜フリクテン Phlyctaene conjunctivae palpebrae.



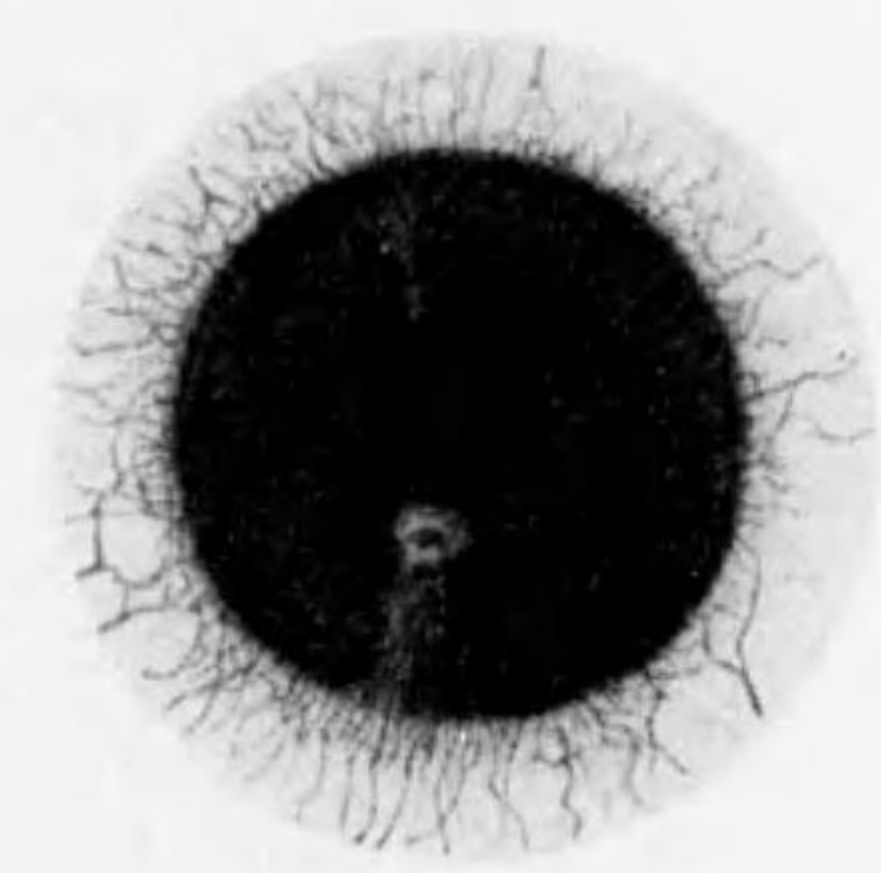
159. 睑結膜ノ「フリクテン」 Phlyctaene conjunctivae palpebrae.



160. 角膜フリクテン 兼 顔面濕疹 Phlyctaene corneae et eczema faciei.



161. フリクテン性パノヌス Pannus phlyctaenulosus.



162. 芒狀角膜炎 Ceratitis fascicularis.

159. 眼結膜ノ「フリクテン」 Phlyctaene conjunctivae palpebrae.

眼結膜ニモ 時トシテ「フリクテン」ノ發生ヲ見ルコトガアル。主トシテ 眼縁ニ近イ結膜面上ニ 粟粒大 或ハ 麻實大ノ結節ヲ作り、僅ニ隆起スルガ、潰瘍ヲ形成スルニ至レバ 寧ロ陷凹ヲ呈スル。多クハ球結膜ニモ 同時ニ「フリクテン」ガ發生シテキル。自覺的障礙ハ輕イ。

本例ハ 20歳ノ女子デ 既往ニ於テ 4回 目星ヲ患ヒ 2年前ニハ 肋膜炎ヲ患ツタト云フ。15日前カラ 右眼ノ角膜輪部ニ 巨大「フリクテン」ヲ發生シ、其ノ苦痛ノタメ 來院シタモノデ、偶然 左眼ノ眼結膜ニ「フリクテン」ヲ 發見シタモノデアル。

160. 角膜フリクテン Phlyctaene corneae.

患者ハ 21歳ノ女デ 生來健康デアツタガ、約半月前カラ 羞明ヲ流涙ガ起リ、同時ニ 口唇ノ周圍ニ 濕疹様ノモノガ出來タ。角膜ニハ 圓ノ様ナ「フルオレスチン」液ニ染色スル「フリクテン」ヲ生ジタ。口唇附近ニハ 膿痂疹性濕疹 Eczema impetiginosum ガアツテ、痂皮ニ 多數ノ葡萄狀球菌ヲ證明シタ。

161. フリクテン性パンヌス Pannus phlyctaenulosus.

角膜ニ「フリクテン」ノ生ジタ場合ニハ、時トシテ附近ノ結膜カラ 之レニ向ツテ 血管ノ進入スル事ガアル。之レヲ「フリクテン性パンヌス」ト謂フ。

本例ハ 16歳ノ女デ、眼ノ充血ニ 羞明ヲ伴ヒ、圓ノ様ナ「フリクテン性パンヌス」ガ 起ツタモノデアル。

162. 芒把狀角膜炎 Ceratitis fascicularis.

角膜「フリクテン」ハ 時トシテ 徐々ニ角膜上ヲ遊走シ、其ノ進行方向ニハ 鎌狀ノ潰瘍ヲナシ、經過シタ跡ニハ 瘢痕ヲ胎シ、數條ノ血管ガ 角膜縁カラ 瘢痕上ヲ走ツテ 潰瘍ニ達シ 一種特異ノ狀ヲ呈スルコトガアル。之ヲ遊走「フリクテン」又ハ 芒把狀角膜炎ト謂フ。

芒把狀角膜炎ハ 經過長ク、數箇月ニ亙ツテ治癒シナイコトモアル。治癒後ニハ 帶狀ノ瘢痕ヲ胎ス。治療法ハ「フリクテン」ト同様デアルガ、更ニ 先端ノ潰瘍ノ部分ヲ 搔爬又ハ燒灼スル時ハ 著シク奏効スルコトガアル。

本例ハ 21歳ノ男子デ、之マデ時々目星ノ出タコトガアルト云フ。約1週間前カラ 羞明、流涙、異物感等ヲ訴ヘテ居タ。左眼ニ 圓ノ如キ芒把狀角膜炎ガアツテ、其ノ先端ハ 瞳孔領ニ達シ 潰瘍トナリ、「フルオレスチン」ニ染色スル。尙ホ角膜ノ上部ニ 嘗テ芒把狀角膜炎ニ罹ツタ痕ト思ハレル 帶狀ノ角膜翳ガ見ラレル。

XXXIV. 巨大フリクテン 其他

(163, 164, 165, 166, 167, 168.)

XXXIV. 巨大フリクテン 其他

163. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.

コレハ 通常ノ結膜「フリクテン」ヨリモ 其ノ形態ノ大ナルモノデ、組織的ニ見テ 通常ノ「フリクテン」ガ 主ニ 淋巴球ノ浸潤ナルニ對シ 此ノモノニハ 上皮様細胞ヤ「プラスマ」細胞ヲ混ジ、稀ニハ ラングハンス氏 巨噬細胞モ見ラレル。從ツテ 結核様構造ヲ有スルモノデアルガ、結核菌ヲ其ノ中ニ證明スル事ハ出来ナイ。此ノモノハ 皮膚科ノ所謂 結核疹Tuberculideニ 類似ノモノデアル。

經過ハ「フリクテン」ヨリ長イガ、豫後不良デハナイ。

治療法ハ「フリクテン」同様デアルガ、外科的ニ搔爬スルカ又ハ 一部ヲ切除スレバ 治癒ハ速カデアル。

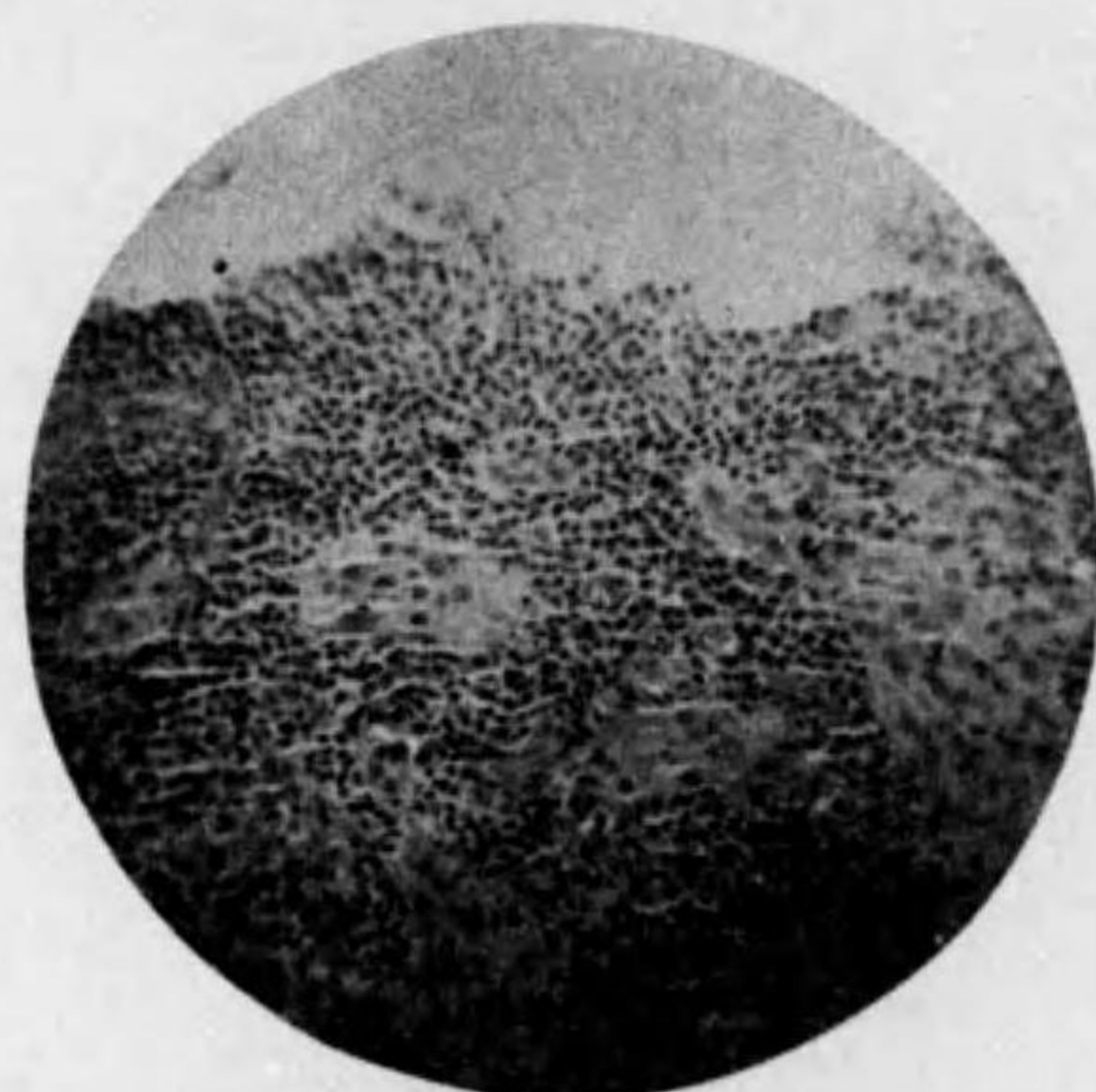
本例ハ 19歳ノ女子デ、生來纖弱デ、11歳ノ時 腹膜炎ヲ、18歳ノ時 頸部淋巴腺炎ヲ患ヒ、眼ニハ 時々目星が出タト云フ。今回ハ 10日前カラ 充血、分泌、異物感が起ツタト云フ。毎日1回 1%硝酸銀水ヲ點眼後 食鹽水ニテ洗滌シ、約2週間デ 治癒シタ。

164. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.

24歳ノ女子デ、體格虛弱、頸部淋巴腺ハ 鳩卵大ニ腫脹シ、胸部X線検査ニヨリ 肺門淋巴腺ノ 肥大ヲ認メタ。ビルケー氏反應卅。

眼ハ約半年前カラ 目星が出テ 醫治ヲ受ケタガ、一進一退シテ 再發シ易ク、現在 圖ニ見ル様ナ 結節トナツタ。

該結節ヲ切除シテ 組織標本ヲ製作シタ (第14圖)。

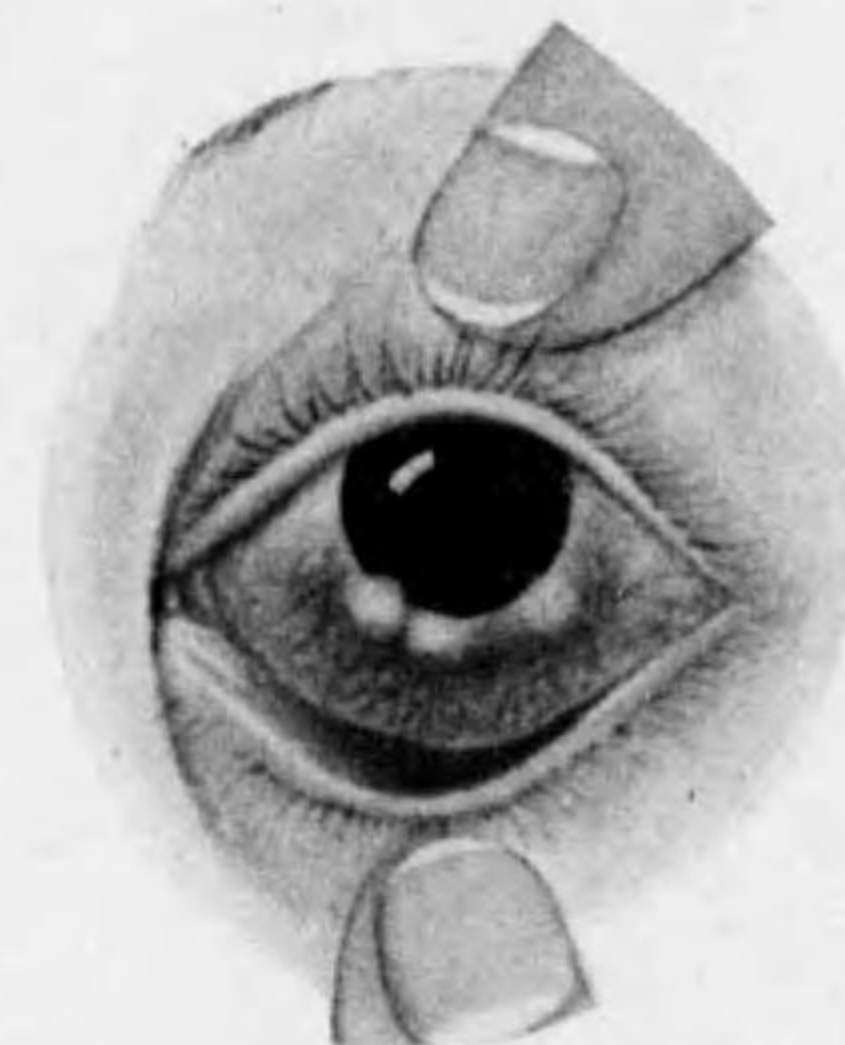


第14圖 擴大約110倍

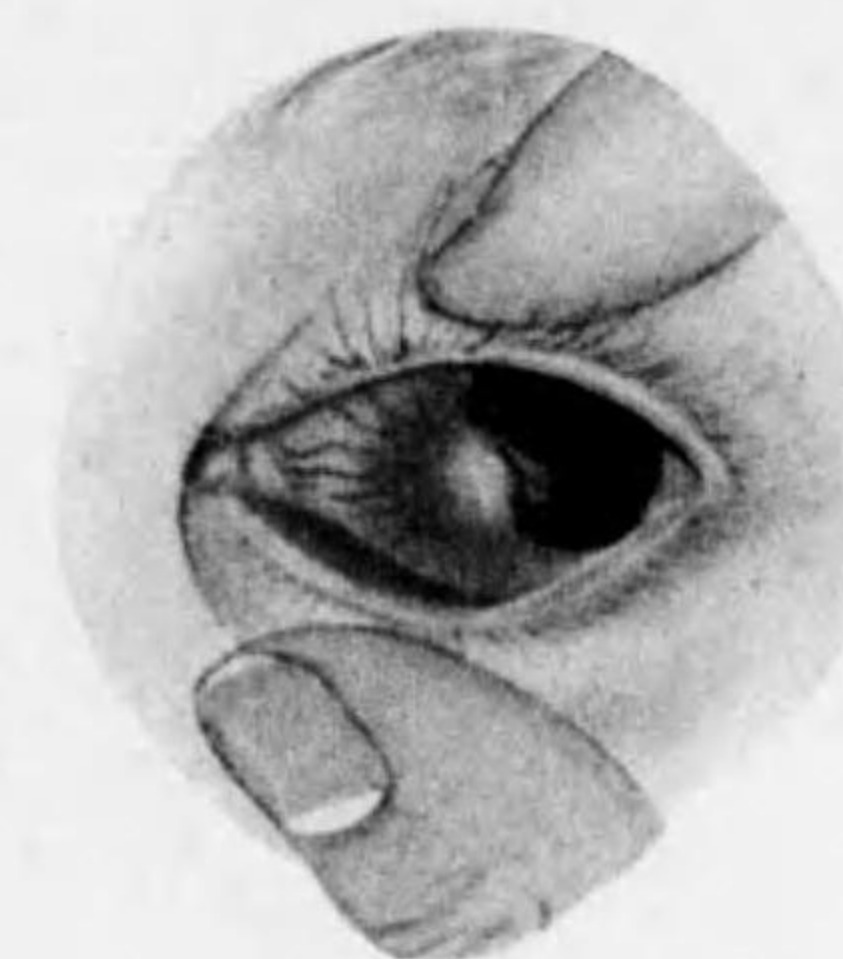
結節中心部ノ結膜上皮ハ 全ク脱落シテ 潰瘍ヲ形成シ、結節ハ 廣ク結膜固有層ニ 層狀ニ 擴ガリ、浸潤細胞ハ 主トシテ淋巴球デアツテ、細胞ハ 各、密ニ堆積シテ 殆ンド固有層ノ組織ヲ認メルコトガ出来ナイ程デアル。併シ 少ク深部及ビ周邊ニ至ルニ從ツテ 細胞數ハ疎ニナリ 細胞間ニハ 結締織ノ走行ヲ認メルコトガ出来ル。中央潰瘍部ノ淋巴球集團内ニハ 著明ニ 小血管ノ新生シテキルノガ見ラレル。

165. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.

18歳ノ女子、3年前ニ 腹膜炎ヲ患ヒ、約2週間前カラ 圖ノ如キ巨大「フリクテン」ヲ生ジタ。角膜ノ 病變ハ 角膜結核デ、10箇月前前カラ 治療中ノモノデアルガ、最近 同一眼ニ 巨大「フリクテン」ヲ發生シタ。



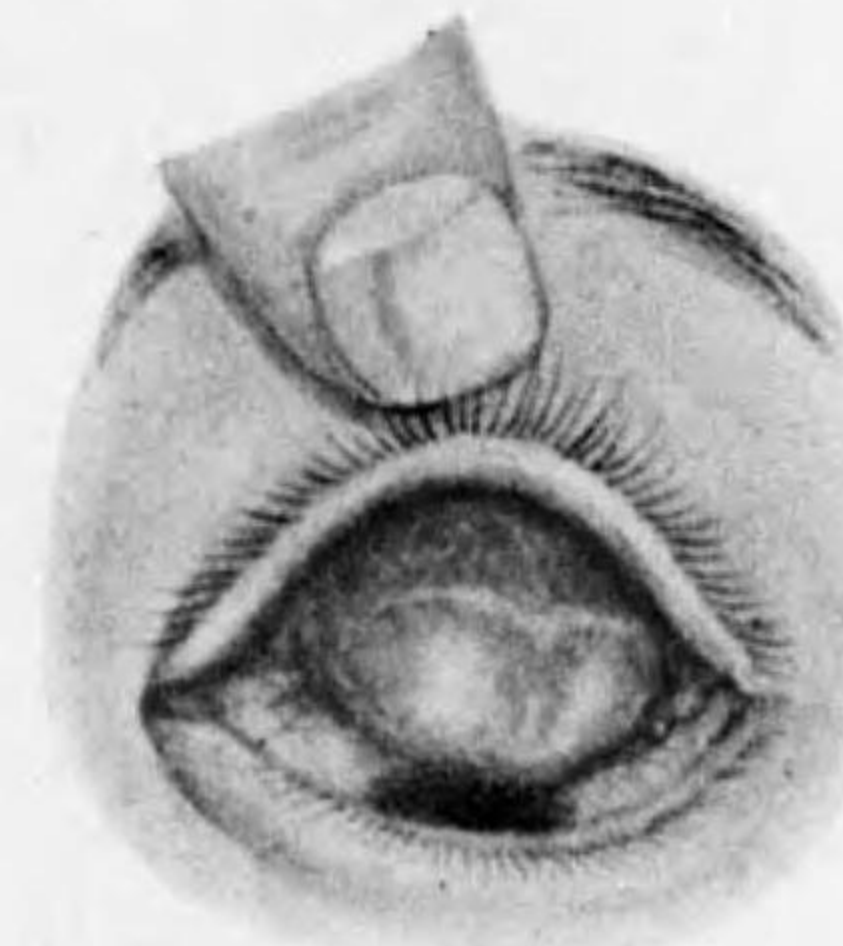
163. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.



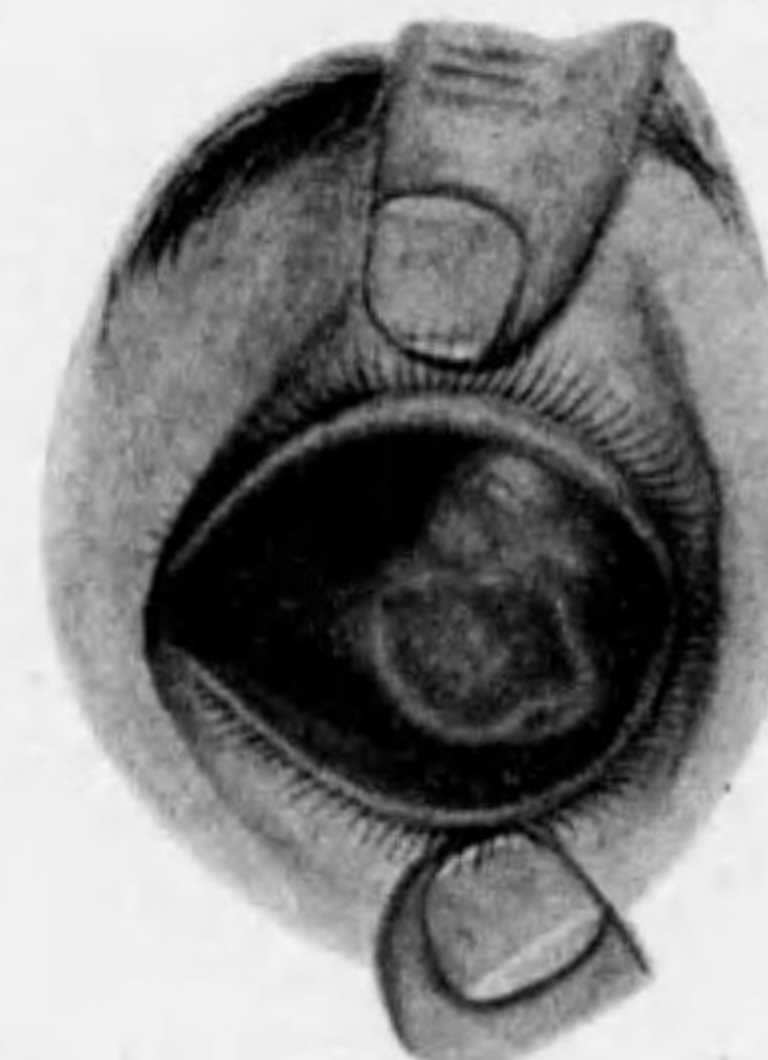
164. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.



165. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.



166. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.



167. 結核性鞏膜炎 Scleritis tuberculosa.



168. 167.ノ角膜及虹彩所見、結核性虹彩炎 Iritis tuberculosa. (アトロピン點眼)

166. 巨大フリクテン Riesenphlyctaene.

6歳ノ少女ノ眼球結膜ニ見タ巨大「フリクテン」デアルガ、病變カ高度デ、臨床的ニハ結膜ノ結核ヲ思ハシメルモノガアル。患部ヲ搔爬シタトコロ、炎症ハ漸次輕快シタ。

167. 結核性鞏膜炎 Scleritis tuberculosa.

鞏膜炎ハ球結膜ノ下ニ淡紫紅色ノ結節ヲ生ジ、輕ク隆起シテ壓痛ガアリ、之レヲ被フテキル結膜モ共ニ充血隆起スルガ、決シテ潰瘍トハナラナイ。然ルニ結膜ノ結核性疾患ニ「フリクテン」、巨大「フリクテン」、又ハ結膜結核ト云フ様ナ種類ガアル如ク、鞏膜炎ニモ色々ノ程度ガアツテ、悪性ノモノハ鞏膜結核ニ近クナル。炎症ノ劇シクハ深部ニ及ブモノハ、虹彩ヤ毛様體モ共ニ病變ヲ來スコトガ多イ。

輕症ノモノハ數週間デ帶青灰色ノ痕ヲ貽シテ治癒スルガ、重症ノ結核ニ近イモノハ豫後不良デア

ル。本例ハ20歳ノ男デ、19歳ノ時腹膜炎ヲ患ツタト云フ。眼ハ3箇月前カラ充血シテ醫師ノ治療ヲ受ケタガ、治癒セズ、圓ノ如キ外觀ヲ呈シ、視力モ光覺ヲ辨ズルノミトナツタ。之レハ同時ニ存在シタ葡萄膜炎ノタメデアツタラシイ(168. 参照)。

168. 結核性虹彩炎 Iritis tuberculosa.

本圖ハ前例(167.)ノ虹彩所見デアルガ、角膜後面ニハ沈着物ガ多イ。通常虹彩ニハ結節狀ノ隆起ヲ見ル事ガ多イガ、圖ニハソレガ見ラレナイ。虹彩ハ肥厚潤濁シテ紋理ガ不明ニナツテ居ル。豫後ハ通常不良(虹彩疾患ノ編参照)。

XXXV. 結核疹

(169, 170, 171, 172, 173.)

XXXV. 結核疹

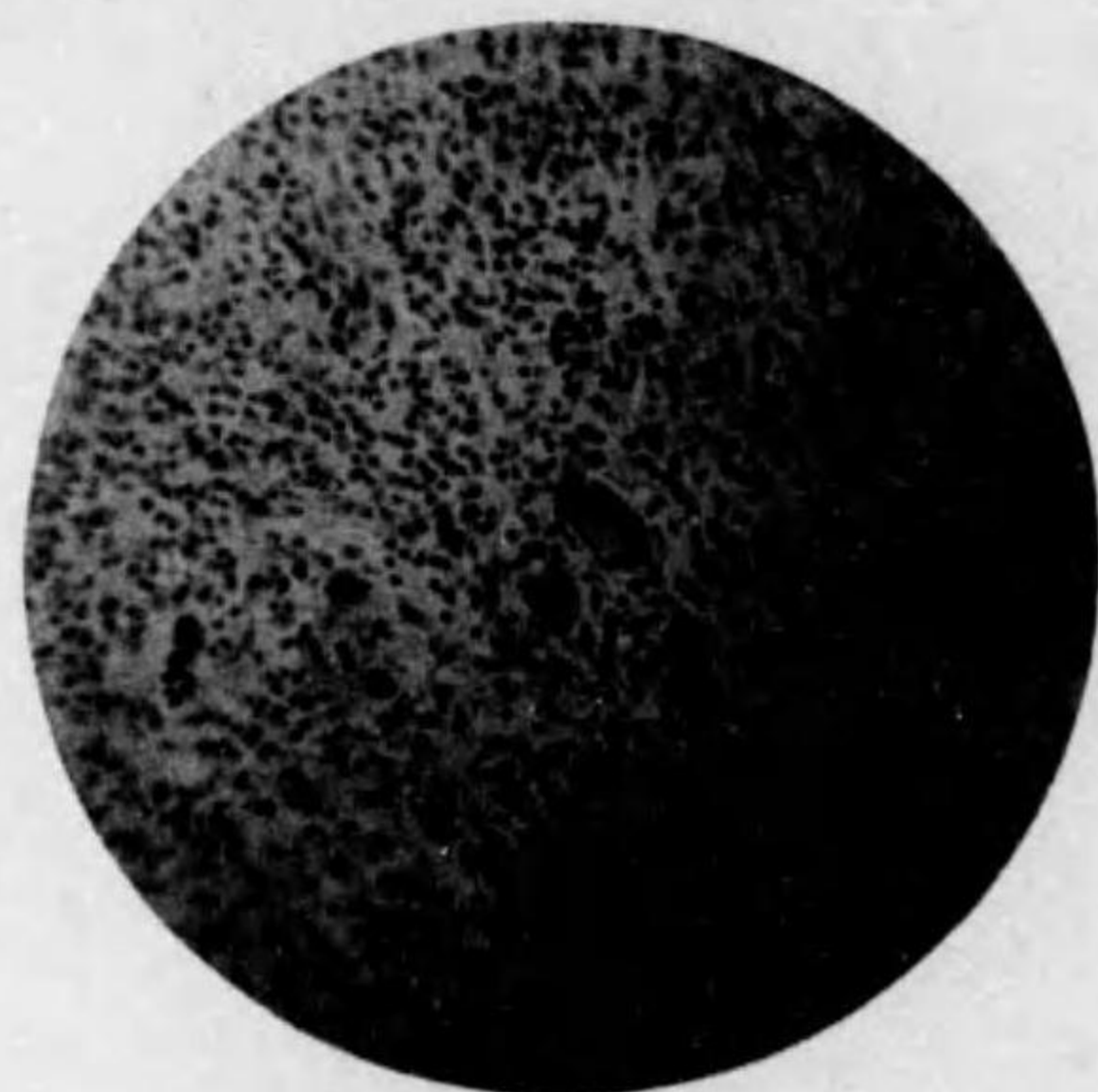
169. 球結膜ノ結核疹 Tuberculide.

之レハ所謂 巨大「フリクテン」ト呼バレルモノデ、肉芽様外觀ヲ呈スルモノト 結膜上ニ「ピラミット」狀ニ隆起スルモノトガアル。其ノ名ノ如ク 通常ノ「フリクテン」ヨリモ 形態ガ大キク、又 肉芽様外觀ヲ呈スル。

組織的ニハ 或ルモノハ 慢性肉芽性炎症ノ像ヲ呈シ、巨蕈細胞ヲ認メズ、又或ルモノハ 結節内ニ 結節ノ形成ヲ認メ、淋巴球ニ取リ巻カレタ 上皮様細胞、巨蕈細胞ヲ見、稀ニ 輕度ノ乾酪様變性、核崩壞ノ像ヲ見ルコトモアル。又 結節ヲ形成セズシテ 淋巴球、「プラスマ」細胞、上皮様細胞ノ浸潤ノ間ニ巨蕈細胞ヲ見ルコトガアル。又血管ノ新生ガ著明デ 内皮細胞増殖ノ像ガアル。此等ノ組織ハ 菌染色法ニヨルモ 結核菌ヲ證明シ得ナイ。

治療法ハ「フリクテン」ト同様デアルガ、結節ヲ搔爬又ハ切除スル方ガ 治癒ガ早イ。

本例ハ 34歳ノ女デ、生來纖弱デアルガ、全身結核ハナイ。約15日前カラ、圖ノ如ク 結膜ガ充血シテ 麻痺大ノ結節ヲ生ジタ。其ノ病變部ヲ切除シテ 鏡檢シタ結果、上記ノ結核疹ニ相當スルモノデアルコトヲ確カメ得タ (第15圖)。



第15圖 (擴大約130倍)

結節ハ球結膜上皮直下ニ位シ、コレヲ蓋ツテ居ル上皮ハ 破壞脱落シテ居ル。結節ハ 多數ノ淋巴球、類上皮細胞、「プラスマ」細胞ヨリ成リ、細胞間ニハ 疎狀ノ網狀組織ノ走行ヲ見ル。血管ノ新生ハナク、中央ニハ 明カナランゲハンス氏巨蕈細胞ガアツテ、結核ノ組織像ヲ呈シテ居ル。細菌染色法ヲ行ツテ見テモ 結核菌ヲ認メルコトハ出來ナイ。

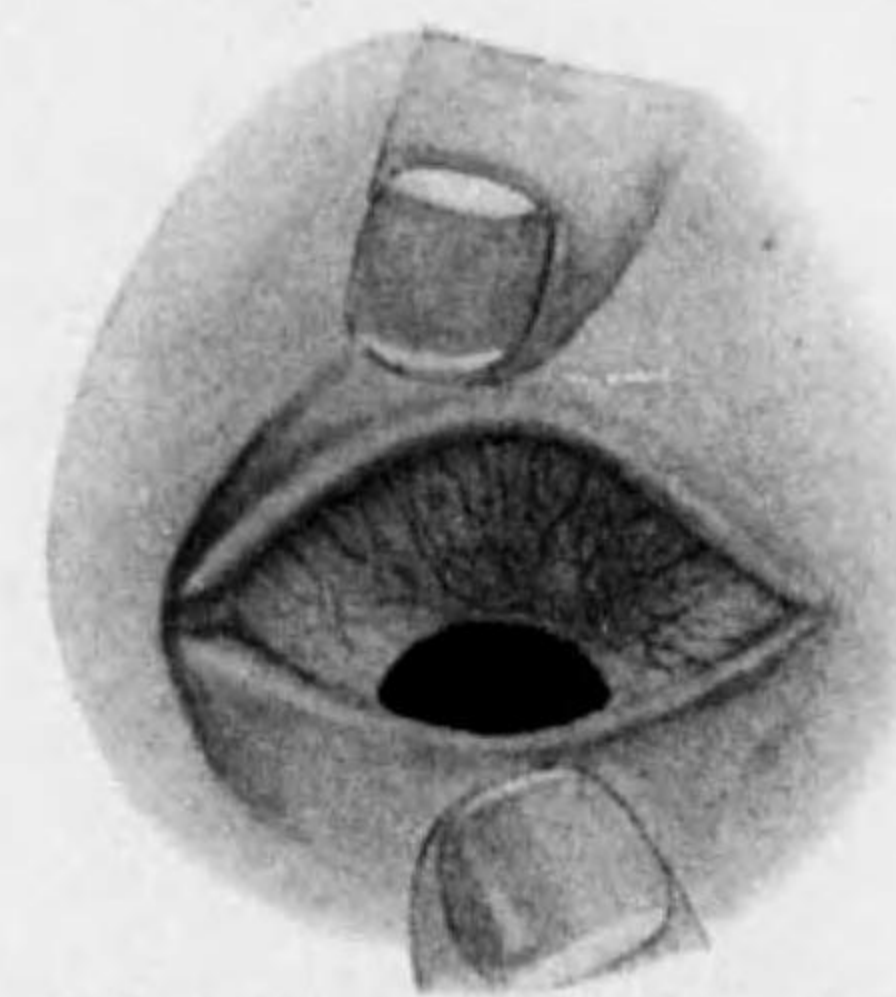
170. 結膜結核疹 Tuberculide.

本例ハ 31歳ノ男デ、約15年前ニ「フリクテン」ヲ患ツタコトノアルモノ、約1週間前カラ 角膜周圍ノ結膜ニ 充血ヲ起シ、其ノ中ニ 粟粒大ノ黄白色ノ結節ヲ生ジタ。ビルケー氏反應ハ中等度陽性、ワッセルマン氏反應ハ陰性、尙ホ皮膚科ノ診察ヲ受ケ、背部ノ皮膚 及ビ 陰莖龜頭ニ 結核疹ノ存在スルコトヲ確メタ。

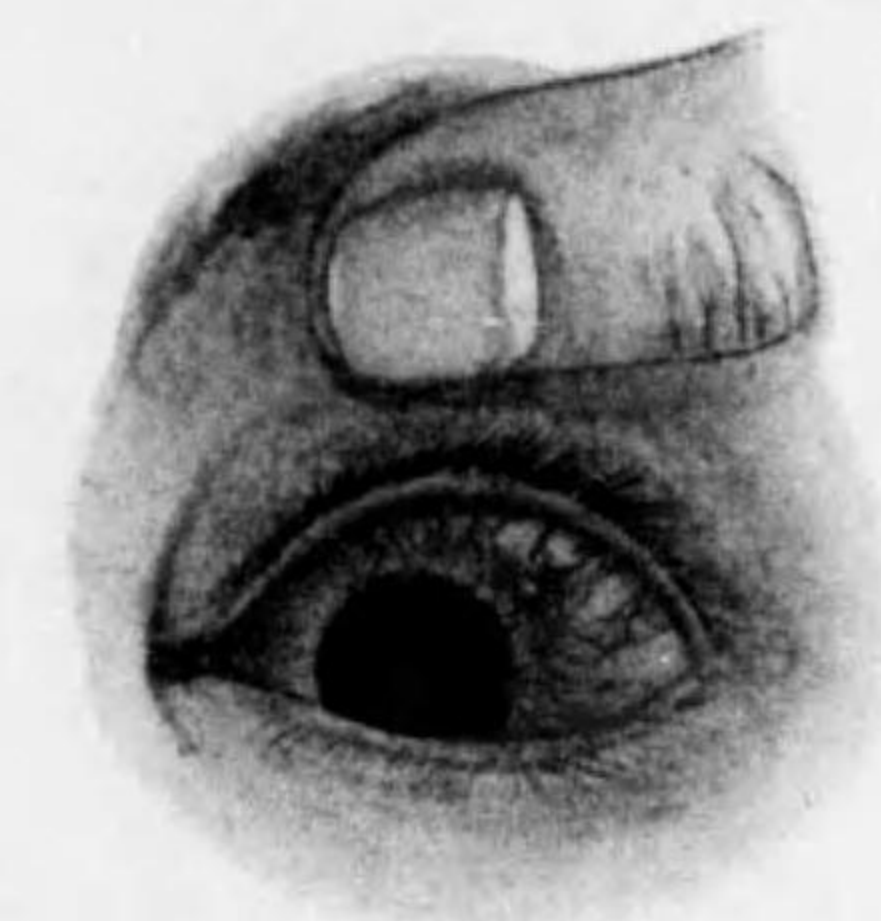
上述ノ如ク 本例ニ於テハ 身體各部ニ 結核疹ヲ生ジタモノデ、結膜結核疹(巨大「フリクテン」)ノ診斷及ビ 原因ニ就イテ 興味アル一例デアル。

171. 結膜結核疹 Tuberculide, 鞏膜炎 Scleritis, 硬化性角膜炎 Ceratitis sclerotic.

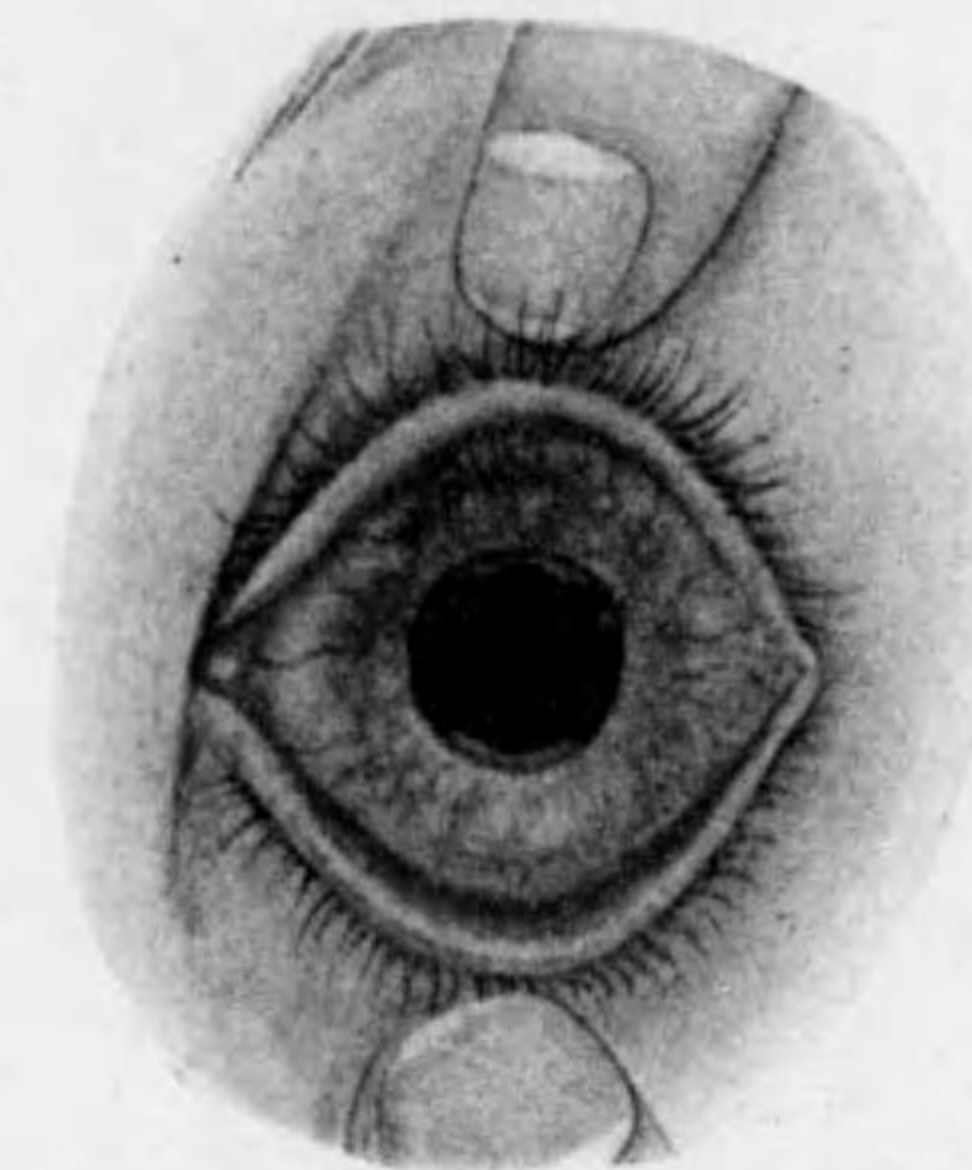
16歳ノ女子、半年前ニ 肋膜炎 及ビ「フリクテン」ヲ患ツタ。約2週間前カラ 左眼球結膜ノ充血ト並



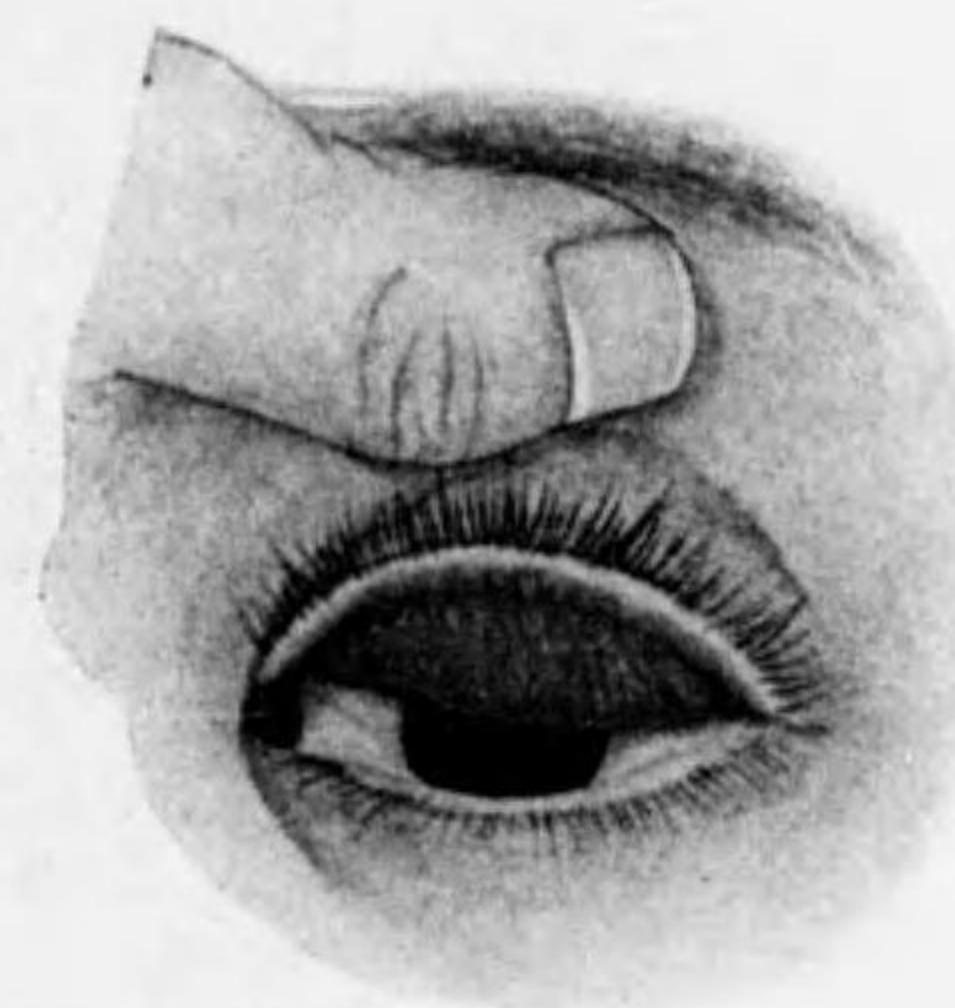
169. 球結膜ノ結核疹 Tuberculide.



170. 球結膜ノ結核疹 Tuberculide.



171. 結核疹 Tuberculide, 鞏膜炎 Scleritis, 硬化性角膜炎 Ceratitis sclerotic.



172. 瞼結膜ノ結核疹 Tuberculide.



173. 結膜結核 Tuberculosis conjunctivae.